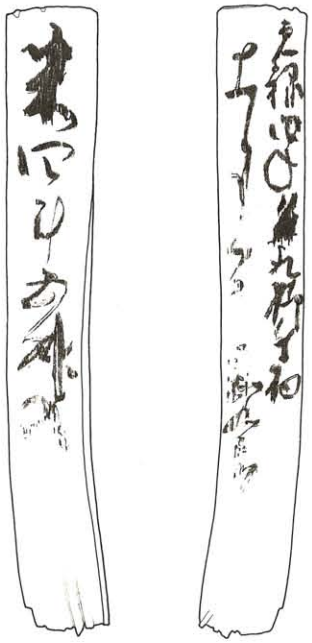
東北大学埋蔵文化財調査年報6



東北大学埋蔵文化財調査委員会
1993

東北大学埋蔵文化財調査年報6

東北大学埋蔵文化財調査委員会
1993

序

遠見塚の道路脇に石棺が放置され、子供が蓋の石材でシーソー遊びをしていたのが極く最近のこととして思い出される。当時、損逸した文化財は大変な数になるだろうと考える。測定装置の進歩が大変画期的なもので、バイオなどと共に考古学も最も目覚しく進歩しつつある学問分野である。

その結果か否かは別として、本学名誉教授であられる芹沢長介先生の長年に亘る御努力と、従来の学術に拘らない観察が、効を奏して、東北大学近辺に最も大きいと云って差し支えのない大変革を喚び起こしつつある。高森遺跡が50万年前とか、是川遺跡がトップ級の縄文文化を示すとか、東北人の心を振い立たせるような学問的発見が相次いでいるのは本当に喜しいことである。

本学の位置する所にも多くの発見があり、遠く数十万年昔から、数百年前、百年足らずのところまで、歴史は散逸してしまっていて、発掘がすべて発見につながるのではないかとさえ思わせる。

ほんの数十年前のことすら散逸して分からなくなっていることを考えると、何か矛盾をさえ感ずる昨今であるが、出来れば、我々が日々経過している社会自体を、歴史として記述し一部を保存することを併用しながら考古学を発展させることが、歴史をより効果的に記述することになるのではないだろうか。

云い換えると、考古学の方から逆に歴史の意味を教えられていることになるし、顧ることによってこれからを予測する、見通すということになるのが歴史学の根底だと考えている。

兎に角、近年の東北大学の考古学研究室を中心とした埋蔵文化財の発掘が東北人の心を揺るがせ、勇気を振い立たせたことは、東北地方の人達にも極めて大きな効果を与えたものと大いに自慢し、喜びとしているところである。

東北大学埋蔵文化財調査委員会委員長
東北大学長 西澤潤一

例　　言

1.　本年報は、東北大学構内において、東北大学埋蔵文化財調査委員会が1988年度に本調査を実施した仙台城二の丸跡第５次調査地点の調査成果をまとめたものである。第５次調査地点については、1985年度および1987年度に実施した、試掘調査の成果もあわせて掲載した。本年報では、検出遺構・出土遺物の報告を旨とし、それらに関する考察は、翌1989年度に実施した付帯施設（排水管）区域の調査までの全ての報告が終了した段階で、1989年度の年報（年報７）において、これらをまとめて検討して報告する予定である。

2.　報告される遺跡と略号、発掘調査期間は以下の通りである。

仙台城二の丸跡第５次調査地点（ＮＭ５）

１次調査（試掘調査）	1985年４月11日～５月30日
２次調査（試掘調査）	1987年９月18日～11月24日
３次調査（本調査）	1988年３月14日～1989年２月14日

3.　調査・整理作業は、東北大学埋蔵文化財調査委員会の委嘱を受け、埋蔵文化財調査室が行った。

4.　本年報の編集は、須藤隆の指導のもとに、山田しょう（～'92）・藤沢敦・関根達人（'92～）が担当した。

5.　本文は、藤沢敦・関根達人が分担執筆した。執筆分担はＩ章とII章１・２は藤沢、II章３の検出遺構については、藤沢と関根が協議して共同で執筆した。II章４の出土遺物については、(1)【陶磁器】、(2)瓦、(3)【箸状木製品】【漆塗製品】、(4)【煙管】の項目については関根が執筆し、それ以外については藤沢が執筆した。英文要旨は関根が原稿を作成し、阿子島香氏（東北大学文学部考古学研究室）の補筆を受けた。

6.　次の方々に各種の遺物について御教示をいただいた。

陶磁器：本田泰貴（東北陶磁文化館）

木簡・墨書陶磁器：田中秀和・中川学（東北大学文学部国史研究室）

石器・石製品：蟹沢聡史（東北大学教養部）

7.　さらに以下の方々から御指導・御協力を賜った。記して感謝申し上げる。

宮城県教育委員会、東北歴史資料館、仙台市教育委員会、東北大学考古学研究室

8.　出土遺物は、東北大学埋蔵文化財調査委員会が保管・管理している。

凡　　例

1．遺物の実測図および写真の縮尺は、各々明記した。

2．方位は真北に統一してある。国土座標は第Ｘ座標系である。

3．川内地区の仙台城二の丸跡にあたる地域の地形測量図は、仙台市教育委員会の作成による「仙台城跡地形図」（縮尺500分の１）を使用した。

4．引用・参考文献は、巻末に一括した。本文中で、東北大学埋蔵文化財調査年報を引用する場合は、年報１という形で略記した。

5．挿図中のスクリーン・トーンの表現は、特に記した以外は下記のとおりである。

遺構平面図　柱痕跡：　　杭：

遺構断面図　柱痕跡：　　礫：

遺物実測図　青磁釉：　　付着物：

（磁器）

6．遺物観察表の法量の単位は、特に記載がないものは、cmである。

1988年度調査遺跡（本報告収録）の概要

仙台城二の丸跡第５次調査地点（ＮＭ５）

縄文時代？：石器

江戸時代

遺構

前期（17世紀）：礎石建物・掘立柱建物・塀・溝・池からなる庭園・井戸

元禄年間（17世紀末～18世紀）：溝・土坑・畑

中・後期（18・19世紀）：掘立柱建物・塀・門・溝・土坑

遺物：陶磁器・瓦・木簡・木製品・漆塗製品・金属製品・骨角製品・石製品

明治時代：礎石建物・石組溝・暗渠・井戸

陶磁器・瓦・木製品・金属製品・ガラス製品・皮製品

整理作業参加者

岩井利佳　小川徳子　大橋育順　菊地芳朗　菊池佳子　工藤健吾　黒須靖之　佐藤剛
庄子一夫　高橋朋子　多辺育子　千田祐美恵　津島知弘　独古史恵　三浦千秋　成田和歌子

発掘調査参加者

秋山真紀子　阿部喜美　阿部志う　阿部友衛　荒井聡　池田洋祐　石垣光朗　石堂幸子
市村賢則　伊藤千穂　伊藤道子　今高義也　歌川喜恵子　梅沢みえ　遠藤秀樹　及川茂
太田君子　太田すゑ子　太田はるよ　太田洋平　小熊博　河西健二　加藤恵子　金子拓
鹿野尚文　菅野春枝　菅野竜一　菊地修一　菊地スミ子　菊地とよゑ　菊池佳子
国安まほ子　栗谷川佳子　桑月鮮　小関勝英　小林文夫　小山さき子　小山八郎　佐伯晴子
桜井美枝　佐々木努　佐々木寅男　佐藤厚子　佐藤耀子　庄子一夫　申宗大　須貝啓一
菅井道彦　菅原伸明　菅原よしの　高橋いく子　高橋理　高橋和子　高橋健寿　高橋富勝
立身修　張玲　照井優一　東矢高明　富岡直人　中川光則　中村裕　新沼よしえ　新野一浩
朴栄淑　長谷川チエ子　長谷川範明　菱沼孝二　本田泰貴　丸山伝　三浦幸子　宮崎敬士
三好秀樹　村田章人　森嶋秀一　山岸清江　山田しょう　横山東市　吉田歓　李蓮　陸太進
劉毅　渡辺久子

東北大学埋蔵文化財調査委員会規程

施行　昭和58年11月15日
改正　昭和63年１月19日

（設置）

第一条　東北大学に、東北大学の施設の整備にともなう埋蔵文化財の発掘調査に関する重要事項を調査審議するため、東北大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（組織）

第二条　委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　東北大学施設整備委員会地区協議会委員長

二　発掘調査に関連のある専門分野の教授又は助教授　若干人

三　発掘調査地に関連のある部局の長で、その都度委員長が指名するもの

四　事務局長

（委員長）

第三条　委員長は、学長をもって充てる。

（調査室）

第四条　委員会に、委員会が定める基本方針に基づき、発掘調査に関する実施計画、実施の細目及び調査報告書に係る事項を処理させるため、調査室を置く。

２　調査室に、室長及び調査員を置く。

３　室長は、調査室の業務を掌理し、調査員は、調査室の業務に従事する。

（委嘱等）

第五条　第二条第二号に掲げる委員及び調査員は、学長が委嘱する。

２　室長は、委員のうちから委員長が指名する。

（調査員の出席）

第六条　委員長は、調査員を委員会に出席させ、議案について、必要な説明をさせ、又は意見を述べさせることができる。

（幹事）

第七条　委員会に幹事を置き、庶務部長、経理部長及び施設部長をもって充てる。

（庶務）

第八条　委員会の庶務は、事務局施設部において行う。

（雑則）

第九条　この規定に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附則

この規定は、昭和六三年一月十九日から施行する。

埋蔵文化財調査室運営方針

東北大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という）の運営は、東北大学埋蔵文化財調査委員会規程によるもののほか、次の運営方針に基づき行うものとする。

1　調査室の運営及び発掘調査の実施方針等に関して審議するため、運営会議を置く。

2　運営会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1)　調査室長及び調査員

(2)　庶務課長、主計課長及び企画課長

(3)　発掘調査地を所管する部局の事務長

(4)　専門委員若干名

3　調査室は、東北大学構内遺跡の調査及び保護にあたる。

4　調査室は、発掘調査による出土文化財の整理と調査報告書の作成にあたり、公開、活用をはかる。

5　調査室は、出土文化財・資料（図面、写真等）の保存、管理にあたる。

6　調査室は、文化庁長官、教育委員会等への発掘調査に関わる届け出業務(発掘届けを除く)を担当する。

東北大学埋蔵文化財調査委員会（1988年度）

委員長	学　　長		石田名香雄
委員	川内地区協議会委員長	（法学部長）	太田知行
	青葉山地区協議会委員長	（薬学部長）	南原利夫
	星陵地区協議会委員長	（医学部長）	吉永　馨
	片平地区協議会委員長	（科研所長）	藤村忠雄
	文学部教授	（調査室長）	渡辺信夫
	文学部教授		羽下徳彦
	文学部教授		須藤　隆
	文学部助教授		今泉隆雄
	理学部教授		中川久夫
	工学部教授		坂田　泉
	附属図書館長		塚本哲人
	文学部長		桑原輝男
	法学部長		太田知行
	理学部長		黒田　正
	工学部長		大谷茂盛
	農学部附属農場長		庄司貞雄
	教養部長		細谷　昂
	事務局長		石田正一郎
調査員	文学部助手		梶原　洋
	文学部助手		佐久間光平
幹事	庶務部長		勝村光彦
	経理部長		滝本良雄
	施設部長		原山明宗

東北大学埋蔵文化財調査委員会（1993年２月現在）

委員長	学　　長		西澤潤一
委員	川内地区協議会委員長	（教養部長）	渡部治雄
	青葉山地区協議会委員長	（工学部長）	斉藤正三郎
	星陵地区協議会委員長	（医学部長）	平　則夫
	片平地区協議会委員長	（金研所長）	増本　健
	文学部　教授		渡辺信夫
	文学部　教授		羽下徳彦
	文学部　教授	（調査室長）	須藤　隆
	文学部　助教授		今泉隆雄
	工学部　助教授		飯淵康一
	事務局長		廣田史郎
調査員	文学部　助手		藤沢　敦
	文学部　助手		関根達人
幹事	庶務部長		菊地洋男
	経理部長		山田　清
	施設部長		山本　努

埋蔵文化財発掘調査及び委員会審議の手順

1　計画立案　→　整備に伴う調査の立案（対象遺跡地・面積・調査期間・人員・資材・経費等の検討）

↓

2　審議・決定　委員会での審議・決定

↓

3　調査　→　具体的な実施計画の作成・発掘届業務　→　文化庁

予備調査

調　査
- (1)　予備作業
- (2)　粗掘り（表土の排土など）
- (3)　精査（遺構・遺物の検出）
- (4)　記録・測量・写真撮影
- (5)　埋め戻し

↓

4　委員会における検討・評価　委員会検討資料の作成・発掘に関わる届出業務　→　文化庁

検出遺構の検討・評価　　記録・出土遺物の確認、あるいは検討

保存処置　→　整備工事の実施

5　整理作業

遺物の整理作業
- (1)　整理手順の決定
- (2)　洗浄・乾燥などの準備作業
- (3)　分類・観察・分析・計測など資料化
- (4)　図化（実測図面の作成）・写真撮影
- (5)　遺物保存処理
- (6)　収納・登録作業

記録の整理

6　報告書の作成・配布

写真・図面のレイアウト
原稿作成など

↓

印刷　（業者への発注）

↓

文化庁など関係機関へ配布

7　遺物・記録（写真類、図面、調査日誌など）の保管及び公開（企画展示・資料貸出）

8　委員会への調査終了報告

目　　次

序

例言・凡例

東北大学埋蔵文化財調査委員会規程

東北大学埋蔵文化財調査室運営方針

東北大学埋蔵文化財調査委員会組織

埋蔵文化財発掘調査及び委員会審議の手順

目次

図目次

表目次

図版目次

第Ⅰ章　1988年度調査の概要……1

1．はじめに……1

2．発掘調査の概要……1

(1)　川内地区の調査……1

(2)　青葉山地区の調査……3

(3)　川渡地区の調査……3

3．そのほかの調査室の活動……3

第Ⅱ章　二の丸跡第５次調査地点（ＮＭ５）の調査……4

1．調査経緯……4

(1)　川内地区の立地と歴史および1987年度までの調査……4

(2)　調査地点の位置……8

(3)　調査方法と経過……9

2．層序と時期区分……12

3．検出遺構……17

(1)　Ⅰ期（西屋敷）の遺構

①　北区18・19列……17

Ａ．Ⅰａ期（地山上面）……17

Ｂ．Ⅰｂ期（８層上面）……18

②　北区20～23列……25

A．Ⅰａ期（⑧層上面）……25
B．Ⅰｂ期（⑦層上面）……26
③　南区……32
A．Ⅰａ期……33
B．Ⅰｂ期……43
(2)　II期（西屋敷廃絶後・二の丸以前）の遺構……52
①　IIａ期（北区 VI層　上面）……52
②　IIｂ期（北区Ⅴ層上面・南区３ａ層上面）……56
(3)　III期（二の丸中奥）の遺構……63
①　IIIａ期（北区 IV層　上面・南区２ｄ層上面）……63
②　IIIｂ期（北区　III層　上面・南区２ｃ層上面）……75
(4)　IV層　（第二師団）の遺構（２ｂ層・２ａ層上面）……86
4．出土遺物……98
(1)　陶磁器・土器・土製品……98
(2)　瓦……101
(3)　木製品……106
(4)　金属製品……109
(5)　石器・石製品……110
(6)　骨角製品……111
(7)　ガラス製品……111
(8)　その他の遺物……111
引用・参考文献
英文要旨
図版

図　目　次

図１　東北大学と周辺の遺跡……2
図２　仙台城と二の丸の位置……4
図３　仙台城二の丸跡・武家屋敷跡調査地点……5
図４　二の丸跡第５次調査地点調査区の位置……10
図５　基本層序模式図……13
図６　調査区外周壁断面図……15
図７　Ⅰａ期遺構配置図……19
図８　Ⅰｂ期遺構配置図……21
図９　Ⅰ期18・19列検出遺構……23
図10　Ⅰａ期20～22列検出遺構……27
図11　Ⅰｂ期20～22列検出遺構……29
図12　Ⅰ期20～22列断面図……31
図13　南区池跡堆積状況模式図……32
図14　南区Ⅰａ期検出遺構(1)……37
図15　南区Ⅰａ期検出遺構(2)……39
図16　南区Ⅰａ期検出遺構(3)……41
図17　南区Ⅰｂ期検出遺構(1)……45
図18　南区Ⅰｂ期検出遺構(2)……47
図19　南区Ⅰｂ期検出遺構(3)……49
図20　南区Ⅰ期断面図……51
図21　Ⅱａ期遺構配置図……53
図22　Ⅱａ期検出遺構……55
図23　Ⅱｂ期遺構配置図……57
図24　Ⅱｂ期検出遺構(1)……59
図25　Ⅱｂ期検出遺構(2)……61
図26　Ⅱｂ期検出遺構(3)……62
図27　Ⅲａ期遺構配置図……65
図28　Ⅲａ期検出遺構(1)……68
図29　Ⅲａ期検出遺構(2)……69
図30　Ⅲａ期検出遺構(3)……71
図31　Ⅲａ期検出遺構(4)……73
図32　Ⅲａ期検出遺構断面図……74
図33　Ⅲｂ期遺構配置図……77
図34　Ⅲｂ期検出遺構(1)……80
図35　Ⅲｂ期検出遺構(2)……81
図36　Ⅲｂ期検出遺構(3)……83
図37　Ⅲｂ期検出遺構(4)……85
図38　Ⅳ期遺構配置図……89
図39　Ⅳ期検出遺構(1)……91
図40　Ⅳ期検出遺構(2)……93
図41　Ⅳ期検出遺構(3)……95
図42　第５地点出土磁器(1)……112
図43　第５地点出土磁器(2)……113
図44　第５地点出土磁器(3)……114
図45　第５地点出土磁器(4)……115
図46　第５地点出土磁器(5)……116
図47　第５地点出土磁器(6)……117
図48　第５地点出土磁器(7)……118
図49　第５地点出土磁器(8)……119
図50　第５地点出土磁器(9)……120
図51　第５地点出土陶器(1)……121
図52　第５地点出土陶器(2)……122
図53　第５地点出土陶器(3)……123
図54　第５地点出土陶器(4)……124
図55　第５地点出土陶器(5)……125
図56　第５地点出土陶器(6)……126
図57　第５地点出土陶器(7)……127
図58　第５地点出土陶器(8)……128

図59　第５地点出土陶器(9) ……129
図60　第５地点出土陶器(10) ……130
図61　第５地点出土陶器(11) ……131
図62　第５地点出土土器(1) ……132
図63　第５地点出土土器(2) ……133
図64　第５地点出土土器(3) ……134
図65　第５地点出土土器(4) ……135
図66　第５地点出土土器(5) ……136
図67　第５地点出土軒丸瓦(1) ……137
図68　第５地点出土軒丸瓦(2) ……138
図69　第５地点出土軒丸瓦(3) ……139
図70　第５地点出土軒丸瓦(4)・
　　軒平瓦(1) ……140
図71　第５地点出土軒平瓦(2) ……141
図72　第５地点出土軒桟瓦 ……142
図73　第５地点出土平瓦(1) ……143
図74　第５地点出土平瓦(2)・
　　丸瓦(1) ……144
図75　第５地点出土丸瓦(2) ……145
図76　第５地点出土丸瓦(3) ……146
図77　第５地点出土丸瓦(4) ……147
図78　第５地点出土板塀瓦(1) ……148
図79　第５地点出土板塀瓦(2) ……149
図80　第５地点出土熨斗瓦・桟瓦(1) ……150
図81　第５地点出土桟瓦(2) ……151
図82　第５地点出土輪違い ……152
図83　第５地点出土面戸瓦(1) ……153
図84　第５地点出土面戸瓦(2) ……154
図85　第５地点出土棟瓦・板塀瓦 ……155
図86　第５地点出土その他の瓦(1) ……156
図87　第５地点出土その他の瓦(2) ……157
図88　第５地点出土その他の瓦(3)・
　　刻印瓦(1) ……158
図89　第５地点出土刻印瓦(2)・
　　瓦加工品 ……159
図90　第５地点出土木簡(1) ……160
図91　第５地点出土木簡(2) ……161
図92　第５地点出土木簡(3) ……162
図93　第５地点出土木簡(4) ……163
図94　第５地点出土木簡(5)・櫛 ……164
図95　第５地点出土箸状木製品 ……165
図96　第５地点出土下駄(1) ……166
図97　第５地点出土下駄(2) ……167
図98　第５地点出土下駄(3) ……168
図99　第５地点出土
　　その他の木製品(1) ……169
図100 第５地点出土
　　その他の木製品(2) ……170
図101 第５地点出土
　　その他の木製品(3) ……171
図102 第５地点出土漆塗製品 ……172
図103 第５地点出土漆塗製品 ……173
図104 第５地点出土古銭 ……174
図105 第５地点出土煙管 ……175
図106 第５地点出土その他の金属製品 …176
図107 第５地点出土石器・石製品・
　　骨角製品 ……177

表　目　次

表 1　1988年度調査概要表…… 1
表 2　第 5 地点出土磁器集計表(1) ……178
表 3　第 5 地点出土磁器集計表(2) ……179
表 4　第 5 地点出土陶器集計表(1) ……180
表 5　第 5 地点出土陶器集計表(2) ……181
表 6　第 5 地点出土土器・土製品集計表(1) ……182
表 7　第 5 地点出土土器・土製品集計表(2) ……183
表 8　第 5 地点出土瓦集計表(1) ……184
表 9　第 5 地点出土瓦集計表(2) ……185
表10　第 5 地点出土木製品・漆塗製品集計表(1) ……186
表11　第 5 地点出土木製品・漆塗製品集計表(2) ……187
表12　第 5 地点出土その他の遺物集計表(1) ……188
表13　第 5 地点出土その他の遺物集計表(2) ……189
表14　第 5 地点出土磁器観察表(1) ……190
表15　第 5 地点出土磁器観察表(2) ……191
表16　第 5 地点出土陶器観察表(1) ……192
表17　第 5 地点出土陶器観察表(2) ……193
表18　第 5 地点出土陶器観察表(3) ……194
表19　第 5 地点出土土師質土器皿観察表(1) ……194
表20　第 5 地点出土土師質土器皿観察表(2) ……195
表21　第 5 地点出土その他の土師質土器・瓦質土器観察表 ……195
表22　第 5 地点出土軒丸瓦類観察表 ……196
表23　第 5 地点出土軒平瓦類観察表 ……196
表24　第 5 地点出土軒桟瓦観察表 ……197
表25　第 5 地点出土平瓦観察表 ……197
表26　第 5 地点出土丸瓦観察表 ……197
表27　第 5 地点出土桟瓦観察表 ……197
表28　第 5 地点出土板塀瓦観察表 ……198
表29　第 5 地点出土熨斗瓦観察表 ……198
表30　第 5 地点出土輪違い観察表 ……198
表31　第 5 地点出土面戸瓦観察表 ……198
表32　第 5 地点出土その他の瓦観察表 …199
表33　第 5 地点出土下駄観察表 ……199
表34　第 5 地点出土木簡観察表 ……200
表35　第 5 地点出土櫛観察表 ……200
表36　第 5 地点出土箸状木製品観察表 …200
表37　第 5 地点出土その他の木製品観察表 ……201
表38　第 5 地点出土漆塗製品観察表 ……201
表39　第 5 地点出土古銭観察表 ……202
表40　第 5 地点出土煙管吸口観察表 ……202
表41　第 5 地点出土煙管雁首観察表 ……203
表42　第 5 地点出土その他の金属製品観察表 ……203
表43　第 5 地点出土その他の遺物観察表 ……203

図　版　目　次

図版１　第５地点全景(1) ……211
図版２　第５地点全景(2) ……212
図版３　第５地点断面 ……213
図版４　第５地点Ⅰａ期の遺構(1) ……214
図版５　第５地点Ⅰａ期の遺構(2) ……215
図版６　第５地点Ⅰａ期の遺構(3) ……216
図版７　第５地点Ⅰｂ期の遺構(1) ……217
図版８　第５地点Ⅰｂ期の遺構(2) ……218
図版９　第５地点Ⅰｂ期および
　　Ⅱ期の遺構 ……219
図版10　第５地点Ⅱａ期・
　　Ⅱｂ期の遺構 ……220
図版11　第５地点Ⅲ期・Ⅲａ期の遺構 …221
図版12　第５地点Ⅲａ期の遺構 ……222
図版13　第５地点Ⅲｂ期の遺構 ……223
図版14　第５地点Ⅳ期の遺構(1) ……224
図版15　第５地点Ⅳ期の遺構(2) ……225
図版16　第５地点Ⅳ期の遺構(3) ……226
図版17　第５地点出土磁器(1) ……227
図版18　第５地点出土磁器(2) ……228
図版19　第５地点出土磁器(3) ……229
図版20　第５地点出土磁器(4) ……230
図版21　第５地点出土磁器(5) ……231
図版22　第５地点出土磁器(6) ……232
図版23　第５地点出土陶器(1) ……233
図版24　第５地点出土陶器(2) ……234
図版25　第５地点出土陶器(3) ……235
図版26　第５地点出土陶器(4) ……236
図版27　第５地点出土陶器(5) ……237
図版28　第５地点出土陶器(6) ……238
図版29　第５地点出土陶器(7) ……239
図版30　第５地点出土陶器(8) ……240
図版31　第５地点出土陶器(9) ……241
図版32　第５地点出土陶器(10) ……242
図版33　第５地点出土陶器(11) ……243
図版34　第５地点出土土器(1) ……244
図版35　第５地点出土土器(2) ……245
図版36　第５地点出土土器(3) ……246
図版37　第５地点出土土器(4) ……247
図版38　第５地点出土軒丸瓦類(1) ……248
図版39　第５地点出土軒丸瓦類(2) ……249
図版40　第５地点出土軒平瓦・
　　軒桟瓦(1) ……250
図版41　第５地点出土軒桟瓦(2)・
　　平瓦(1) ……251
図版42　第５地点出土平瓦(2)・
　　丸瓦(1) ……252
図版43　第５地点出土丸瓦(2) ……253
図版44　第５地点出土桟瓦類(1) ……254
図版45　第５地点出土板塀瓦 ……255
図版46　第５地点出土桟瓦類(2)・
　　熨斗瓦・棟瓦 ……256
図版47　第５地点出土輪違い・
　　面戸瓦(1) ……257
図版48　第５地点出土面戸瓦(2) ……258
図版49　第５地点出土その他の瓦(1) ……259
図版50　第５地点出土その他の瓦(2) ……260
図版51　第５地点出土刻印瓦・
　　瓦加工品 ……261
図版52　第５地点出土木簡(1) ……262

図版53　第５地点出土木簡(2) ……263
図版54　第５地点出土木簡(3) ……264
図版55　第５地点出土箸状木製品 ……265
図版56　第５地点出土櫛・下駄(1) ……266
図版57　第５地点出土下駄(2) ……267
図版58　第５地点出土その他の
木製品(1) ……268
図版59　第５地点出土その他の
木製品(2) ……269
図版60　第５地点出土その他の
木製品(3)・漆塗製品(1) ……270
図版61　第５地点出土漆塗製品(2) ……271
図版62　第５地点出土古銭 ……272
図版63　第５地点出土煙管 ……273
図版64　第５地点出土
その他の金属製品 ……274
図版65　第５地点出土その他の遺物 ……275

第Ⅰ章　1988年度調査の概要

1.　はじめに

東北大学には、川内・青葉山・片平・星陵・雨宮の各地区のキャンパスと、ほかに多くの附属施設があり、その敷地は広大である。これらの各地区の構内には、多くの埋蔵文化財があり、特に文系４学部・教養部・記念講堂のおかれている川内地区は、近世の仙台城二の丸跡と武家屋敷にあたり、理・薬・工学部のおかれている青葉山地区には、主として旧石器時代～弥生時代の遺跡が残されている（図１）。

これらの大学構内の埋蔵文化財の調査・保護を組織的に行うために、1983年に東北大学埋蔵文化財調査委員会が設置され、その実務機関として埋蔵文化財調査班（1988年から調査室）が置かれた。以来、1988年度までに、合計41地点の調査が行われてきた。これらの調査を通じて、川内地区では仙台城二の丸跡の様相が明らかになりつつあり、青葉山地区では10数万年前と２万年前の旧石器群が発見されるなど、構内遺跡の重要性があらためて認識されてきた。これらの調査成果については、『東北大学埋蔵文化財調査年報』１～５で、学界のみならず一般にも広く公開されてきた。

1988年度においても、仙台城二の丸跡を中心に調査が行われ、新たな資料を提供することになった。本報告書は、これらの調査成果についてとりまとめたものである。

2.　発掘調査の概要

1988年度は、本調査１件、試掘調査１件、立会調査２件の、計４件の調査を実施した。これらの調査の内訳は、川内地区（仙台城二の丸跡）においては本調査１件、青葉山地区では立会調査２件、川渡地区では試掘調査１件である（表１）。

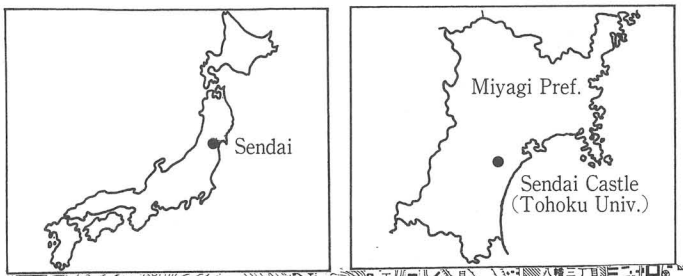
(1)　川内地区（仙台城二の丸跡）の調査

川内地区では、附属図書館本館増築に伴う本調査(仙台城二の丸跡第５次調査地点、ＮＭ５）を実施した。これは、1985年度の１次調査、1987年度の２次調査に続く、３次調査にあたる。これまで東北大学埋蔵文化財調査委員会で実施した調査では、最大面積となるものであり、ほ

表１　1988年度調査概要表

Tab. 1　Excavations on the campus in the fiscal year 1988

調査の種類	調　査　地　点	原　　因	調査期間	面　積	時期
本　調　査	仙台城二の丸跡第５地点（ＮＭ５）	附属図書館本館増築	3/14～2/13	1520　m²	近世
試掘調査	川渡農場第１地点（ＫＷ１）	宿泊施設新営	6/17・18	8　m²	弥生
立会調査	工学部情報工学科テニスコート地点	テニスコート擁壁新設	10/11	10　m²	―
	理学部生物学科実験室地点	理学部生物学科学生実験室新設	11/18	43.5m²	―



1．仙　台　城　址　　Ruin of Sendai Castle
2．青葉山遺跡A地点　　Aobayama Site Loc. A
3．B地点　　〃　〃　B
4．C地点　　〃　〃　C
5．D地点　　〃　〃　D
6．E地点　　〃　〃　E
7．F地点　　〃　〃　F
8．北　前　遺　跡　　Kitamae Site
9．山田上の台遺跡　　Yamada-Uenodai Site
10．芦ノ口遺跡　　Asinokuchi site
11．三神峯遺跡　　Mikamine Site
12．富　沢　遺　跡　　Tomizawa Site
13．上　野　遺　跡　　Uwano Site
14．原子核理学研究施設地点　　Lab.of Nuclear Science

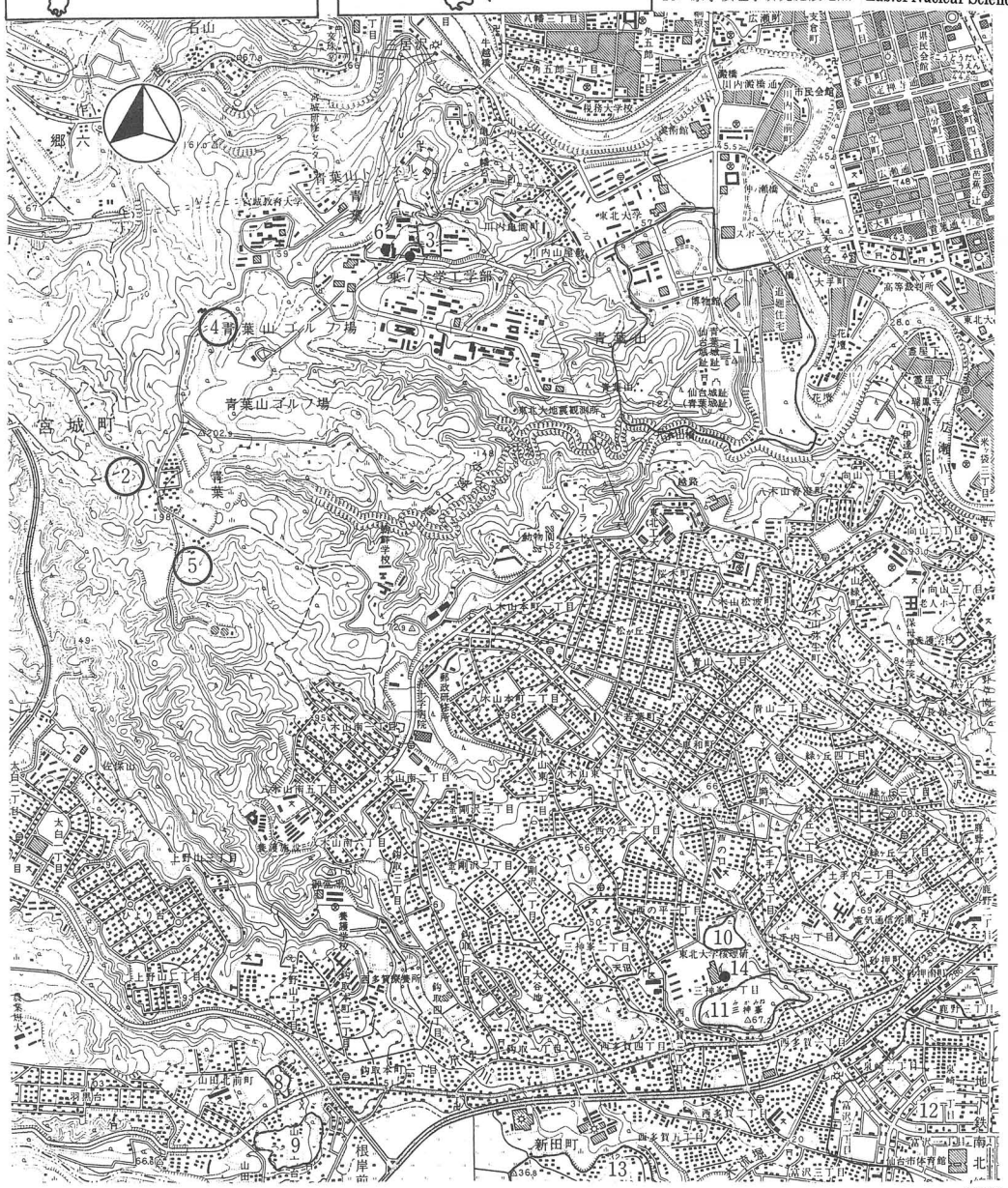


図１　東北大学と周辺の遺跡

Fig. 1 Archaeological sites and Tohoku University

ぼ1年間に渡る長期の調査となった。この地点は、二の丸中奥の置かれていた区域にあたり、上層から中奥に関連する掘立柱の塀跡・門跡や溝跡などが検出された。また、大規模な整地層をはさんで、下層からは、二の丸が元禄期に拡張される以前に置かれていた、西屋敷に関連する礎石建物跡・溝跡・池からなる庭園などが検出されたほか、この西屋敷が廃絶された後に造られた畑の跡が検出されている。また、江戸時代初頭以降の各時期の遺物が大量に出土した。本年報では、1987年度の2次調査と1988年度の3次調査、および1985年度の1次調査の成果の一部も併せて報告する。1985年度の1次調査の残る部分は、1988年度から翌年度にかけて行った排水管区域の調査（4次調査）と併せて、1989年度の年報（年報7）で報告する予定である。また、この第5地点の遺構・遺物に関する考察は、4次調査までの全ての報告が終了した段階で、これらをまとめて検討して報告する予定である。

⑵　青葉山地区の調査

青葉山地区では立会調査を2件実施した。工学部情報工学科テニスコート地点はテニスコート擁壁工事に伴うものである。当地点は、北東側に傾斜する斜面地で盛土がなされており、地層の堆積状況も良くなく、また工事に伴う掘削面積も小さいことから立会調査を行った。理学部生物学科学生実験室建設に伴う調査では、建物がプレハブ建築であり、工事に伴う掘削も狭くて浅いため立会調査とした。いずれにおいても、遺構・遺物は発見されなかったため、これ以上の調査は行っていない。

⑶　川渡地区の調査

川渡地区では、川渡農場第一地点（ＫＷ１）の試掘調査を実施した。当地点は農学部附属農場の宿泊施設新営に伴う調査で、町Ａ遺跡などの遺跡に隣接する地点であったため、遺構・遺物の有無を確認する目的で試掘調査を実施した。調査の結果、弥生時代の天王山式と見られる土器が出土したため、翌年に本調査を行うこととした。この調査については、1989年度の本調査の報告にまとめて行う予定である。

3.　そのほかの調査室の活動

1988年度は、前述した二の丸跡第5次調査地点の調査がほぼ1年間を通して行われたため、調査成果の公開・活用も、この第5地点の成果に関するものが中心となった。第5地点の調査中の12月3日には現地説明会を開催し、初めて西屋敷の実態が明らかになったこともあり、多くの参加者があった。学会での発表としては、12月11日に開催された宮城県遺跡調査発表会では第5地点の調査成果について発表した。また『考古学ジャーナル』312に、調査成果の速報として「仙台城二の丸跡第5地点の調査」を投稿した。

第II章　二の丸跡第５次調査地点（ＮＭ５）の調査

１．調査経緯

(1)　川内地区の立地と歴史および1987年度までの調査

東北大学の附属図書館、および文系４学部、記念講堂、教養部などが置かれている現在の川内地区は、江戸時代の仙台城二の丸跡、周辺の武家屋敷跡などに相当する。

仙台城は、仙台市街地の西方、広瀬川を渡った、通称青葉山の東端に位置している（図１）。本丸は、三方（北・東・南）を広瀬川と竜の口渓谷に囲まれた海抜115～140mの急崖上に立地

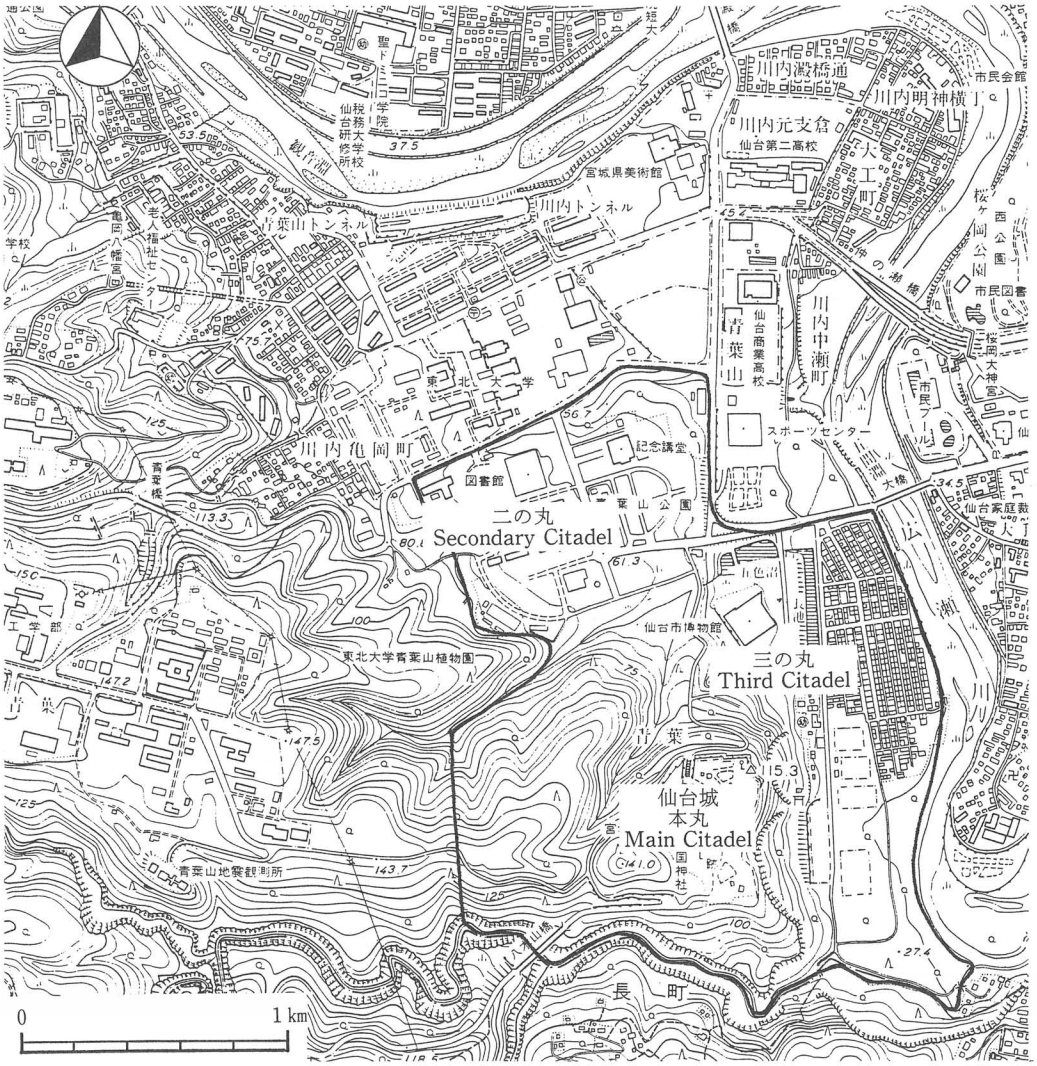


図２　仙台城と二の丸の位置
Fig. 2 Distribution of Sendai Castle

図3　仙台城二の丸跡・武家屋敷跡調査地点

Fig. 3 Location of excavations until 1988 at *Ninomaru* (NM i. e. Secondary Citadel) and *samurai* residence (BK)

しており、また北側の二の丸、北東の三の丸も、それぞれ海抜61～78m、40mの階段状の河岸段丘面上にあり、自然地形を巧みに利用した配置となっている(奥津春生1967)。この中で東北大学構内の二の丸は、東方を蛇行する広瀬川に向かって緩やかに傾斜する上町段丘上（武蔵野面相当）に位置する（図２)。

仙台城は、慶長５年（1600年）伊達政宗によって本丸の築城が開始される。しかし幕藩体制の安定とともにその山城的な立地は不便となり、二代藩主忠宗は、寛永15年(1638年)、その麓において二の丸の造営を始める。これ以前、当地には政宗の四男宗泰（岩出山領主）の屋敷が置かれていた。二の丸の北隣には、政宗の長女五郎八姫の居住する西屋敷が元和６年(1620年)以降存続している。

二の丸が完成して後、仙台藩の政治・諸儀式の中心はここに移され、二代藩主以降はその居館ともなる。さらに元禄年間には、四代藩主綱村によって二の丸は大改造され、もとの西屋敷の敷地を取り込んで拡大される。その後いくたびかの災害や火災を被るが、その度に再建され、二の丸は幕末まで、事実上仙台城の中枢として機能していく（仙台市教育委員会1967)。

版籍奉還の明治２年（1869年）には、二の丸に勤政庁が置かれ、明治４年（1871年）の廃藩置県後は、仙台城が明治政府・兵部省の管轄下に移るとともに東北鎮台（後に仙台鎮台と改む）が置かれる。この頃に本丸の建物群は取り壊されるが、二の丸建物群は依然として残っている。しかし、この二の丸建物群も、明治15年（1882年）の火災によって、ほとんどが焼失してしまう。その後、当地には陸軍第二師団が置かれ、敗戦まで続くこととなる。敗戦間近の昭和20年（1945年）７月、仙台空襲の際、大手門などわずかに残った建物も焼失し、仙台城の建物は全て失われてしまう。戦後は米軍の駐留地となり、昭和32年(1957年)、米軍より返還されてのち東北大学がこの川内地区に移転し、現在に至るのである。

仙台城二の丸・武家屋敷である川内地区の発掘調査は、仙台市教育委員会、東北大学考古学研究室によって小規模な調査が行われたことがあるが、組織的・継続的に行われるのは、東北大学に埋蔵文化財調査委員会が置かれる1983年度以降のことである。委員会による川内地区の発掘調査は、これまでに８地点を数える。この中で特に、二の丸の中心である小広間の付近を調査した第２地点では、礎石建物跡が発見され、良好な保存状態と遺構の重要性から、調査後は保存されることとなった。第３地点・第４地点・第６地点では、それぞれ二の丸の南・北東・西の外郭にかかわる遺構が発見されており、現在の地形上で二の丸の範囲がほぼ推定できるようになった。第７地点では二の丸東方の蔵にかかわる遺構が発見されており、第８地点では二の丸北側の堀（池）が発見されている。また、第４地点の調査では、二の丸造成時の大規模な整地層の下層から、宗泰の屋敷に関連すると考えられる遺構も検出されている（年報１、３、４・５)。

⑵　調査地点の位置

第５地点は、附属図書館の西側にあたり、グランドとして使用されていた場所である。当地点は、江戸時代初頭には伊達政宗の娘である五郎八姫の居館である「西屋敷」が置かれていた場所にあたる。

五郎八姫は文禄３年(1594年)、伊達政宗と正室愛姫の長女として生を受ける。五郎八姫は慶長４年（1599年）６才の時、徳川家康の七男松平忠輝と婚約し、慶長11年（1606年）松平家に嫁いだ。しかし忠輝は、元和元年（1615年）の大阪夏の陣の際の遅参・怠戦と、家臣による旗本殺害の不謝罪とによって改易処分とされ、越後および信濃の領地を没収され、元和２年には伊勢朝熊に配流される。五郎八姫はこの時、越後高田城から江戸の伊達家下屋敷に帰される。さらに元和６年（1620年)、五郎八姫27才の時、仙台に帰ることとなった。

この元和６年に帰仙した五郎八姫のために造営されたのが、西屋敷である。西屋敷を記した絵図面は、正保２・３年（1645・46年）の「奥州仙台城絵図」が唯一のものである（阿刀田令造1936)。これは城下全体を記した絵図であり、屋敷内の建物などの配置は描かれていない。これによると西屋敷は、二の丸の北側に位置し、東西百二間、南北六十間とされている。この絵図で二の丸とされている区域には、二の丸造営以前には、伊達政宗の四男である宗泰（後の岩出山領主）の屋敷が置かれていた。宗泰の屋敷と西屋敷を区画すると考えられる溝跡が、第４次調査地点の調査において検出されており、この両者の屋敷の境が、現在の文系４学部と附属図書館の間の道にほぼ対応すると考えられる（年報５)。西屋敷が造営される以前については、「御西様被成御座候ニ付。竹被切払御作事御座候」(東奥老士夜話)との記録があり、竹林であったことが伺える（土生慶子1987)。

寛永13年(1636年)に伊達政宗が死去すると、その報に接したもとの伊達藩奉行茂庭綱元(了庵)が、それまで住んでいた愛子村栗生の屋敷を五郎八姫に差し上げ、自分は栗原郡文字村(現、栗駒町文字）に引き篭った。このことは『綱元君記録』の寛永八年条、同じく寛永十三年条、また安永三年（1774年）の「下愛子村風土記書出」の記述によって知られる。この愛子村栗生の屋敷（西館）とは、現在の仙台市青葉区下愛子栗生にある西館跡と考えられる。この寛永13年に愛子栗生のもとの茂庭綱元の屋敷を五郎八姫が譲り受けて以降、川内の西屋敷がどのように使われたかについては、明確な記述に欠けるが、伊達治家記録の寛文元年（1661年）５月12日に、五郎八姫の死去について「天麟院殿去ル八日仙臺城西館ニ於テ卒去セラル」とあるから、姫の死去まで存続しており、愛子栗生の西館は仮御殿として別荘的な性格をもっていたものと考えられている（佐藤宏一1987)。天麟院とは五郎八姫の法号である。

一方、西屋敷の南隣にあった伊達宗泰の屋敷の跡には、寛永15年（1638年）に、二代藩主伊達忠宗によって、二の丸が造営されている。五郎八姫が死去して後の西屋敷については、宮城

県立図書館所蔵の「仙台藩封内神社仏閣等作事方役所修繕ニ属スル場所調寛文延宝貞享定書共天麟院様元御屋舗御屏風蔵々也候」にその様子を伺うことができる。これによると、屏風蔵や道具蔵などが見え、二の丸に付随する蔵として利用されたようである。これらの建物が、西屋敷時代の建物をそのまま利用したものか、新たに建てられたものかは明確ではない。

四代藩主伊達綱村の元禄年間に、二の丸はもとの西屋敷の敷地を取り込んで、北側に拡張され、もとの西屋敷の敷地には中奥が置かれる。当地点は、この拡大後の中奥のもっとも北よりの部分から、中奥の北側に置かれた「中奥馬場」にかけての地点にあたると考えられる。

中奥の建物群はたびたび建て替えられ、また文化元年（1804年）の雷火による二の丸の全焼など、いくたびかの災害で被害を被り、その度に再建されている。絵図においても、中奥の建物群は細部では複雑な変遷を示している。しかし、今回の調査地点にあたると考えられる中奥の北辺部分は、その外郭の位置はほとんど変化がないことが、各時期の絵図から見て取れる。

明治２年（1869年）の版籍奉還に伴い、藩務と家務が区分され、元の藩主伊達慶邦の家族は中奥に移され、二の丸の表の建物は勤政庁となった。さらに明治４年（1871年）の廃藩置県によって、仙台城が明治政府の管轄下に移り、二の丸には東北鎮台が置かれ、同15年（1882年）の火災による焼失に至るのである。この版籍奉還以降の当地点の変遷については、明確ではないが、廃藩置県以降、軍隊が利用するようになってからは、土地利用が大きく変わったものと推定される。

⑶　調査方法と経過

附属図書館の新館を増築することになり、まず1985年度に試掘調査を実施することとなった。調査は、既存の附属図書館の建物の西側に合わせて基準線を設定し、４ｍのグリッドを組んで行った。以後、４次にいたる調査は、すべてこのグリッドに基づいて調査を行っている。グリッド設定の際の基準点の国土座標値は下記のとおりで、基準線は北から18°　10′50″西偏している（図４）。

原点ＮＭ５―①　Ｘ＝－193 612.285　　原点ＮＭ５―②　Ｘ＝－193 610.729

Y= 1876.546　　**Y= 1881.283**

当初の建物計画は、既存の図書館の西側全面に予定されていたため、1985年度の１次調査では、予定地にあわせて１～７区の調査区を設定した。その結果、１・２・５・７区で仙台城に関わる遺構・遺物が確認された。１区では二の丸に伴う東西方向の溝、石組列、礎石などが検出され、東西方向溝は、５区に続いていた。２区では、１区から連続する面が遺存していることが確認された。７区では、礎石建物跡と推定される礎石の一部が検出された。残る３・４・６区では、後に誤認と判明するのだが、撹乱によって江戸時代の遺構は破壊されているものと判断した。

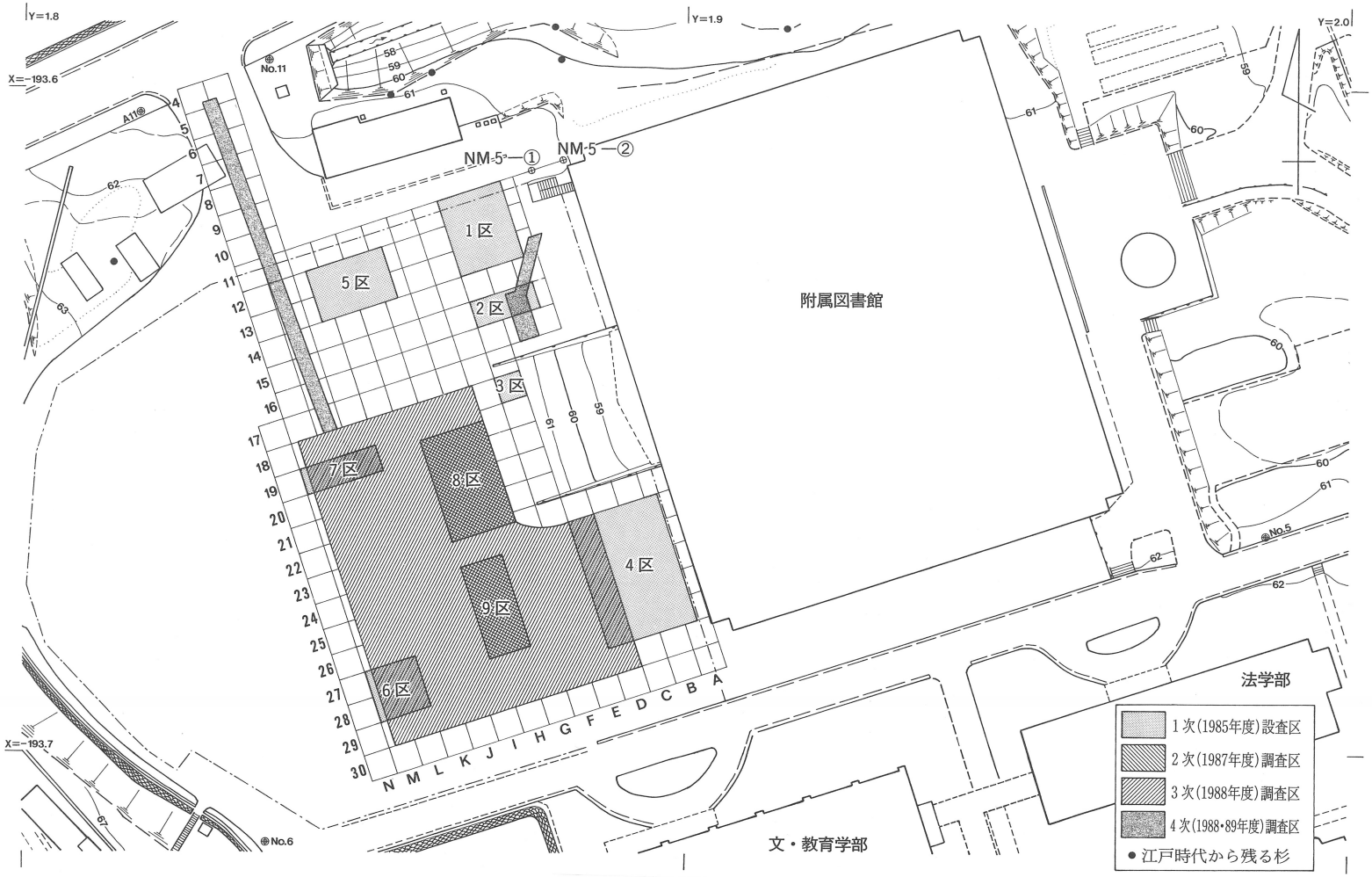


図4 二の丸跡第5次調査地点 調査区の位置

Fig. 5 Location of NM5

NM 5 i. e. Location 5 of *Ninomaru* (Secondary Citadel)

この１次調査の結果を受けて、建物は既存図書館西側の南よりの位置に建設されることになり、1987年度にこの区域の調査を実施することとなった。この1987年度の２次調査では、１次調査の所見を受けて、予定地の南側（23列以南）は部分的な調査とし、北側（22列以北）は全面的に調査を行うこととした。ただし、調査区内の西側をガス管・高圧ケーブル等の埋設管が南北に走っていたため、これらの迂回工事が済んでから西側地区を調査することとしたため、調査を実施した区域はさらに限定されたものとなってしまった。ところが、調査が進行するにしたがって、南側は破壊を受けていないことが明らかになり、また、建物位置が当初計画より西側に移動したことから、調査計画は全面的に見直さざるを得なくなってしまった。そのため12月に、工事区域全面を対象として、大学と米軍によると考えられる盛土を重機によって排除し、調査計画をたて直すこととした。この重機による盛土排除の際にも、調査区南東部分で、二の丸期の整地層を近年の整地と誤認し、排除してしまうこととなった。

重機による盛土排除の結果、既存図書館に附属するサンク・ガーデン部分を除いた建設予定地のほぼ全域で調査が必要となった。そのため1988年度に再度本調査を行うこととなり、３月14日より３次調査を開始した。３次調査は年度前半を調査期間として開始したが、二の丸中奥に関連する遺構の密集度がきわめて高かったことなどから調査は難航し、大幅な期間延長が必要となってしまった。さらに、下層からも良好に保存された遺構の検出が相次ぎ、建築費の予算執行上の期限との関連で、調査期間の確保が不可能な事態にたち至った。そのため、下層遺構に関しては、北側では柱の基礎によって破壊される部分のみを調査することとし、建物基礎の掘削深度より深く破壊を免れる部分については、調査を断念せざるを得なくなった。調査は、翌1989年２月13日に終了した。

調査の進展に伴い、二の丸中奥に相当する建物群の遺存が明らかになり、さらに下層から二の丸拡張以前の五郎八姫の西屋敷の遺構が存在することが明らかになった。いずれも、これまでの二の丸跡の調査で検出された遺構としては、保存も良好な重要な遺構であり、特に西屋敷の遺構群は、絵図もなくまったく不明であったものが初めて明らかになった点で、特に重要な発見であった。そのため、10月３日と11月26日には、宮城県教育庁文化財保護課および仙台市教育委員会文化財課の担当係員が来跡し、保存対策についての協議がもたれた。これらの検討を踏まえて、建物建設時には、門跡などの重要遺構を保存するために建物位置を北へ1.2m、西に1.0m移動させる措置をとったほか、掘削深度より深く破壊を免れる部分については、山砂を40cmの厚さで敷き、遺構面を保護することとした。

整理作業は翌年度から開始したが、それ以前の調査に関わる作業が多く残っておりそちらを優先せざるを得なかったこと、発掘調査のため整理作業がたびたび中断を余儀なくされたことから、充分な期間が確保できなかった。このため、1990年度までは水洗・注記などの基礎的な

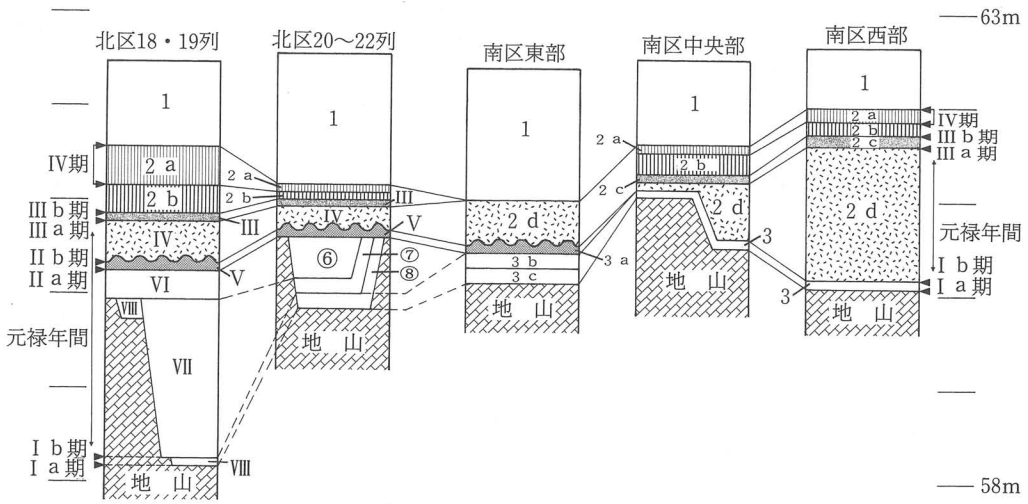
作業を終えたに留まり、本格的な整理作業は1991年度からであった。この間に、調査員の移動があり、本格的な作業を開始した時点では、調査を担当した調査員は退任した後で、調査に携わっていない者で整理作業・原稿執筆を担当しなければならなかった。しかも、調査の際に期間が限定されたこともあり、図面・写真による記録が必ずしも充分でない部分がある。暗渠や石組の溝について、平面図に掘り方が記載していないものは、この記録が残されていないからである。また、遺構が複雑であったこともあり、調査記録に混乱・不整合が多く、整理作業は難航を極めた。遺構の変遷については、整合的に理解できるように整理に努めたが、確定しきれない部分を多く残している。このような状況に加えて、遺物の保管場所が何度も移動したことも重なり、出土場所が不明となってしまったもの、混入と考えざるを得ない遺物が多く出る結果となってしまった。

今回の調査では、東北大学埋蔵文化財調査委員会が実施した調査では初めて、大量の木製品が出土した。その内の木簡については、真空凍結乾燥法による保存処理を、1991年度に東北歴史資料館において実施していただいた。そのほかの木製品については、本学理学部の工場において製作していただいた恒温水槽を利用して、ＰＥＧ含浸法による保存処理を、1992年度から開始しており、今後、順次処理を進めていく予定である。

2. 層序と時期区分

今回の調査区は、22列から23列にかけて米軍による共同溝によって南北に分断されている。おおむねこれを境にして、基本層序の様相が変化することもあり、1987年度の２次調査以来、後述する２ｂ層より下層では、別個に層名を付けている。したがって、この共同溝を境に22列以北を北区、23列以南を南区と大別して記述を進めることとする。さらに、元禄年間の二の丸拡張に伴う整地層より下層では、それ以前の西屋敷時代の地表面の様相の違いに対応して、各所で層序が異なっている。下層遺構については、北区では柱の基礎が入る部分のみを調査したこと、南区でも下層遺構にまでおよぶ撹乱が多く存在したことから、これらの層序に関しては、厳密には対比できていない。そこで、北区では18・19列と20～22列にさらに分けて記述する。南区では、Ｈ列からＫ列にかけての地山の標高の高い部分を南区中央部とし、それより東を南区東部、西を南区西部として区分して記述することとする。

調査区の北区・南区ともに、遺構の様相とそれらの分布を検討すると、大きく下層遺構群と上層遺構群、それらにはさまれる整地層とに区分することができる。この整地層には、北区のⅣ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・⑥・⑦層、南区の２ｄ・３ａ層が認められ、場所によっては多量の廃棄物を含んでいる。その内、北区18・19列のⅦ層とⅥ層からは、元禄年間の年号の書かれた木簡が出土しており、これらの層が、文献に記録のある元禄年間の二の丸拡張に伴う整地層であると考



＝北区・南区共通＝

1層　米軍・大学による盛土。

2 a 層　10YR3/2黒褐色シルト。場所により礫の多い部分や粘土質シルトの部分がある。炭化物多く含む。黄褐色シルトなどが不均質に混ざる部分があり、細分される。

2 b 層　10YR4/6にぶい黄褐色砂。10YR5/2灰黄褐色シルトが縞状に入る。

地山　7.5YR5/1緑灰色シルト質粘土。一部砂礫が混ざる部分有り。

＝北区＝

III層　10YR5/1褐灰色シルト砂。上面に鉄分沈着、炭化物多く含む。

IV層　10YR5/3にぶい黄褐色砂。2.5YR5/2暗灰黄色粘土質シルト・2.5YR5/3黄褐色シルトが不均質に混じる。小礫含む（下部に多い）。炭化物含む。

V層　7.5GY4/1暗緑灰色砂質シルト。上面に鉄分沈着。炭化物多く含む。褐灰色・黒褐色を呈する部分があり細分される。

＝北区18・19列＝

VI層　10YR7/6明黄褐色シルト・5GY6/1オリーブ灰色シルト・10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルトが不均質に混じる。上面に鉄分沈着。小礫を多く含む。

VII層　細かく細分されるが、7.5GY4/1暗緑灰色粘土質シルトを主体とし黒褐色粘土質シルトが不均質に混ざる層と、有機物層が互層になる。人頭大の礫が多く含まれる部分や、黄褐色シルトを含む部分もある。

VIII層　10GY6/1緑灰色シルト質粘土と5GY4/1暗オリーブ灰色シルト質粘土が不均質に混じる。

＝北区20～22列＝

⑥層　細かく細分される。図12参照。炭化物・礫・瓦・木片を多量に含む。

⑦層　細かく細分される。図12参照。礫・炭化物などを含む。

⑧層　細かく細分される。図12参照。部分的に植物の堆積層が入る。

＝南区＝

2 c 層　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　炭化物・小礫多く混じる。

2 d 層　大規模な盛土層。

＝南区東部＝

3 a 層　10YR2/3黒褐色シルト　炭化物・小礫少量混じる。

3 b 層　10YR3/2黒褐色シルト　2.5YR4/3オリーブ褐色土ブロックが不均質に混じる。炭化物少量含む。上面には廃棄物層が堆積。

3 c 層　7.5YR3/1黒褐色シルト　比較的均質な層。小礫少量含む。

＝南区中央部・西部＝

3層　10YR2/2黒褐色粘土質シルト　植物の腐食土層。池の底部ではグライ化している。

図5　基本層序模式図

Fig. 5 Schematic profiles of NM 5

えられる。その上に堆積する北区のⅤ層の上面では、畑跡と考えられる畝状の遺構が検出されている。南区では、同様の遺構が、東部にのみ分布する３ａ層の上面で確認されており、この３ａ層が、北区Ⅴ層に対応すると考えられる。この畑跡と考えられる遺構は、二の丸拡張以後の土地利用のあり方とは考え難いため、これも二の丸拡張以前の時期と推定した。さらに、この畑跡を覆う北区のⅣ層と南区の２ｄ層は、特に２ｄ層が大規模な整地層であるため、これらについても、元禄年間の二の丸拡張に伴うものと考える他ない。二の丸の大改造は、元禄元年（1688年）から元禄13年（1700年）にかけて行われており、このごく短い間に次々と整地がなされていったものと考えられ、これらをまとめてⅡ期とした。このⅡ期では、北区Ⅳ層上面で溝が検出されており、これをⅡａ期とした。また先述のように、北区Ⅴ層上面と南区東部３ａ層上面では畑跡が検出されており、これをⅡｂ期とした。

この元禄年間と推定されるⅡ期の整地層以前の遺構群は、二の丸拡張以前にこの場所に置かれていた西屋敷の遺構と考えられる。下層遺構群は、北区の調査が限られた範囲であったため、相互の対比は行えなくなっている。そのため場所によっては不明確な部分を残してはいるものの、大きく捉えると、全体に新古の２段階に区分することが可能である。直接的な対比ではないものの、この各区部の新古の２段階が、それぞれ対応する可能性が強いものと考え、Ⅰａ期、Ⅰｂ期と細分した。

Ⅱ期の整地層以後の遺構群は、二の丸がこの場所まで拡張された後の遺構群と考えられる。その内、北区Ⅳ層・南区２ｄ層上面と、北区Ⅲ層・南区２ｃ層上面の遺構が、遺構の配置や出土遺物などから二の丸期の遺構であると考えられ、それぞれⅢａ期とⅢｂ期と細分した。２ｂ層・２ａ層は、さらに細分されるが、出土遺物からこれらの層は、明治以降の第二師団による盛土層と考えられることから、２ｂ・２ａ層上面の遺構は、明治以降のものとして一括してⅣ期とした。遺構の掘り込み面が不明なものでも、出土遺物から明治以降と考えられるものは、この時期に含めてある。

以上の点から、調査区の各区部での層序の対応関係は、確実ではない部分を残しているが、図５に示したように整理することができる。

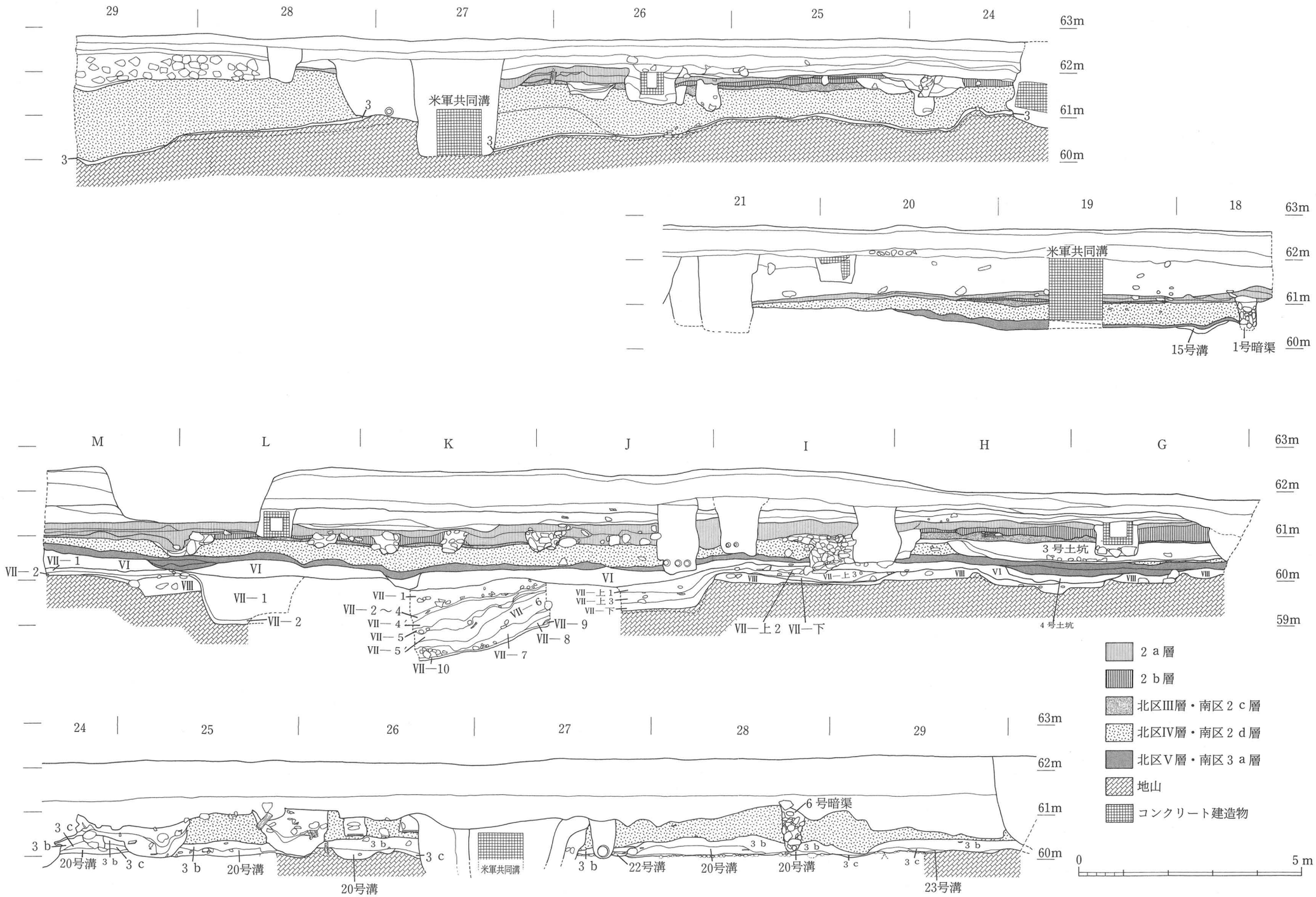


図6　調査区外周壁断面図

Fig. 6 Cross sections of excavation at NM5

3. 検出遺構

(1) Ⅰ期（西屋敷）の遺構

元禄年間の二の丸拡張以前に存在した西屋敷の時期の遺構で、Ⅰａ期とⅠｂ期に細分される。両期を通じて、北区と南区西部には池と溝などからなる庭園が展開する。南区中央部は標高が他より高く、建物跡が分布する。南区東部は、中央部より一段低くなっており、ここにも建物跡が存在する。Ⅰ期は先述のように、各区部の相互の関係が直接とらえられず、それぞれの区部での検討で、大きく２段階の変遷が捉えられたので、この新古の２段階を対応させたものである。したがって、各区部ごとに、Ⅰａ・Ⅰｂ期をまとめて記述することとする。

① 北区18・19列

建物基礎の杭で破壊される部分のみの調査である。西から基礎８区・９区・10区・11区を調査しており、10区と11区は、間をつなげて調査している。この内９区では、Ⅷ層上面までしか調査を行っていない。また、調査区北壁に沿って、明治の１号暗渠の掘り方があり、その底面を一部掘り下げることによって、基礎８～11区で調査していない部分の状況も部分的に確認している。Ⅷ層をはさんで、地山上面とⅧ層上面の遺構の、２時期に細分されたため、それぞれをⅠａ期・Ⅰｂ期に対応させた。

Ａ．Ⅰａ期（地山上面）

地山を直接掘り込んで造られた遺構である。構築にあたって、整地・盛土などは確認されていない。

【７・８号池】（図９）

Ｇ―18区からⅠ―18区にかけて検出された不整形な浅い落込みで、いずれも北側が調査区外に延び、南側は撹乱によって壊されている。９号池などとともに庭園を構成する、一連の池跡と考えられる。深さは７号池が深いところで50cm、８号池は20cm前後と浅い。８号池は南側が溝状になっており、７号池も南側の幅が狭くなっている。Ⅷ層によって埋められている。

【９号池】（図９）

Ｊ―18区からＭ―18区にかけては、Ⅰｂ期の４号池によって掘り直されて、残っていない部分も多いが、基礎９区では、Ⅶ層の下にⅧ層が分布している。そのため基礎９区では1.6m以上の深さがあったことになり、Ｊ―18区より西側が大きな池となっていたものと考えられる。基礎８区では、深さは50cm程となり、北壁断面の観察では、基礎８区の西側で浅くなって立ち上がっていくようである。20列以南とのつながりは確実ではないが、20列の池跡の深さが50cm以上あることと、その位置関係から、一連につながる同じ池跡と考えられる。部分的にⅧ層によって埋められた後、掘り直されてⅠｂ期の４号池が造られている。

これらⅠａ期の池跡を埋めるⅧ層から出土した遺物は、きわめて少ないが、1640～50年頃の

肥前産磁器皿（図46－453）が出土している。

B．Ⅰb期（Ⅷ層上面）

Ⅷ層上面から掘り込まれた遺構である。G～Ⅰ－18区では、Ⅰa期の池を埋め、池以外の部分にも20cm程の厚さでⅧ層が盛土されている。

【1～3号池】（図9、図版7）

G－18区からⅠ－18区にかけて並んでいる、不整形な浅い落込みである。いずれも北側が調査区外に延び、1号池・3号池は南側も撹乱によって壊されている。4号池などとともに庭園を構成する、一連の池跡と考えられる。深さは1号池と3号池が20cm、2号池が40cm程度と、いずれも浅い。2号池の南端から南西方向に、深さ20cm程の溝状の落込みが延びており、3号池につながる溝かと思われるが、撹乱により接続部分がほとんど残っておらず、詳しいことは不明である。わずかに埋土が堆積した後、Ⅶ層とⅥ層によって埋められている。池の埋土からは、遺物はほとんど出土していない。

【4号池】（図9、図版7）

Ⅰa期の9号池の一部がⅧ層によって埋められた後、部分的に掘り直して造られた池跡である。Ⅰ－18区の西端付近から80cmほど急に落込み、基礎9区の西端では深さ1.9mと、もっとも深くなる。基礎8区では1.1m前後の深さで、その西側で急に立ち上がる。

Ⅰb期の1～4号池跡は、Ⅶ層とⅥ層によって埋められるが、これらの層には大量の遺物が含まれている。木製品・木羽などは、今回の調査で出土したものの大多数をこれらの層で占めている。木簡もほとんどが、このⅦ層とⅥ層から出土している。木簡には元禄年間の年号を記したものも含まれている。また、陶磁器はさほど多くないのに対して、土師質土器が皿を中心に大量に含まれている。瓦も比較的多いが、20～22列の池を埋める層が、瓦を主体とし、陶磁器・土師質土器・木製品をあまり含まないのに対して対照的である。特に基礎9区では、木製品・木羽・加工木などを中心とした有機物層と、土師質土器を多量に含む層が、互層になって堆積しており、繰り返し廃棄が行われたものと推定される。土師質土器の皿は、灯明皿に転用されたものも若干含まれるが、大量にまとまって出土していること、それとともに白木の箸が大量に出土し、長さ約8寸のものが主体をしめることから、宴会で使われた道具が捨てられたものである可能性が考えられる。

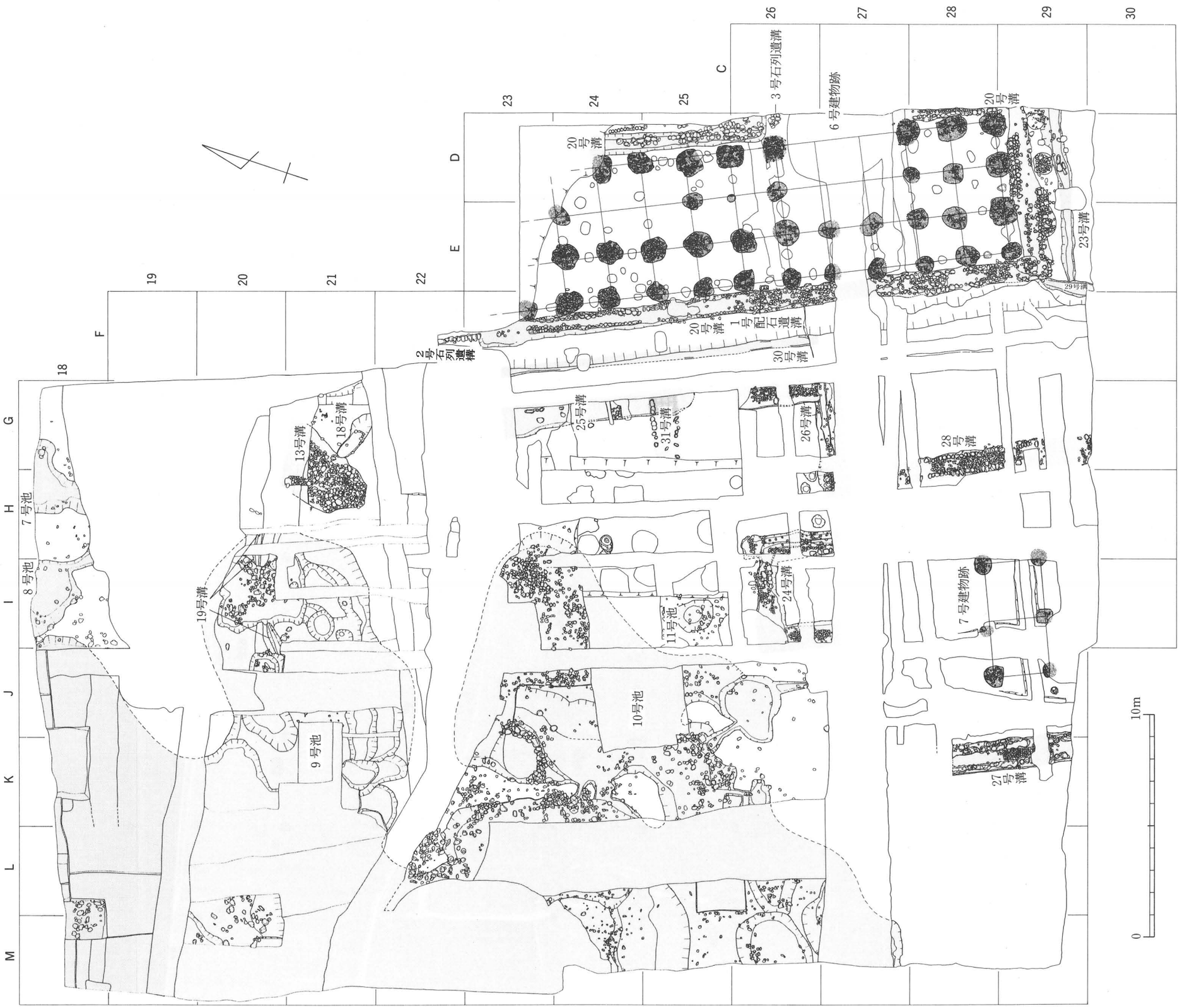


図7　Ⅰa期遺構配置図

Fig. 7 Distribution of features at NM5(phase Ⅰa)

図8　Ⅰb期遺構配置図

Fig. 8 Distribution of features at NM5(phase Ⅰb)

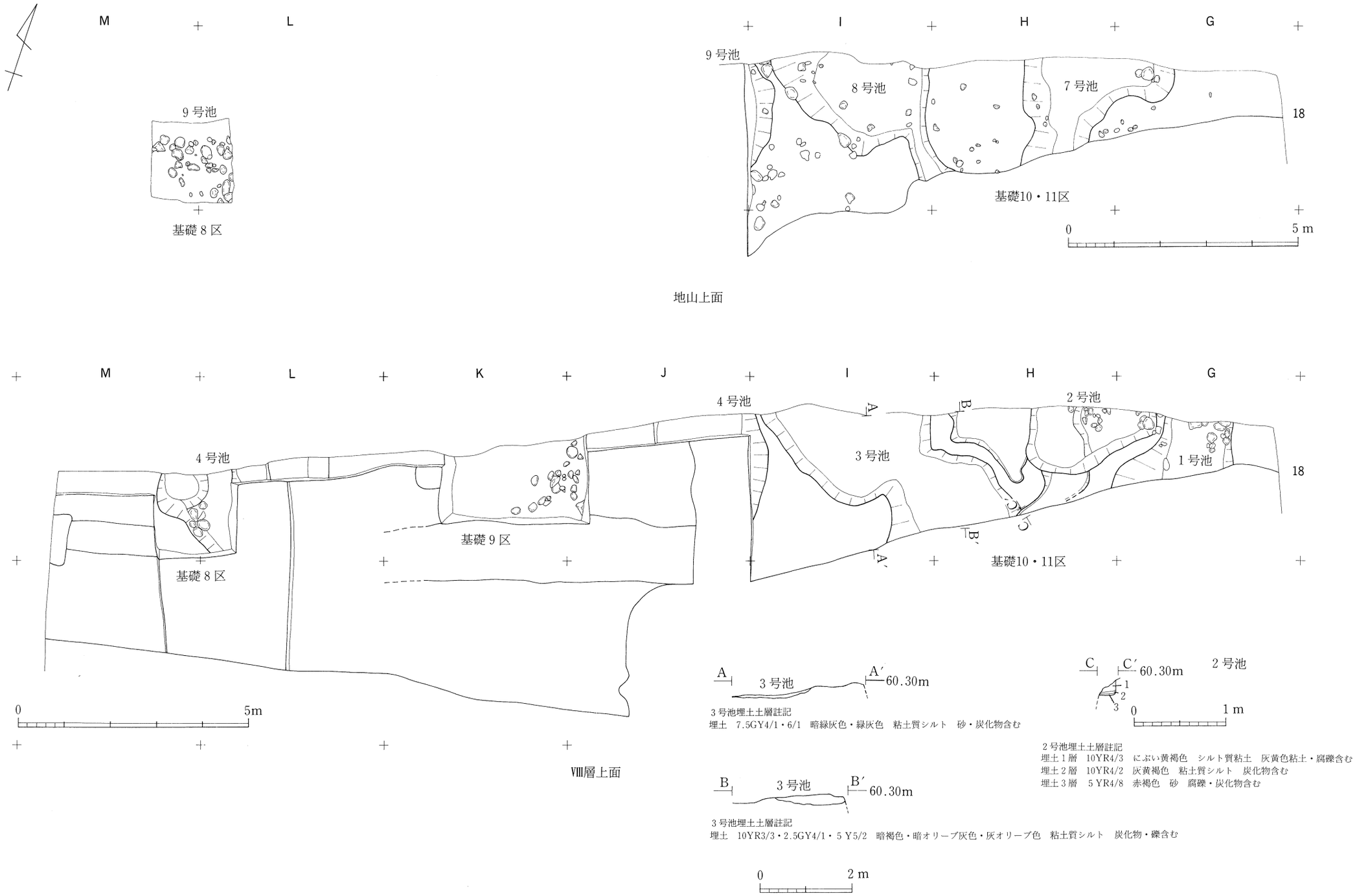


図 9　Ⅰ 期18・19列検出遺構

Fig. 9 Features of phase Ⅰ at NM5

② 北区20～23列

ここも建物基礎の杭によって破壊される部分だけの調査である。基礎１～７区を調査しているが、基礎１区と５区、２区と６区、３区と７区は、それぞれ南北につなげて調査を行っている。⑧層をはさんで、地山上面の遺構と⑧層上面の遺構の、２時期に細分されたため、それぞれをＩａ期・Ｉｂ期に対応させた。

Ａ．Ｉａ期（地山上面）

地山を直接掘り込んで造られた遺構である。構築にあたって、整地・盛土などは確認されていない。

【９号池】（図10・12、図版４）

基礎１・５区、基礎２・６区、基礎４区で検出された池跡である。撹乱や調査しなかった部分によって分断され、全体の形状を推定することは難しいが、Ｉ期の他の小規模な池跡と比べると深いため、一連につながる大きな池跡になるものと考えられる。位置関係と深さから、Ｊ～Ｍ―18区で検出された池跡につながるものと考えられる。米軍共同溝による撹乱をはさんで隣接する、南区のＫ・Ｌ―22・23区で検出された10号池の岸の形状から、この９号池と10号池が、一連の池でつながる可能性もある。底面には複雑な凹凸が見られるが、深さは基礎１・５区で1.1m、基礎２・６区では70cm程である。⑧層によって埋められている。

【13号溝】（図10、図版４）

Ｇ・Ｈ―21区で検出されたもので、溝としたが、その形態と構造から、９号池などとともに庭園を形成する池の可能性がある。その場合、この13号溝に伴う18号溝は、池に取り付く溝と考えられる。方向はＮ―21°―Ｅである。北側が12号溝によって切られているが、断面図を見ると12号溝の底面より深いため、その下に残存しているはずであるが、この部分は一部しか調査しなかったのか、記録がなく判らない。堆積土断面での観察では、一度造り直されている可能性があるが、明確にはとらえられていない。幅２～３ｍ、深さはもっとも深い部分で1.5m程で、内部は一面に河原石が敷き詰められている。遺物は少なく、陶磁器では、唐津産の大鉢１点（図54―256）と土師質土器の皿１点が出土しているだけである。瓦が若干出土しているほか、寛永通宝が出土している。

【18号溝】（図10）

Ｇ―21区で検出された小規模な溝で、南側は撹乱によって壊され、北側は13号溝に取り付いており、長さ2.4m分を検出した。方向はＷ―21°―Ｎで、13号溝に直交している。上幅70～90cm、下幅50cm、深さ30cm。遺物は出土していない。

【19号溝】（図10・12、図版４）

基礎６区の９号池の底面で確認された溝で、９号池の深い部分で分断されているが、方向か

ら一連の溝跡と考えられる。９号池の底面に設けられ、その深い部分をつなぐ形で造られたものであろう。基礎６区より東側にさらに続くものと考えられ、９号池からの排水の役割をもっていたことが想定されるが、12号溝によって壊されているのか、この部分の記録がなく不明である。上幅40～50cm、下幅20cm、深さ20cmで、わずかに埋土が堆積した後、９号池とともに⑧層によって埋められている。埋土からは遺物はほとんど出土していない。

９号池と19号溝を埋めている⑧層からは、土師質土器の皿が若干出土している他には、陶磁器はごくわずかしか出土しておらず、木製品もあまり多くない。それに対して、瓦は大量に出土している。

Ｂ．Ｉｂ期（⑧層上面）

Ｉａ期の９号池が⑧層によってある程度埋められた後の遺構である。また、12号溝については、調査時に充分確認できず、このＩｂ期の図面にあわせて記録されていたため、図11に掲載したが、IIａ期に属する可能性が高いため、遺構の記述は、IIａ期のところで行う。

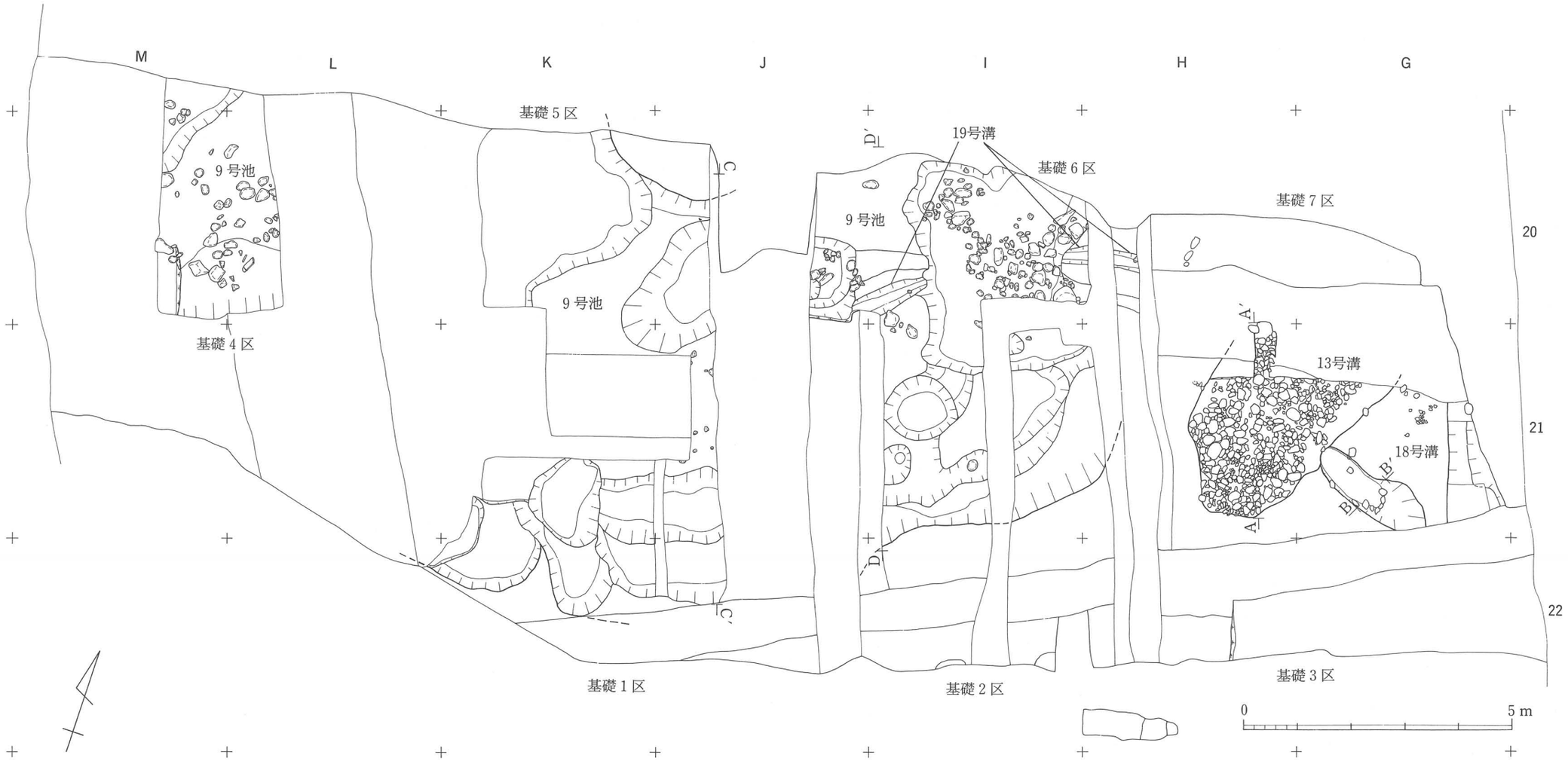
【４号池】（図11・12、図版７）

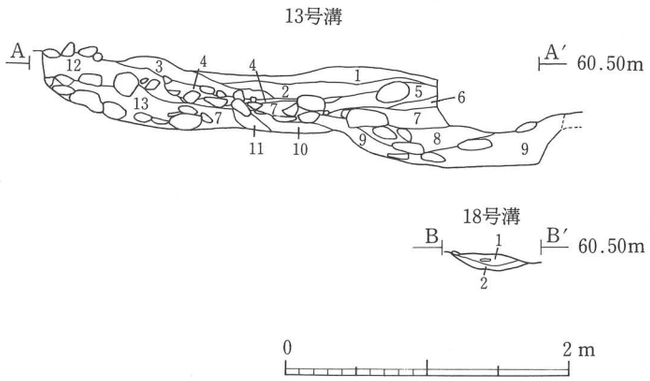
基礎１・５区、基礎２・６区、基礎４区で検出された池跡で、Ｉａ期の９号池が⑧層によってある程度埋められ浅くなったものを、部分的に直して作られている。基礎１・５区と基礎２・４区では、池の輪郭は９号池とほとんど変わらない。基礎４区では、南側から埋められたため、南岸がこの区の中程にくる。Ｉａ期と同様に、18列から一連につながる池跡であると推定される。南区の池跡は、Ｉｂ期になって位置が南にずれるため、つながっていない可能性が高い。深さは基礎１・５区で90cm、基礎２・６区で60cmで、⑦層によって埋められている。

【14号溝】（図11・12、図版４）

基礎６区の４号池の底面で検出された溝で、Ｉａ期の19号溝と同様に、基礎６区よりさらに東側に続き、４号池の排水の役割をもっていたと推定されるが、これも12号溝によって壊されているのか、この部分の記録がなく不明である。上幅40～50cm、下幅20cm、深さ25cmであるが、西側では最大幅1.5mと広くなっている。わずかに埋土が堆積した後、４号池とともに⑦層によって埋められている。

４号池と14号溝を埋めている⑦層からは、土師質土器の皿が若干出土している他は、陶磁器はごくわずかで、木製品もあまり多くない。それに対して、瓦は大量に出土しており、⑧層における遺物の出土傾向と同じである。この20～22列の⑦層と⑧層から出土した遺物の内容に対して、18・19列のVII層・VI層では、土師質土器の皿が圧倒的多数を占め、木製品も多いというように、対照的である。このことから、捨てられる物の種類によって、捨て場所がある程度決められていたと考えられる。なお、この大量に廃棄物を含む北区VII層・VI層・⑦層に対応すると考えられるのが、南区東部の３ｂ層上面に捨てられていた廃棄物層である。

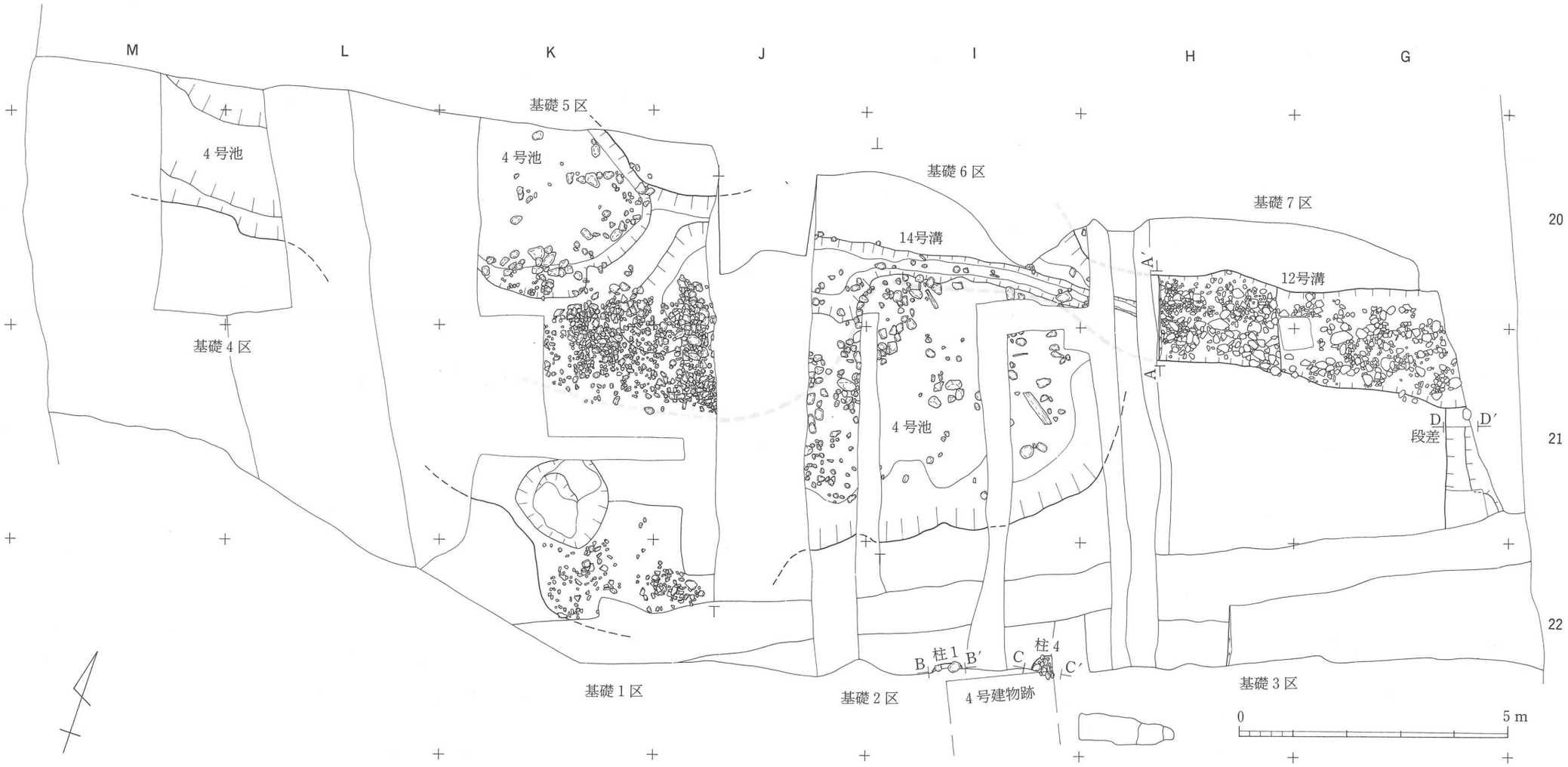


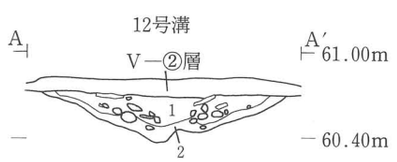


13号溝埋土土層註記
埋土1層　7.5YR6/2　灰褐色　シルト　炭化物・小礫含む
埋土2層　7.5YR7/1　明褐灰色　粘土質シルト　炭化物・小礫含む
埋土3層　10YR7.5/4　黄褐色　砂質シルト　礫含む
埋土4層　7.5YR7/1　明褐灰色　粘土質シルト
埋土5層　5Y8/2　灰白色　砂質シルト　砂・礫含む
埋土6層　10YR8/3.5　浅黄橙色　粘土質シルト
埋土7層　10BG7/1　明青灰色　粘土質シルト
埋土8層　5BG7/1　明青灰色　粘土質シルト
埋土9層　10GY7/1　明緑灰色　シルト　砂・礫含む
埋土10層　7.5GY7.5/1　明緑灰色　シルト　砂・礫含む
埋土11層　5BG7/1　明青灰色　粘土質シルト
埋土12層　7.5YR7/3.5　にぶい橙色　シルト
埋土13層　7.5GY8/1　明緑灰色　粘土質シルト　小礫含む

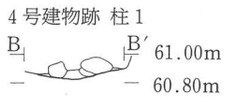
18号溝埋土土層註記
埋土1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　小礫・腐礫・炭化物含む
埋土2層　5Y6/3　オリーブ黄色　粘土質シルト　小礫・砂・明黄色粘土質シルトブロック含む

図10　Ⅰa期20～22列検出遺構
Fig. 10 Features of phase Ⅰa at NM5



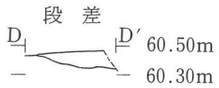


12号溝埋土土層註記
1　埋土1層　7.5YR3/3　暗褐色　シルト　炭化物　黄橙色シルトブロック含む
2　埋土2層　10YR6/3　にぶい黄橙色　粘土質シルト　小礫・腐蝶・粗砂含む



4号建物跡柱1埋土土層註記
埋土　10YR5/8　黄褐色　シルト　粘土・砂含む　地山起源

4号建物跡柱4埋土土層註記
埋土　10YR5/8　黄褐色　砂質シルト　地山起源



段差埋土土層註記
埋土　10YR5/2　灰黄褐色　粘土質シルト　細砂含む

図11　Ⅰb期20～22列検出遺構

Fig. 11 Features of phase Ⅰb at NM5

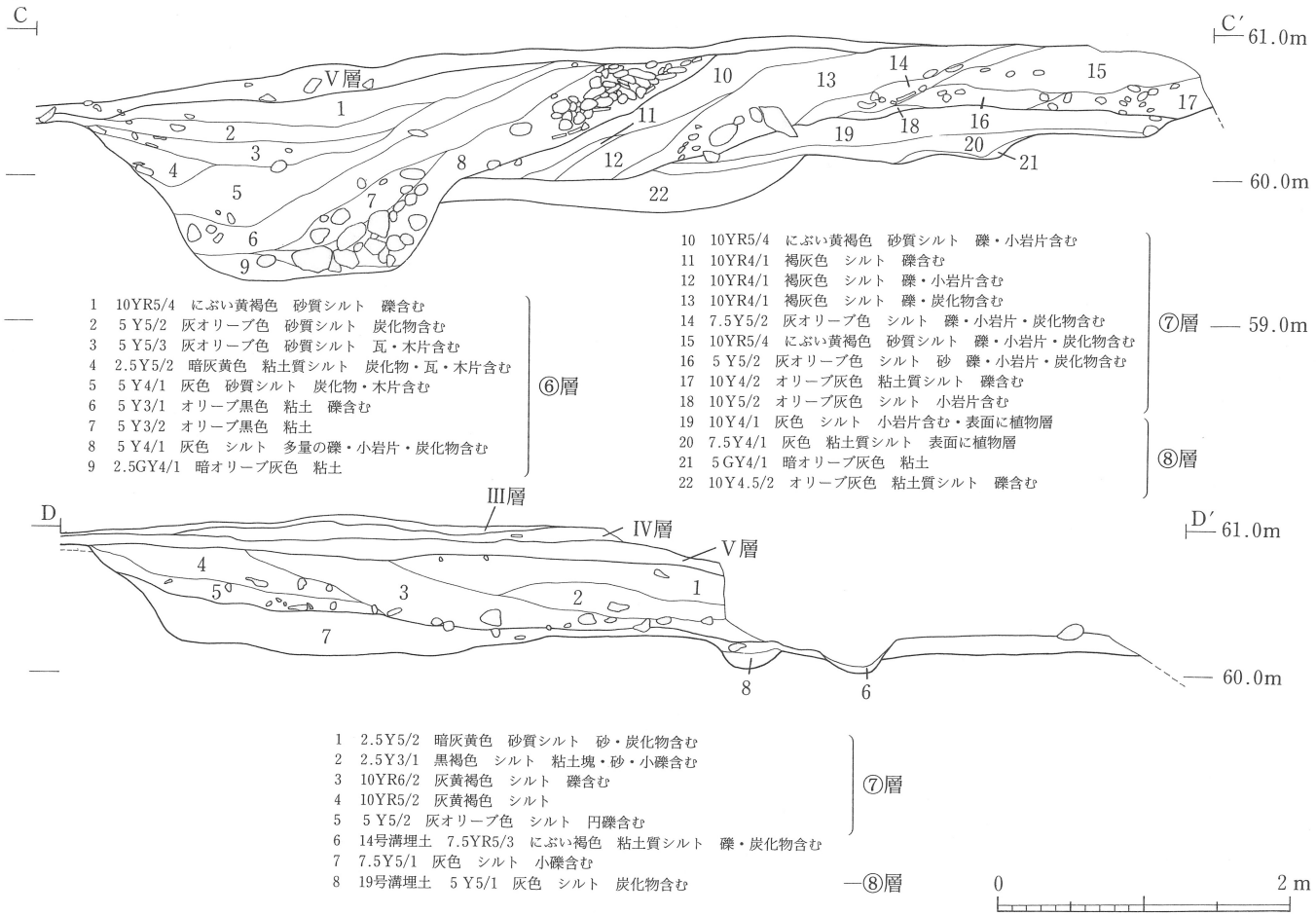


図12 Ⅰ期20～22列断面図

Fig. 12 Cross sections of phase I at NM 5

③　南区

南区の地形は、東西が低く、中央のG～Ｉ列が高い。２ｄ層は、南区のほぼ全域に広がっており、Ｉ期の遺構を覆っている。２ｄ層以下の層の分布は、Ｆ列付近の段差を境として、東西で大きく異なる。Ｆ列より東側では、地山の上が３ａ・３ｂ・３ｃの３枚の層に分かれるのに対して、西側では３層直下が地山である。３ａ層の上面はII期に畑として利用されている。東西で異なる層を直接対比することは困難であるが、それぞれの場所で遺構の変遷に関して新旧２時期が確認されたため、それぞれをＩａ期とＩｂ期に対応させた。

東部（Ｄ～Ｆ列）では、３ｃ層下の地山上面と、３ｂ層上面の遺構に細分されたため、それぞれをＩａ期・Ｉｂ期に対応させた。ただし、掘り込み面が確認できていないため、切り合い関係などから、Ｉｂ期に相当すると判断したものもある。

中央部（Ｇ～Ｉ列）では、３層をはさんで、地山上面の遺構と、３層上面の遺構の２時期に細分されたため、それぞれをＩａ期・Ｉｂ期とした。

西部（Ｊ～M列）には、Ｉａ期・Ｉｂ期を通じて、池からなる庭園が存在し、調査時には一時期の所産と理解されていたが、遺構の実測図をもとに、池の構築面、埋没状況を検討した結果、３種類のケースが確認でき(図13)、２時期の変遷を想定するに到った。Ｉａ期の池は、３層（３ａ－１層）が堆積する以前にほぼ完全に埋まりきっており、３層は水平に堆積している。Ｉｂ期の池は、３層の上に構築されている。なお、Ｉａ期に池として利用されていたところに、間層を挟まずに３層が堆積し、上面が池状に窪むケースについては、Ｉａ・Ｉｂの両時期にわ

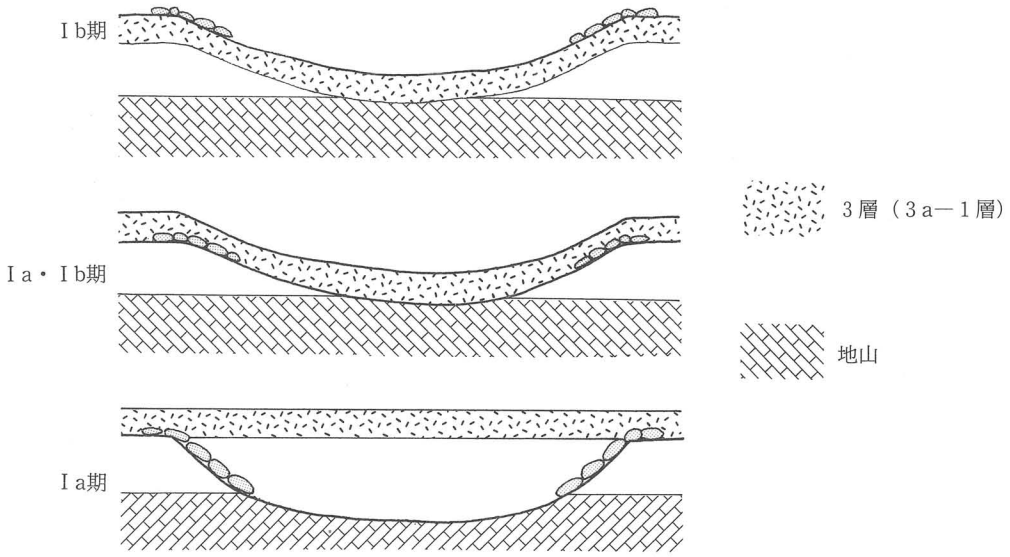


図13　南区池跡堆積状況模式図

Fig. 13 Restored illustrations about cross section of ponds(phase Ｉ)

たり、池が存在していたと理解した（10号池→６号池）。

Ａ．Ⅰａ期

中央部と、一段低い東部に雨落溝を伴う礎石建物跡が存在する。西部は庭園として利用されており、北区から続く中島を伴った大規模な池が広がっていたと推定された。

【６号建物跡】（図14、図版５）

南区東部において３ｃ層の下から検出された。明治期の井戸跡により東辺の一部が失われている。Ｎ－25°－Ｗの方向をとる南北棟で、南北11間以上、東西３間分が確認されている。

礎石は全て抜き取られており、内部に礎石を据えるための根固め石が詰まった柱穴が並ぶ。柱穴は、上幅約1.3m、底幅約0.5m、深さ約0.6mで、隅丸正方形を呈する。柱間は約200cmを測る。

20号溝は、本建物の雨落溝と推定される。この溝は、本建物跡の北辺から６間目で東に屈曲しており、この部分からさらに東側へ建物が展開する可能性がある。このことから、本遺構は、いくつかの建物が廊下でつながる分棟型建物の一部と考えられる。

本建物跡の柱穴からは、17世紀後半に比定される肥前産色絵中型丸碗（図44－414）や、瓦質土器（図66－97）が出土している。

【７号建物跡】（図16、図版４）

南区中央部の米軍共同溝南側で検出された。周辺を後世の撹乱で大きく破壊されており、建物の中央部と考えられる部分に、東西に３基並ぶ礎石跡が２列残されているだけである。27・28号溝は、本建物の東西の雨落溝と考えられ、その位置関係から、本来は東西３間の建物であったと考えられる。建物の方向は、Ｎ－24°－Ｗである。

礎石は全て抜き取られており、内部に礎石を据えるための根固め石が詰まった柱穴が並ぶ。柱穴は、隅丸方形で、柱間は約252cmと広い。北側に位置する24号溝を、本建物に伴う雨落溝の一部と仮定すると、本建物跡は、池に面する北側に１間四方の張り出しを持っていたことになる。その場合、本建物は、張り出し部分を除き、南北に４間以上の南北棟になる。

本建物は、池に面して建てられており、柱間隔が通常以上に広い点と考えあわせ、日常的な住空間というよりもむしろハレの空間であったと想定される。

【20号溝跡】（図14、図版５）

南区東部において地山面で検出された。ピット387と切り合っているが、両者の新旧関係は捉えられていない。北端は削平されている。

本溝は石組溝であり、上幅約1.0m、底幅約0.6m、深さ約0.5mの掘り方の中に、幅が40cm程度になるように、径20から30cm程度の自然石を組んでいる。溝の深さは20cm前後で、底面には比較的小さな石が敷かれている。

溝は、６号建物跡の周囲を取り囲むように配置されており、構造の点でも、６号建物の雨落溝であった可能性が高い。本溝の南西隅に接続する29号溝は、20号溝に溜る水の排水を目的とした施設と考えられる。なお、20号溝の南辺は、石組の一部に重複が認められる。

溝の埋土からは、肥前磁器の壺蓋（図49―493）、京・信楽系の灰釉丸碗（図52―227）、銅緑釉を施した肥前産の陶器小皿（図53―243・244）が出土している。これらの遺物が、17世紀後半から18世紀前葉に位置づけられることから、本溝は、それ以前の段階に機能していたと考えられる。なお、本溝と切り合いのあるピット387からは、黒漆塗りの櫛(図94―069)、柄に蕨手形の列点文をもつ銅匙（図106―76)、筆の部品と考えられる管状金属製品（図106―77・78)、ヘラ状金属製品（図106―79）が出土している（図版５)。金属製品はいずれも銅製で、全てに鍍金が認められる。匙やヘラ状金属製品は故意に曲げられた状態で出土しており、何かの機会に化粧道具の一部を一括して廃棄された可能性が高い。

【23号溝跡】(図14)

調査区の南東隅で検出された素掘りの東西溝である。溝の方向は、６号建物の雨落溝である20号溝の南辺に平行する。幅は、上面で約0.6m、底面では20～30cmである。本溝は、西端で29号溝に接続しており、６号建物に伴う一連の排水施設と考えることができる。

【24号溝跡】(図15、図版６)

南区中央部にあり、南側を米軍の共同溝により、北西部をＩｂ期の５号池により破壊されている。溝は南に向かって開く「コ」字形を呈している。東端部が26号溝とつながり、一連の溝になる可能性が高い。

本溝は石組溝であり、上幅1.1～1.2m、底幅0.9～1.0mの掘り方の中に、幅が0.4m程度になるように、径20から30cm程度の自然石を組んでいる。溝の底面には比較的小さな石が敷かれている。溝の構造は20号溝に類似しており、本溝も雨落溝と考えられる。溝の北側には11号池が隣接していることから、本溝は、溝の南側にある７号建物の雨落溝であった可能性が高い。

【25号溝跡】(図15)

南区の中央部東側に位置する南北溝である。北端および東側を削平されており、東側の立ち上がりが捉えられていない。本来は石組の雨落溝であったと考えられるが、底面に敷かれた礫の一部が残存するだけで、石組はほとんど失われている。

南端に緩やかな立ち上がりが確認されているが、南に位置する26号溝の東辺の延長線上にあり、一連の雨落溝となる可能性もある。また、本溝に切られる形で、直行する31号溝が確認されている。建物は溝の西側に存在していたと考えられ、10号池の位置からみて、南北棟の可能性が高い。

【26号溝跡】(図15、図版６)

南区中央部の南東寄りに位置するＬ字形の石組溝である。東、南の両辺とも、片側半分を失っており、溝の幅は確認できない。東辺は北側で25号溝と、南辺は西側で24号溝に接続する可能性がある。本溝は、石組の側石を失っているが、本来は石組を伴った雨落溝であったと考えられる。溝の北西側にあるピットが組み合い、この部分に掘立柱建物が存在していたと推定される。

【27号溝跡】（図16、図版６）

南区中央部の西寄りの地点で検出された。溝の南端は調査区の外壁にかかる。撹乱のため、北への延びは確認できない。側石の多くは既に抜かれており、側石の痕跡と底面の石敷きが残されていた。溝の掘り方は、上面で幅約1.4m、底面では幅約1.3mを測る。石組の幅は、約0.5mある。方向は、N－25°－Wである。本溝は、その構造と位置から、７号建物西側の雨落溝と考えられる。

【28号溝跡】（図16、図版６）

南区中央部の東寄りの地点で検出された。溝の南端は調査区の外壁にかかる。撹乱のため、北への延びは確認できない。石組溝であり、側石、底面の敷石ともに比較的良好な状態で原位置を保っていた。調査時に溝の掘り方が確認されていないため、その規模は不明である。石組の側石と側石との間は、約0.5mある。溝の方向はN－25°－Wであり、27号溝に平行する。本溝は、その構造と位置から、７号建物東側の雨落溝と考えられる。

【29号溝跡】（図14）

南区東部において、調査区の南壁にかかる形で検出された。素掘りの南北溝で、上幅約0.7m、底幅約0.5mである。北端は６号建物の雨落溝である20号溝につながっており、溝の途中には、23号溝が接続している。本溝は、20号溝や23号溝に溜る雨水を、より南へ流すための排水施設と考えられる。

【30号溝跡】（図14）

南区の中央部と東部を区切る段差の西側際にあり、段差に平行する。上幅0.5～0.6m、底幅0.3～0.4m、深さ30㎝程度の素掘りの溝で、残存状況は良くない。

溝の東側、一段低い部分には６号建物跡が存在しており、本溝は６号建物の南北軸に平行する。本溝は、屋敷地内部の空間利用に関わる、何らかの区画溝と考えられる。

【31号溝跡】（図15）

南区中央部東寄りの地点で検出された。東西方向に側石の痕跡が２列確認されており、本来は石組の雨落溝であったと考えられる。側石の痕跡列の間隔は、約0.8mある。調査時に、25号溝に切られているとの所見が得られており、この所見に従えば、Ｉａ期が細分される可能性もある。しかし、31号溝は、25号溝の南端付近に近く、両者が直行することから、これらを一連

の雨落溝と捉え、両者の切り合いは単に作業工程上の手順を示すに過ぎないと考えることもできよう。

【２号石列遺構】（図14）

南区東部の北端で検出された。人頭大の自然石が南北方向に並ぶ。周辺が削平されており、これが本来的な姿なのかどうか判らない。本石列遺構は、20号溝西辺の西側側石列の延長線上にある。20号溝の西辺自体は、２号石列遺構の南側で東に折れており、本石列には直接つながらない。

【３号石列遺構】（図14）

南区東部の東端で検出された。人頭大の自然石を積み重ねている。調査区の東壁にかかっており、遺構の全体像が捉えられていない。位置的には、６号建物とその東に存在したであろう建物との接続部にあたる。

【１号配石遺構】（図14、図版５）

南区東部において、６号建物跡とその雨落溝である20号溝との間の狭い空間に位置しており、両者と深く結び付いた施設であったと考えられる。残存状況は良好である。握り拳大の河原石が、長辺約40cm、短辺約20cmの南北に長い長方形に組まれている。河原石は偏平なものが選ばれ、平らな面が側面にくるように地面に突き刺している。本遺構には、17世紀後半に位置づけられる染付小皿（図46―463）や、内外面黒地の漆碗（図102―058）が伴う。

【10号池】（図15・16、図版４）

南区西部北側から中央部西寄りの部分に広がる。北西部で北区の９号池とつながっていると考えられる。９号池との間には、東側から半島状に陸部分がのび、途中から南に向かって張り出すと考えられる。南にのびた洲浜の突端には、飛島状の高まりが認められる。池は地山の一部を削って造られており、その際にでた土を用いて半島状の高まりが造成されている。池の東岸や洲浜周辺には河原石が多く配置されており、この部分に石浜が造られていたと考えられる。さらに半島東の淵の部分には、半島に接続する形で半円状に石が積まれている。

埋土の２層中から、煙管の雁首が１点出土している（図105―72）。

【11号池】（図15）

南区中央部の西よりの地点で検出された、長軸1.7m、短軸1.3mの小さな窪みである。池は３ｃ層を掘り込んでおり、３ａ―１層に覆われている。

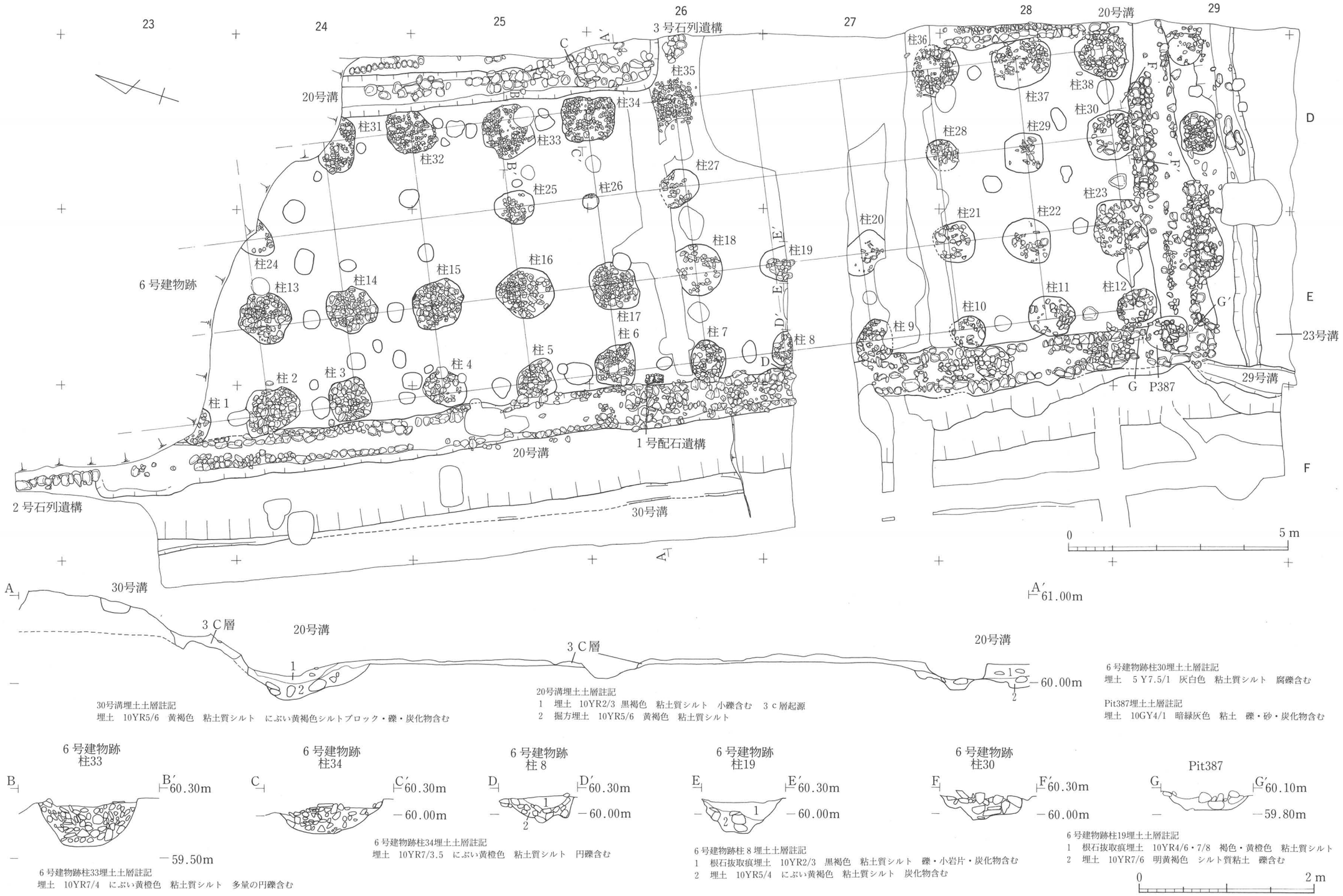
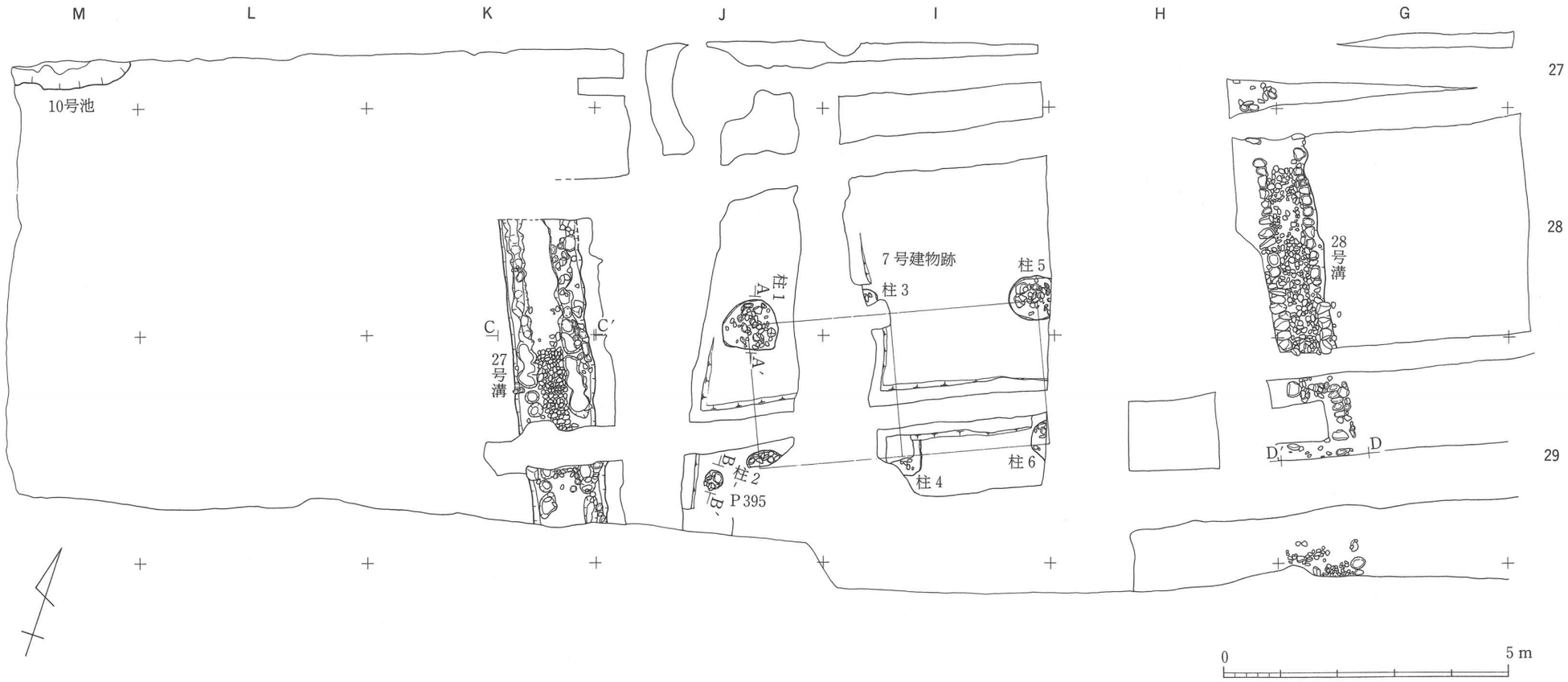


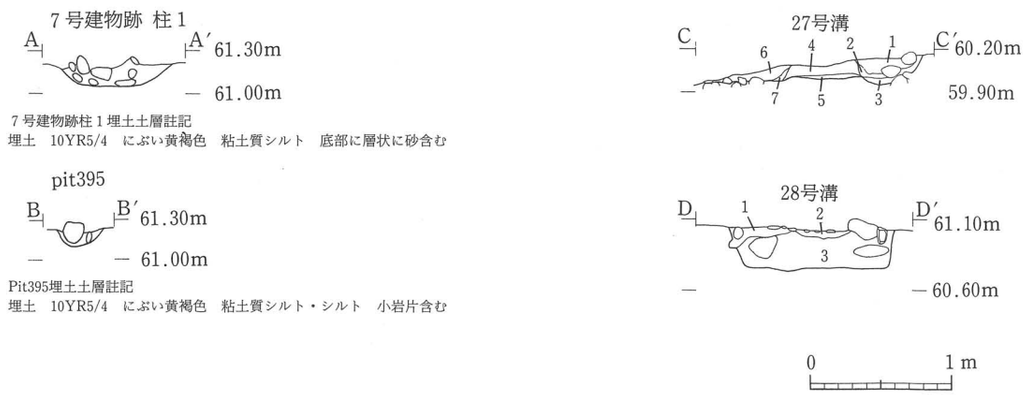
図14　南区Ⅰａ期検出遺構(1)

Fig. 14 Features of phase Ⅰa at NM5(1)

図15　南区Ⅰａ期検出遺構(2)

Fig. 15 Features of phase Ⅰa at NM5(2)





7号建物跡柱1埋土土層註記
埋土　10YR5/4　にぶい黄褐色　粘土質シルト　底部に層状に砂含む

Pit395埋土土層註記
埋土　10YR5/4　にぶい黄褐色　粘土質シルト・シルト　小岩片含む

27号溝埋土土層註記
1　敷石抜取痕埋土1層　10YR5/6・5/3　黄褐色・にぶい黄褐色　シルト　礫・砂含む
2　敷石抜取痕埋土2層　10YR3/4　暗褐色　シルト　砂含む
3　敷石抜取痕埋土3層　2.5Y5/3　黄褐色　シルト
4　埋土1層　10YR7/6　明黄褐色　砂　小礫含む
5　埋土2層　10YR7/6・6/6　明黄褐色　砂・シルト互層　シルト層に炭化物含む
6　敷石抜取痕埋土1層　10YR3/4　暗褐色　シルト　礫・白色礫・砂含む
7　敷石抜取痕埋土2層　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質シルト

28号溝埋土土層註記
埋土1層　10YR2/3　黒褐色　シルト　小礫・腐礫含む
埋土2層　10YR4/4　褐色　シルト　小礫含む
埋土3層　10YR5/6　黄褐色　粘土質シルト　小礫・腐礫含む

図16　南区Ⅰa期検出遺構(3)
Fig. 16 Features of phase Ⅰa at NM5(3)

B．Ⅰb期

基本的な土地利用は、Ⅰa期を踏襲する。西部の池は、やや南西にずれる。池の東岸には石浜を築き、井戸を配置する。中央部では、Ⅰa期に存在した西側の池の一部を埋め立て、南北に長い礎石立ちの建物が造られる。この建物の南側は塀によって区画されている。塀跡の南側では、東西方向の石列遺構が検出されているのみで、この部分の利用状況はよく判らない。東部と中央部の間には引続き段差が存在しており、この段差に沿った形で塀が存在していたと考えられる。東部にはⅠa期と同様、ほぼ同じ位置で南北に長い建物が存在している。

なお、南区中央部の南東隅で南北方向の平行する小溝が4条検出された(1～4号小溝)。これらの小溝は調査時の所見から本期に含めたが、位置的にも、方向の点でもⅡb期の畝状遺構の一部と理解したほうがよいと考えられる。

【4号建物跡】(図11・18、図版8)

南区中央部と北区の南端で、礎石を据えた痕跡が8箇所検出された。いずれも3層を掘り込んでおり、直径1.2m程度の掘り方の内部には根固め石が残されていた。並びから、梁間2間以上、桁行5間以上の南北棟であったと推定される。建物の方向は、N－24°－Wである。本建物は、桁間約273cm、梁間約200cmであり、梁行と桁行で柱間を変えている。北側は、4号池の位置からみて、柱1と柱4を結ぶ柱筋が本建物の北辺と考えられる。また、5号池の位置からみて、柱3と柱7を結ぶ柱筋に建物の西辺がくる可能性が高い。

【5号建物跡】(図15)

南区東部で検出された掘立柱建物跡である。21号溝、22号溝と切り合っているが、新旧関係は捉えられていない。柱穴は、径0.6～0.8m程度の不整円形である。本建物を覆っている3a層の上面は畑として利用されており、畑の耕作が深く及んだ結果、多くの柱穴が失われてしまっている。本建物は、Ⅰa期の6号建物の位置をほぼ踏襲しており、桁行9間以上、梁間2間以上の南北棟であったと考えられる。柱間は、約200cm、方向は、N－25°－Wである。

【16号柱列】(図18)

南区の中央部南端にあり、米軍の共同溝により大きく破壊されている。東西方向の礎石柱列で、4間分が残されていた。礎石には人頭大の河原石が選ばれ、径0.5m程度の不整円形の掘り方の中に据えている。柱間は、約94cmと狭い。方向はN－25°－Wである。本柱列は柱間が狭く、礎石も小さいことから、建物というよりは塀のような施設であった可能性が高い。

【17号柱列】(図17、図版8)

南区中央部の南東隅で検出された。南北方向の布掘のなかに柱穴が6基並ぶ。南は調査区南壁にかかっており、北は米軍の共同溝で破壊されているため、両端とも確認できていない。溝は上幅約0.5m、底幅約0.4m、深さ約1.0mであり、埋土の最下層を埋め戻した後、柱を据えて

いる。方向は、N—25°—Wである。中央部と東部の境にある段差に沿って造られており、区画のための塀状の施設と考えられる。

【21号溝跡】(図17)

南区東部で検出された、N—25°—W方向の素掘りの溝である。5号建物跡と切り合っているが、新旧関係は捉えられていない。溝は、上幅約0.7m、底幅約0.3mを測る。

本溝を切っているピット354の埋土からは、環状石製品(図107—S3)、寛永通寶(図104—30)、雁首(図105—73)が出土している。

【22号溝跡】(図17、図版8)

南区東部で検出された、21号溝に平行する東西溝である。5号建物跡と切り合っているが、新旧関係は捉えられていない。東側には一部、溝の側面に沿って石組が残っており、本来、石組溝であった可能性がある。西側では、Ⅰa期の20号溝が埋まりきらずに窪みとして残っており、本溝は、その窪みにつながる。溝は、上幅約0.7m、底幅約0.3mを測る。

【5号池】(図18、図版8)

南区中央部において、4号建物跡の南西で検出された楕円状の窪地である。西側は高圧管の埋設などで破壊されている。窪地は、長軸1.7m、端軸1.2m、深さ50cm以上を測る。底面には人頭大以下の石が敷かれ、石の隙間には3a—1層起源の土が入る。

【6号池】(図18・19、図版9)

南区の南西部の広い範囲に及ぶ。池は、所々に深い部分を造り、その間を水路状の溝でつなぐ形態をとる。池の南東部には半島状に張り出した岸を有し、この部分を中心に大量の石が敷かれている。半島部分には2号井戸が設けられている。

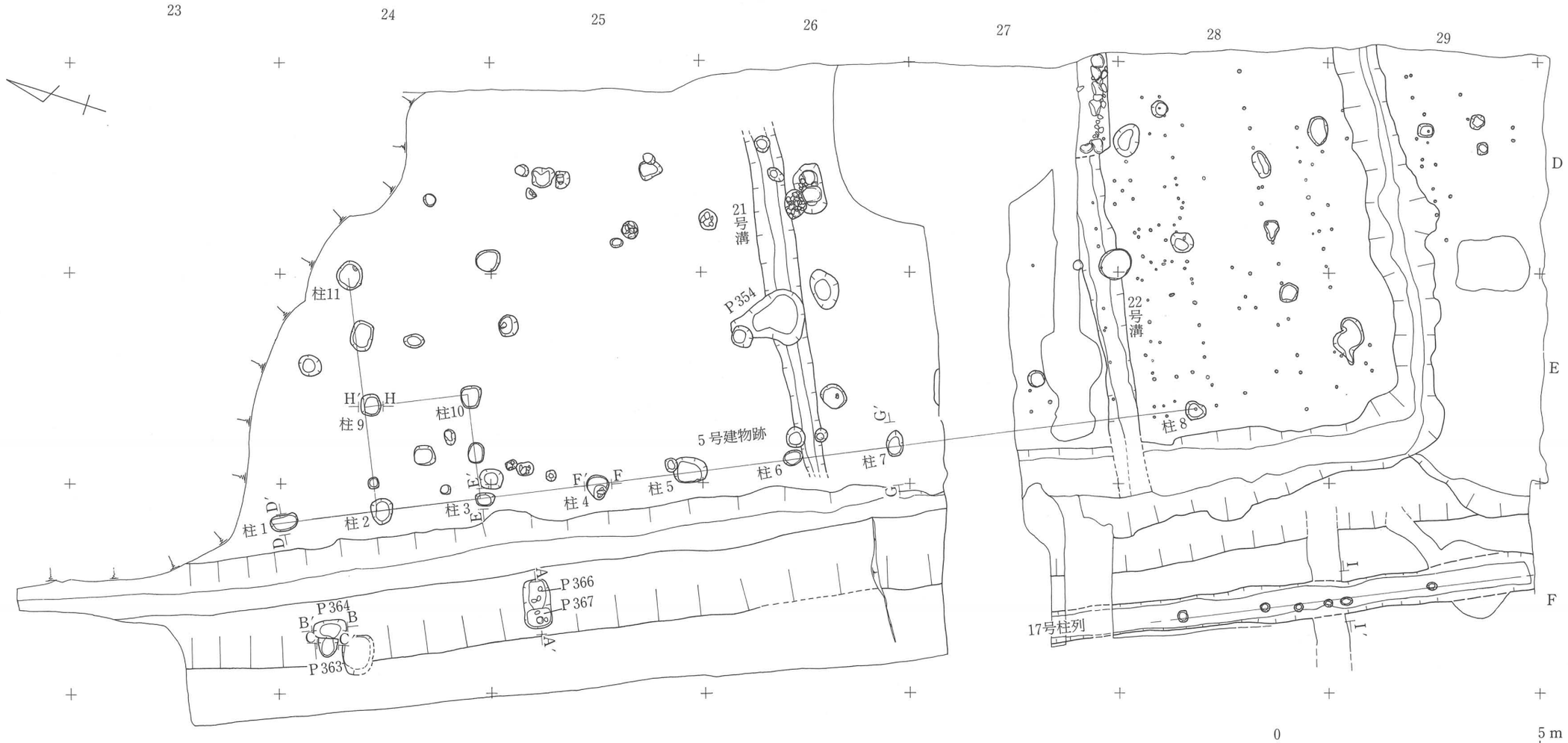
池の底面から内外面に朱で鳥文を描いた黒地漆碗(図102—68)が、埋土からは火打金(図106—89)が、それぞれ出土している。

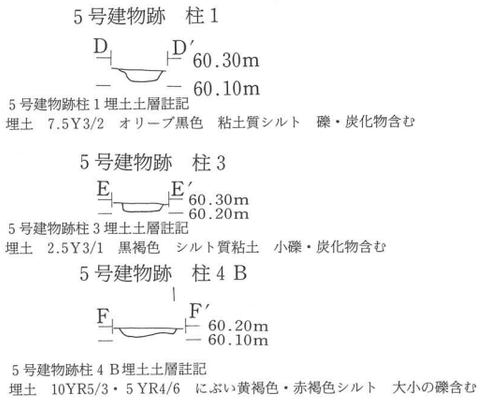
【2号井戸】(図19、図版9)

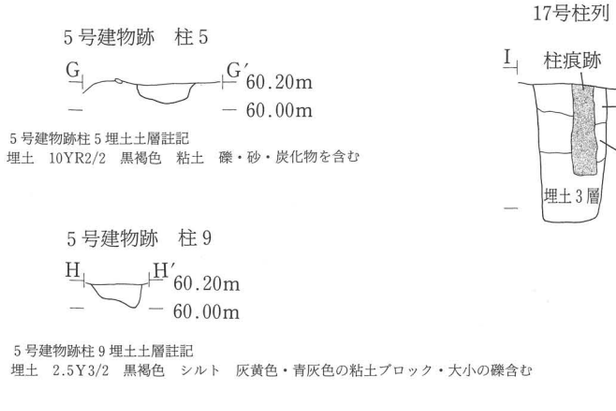
南区南西部の6号池に面する岸に位置している。井戸の周辺には石が敷かれている。井戸は径約1.3mで、深さは2.2mを超す。調査時には、井戸の底面を確認できていない。

【1号石列遺構】(図19)

南区中央部の南端に近い地点に位置する。北側を破壊されており、南北に幅0.5m、東西に長さ約4.5mにわたって、溝状の掘り方の中に人頭大の河原石を3段積んでいる。







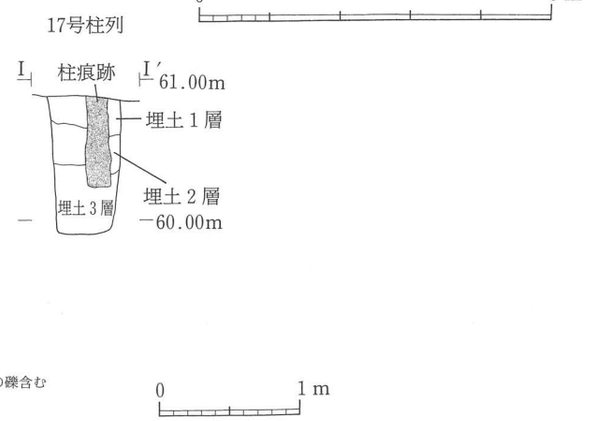
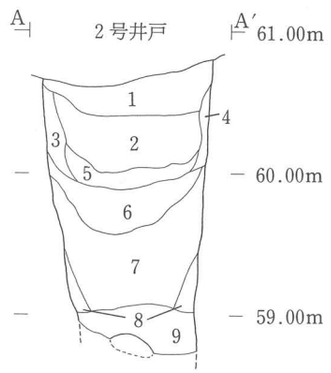


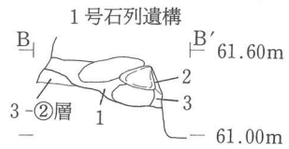
図17　南区Ⅰb期検出遺構(1)

Fig. 17 Features of phase Ⅰb at NM5(1)

図18　南区Ⅰb期検出遺構(2)

Fig. 18 Features of phase Ⅰb at NM5(2)





1号石列遺構埋土土層註記
1　堀方埋土　10YR4/1・2.5GY4/1　褐灰色・暗オリーブ灰色　シルト・粘土質シルト　炭化物小礫含む
2　埋土1層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　炭化物含む
3　埋土2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　砂・小礫・炭化物含む

2号井戸埋土土層註記
埋土1層　10YR5/6　黄褐色　砂質シルト　黒褐色シルトブロック含む
埋土2層　5G6/1　緑灰色　シルト　礫含む
埋土3層　5YR3/1　黒褐色　シルト質粘土
埋土4層　5YR6/1　褐灰色　シルト質粘土
埋土5層　10YR3/1　黒褐色　シルト
埋土6層　5G6/1・7.5YR3/1　緑灰色・黒褐色　砂質シルト・シルト質粘土　小礫含む
埋土7層　5G6/1　緑灰色　礫・木片含む
埋土8層　7.5YR2/1　黒色　シルト質粘土　拳大の礫・木片含む
埋土9層　10G6/1・10YR3/1　緑灰色・黒褐色　砂質シルト・砂質シルト　小礫・拳大の礫木片・黄褐色砂質シルトブロック含む

0　2 m

図19　南区Ⅰb期検出遺構(3)
Fig. 19 Features of phase Ⅰb at NM5(3)

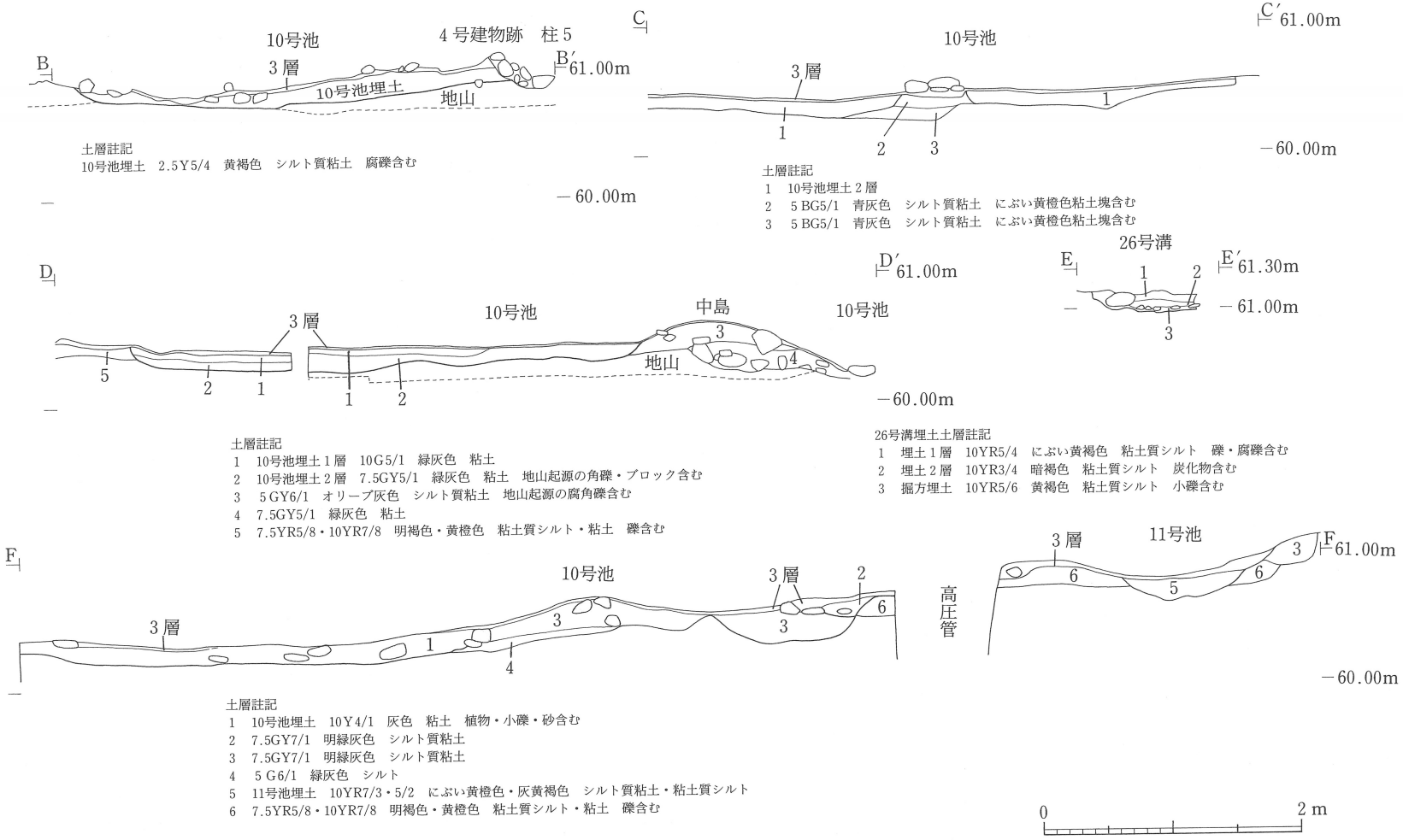


図20　南区Ⅰ期断面図

Fig. 20 Cross sections of phase Ⅰ

⑵　II期（西屋敷廃絶後・二の丸以前）の遺構

II期は、元禄年間の二の丸拡張に伴う整地が行われた時期と考えられるものである。２時期の遺構面が確認され、IIａ期、IIｂ期と細分される。

①　IIａ期（北区VI層上面）

北区は、この段階で、池などはほとんど埋め立てられ、平坦な面が形成され、若干の遺構が確認される。この時期の遺構としては、溝跡１条、土坑１基、ピット１基があるほか、先述の12号溝が該当する可能性が高い。この内、K―18区で検出されたピット317からは、白木の箸が50本ほどまとまって出土しており、廃棄坑の可能性がある。南区には遺構は確認できず、南区の西部では、池がそのままの状態で残されている。

【12号溝】（図11、図版７）

G―20・21区からK―20・21区にかけて検出されたもので、調査時に12号溝として認識していたのは基礎７区の部分のみである。基礎５区・６区の断面図の検討によって、12号溝の続きが、より西側に延び、基礎５区では、深い落込みになっていることが判明した。この基礎５区・６区では、調査時にこの12号溝の遺構は確認できておらず、基礎５区において、溝の南側の壁面近くに敷かれた礫のみが図化されていた。図11において、基礎７区の12号溝から西に破線で示したのが、断面図と礫の分布から推定した遺構のラインである。東側が撹乱で破壊され、西側は推定にとどまるが、17.5m分を確認している。この12号溝は、基礎５区・６区では調査時に認識できず、Ｉｂ期の４号池と同じ図面に記録されている。そのため、図面はＩｂ期の図面に載せざるを得なかったが、次の理由からIIａ期に属する可能性が高いと考えられる。

12号溝は、Ｉｂ期の４号池を⑦層で埋め、一部を掘り直して造られていることから、４号池より新しい遺構である。東側が撹乱で破壊されているが、東端でわずかに段差にかかっている。この段差と12号溝の切りあい関係は、確実な記録が残されていないが、12号溝が段差の埋土を切っている可能性が強い。この段差は、南区の中央部と東部を区切る段差につながるものと考えられ、これがある程度埋められた後に12号溝が造られた可能性が高い。また、17世紀末葉以降のものと考えられる、肥前産の蛇ノ目釉ハギの粗製の磁器皿（図48―483）が出土している。これらの点から、12号溝はＩｂ期より後の時期のものであることは確実であり、18・19列で確認されているIIａ期との間にさらにもう１時期を想定するよりも、18・19列で確認されている15号溝と同様に、Ｉｂ期の庭園の池が埋められていく過程で、排水の目的で造られた溝と考えた方が理解しやすいことから、IIａ期に属する可能性が高いと判断した。

基礎７区では、上幅1.6m～2.0m、下幅40cm前後、深さ30cm程である。基礎５区の東端では、上幅4.2m、下幅1.3m、深さ1.6mである。基礎７区での方向は、E―12°―Nである。

埋土は２層に分けられるが、２層中には河原石が多量に含まれており、溝中に敷かれている

図21　II a 期遺構配置図

Fig. 21 Distribution of features at NM5(phase IIa)

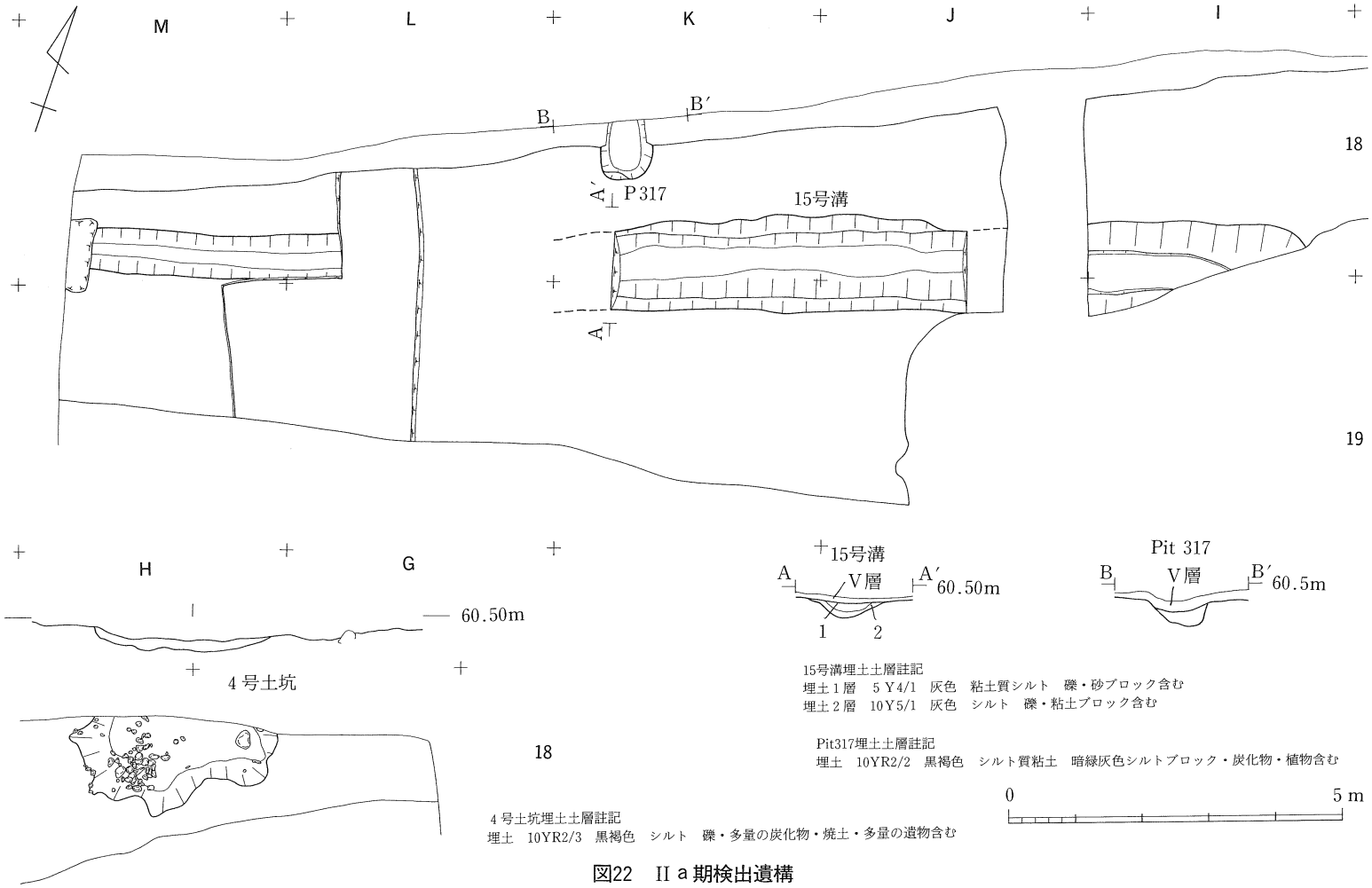


図22　II a 期検出遺構

Fig. 22 Features of phase IIa at NM5

ような状態を呈している。基礎５区の落込みの部分でも、南側の壁沿いの埋土最下層には河原石が多量に含まれ、壁の斜面に積み重ねるように敷かれており、一連の敷石の可能性がある。基礎７区の部分の埋土（12号溝埋土）からは、陶磁器・瓦が少量出土している。基礎５区・６区の部分の埋土は⑥層が相当し、瓦が大量に出土しており、木製品も比較的多いが、陶磁器は含まれず、土器も少ない。

【15号溝】（図22、図版10）

Ｉ―18・19区からＭ―18区にかけて検出された、東西方向の素掘の溝である。東側は撹乱で破壊されており、また建物基礎によって破壊されない部分は掘り上げていないが、18m分を検出した。方向はＥ―16°―Ｎで、東端付近で南に曲がるかと思われるが、撹乱のため確実ではない。残りのよい部分で、上幅1.2～1.5m、下幅40～50cm、深さ20～30cmである。底面のレベルは、Ｊ・Ｋ列の部分が最も低くなっているが、全体的には東側がわずかに低くなっている。埋土からは、陶磁器・瓦が出土しているほか、加工木・木羽が比較的多く出土している。

【４号土坑】（図22、図版10）

Ｇ・Ｈ―18区で検出されたもので、北側は調査区外にのびる。東西3.0m、南北1.6m以上、深さ30cm前後の不整形な土坑である。埋土は１層で、礫・炭化物・焼土を多量に含み、人為的に埋められたものと考えられる。遺物も土師質土器の皿など、多量に含まれており、まとめて廃棄されたものと考えられる。

③　IIｂ期（北区Ｖ層上面・南区３ａ層上面）

【畑跡】（図24・25・26、図版10）

北区ではＶ層がほぼ全面に分布し、そのほとんどの部分で、畝状の遺構が確認された。南区では、東部のみに３ａ層が分布し、その上面で畝状の遺構が確認されている。南区の中央部では、３ａ層、あるいはそれに対比できる層は分布していないが、Ｉｂ期の面において、Ｇ―26区でほぼ平行する１～４号小溝状遺構が検出されており、耕作土は残存していないが、畑跡の痕跡の可能性がある。南区の西部では、IIａ期と同様に、Ｉ期の池跡が残っている。

北区の内、Ｇ～Ｊ列では畝状遺構は南北方向で、やや不整形な部分もあるが、50～60cm間隔で並んでいる。Ｋ～Ｍ列では東西方向に畝状遺構が並んでおり、その間隔は80～100cmとやや広くなっている。畝状遺構の高さは、残りの良い部分でも５cm程度である。撹乱や調査しなかった部分で分断され、遺存状況も良くない部分も多く、畑跡の一区画全体の大きさが判明する部分はない。Ｋ―20・21区に畝状遺構と直交する南北方向の溝が存在し、これに相対する調査区の西端にも南北方向の溝があり、畑を区画する溝と考えられる。この溝が畑一区画の東西の端であるとするならば、東西の幅は、溝の中心で測って8.5mである。

南区東部では、Ｉａ期の６号建物跡、Ｉｂ期の５号建物跡が存在した高まりの部分に畝状の

図23　II b 期遺構配置図

Fig. 23 Distribution of features at NM5(phase IIb)

図24　II b 期検出遺構(1)

Fig. 24 Features of phase IIb at NM5(1)

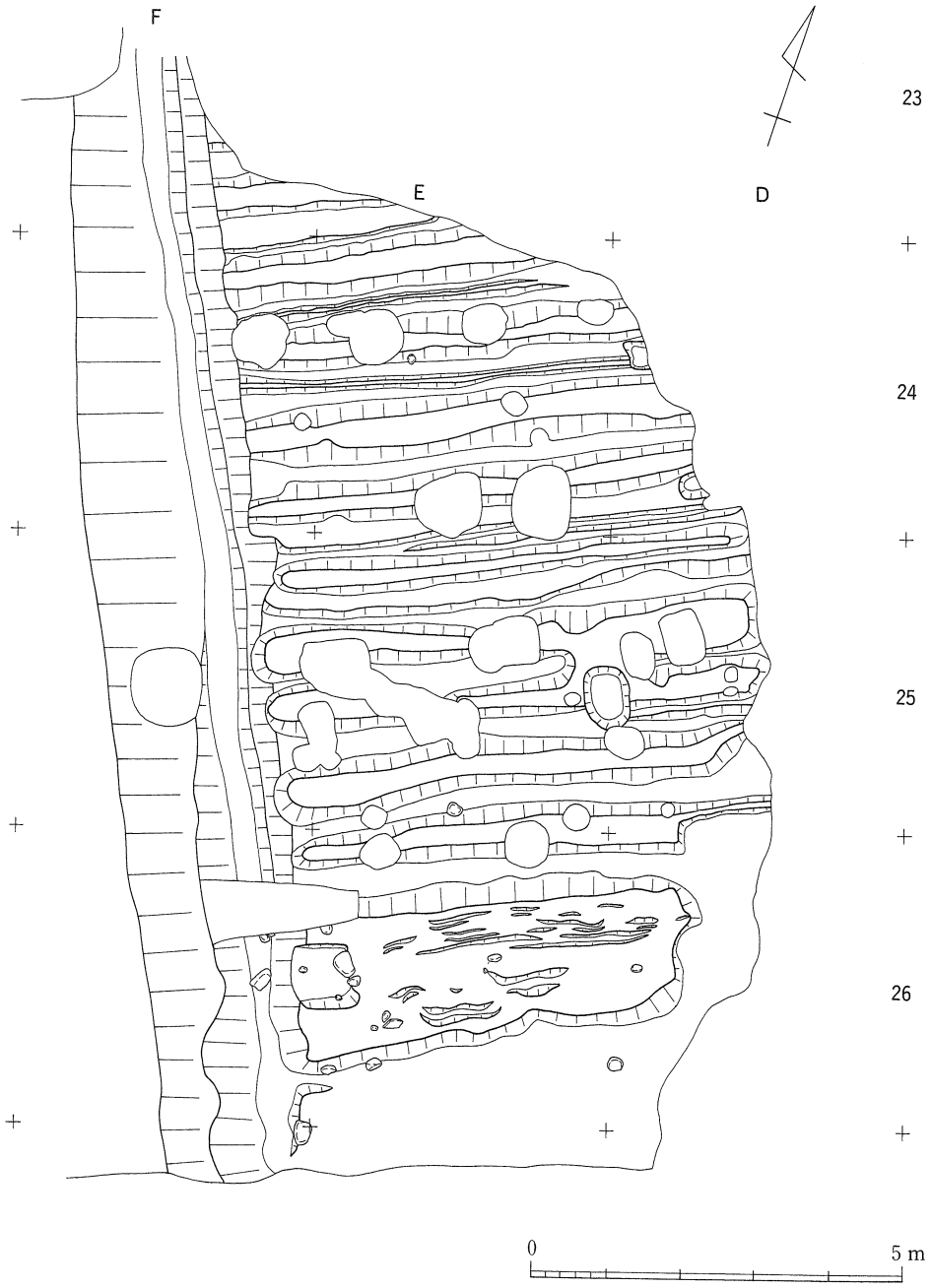


図25　II b 期検出遺構(2)
Fig. 25 Features of phase IIb at NM5(2)

遺構が分布している。これらの建物跡の周囲にめぐっていた溝の部分が、そのまま畑跡を区画する溝状の落込みとなっている。畝状の高まりは、東西方向に並ぶが、南側の26～29列では、あまり明確ではない。北側の23～25列も、小規模な段差が複雑に入り、畝状の高まりの並びが明確ではない部分も多いが、ほぼ1.0m前後の間隔で畝状の高まりが並んでいる。

これらII b期の遺構は、北区IV層・南区２ｄ層に覆われ、南区西部の池跡も、２ｄ層によって一挙に埋め立てられる。そのため２ｄ層は、池跡を埋めた最も厚い所では、1.6mを測る。このIV層・２ｄ層の整地によって、全体に平坦面が形成され、その上にIII期の二の丸中奥の段階の遺構群が形成されるようになる。

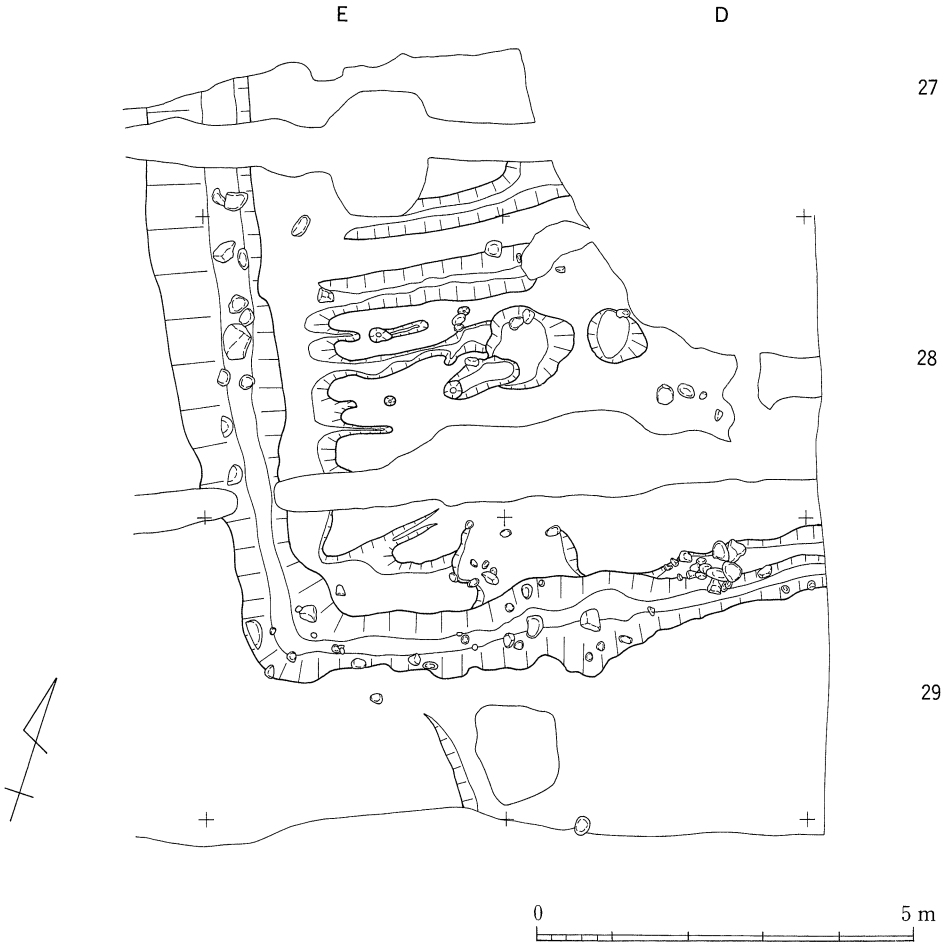


図26　II b期検出遺構(3)
Fig. 26 Features of phase IIb at NM5(3)

⑶　III期（二の丸中奥）の遺構

III期は、二の丸中奥として使われた時期と考えられ、IIIａ期とIIIｂ期に細分される。IIIａ期・IIIｂ期ともに、土地利用のあり方は共通し、21・22列に溝が東西に延び、それより北側には遺構はほとんど分布しない。また24列にも東西に溝がのび、それより南側に遺構が多く分布する。特にＤ―24～26区からＨ―24～26区の間には、多くの建物跡・柱列・ピットが集中する。27列より南側、Ｉ列より西側では、遺構の密度は低くなる。

①　IIIａ期（北区Ⅳ層上面・南区２ｄ層上面）

南区では北東側でIIIａ期の遺構が確認されている。それ以外の場所は、IIIｂ期以降の建造物や近代の撹乱が著しく、確実に本期と考えられる遺構は確認されていない。

IIIｂ期には、23列と24列の境付近に東西方向の区画溝があり、この溝を挟んで北側は多量の円礫を含む盛土により平らに整地され(整地層⑨)、南側には各種の建造物が造られる。区画溝は、ほぼ同じ位置で新旧２段階の変遷が追える。区画溝の作り替えに伴い、溝の北側部分は再度整地し直している(整地層⑦)。溝の北側の整地層の上面は、平坦で全く遺構が存在しないことから、この部分はIII期を通じて東西の道路として利用されていたと推定される。道路状遺構の南北幅は2.5m以上である。

区画溝の南側では多数のピットが確認されているが、この部分の遺構は明治期のものを含め、同じ面（２ｄ層上面）で検出された例が多く、調査時に層位に基き、面毎に各期の遺構を分離できていない。従って、出土遺物などから明らかに明治期（Ⅳ期）と判断される遺構を除いた後、柱穴と考えられるピットについて柱筋、柱間を基準に建物、柱列を抜き出し、それらの切り合い、並びから大きく新旧２段階の変遷を想定した。建物や柱列の柱穴として組み合うことなく単独で存在するピットの大部分に関しては、IIIａ期とIIIｂ期の区分ができていない。

上記の検討の結果、南区におけるIIIａ期の遺構としては、区画溝の南側に接する形で東西方向の柱列が６列、さらにその南に建物跡が１棟抽出された。６本の柱列の内、10～12号柱列、13・14・18号柱列は各々切り合っている。従って区画溝の南側には、溝に伴う形で３回の変遷を持つ柱列が２列存在することになる。塀跡と考えられる２列の柱列は、造り替えの回数が一致することから同時存在の可能性もあるが、その場合、平行する二つの塀が近接して存在する形になり、機能の面で理解しがたい。

一方、北区では、21・22列に東西方向の９号溝があり、その付近に小規模な溝（暗渠）やピットが存在する。これらより北側では、遺構密度は低く、調査区北東端付近に３号土坑が存在するだけである。なお、９号溝のすぐ北側で、部分的ではあるが、石を取り去った跡のような、小規模な凹凸が検出されている。

【３号建物跡】（図29・30・31、図版11）

Ⅲ期の遺構が最も集中するＥ～Ｇ24・25区で、柱穴と考えられるピットを選び、柱筋、柱間を基準に検討を重ねた結果、本建物の存在を確認した。この周辺は遺構の重複が著しく、本建物に関しても、東西５間分、南北１間分の柱の並びが確認されているに過ぎない。柱穴は、直径0.5m程度の不整円形をしており、深さは約50cmある。柱穴の中には中央に柱痕跡が認められるものもある。建物の方向はＥ－25°－Ｎで、柱間は約188cmである。

【10号柱列】（図29・30・31、図版11）

Ｅ～Ｇ24区において、ほぼ同じ地点に10～12号柱列が重複して存在する。これらの柱列は、通常の建物と考えるには柱間が広すぎる。また、柱列に接する形で北側には東西方向の区画溝がある。従って、これらは、塀とそれに伴う側溝であったと考えられる。

10号柱列はこの中で最も新しく、Ｅ－25°－Ｎの方向に柱穴が９基並ぶ。柱間は約236cmである。柱穴の大きさは、３つの柱列の中で最も規模が小さく、直径60～70cm程度である。柱穴の中には、柱痕跡が残されている。

【11号柱列】（図29・30・31、図版11）

12号柱列より新しく、10号柱列より古い。柱間は約297cmで、Ｅ－25°－Ｎの方向に６基の柱穴が並ぶ。柱穴は直径80cm程度で10号柱列のものよりは若干大きい。

【12号柱列】（図29・30・31、図版11）

10～12号柱列の中で最も古く、柱穴の規模も最も大きい。柱間は約276cmで、Ｅ－25°－Ｎの方向に５基の柱穴が並ぶ。10・11号柱穴との重複が著しく、柱穴の構造は不明である。柱穴５の底面から、18世紀代に比定される磁器徳利（図50－506）が出土している。

【13号柱列】（図29・30・31、図版11）

10～12号柱列と平行して南側に、13・14・18号柱列が存在する。これらの柱列は、ほぼ同じ場所に重複しており、建て替えられたものと考えられる。

13号柱列はこの中で最も新しく、Ｅ－25°－Ｎの方向に柱穴が６基並ぶ。柱間は約340cmである。柱穴の大きさは、３つの柱列の中で最も規模が小さい。柱穴の中には、柱痕跡が残されている。

【14号柱列】（図29・30・31、図版11）

18号柱列より新しく、13号柱列より古い。柱間は約370cmで、Ｅ－25°－Ｎの方向に６基の柱穴が並ぶ。柱穴の位置は、13号より若干西側に寄っている。柱穴の中には柱痕跡が確認されるものもある。

【15号柱列】（図29・30・31、図版11）

Ｅ～Ｇ－24区にあり、３号建物跡に切られている。Ｅ－25°－Ｎの方向に、約320cmの間隔で、５基の柱穴が並ぶ。

図27　III a 期遺構配置図

Fig.27 Distribution of features at NM(phase IIIa)

【18号柱列】(図29・30・31、図版11)

13・14・18号柱列の中で最も古く、柱穴の位置は一番西側に寄っている。柱間は14号柱列と同じで、E—25°—Nの方向に5基の柱穴が並ぶ。柱穴は、3つの柱列の中で最も大きい。

【4号溝】(図29、図版11)

10～12号柱列の北側、E～H—24区に重複する東西溝が2本存在する。古いほうの4号溝は、6号溝の底面に痕跡が残されているに過ぎず、幅や深さは不明である。溝の方向は、E—25°—Nである。

【6号溝】(図29、図版11・12)

4号溝のうえに造られた東西溝で、4号溝と同じ方向を向く。本溝は、幅約1.0mの掘り方の中に側石を据え石組溝としているが、底面の石敷きは確認されていない。石組溝の幅は約0.4m、深さは20cm程度である。

【9号溝】(図28、図版11)

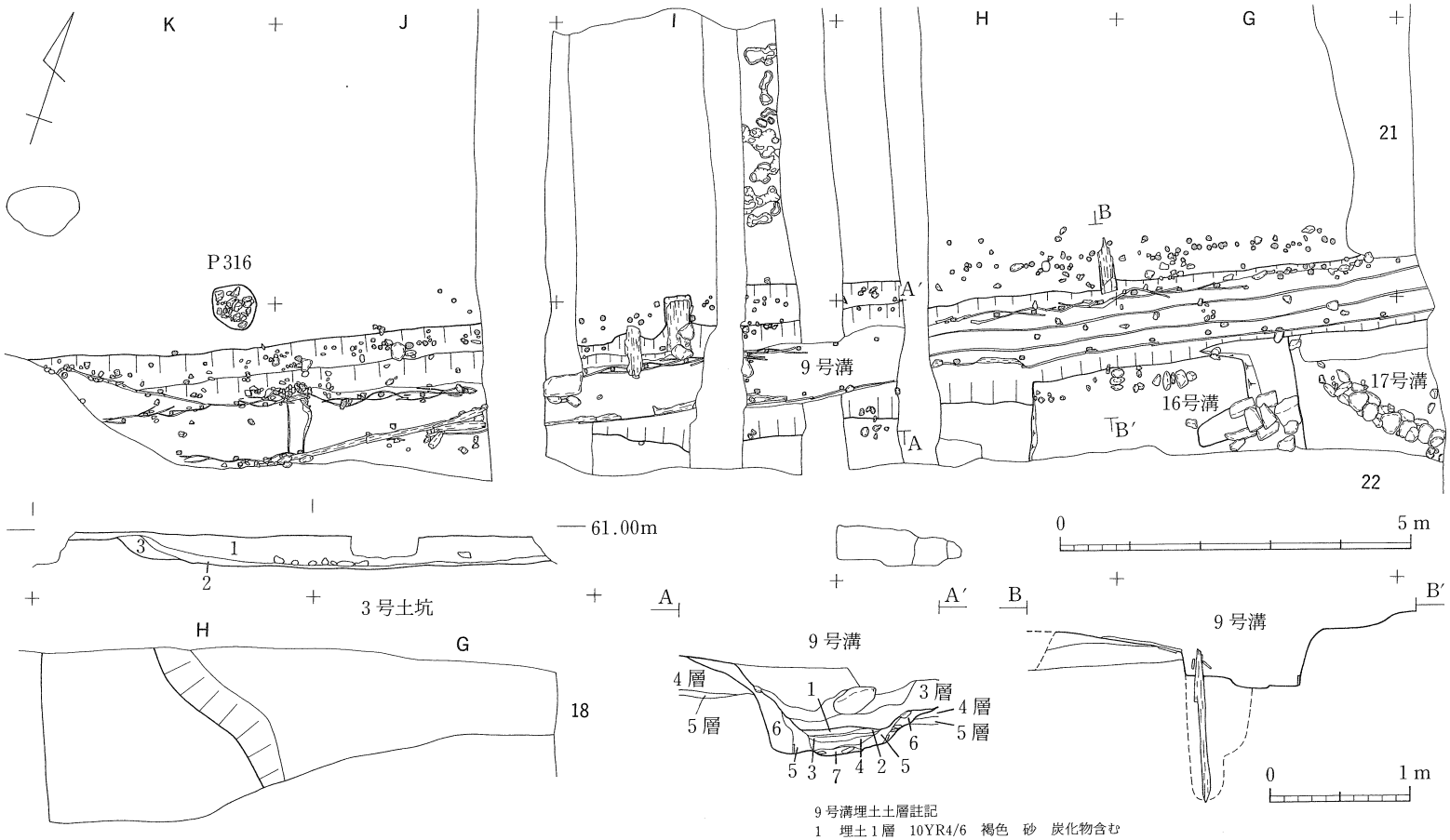
F—21・22区からK—22区にかけて検出された東西方向の溝で、方向はE—25°—Nである。西側は米軍共同溝で破壊され、東側は調査区外に伸びるが、20m分を検出した。17号溝を切っている。上幅200～220cm、下幅60cm、南側での深さ70cmであるが、この溝をはさんで、北側の地表面の高さが40cm程低くなっているため、北側の深さは30cmである。溝の底面には、45～65cm間隔で、角杭を打ち込み、この杭に北側は半裁した竹を交差させてからめ、南側は板を杭に付けて溝の壁としている。打ち込まれた杭は、4～8cm角で、断ち割りを行った部分では、長さ120cmであった。H—21区に1ケ所、I—21区に2ケ所、溝に直交して、北岸に板材が残っており、この溝に流れ込む、木組の溝か暗渠と考えられる。北岸には、径6cm前後の丸杭および、その痕跡が多数検出されており、護岸設備か、あるいは柵があった可能性がある。埋土は、自然堆積で20cmほど埋まった時点で、3層の整地によって埋められ、ほぼ同じ位置に、IIIb期の8号溝が構築されている。

【16号溝】(図28・31、図版11)

G—22区で検出されたもので、方向は他の遺構とは異なりE—34°—Nである。東側を17号溝に切られており、残存する長さは1.7mである。40cm程の幅の溝の上半部に、側石として石を長手に置き、板状の石で蓋をした暗渠である。ただし、西端では石が残っていない。溝底は西から東に向けて深くなり、東端で25cmほどの深さとなっている。内部には砂質の土が流れ込んでおり、自然堆積である。遺物はきわめて少なく、年代などの判るものはない。

【17号溝】(図28・31、図版11)

F・G—22区で検出された。方向は他の遺構とは大きく異なりE—13.5°—Sである。北側を9号溝に切られ、16号溝を切っている。東側と南側は撹乱によって壊されている。検出レベル



3号土坑埋土土層註記
埋土1層　10YR6/2・5/3　灰黄褐色・にぶい黄褐色　シルト・シルト質砂　明黄褐色砂質シルト塊・礫・炭化物含む
埋土2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　多量の炭化物・焼土・小礫・多量の遺物含む
埋土3層　10YR4/4・3/4　褐色・暗褐色　シルト　にぶい黄色シルト塊・炭化物・砂・礫含む

9号溝埋土土層註記
1　埋土1層　10YR4/6　褐色　砂　炭化物含む
2　埋土2層　7.5YR4/2　灰褐色　シルト～砂　炭化物含む
3　埋土3a層　7.5YR4/6・4/2　褐色・灰褐色　砂　炭化物含む
4　埋土3b層　7.5YR4/2　灰褐色　砂礫・シルト　円礫含む
5　埋土4層　7.5YR4/1　褐灰色　シルト　炭化物・礫含む
6　埋土5層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　炭化物・礫含む
7　埋土6層　7.5YR4/4　褐色　砂礫　炭化物含む

図28　IIIa期検出遺構(1)

Fig. 28 Features of phase IIIa at NM5(1)

土層註記

1　整地層③　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質シルト　礫含む
2　5号溝埋土　10YR4/4　褐色　シルト　炭化物・礫・瓦含む
3　整地層④　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　礫含む
4　整地層⑥　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　多量の礫含む
5　6号溝埋土　2.5Y5/1　黄灰色　砂質シルト
6　6号溝掘方埋土　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト
7　整地層⑦　10YR6/2　灰黄褐色　細砂・シルト　礫含む
8　整地層⑨　7.5YR4/3　褐色　シルト質砂　多量の円礫を含む
9　4号溝埋土　2.5YR5/2　暗灰黄色　粘土質シルト
10　Pit454埋土1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　柱痕跡
11　Pit454埋土2層　10YR4/4　褐色　砂
12　12号柱列柱3埋土1層　10YR6/6　明黄褐色　シルト　2d層起源の灰白色・黄褐色塊を含む
13　12号柱列柱3埋土2層　7.5GY6/1　緑灰色　粘土質シルト
14　12号柱列柱3埋土4層　7.5YR6/1　褐灰色　粘土　砂含む

図29　IIIa期検出遺構(2)

Fig. 29 Features of phase IIIa at NM5(2)

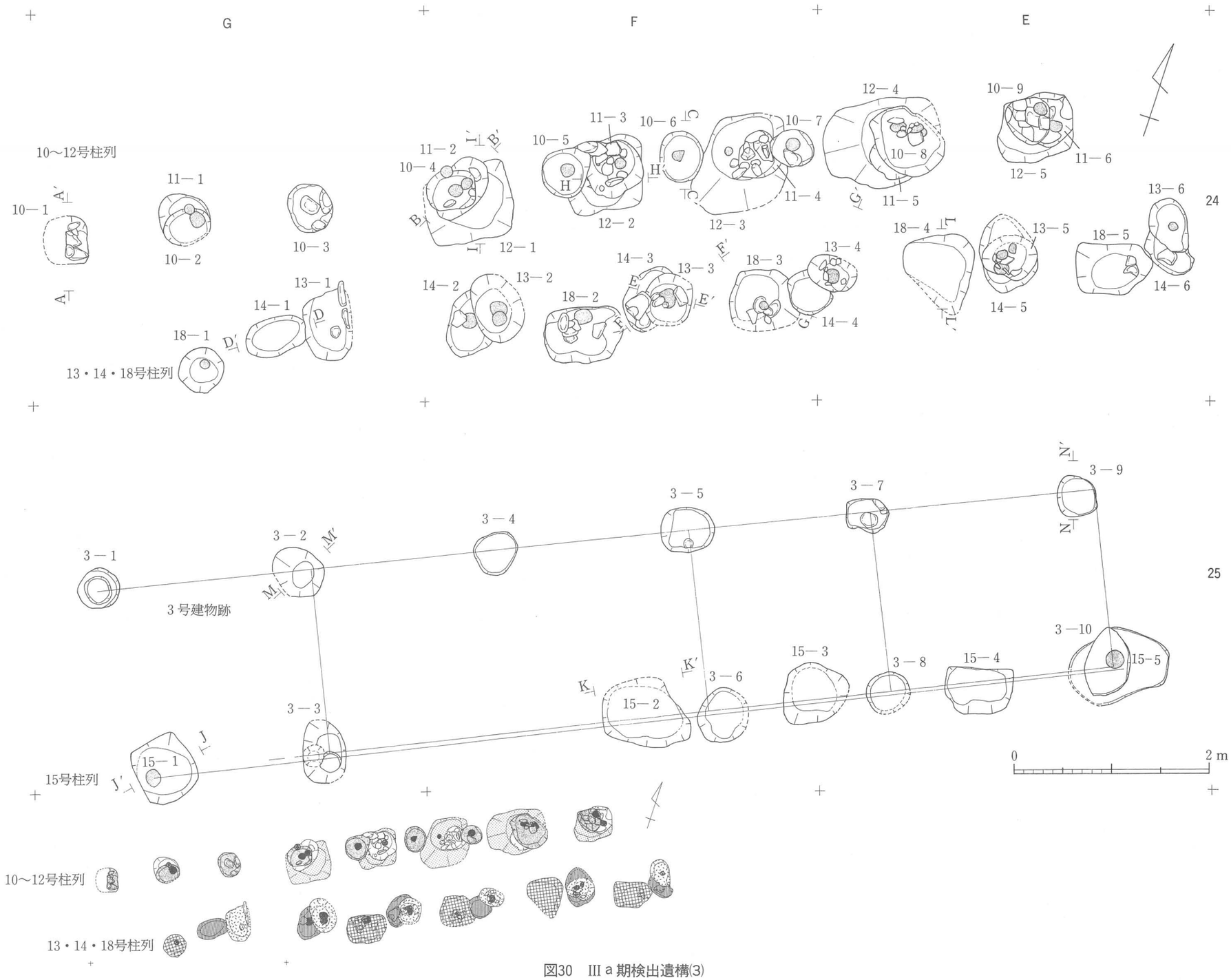


図30　III a 期検出遺構(3)

Fig. 30 Features of phase IIIa at NM5(3)

とその位置から、建物の基礎によって破壊されないと判断されたため、検出のみで、掘り上げていない。側石の上に偏平な河原石で蓋をした暗渠である。石の残っていた部分の長さ2.3m、側石の外側での幅40cmである。掘り方と見られる部分の範囲が石組に比べて非常に大きいが、掘り上げていないため、石組との関係がどのようになっていたのかは不明である。

【３号土坑】（図28、図版12）

Ｇ・Ｈ―18区で検出された。南側を撹乱によって破壊され、東・北側は調査区外に伸びる。東西5.8m以上、南北2.0m以上、深さ40～60cmの広い落込みである。埋土は３層に分けられ、いずれにも礫・炭化物が含まれ、人為的に埋められたものと考えられる。埋土２層（遺物取り上げは埋土３層）には、陶磁器・土器など比較的多くの遺物が含まれており、まとめて廃棄されたものと考えられる。その他の埋土１層・埋土３層には、遺物はほとんど含まれていない。

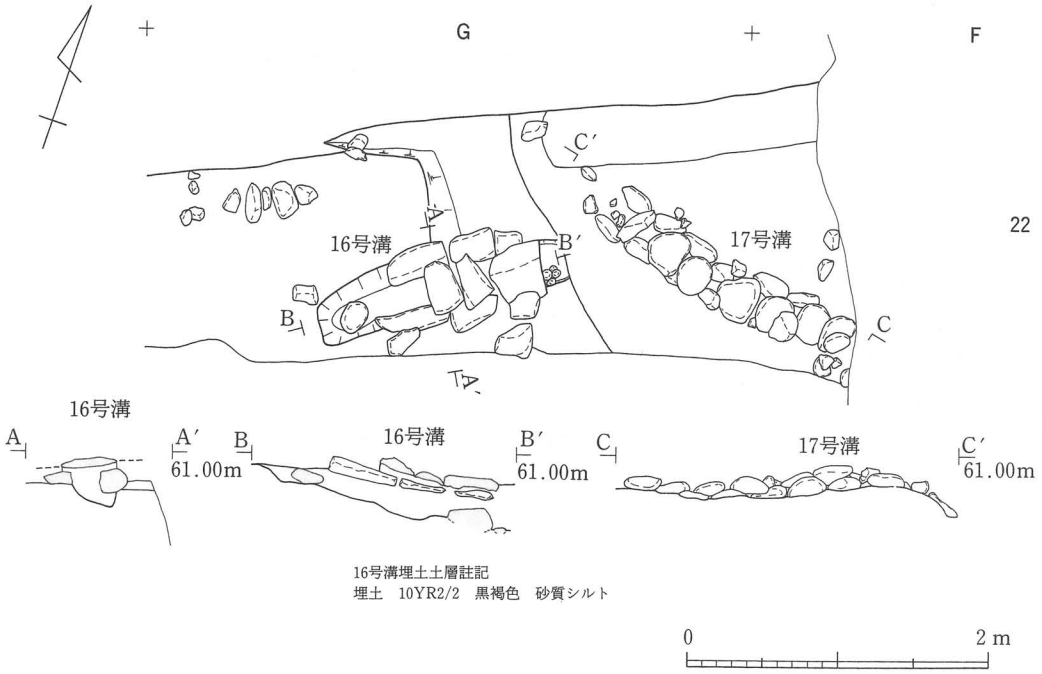
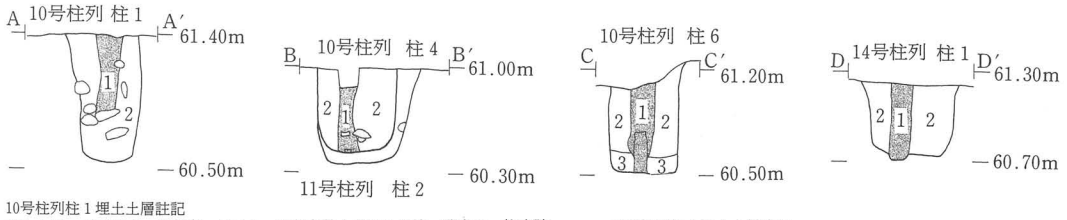


図31　III a 期検出遺構(4)

Fig. 31 Features of phase IIIa at NM5(4)



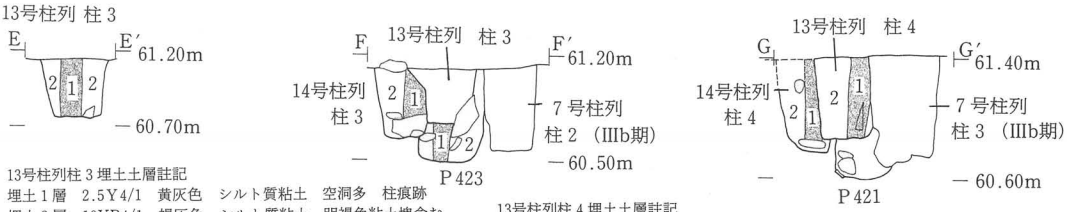
10号柱列柱1埋土土層註記
埋土1層　10YR5/6　黄褐色　シルト　明褐色粘土質シルト塊・礫含む　柱痕跡
埋土2層　10YR3/4　暗褐色　砂質シルト

10号柱列柱4埋土土層註記
埋土1層　2.5Y5/1　黄灰色　粘土質シルト　空洞多　柱痕跡
埋土2層　2.5Y5/1　黄灰色　粘土質シルト　黄褐色粘土含む

11号柱列柱2埋土土層註記
埋土　10YR3/3　暗褐色　粘土質シルト　灰白色粘土含む

10号柱列柱6埋土土層註記
埋土1層　2.5Y4/1　黄灰色　粘土　空洞多　柱痕跡
埋土2層　10YR7/6　明黄褐色　粘土質シルト
埋土3層　10YR7/4～5/4　にぶい黄橙色～にぶい黄褐色　粘土

14号柱列柱1埋土土層註記
埋土1層　10YR3/4　暗褐色　粘土質シルト　礫含む　柱痕跡
埋土2層　10YR4/4　褐色　シルト　粗砂・腐礫・小礫含む



13号柱列柱3埋土土層註記
埋土1層　2.5Y4/1　黄灰色　シルト質粘土　空洞多　柱痕跡
埋土2層　10YR4/1　褐灰色　シルト質粘土　明褐色粘土塊含む
14号柱列柱3埋土土層註記
埋土1層　柱痕跡
埋土2層　10YR4/4・5/1　褐色・褐灰色　粘土質シルト
Pit423埋土土層註記
埋土1層　10YR5/1　褐灰色　粘土　柱痕跡
埋土2層　10YR7/6　明黄褐色　粘土

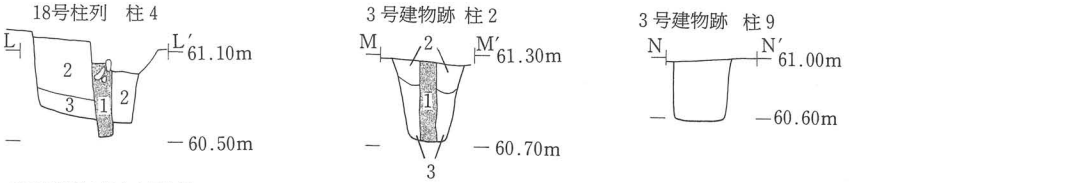
13号柱列柱4埋土土層註記
埋土1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　空洞多　柱の残存有り
埋土2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　明褐色及び白色粘土塊・礫含む
Pit421埋土土層註記
埋土　10YR4/2　灰黄褐色　粘土　小礫含む
14号柱列柱4埋土土層註記
埋土1層　10YR4/6・2/3　褐色・黒褐色　シルト・粘土質シルト　柱痕跡
埋土2層　10YR6/8・4/4　明黄褐色・褐色　粘土質シルト・シルト質粘土　砂・小礫含む

11号柱列柱3埋土土層註記
埋土　10YR3/4　暗褐色　シルト　砂・2d層起源の黄褐色粘土塊　礫含む

12号柱列柱1埋土土層註記
埋土1層　10YR5/6　黄褐色　シルト質粘土　下部に砂含む
埋土2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　粘土

15号柱列柱1埋土土層註記
埋土1層　7.5YR6/8　橙色　粘土質シルト　礫含む
埋土2層　7.5YR7/8　黄橙色　粘土質シルト　礫・炭化物含む
埋土3層　7.5YR6/4　にぶい橙色　粘土質シルト

15号柱列柱2埋土土層註記
埋土1層　10YR4/6　褐色　シルト　砂・小礫・灰褐色粘土含む　柱痕跡
埋土2層　10YR5/6　黄褐色　シルト　灰色・黄褐色粘土含む
埋土3層　10YR5/2・5/6　灰黄褐色・黄褐色　シルト



18号柱列柱4埋土土層註記
埋土1層　10YR4/4　褐色　砂質・粘土質シルト　小礫・炭化物含む　柱痕跡
埋土2層　10YR6/6　明黄褐色　粘土質シルト　浅黄色及び明褐色粘土・砂・小礫・炭化物含む
埋土3層　10YR4/4　褐色　砂　黄褐色粘土質シルト塊・礫含む
3号建物跡柱2埋土土層註記
埋土1層　柱痕跡
埋土2層　10YR4/6　褐色　砂質シルト　円礫・炭化物含む
埋土3層　10YR3/4　暗褐色　シルト　にぶい黄褐色土塊・礫・炭化物含む
3号建物跡柱9埋土土層註記
埋土　10YR5/4　にぶい黄褐色　シルト質粘土　礫含む　2d層に等しい

図32　IIIa期検出遺構断面図

Fig. 32 Cross sections of features at NM5(phase IIIa)

② Ⅲｂ期（北区Ⅲ層上面・南区２ｃ層上面）

南区では、北寄りの24•25列に遺構が集中している（図35）。この部分にはⅢａ期にも建造物が存在していたが、本期には、その上を盛土により整地し（整地層③•④）、建物が構築されている。北に開く門が存在し、この門を起点として、西側に南北の、東側に東西方向の区画が認められる。建物群は門跡の南東方向に存在していたと考えられ、その部分で非常に多くの柱穴が検出されている。門跡は、同じ位置で新旧２段階の変遷が追え、新しい段階の門は、より簡素な構造に作り替えられている。

門に接続する東西の区画施設としては、５号溝と２号溝があり、これらの溝の南側には７号柱列と８号柱列が伴っている。これら溝と塀からなる２組の区画施設は直接の切り合いを持っていない。しかし５号溝がⅢａ期の区画溝の位置をほぼ踏襲しているのに対して、２号溝の位置は南に大きくずれることから、５号溝から２号溝への変遷が推定できる。門跡同様、区画溝も簡素化されたと仮定した場合、縁石を伴う５号溝から素掘りの２号溝への変化は、この仮定に合致する。また、５号溝に伴う７号柱列は６号柱列に接続し、さらに西側では門跡２の東側の控柱につながることが推定される。門につながる東西の区画施設の北側には部分的に多量の円礫を含んだ整地層（整地層⑥）が認められることから、この部分はⅢａ期同様、道路として利用されていたと考えられる。これらをまとめると、Ⅲｂ期の遺構変遷は、門跡２（古段階）→門跡１（新段階）、５号溝（古段階）→２号溝（新段階）、７号柱列（古段階）→８号柱列（新段階）となる。

【門跡１】（図35・37、図版13）

地中に埋められた梁の両端にほぞ穴をあけ、そこに本柱を据えた簡素な構造の門である。地中の梁は、長方形の掘り方の両端に礎板の代わりに据えられた角材の上に渡されている。西側の本柱に当たる部分を撹乱により破壊されているが、東側の本柱は門跡２の東側本柱とほぼ同じ位置にあり、その位置は踏襲されていた可能性が高い。門の長軸方向はＥ―25°―Ｎである。

【門跡２】（図35・37、図版13）

門跡１の下から検出された。本柱の外側に支柱を置き、さらに支柱の内側に控柱を配置した北に開く門である。断面方形の柱が一部残存しており、本柱の間隔は約315cm、本柱と支柱の間隔は約105cm、支柱と控柱の間隔は約150cmである。両方の支柱に同じ位置で重複が認められることから、門は部分的な修復を受けたことがわかる（門跡２Ｂ→門跡２Ａ）。柱は全て上面平坦な地中礎石の上に据えられている。本柱の掘り方の底面には礎石を取り囲んで根固め石が隙間なく詰められている。門跡２Ａの支柱掘り方は、細かな砂と粘土質シルトを交互に突き固めて埋め戻されており、埋め土には多量の木片、かんな屑が含まれている。柱の掘り方からは多量の瓦が出土しており、門やそれに続く塀に瓦が用いられていたと考えられる。

本柱の左右に支柱を持ち支柱の背後に控柱を配置する点は、18世紀前葉の創建と考えられている仙台市茂ケ崎の大年寺惣門と共通する。大年寺の惣門は修復工事の際に仙台市教育委員会により調査され、柱穴の配置、構造などが明らかにされている（結城・渡辺1986）。門跡２と大年寺惣門は、控柱や支柱の形態・規模などに共通点が多く、上屋の構造も類似する可能性がある。

【４号柱列】（図35・36）

Ｋ―25～29区で、約256cm間隔でＮ―25°―Ｗの方向に並ぶ６基の柱穴が検出された。柱の掘り込みは浅く、塀などの施設と考えられる。柱１の北側ではこれに続く柱穴は検出されていないが、本柱列の西側ではⅢｂ期の遺構が検出されていないことから、本来は柱１の北で東に折れて門に接続する区画施設であった可能性が高い。

【５号柱列】（図35・36）

４号柱列の東側に隣接し、平行する柱列である。柱穴は３基確認されており約216cm間隔で並ぶ。本柱列は位置的にみて４号柱列同様、中奥建物群の西側を区画する南北塀であったと考えられ、４号柱列とは新旧関係にあったと推測される。

【６号柱列】（図35・36、図版11）

門跡の東側、Ｈ―24・25区に比較的大きな四角い掘り方のピットが３基南北に並ぶ。柱の痕跡は柱３で検出されただけであるが、形態や規模が類似していることから柱列と判断した。柱の間隔は約216cmであり、方向はＮ―25°―Ｗである。北端の柱１は門跡２の控柱を結んだ延長線上にあり、東側の控柱２からは約320cm離れている。規格性から判断して本柱列は門跡２と同時期に存在していた可能性が高いが、その性格は不明である。なお柱１の埋土からは19世紀代に入る鉄釉擂鉢（図56―285）が出土している。

【７号柱列】（図35・36、図版11）

門跡の東側、２号溝と５号溝の間で検出された東西柱列である。約168cm間隔で並ぶ５基の柱穴は、直径約30cm、検出面からの深さ約40cmでほぼ一定している。柱列の方向はＥ―25°―Ｎで、本柱列の延長線上には門跡２の控柱や、６号柱列の柱１が存在する。本柱列は門の東側に続く東西の塀と考えられる。北側に平行する５号溝は、本柱列に伴う区画溝であろう。

【８号柱列】（図35・36、図版11）

２号溝の南側に接して柱穴が４基東西に並ぶ。柱間は約120cmで、方向はＥ―25°―Ｎである。柱は１辺約50cmの角柱で長方形の掘り方のなかに残存しており、底面付近には根固め石が認められた。本柱列は、掘り方の規模も大きく、太い柱が比較的密に並ぶことから相当重量のある上屋建物であった可能性が高い。

【９号柱列】（図35・36、図版11）

図33　IIIｂ期遺構配置図

Fig.33 Distribution of features at NM5(phase IIIb)

門と塀・溝で区画された内部、F・G—25区に比較的大きな掘り方のピットが、4基東西に並ぶ。柱の痕跡は確認されていないが、約216cm間隔で、E—25°—Nの方向に同様のピットが並ぶことから柱列として扱った。

【2号溝】(図35・36、図版12)

E～G—24区で検出された。北側の立ち上がりの一部が7号柱列に切られている。溝は素掘りで2段に掘り込まれており、検出面で上幅は平均約1.0m、底面は幅約20cmであった。

【5号溝】(図29・35、図版12)

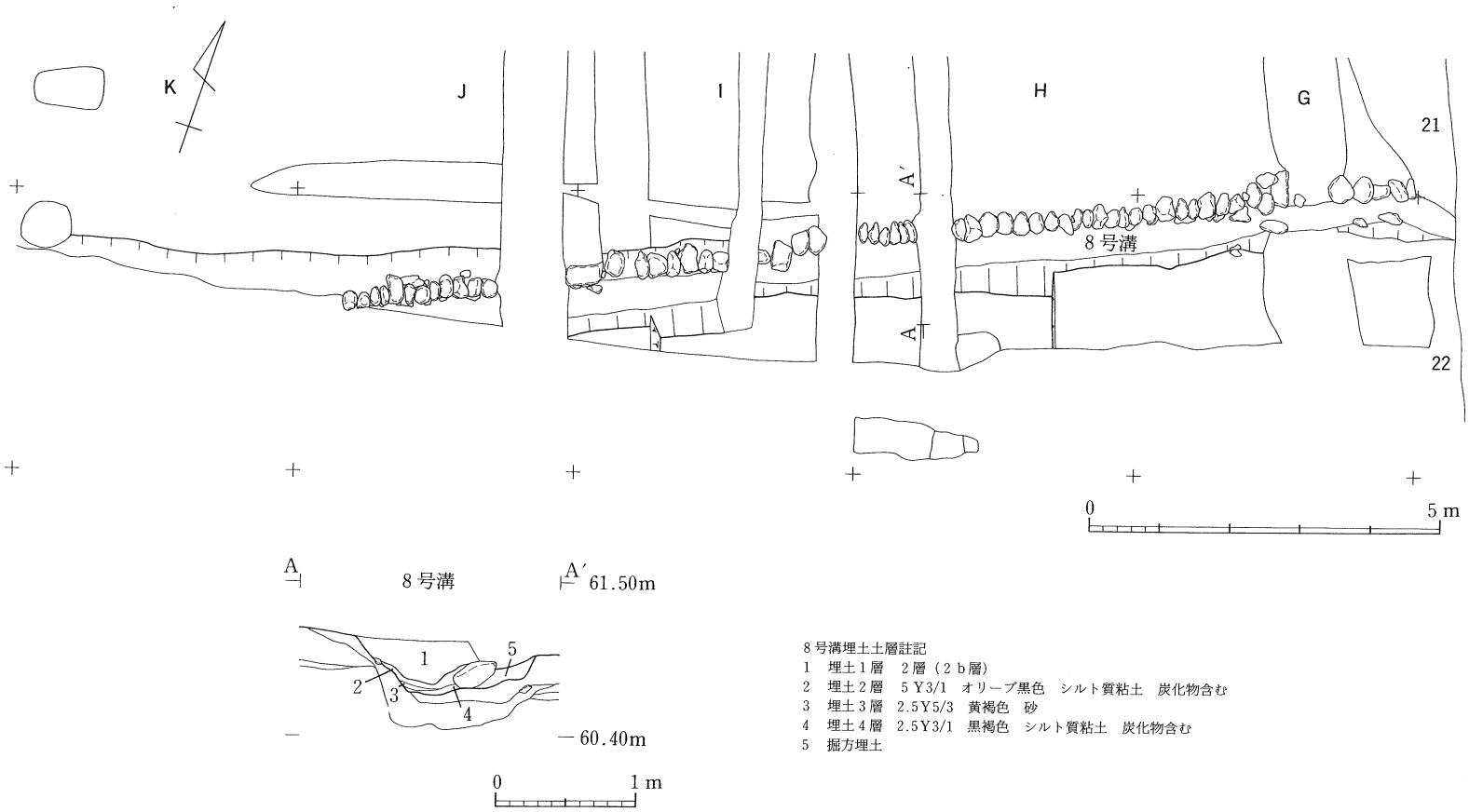
7号柱列の北側で検出された東西の石組溝である。溝は、道路跡と考えられる整地層⑥の南端と7号柱列のほぼ中間に位置している。本溝は明治期の溝と重複しているため、石組みが部分的に残存するだけで、溝自体は痕跡程度である。

【8号溝】(図34、図版12)

F—21・22区からK—22区にかけて検出された、東西方向に伸びる溝で、方向はE—25°—Nである。IIIa期の9号溝が埋められた上に、ほぼ同じ場所に造られている。西側は米軍の共同溝で破壊され、東側は調査区外に伸びるが、約20mを検出した。上幅70cm、下幅35cm、深さは南岸で40～50cmを測るが、岸の高さは、南側が北側より約30cm高くなっている。この溝をはさんで北側は、地表面の標高が一段低くなっている。北側にのみ、長軸30cm前後の河原石を、小口を向けて並べており、南側は素掘りのままである。幅120～130cmの掘り方に、大きな石の下に小さな石を入れて構築している。掘り方は、西へ行くほど、やや北側に広がっている。自然堆積で10cm程埋まった時点で、2b層の整地によって完全に埋められている。

【11号溝】(図版35・36、図版12)

門跡の北西で検出されたN—25°—W方向の南北溝である。溝の断面に木樋の痕跡が確認され、木樋の内部に堆積したと考えられる砂が残されていた。



8号溝埋土土層註記
1　埋土1層　2層（2b層）
2　埋土2層　5Y3/1　オリーブ黒色　シルト質粘土　炭化物含む
3　埋土3層　2.5Y5/3　黄褐色　砂
4　埋土4層　2.5Y3/1　黒褐色　シルト質粘土　炭化物含む
5　掘方埋土

図34　IIIb期検出遺構(1)
Fig. 34 Features of phase IIIb at NM5(1)

図35　Ⅲb期検出遺構(2)

Fig. 35 Features of phase IIIb at NM5(2)

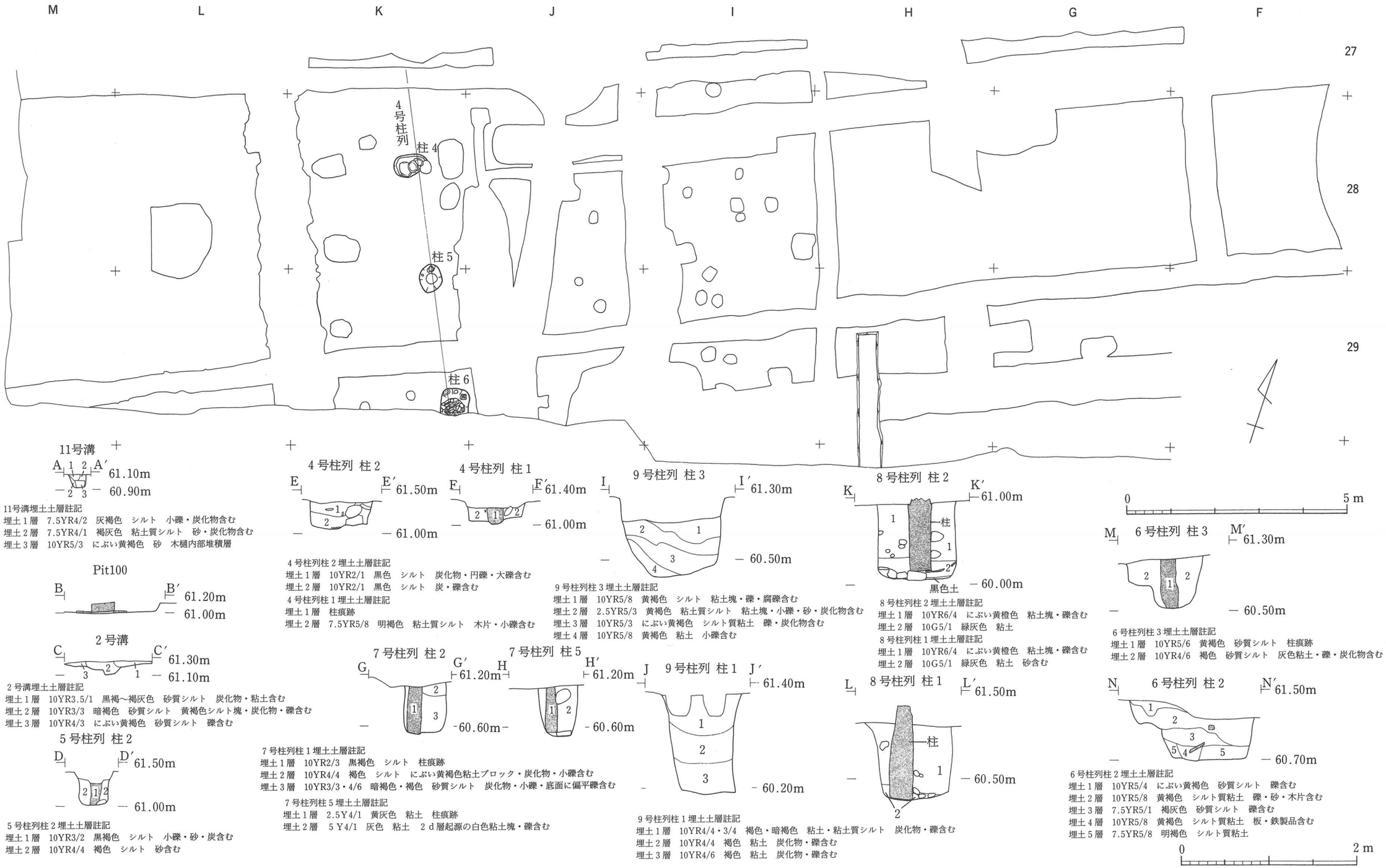


図36　IIIb期検出遺構(3)

Fig. 36 Features of phase IIIb at NM5(3)

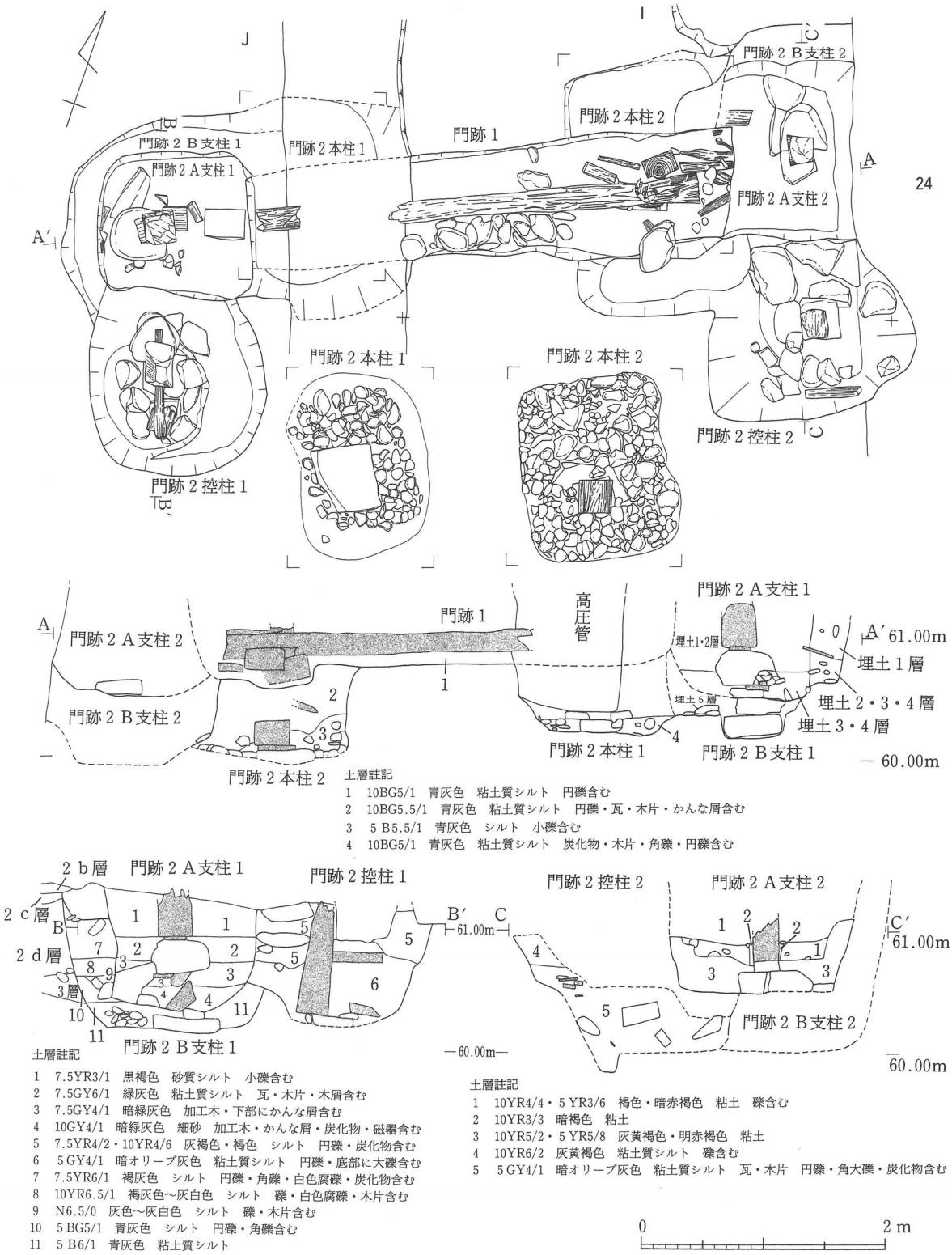


図37　Ⅲｂ期検出遺構(4)

Fig. 37 Features of phase IIIb at NM5(4)

⑷　Ⅳ期（第二師団）の遺構（２ｂ層・２ａ層上面）

明治以降の第二師団の時期と考えられるもので、遺構の配置は、Ⅲ期とは大きく変化する。何段階かの変遷があるが、一括してⅣ期とした。また、以下では個々に記述しないが、調査区各所に丸杭の杭列があり、それらの方向は、他の遺構とほぼ同じである。

Ⅳ期の遺構の内、７本の暗渠が切り合いから、Ⅳ期のなかで最も新しく位置づけられる。暗渠は２カ所で木箱埋設遺構を伴っている。木箱は便槽と考えられ、それに接続する暗渠は下水施設であろう。これらの暗渠が構築される以前は、南北にはしる７号溝とそれに伴う１号柱列により、基本的な東西の区画がなされている。この区画の西側には便所と考えられる小規模な建物跡と、それにともなう塀跡が確認できる。東側では、調査区の北側で礎石建物跡が柱列の脇に存在する。東側の、中央からやや北よりの部分には、コの字型の１号溝が検出された。１号溝の東側では、ゴミ穴と考えられる土坑や井戸跡が検出されている。１号溝で区画された内側には、柱穴と考えられるピットが数基存在するだけで、この部分の利用状況は判然としない。

【１号建物跡】（図39、図版16）

Ｋ―18・19区からＬ―18・19区にかけて検出された礎石建物跡で、方向はＮ―25°―Ｗである。礎石は残存せず、一辺70cm程の、ほぼ隅丸方形の掘り方に、河原石を入れて根固めとしている。南北１間分が検出されているが、北壁セクションに、この建物の続きの可能性のある柱穴が見られることから、南北はさらにのびていたのが、１号暗渠に壊されている可能性がある。南北の柱間は、約1.8mである。東西も１間であるが、柱間が約3.6mであり、柱２と柱４の間に、別の柱が存在した可能性が考えられるが、この部分は試掘調査の際に掘られており、確実ではない。柱３が、同様の柱穴を壊しており、またややずれた位置にピット455が存在すること、北壁セクションに１号建物跡とずれる柱穴が見られることから、この場所で立て替えが行われている可能性が考えられる。柱穴１・２が、１号柱列の柱１・２と、ほぼ対応する位置にあることから、同時に存在した可能性があり、両者の間隔は、ほぼ1.8mである。

【２号建物跡】（図40、図版16）

Ｍ・Ｌ―25区で検出された掘立柱建物跡である。南北２間分、東西１間分が確認できる。柱穴は直径70cm程度の円形を呈し、柱１～３は布掘り状の溝のなかで見つかっている。柱１～３の方向はＮ―24°―Ｗである。柱間は約121cmであり、他の通常の建物に比べ極端に短い。位置からいって便槽状の構造を持った１号木箱埋設遺構を伴う可能性が高いことから、本建物跡は便所の覆屋と考えられる。柱１と柱３の埋土から寛永通宝（図104―36・37）が各１点出土している。

【１号柱列】（図39・40・41、図版14・16）

Ｌ―18区からＫ―29区にかけて検出された、７号溝の東側に平行して並ぶ掘立柱列である。

南北とも調査区外にのびるものと推定される。また、調査区内で最も北側の柱は、１号暗渠に破壊されているものと考えられる。柱穴19個を検出したが、撹乱で途中壊されている部分もあるので、23間以上になり、42m分を確認したことになる。７号溝と同様に、22～24区で若干東にふくらむが、全体の方向はＮ―24°―Ｗである。柱間は182cmで、交互に大小の柱穴が並ぶ。大きい柱穴には本柱の他に控柱が伴い、小さいものには本柱１本のみが入る。平均的な柱穴の大きさは、大きいものが、東西60cm前後、南北40～60cm、深さ100cm前後で、長方形のものは東西に長くなっている。小さいものは、東西30～40cm、南北50cm前後、深さ100cm前後で、長方形のものは南北に長くなっている。ほとんどに柱根が残り、全て角柱で、太さは一辺20cm前後である。本柱は、柱穴の中程の深さの所で、柱列の方向に沿って、溝状のほぞを切り、そこに細い角材をはめこんでいる。７号溝からの距離は、溝の東側の縁から計って、本柱が70cm、控柱で100cmである。７号溝に伴い、東西に区切る塀跡であると考えられる。

【２号柱列】（図40）

２号建物跡の南側、Ｍ・Ｌ―25・26区で検出された東西の柱列である。東側は塀を伴う７号溝に直交すると考えられる。柱間は約192cm、方向はＥ―24°―Ｎである。柱穴の断面には柱の痕跡はなく内部に根石が詰まっていることから、本来は礎石を伴っていた可能性がある。便所建物と考えられる２号建物の南側を囲む目隠し塀的な性格を想定できる。

【３号柱列】（図40）

１号柱列の東側、Ｋ―26区で検出された東西の掘立柱列である。柱穴は長方形を呈し内部には角柱が残存していた。柱間は約180cm、方向はＥ―24°―Ｎである。西端にあたる柱１は１号柱列の柱14と柱15の真ん中に位置している。このことから、３号柱列は当初から１号柱列に間尺を合わせ、それと直交する形で作られたと推定され、１号柱列同様、塀跡と考えられる。

【１号溝】（図40・41、図版15）

Ｆ～Ｉ―24～27区で検出された南側に開くコの字型の溝である。北辺は約13mあり、南北の長さが東西幅よりも長い。東辺の溝では、両側に石組みの一部が残っており、本来石組溝であったと考えられる。北辺と西辺では、溝の外側に石敷が伴っている。北辺には溝の内側に沿って数基のピットが存在しており、この部分に塀のような施設が伴っていた可能性もある。

【３号溝】（図41、図版14）

Ｊ―28・29区で検出された南北の石組溝である。石組のなかには部分的に木樋が残存している。木樋自体は石組よりさらに北側に張り出している。木樋の北端部には桝状の木箱が確認されている。北側に張り出した木樋部分には同じく木樋を埋設した10号溝が直交している。石組と木樋は一連の施設ではなく、時期差があると考えられ、元来石組溝であったものを木樋に改修した可能性が高い。本溝の埋土２層から19世紀前葉～中葉に位置づけられる瀬戸産の色絵同

心円文小碗（図49―492）が出土している。

【７号溝】（図39・40・41、図版14）

Ｌ・Ｍ―18区からＫ・Ｌ―29区にかけて検出された南北方向の石組溝で、１・６号暗渠に切られる。東側に１号柱列が平行して並ぶ。方向はＮ―24°―Ｗであるが、23・24列では若干東に膨らむ。南北とも調査区外に伸び、途中撹乱で破壊されている部分があるが、46mを検出した。内幅50cm、深さ50～60cm、底面レベルは北側が低い。幅1.5mほどの掘り方に、石を２～３段積んで構築しているが、21列以北は西側の石が取り去られている。２ｂ層途中から掘り込まれている。埋土は、下半が堆積後、２ｂ層上部、２ａ層が入り埋められている。埋土からは、多量の板材、ガラス瓶、釘などが出土しており、瓦も比較的多い。廃材などが捨てられたものであろう。陶磁器・土器類も比較的多く出土しているが、他の遺物ほどではなく、各時期のものが混在している。

【10号溝】（図41）

Ｉ・Ｊ―28区で検出された東西の木樋を配した溝である。掘り込みは浅く、東側は失われてしまっている。西端は３号溝の木樋に直交し、それと接続している。

【１～６号暗渠】（図39・40・41、図版15）

この１～６号暗渠と次の７号暗渠は、Ⅳ期の遺構群の中で、最も新しいもので、他の遺構を切って構築されている。掘り込み面が確認できる３号暗渠は、２ｂ層上面から掘り込まれており、２ａ層に覆われている。７号暗渠のみが、他と様相が異なるが、１～６号暗渠は、規模・構造が共通し、方向も２号がＮ―23°―Ｗで、他がＥ―24°―Ｎとほぼ同じである。撹乱によって破壊されたり、調査区外に伸びるものもあり、全体の様相が判るものはないが、３号暗渠は西端で南に折れている。５号暗渠は、西端が検出されている。１号暗渠と２号暗渠が接する部分は、撹乱によって破壊されており、両者の関係は不明である。また、３号暗渠には、中ほどで３号木箱埋設遺構が取り付き、伴うものと考えられる。いずれも上幅40～70cm、下幅30～60cm、深さ80cm～1.0mの溝中に、河原石などの礫を詰めている。

【７号暗渠】（図41、図版15）

Ｇ・Ｈ―29区で検出された、溝に礫を詰めた東西方向の暗渠で、方向はＥ―22°―Ｎである。東西とも撹乱で破壊されている。途中で北側に分岐して伸びるが、６号暗渠との前後関係はとらえられていない。この分岐する所の北東側に４号木箱埋設遺構があり、伴うものと考えられる。上幅2.0m、下幅1.9m、深さ1.0mで、他の暗渠と比べて幅広で、中に入れられている礫も大きい。

【１号土坑】（図40、図版16）

Ｅ・Ｆ―25区で検出された。２号土坑に切られているため全体の形状は不明である。埋土中

図38　Ⅳ期遺構配置図

Fig.38 Distribution of features at NM5(phase Ⅳ)

図39　IV期検出遺構(1)

Fig. 39 Features of phase IV at NM5(1)

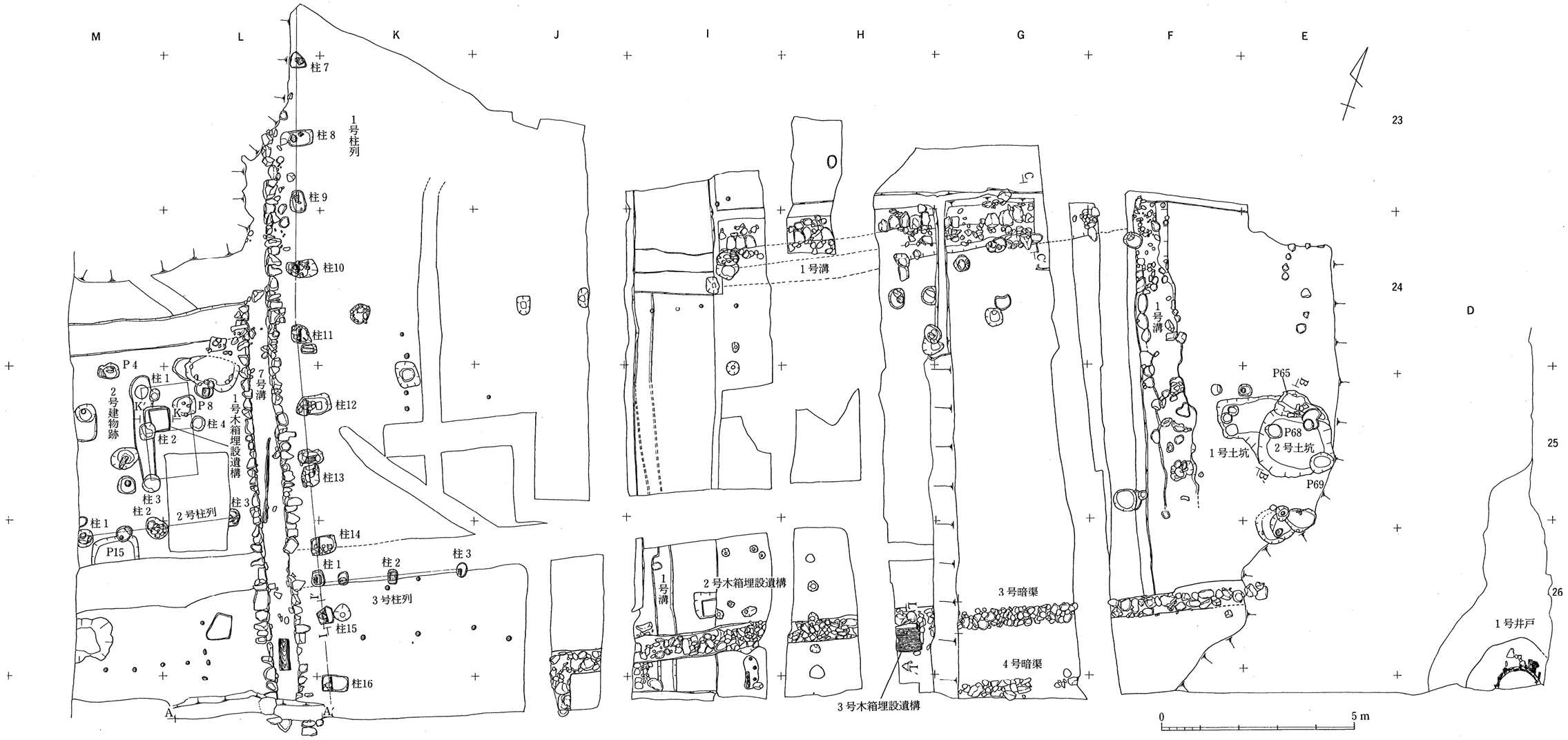


図40　Ⅳ期検出遺構(2)

Fig.40 Features of phase Ⅳ at NM5 (2)

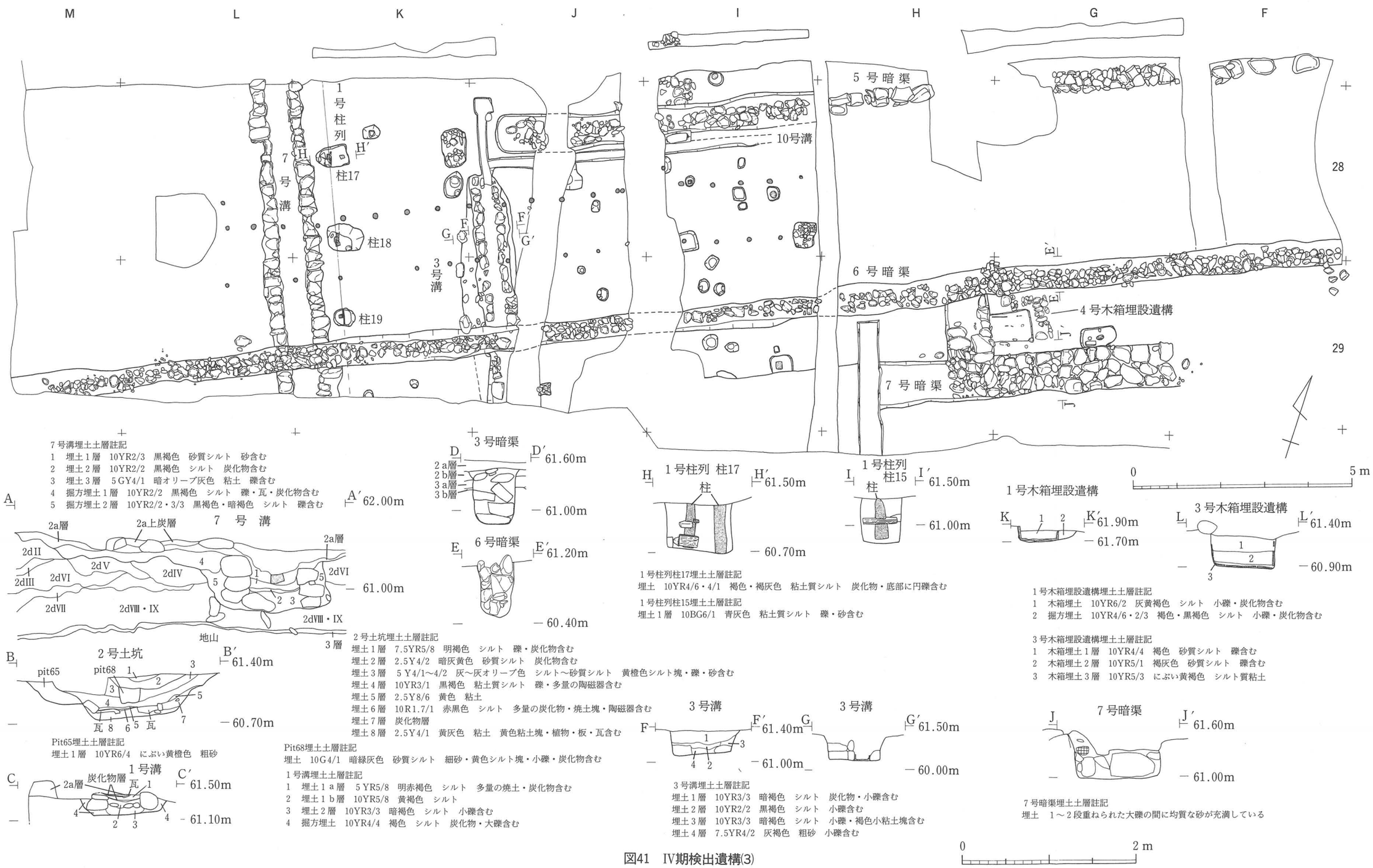


図41 Ⅳ期検出遺構(3)

Fig. 41 Features of phase Ⅳ at NM5(3)

から19世紀前葉～中葉に位置づけられる磁器の中型丸碗（図45―445）が出土している。また埋土下部には丸瓦（図76―13・14）や板塀瓦（図78―24～26）が多数認められ、ゴミ穴として利用されたと考えられる。

【２号土坑】（図40・41）

１号土坑を切って掘られている。平面は隅丸の正方形に近く、一辺はおよそ1.8mである。埋土は８層に細分される。埋土の途中（３層上面）からピットが掘り込まれており、完全に埋没するまでにかなりの時間を要したと考えられる。埋土６層には瓦が多く、３～４層では陶磁器が多量に出土した。１号土坑同様、ゴミ穴と考えられる。陶磁器には瀬戸産の磁器（図45―439・440）や大堀相馬産の陶器土瓶（図58―314・315、図59）が多い。出土遺物の多くは19世紀前葉～中葉に位置づけられる。

【１号井戸】（図40）

Ｄ―26区に位置し、南半部を米軍共同溝により失っている。井戸の外枠は、レンガを円形に組んでおり、レンガの内側には板材が残存していた。埋土からは、19世紀中葉に位置づけられる大堀相馬産の鉄絵土瓶の蓋（図60―309）や洋釘、薬莢などが出土している。

【１～４号木箱埋設遺構】（図40・41、図版16）

１号木箱埋設遺構は、Ｍ・Ｌ―25区で検出された。約0.7m四方の正方形の掘り方の中に、東側に寄せて木箱を埋設している。木箱は一辺約50cmの正方形で、現存高はおよそ15cmある。位置的にみて、２号建物は本遺構の覆屋であった可能性が高い。

２号木箱埋設遺構は、１号溝に囲まれたＩ―26区で検出された。規模、構造は１号木箱埋設遺構に類似する。本遺構の周辺にも柱穴と考えられるピットが存在しており、覆屋を伴っていた可能性がある。

３号木箱埋設遺構は、３号暗渠の南側、Ｈ―26区で検出された。本遺構は、３号暗渠の南側に張り出す形で構築されており、木箱の内部に溜まった内容物は、暗渠を通じて排出される構造であったと考えられる。木箱は、一辺約75cmの正方形で、現存高はおよそ30cmある。木箱とその掘り方の間には、ほとんど隙間がない。木箱の東側に接して石を並べた痕跡が認められることから、本来は暗渠のある北側を除いて、木箱周辺に石が敷かれていたと考えられる。

４号木箱埋設遺構は、６号と７号暗渠に挟まれたＧ―29区で検出された。木箱は、一辺約50cmの正方形の掘り方の中に埋設されている。本遺構は、西側で７号暗渠と接しており、両者は一連の施設であったと考えられる。また、７号暗渠のある西側を除いて、６号暗渠と７号暗渠に挟まれた木箱周辺には石が敷かれている。

4. 出土遺物

第５地点の調査では、これまでの仙台城二の丸跡の調査の中では、最多量の遺物が出土した。その種類も多岐に渡っており、これまでには出土していなかったものも多い。そのため、江戸時代の遺物については、可能な限り資料提示に努めたが、明治時代以降の遺物については、基本的に省略することとした。また、陶磁器・土器・瓦については、共伴遺物や層序関係から、年代が限定できる重要な一括資料があり、詳細に検討を加える必要がある。しかし、紙幅の関係もあり、翌年度に実施した付帯施設区域の調査（４次調査）を含め、第５地点に関する全ての報告が終了した段階で、翌年度の年報（年報７）において、改めて検討を加えることとしたい。そのため、これらの遺物については、資料提示を旨とし、概要を指摘するにとどめることとする。

(1) 陶磁器・土器・土製品

【陶磁器】（図42～61、図版17～33、表14～18）

接合、同一個体の認定作業後の総破片数は、磁器3313点、陶器4280点を数える。時期的には、17世紀前半から現代のものまで様々な時代の資料が含まれる。量的には19世紀前葉から中葉の資料が最も多く、18世紀代の資料がこれに次ぐ。仙台城二の丸跡のこれまでの調査は大部分が19世紀代の遺構に集中しており、17～18世紀代に関しては断片的な資料しか得られていなかった。そのため今回第５地点の調査報告では、17～18世紀の陶磁器資料に関しては全体の様相を呈示できるようできるだけ図化につとめた。19世紀の陶磁器に関しては、同じ類型の資料が複数ある場合、代表例を呈示するにとどめている。以下、時期毎の概要を述べる。

17世紀前葉の資料には、鉄釉で唐草文を描いた志野の小皿（図53―242）や、吹墨技法を用いた肥前産の染付小皿（図48―480）などが見られる。出土量はごく僅かであり、新しい時代の堆積層や遺構に混入して出土する例がほとんどである。

17世紀中葉の資料は、草花文などを描いた肥前産の染付磁器小皿類が若干見られる程度で、依然として量的に限られる。舶載品では、北区Ⅶ―10層から明末清初と考えられる色絵磁器が出土している（図46―454）。この資料はいわゆる「呉須赤絵」に属し、近年遺跡からの出土が注目され始めた福建省平和県漳州窯系製品に類似する。

17世紀後葉には、肥前産の染付丸碗が一定量存在する。色絵の磁器人形（図50―513・514）も見られる。陶器では唐津産の壷や大鉢がある。この時期の資料は、南区の３層や北区のⅦ層から出土する。遺構では、Ⅱａ期の４号土坑からこの時期の資料が出土している。

17世紀末から18世紀初頭に到り陶磁器の出土量は急増する。北区のⅦ～Ⅵ層、南区の３ａ、２ｄ層など、西屋敷廃絶後に使われなくなった池の埋土や元禄年間の二の丸拡張に伴うと考え

られる整地層から当該期の遺物が出土する。肥前磁器では、いわゆる「くらわんか手」の碗類（図42—407・409）や染付の小皿類（図46—456）、波佐見産と考えられる青磁小皿（図46—455）が多く見られるようになる。磁器には、複雑な文様を刻んだ比較的丁寧な作りのコンニャク印版が用いられる（図44—437,図46—459）。肥前産の陶器では、京焼写しを含む灰釉丸碗類（図51—201～205・211・213）や刷毛目文碗（図51—208,図52—239）、見込部分を蛇ノ目に釉剝ぎした銅緑釉の小皿類（図53—243・244）が認められる。前代に引続き、壺、大鉢、擂鉢などの大型製品は、唐津産が主体であったと考えられる（図54—252～256,図55—262）。この段階に、肥前製品に比べれば僅かな量ながら、大堀相馬系と考えられる灰釉丸碗（図51—206・212）が出現する。大堀相馬の創業年代に関しては、今日まで窯跡の調査が進んでいないため確定できていない。本遺跡の資料は、共伴する記年銘木簡や肥前産磁器から、17世紀末から18世紀初頭（元禄年間）に大堀相馬が操業していた可能性を示すものとして重要である。

18世紀前半では、Ⅲａ期、中奥古段階の３号土坑に一括資料が存在する。肥前磁器では、染付の碗皿類（図44—433～435）、猪口（図45—448・449）、糸切り技法による変形小皿（図48—484）などが認められる。陶器では、肥前製品と大堀相馬製品とで量的比率が逆転し、後者が多数を占めるようになる。大堀相馬製品は多様化し、鉄釉流し掛けの皿（図53—245）、腰部に刻線を有する腰錆（掛け分け）碗（図52—238）、灰釉の仏飯器（図61—333）などが新たに加わる。大堀相馬製品以外では京・信楽系と考えられる灰釉筆筒（図57—345）が見られる。

18世紀後半の良好な遺構一括資料はないが、北区のⅢ層や、南区の２ｃ層・２ｂ層に、この時期の資料が比較的多く見られる。陶器ではさらに大堀相馬製品の比率が高まり、器種も一層多様化する。それまで量的に限られていた瀬戸製品も石皿（図53—247・248）などの器種が一定量見られるようになる。

19世紀前葉から中葉では、Ⅳ期の１号溝、１・２号土坑から比較的多くの資料が出土している。磁器では器種によって産地に違いが認められる。すなわち、皿類では引続き肥前製品が主体を占めているが、碗類は瀬戸が中心となり肥前製品は減少する。瀬戸産の磁器は、中型の端反碗（図45—440）や小型丸碗（図45—438・439）を主体に、小坏（図43—420）や合子（図50—500）といった器種が認められる。量的には少ないが、切込焼の碗（図45—443）や平清水焼の皿（図49—490）といった東北の地方窯の製品も存在している。陶器は、若干の瀬戸製品が見られる以外は、圧倒的に大堀相馬製品によって占められる。大堀相馬製品の多様化は前代にも増して進み、各種の碗皿類に加え、火入れ（図57—291）、片口鉢（図54—258・259）、土鍋（図61—325～327）、行平鍋（図61）、水注（図57—331）、秉燭（図61—334・335）、土瓶（図58、図59—328～330、図60—309～312・318・323・324）といった日用製品が数多く認められる。内側に「天保十四□」の墨書のある土瓶の蓋（図60—304）は、大堀相馬製品の編年を考えていく上

で重要である。地元の製品では、堤焼の可能性が高い大皿や大甕、秉燭（図61—336,337）が出土している。

【土器】（図62～66、図版34～37、表19～21）

接合作業後の総破片数は、土師質土器10,259点、瓦質土器227点、軟質施釉土器323点で、土師質土器が、陶磁器も含めて最も数が多い。ただし、土師質土器はほとんどが皿であり、数が多い上に形態・技法の差が少ないため、特殊なものを除いては、遺構・層を越えての接合は行っていない。

仙台城二の丸跡のこれまでの調査では、幕末を中心とした19世紀代の資料が多く、土器類については良好な資料に欠け、第2地点・第3地点で若干の資料が報告されていただけであった（年報1）。二の丸跡では、今回の調査出土の資料が、まとまった初めての資料となる。そのため、ある程度特徴の判明する資料については、可能な限り提示するように努めた。

土師質土器には、皿、耳皿、焼塩壺、火消壺の蓋、鉢類などが認められる。元禄年間の整地層と考えられる北区18・19列Ⅴ層・Ⅵ層・Ⅶ層と南区東部3ｂ層上面、同じく元禄年間のⅡａ期4号土坑、二の丸期のⅢａ期3号土坑において、まとまって出土している。元禄年間以前の層では、北区18・19列Ⅷ層、南区3層などからも出土しているが、量はあまり多くない。

土師質土器の圧倒的多数を占める皿は、ロクロ整形で、外面をミガキあげたもの以外は、全てロクロ整形・回転糸切りによるもので、手づくねのものは見られない。形態でも大きな違いが認められないため、残存状況を基準に資料化する遺物を抽出した。口縁端部から底部まで残存しており、かつ全体のほぼ半分以上が残っているものを資料化している。この基準を満たさなくとも、形態の特殊なものや、墨書や穿孔のあるものは、全て図化した。図63—66は、外面全体に「御目付」「永」などの字を習書したものである。土師質土器皿の中で、Ⅲａ期の4号土坑出土のもの（図64—41～50）だけは、器高が低く、浅いものが主体を占める点で、他の資料とは異なる。

瓦質土器は火鉢と考えられる鉢類がほとんどで、特に集中して出土しているところはない。残存状況が良くないものが多く、資料化し得たのは6点だけである。

軟質施釉土器としたのは、透明釉をかけたもので、蓋が1点（図65—102）ある以外は、確実なものは全て焙烙である。いずれも19世紀代以降と考えられるので、代表的なものを資料化した（図65—103・104）。それ以前の層・遺構からも出土しているが混入であろう。焙烙は、これに類似したものが、戦後まで堤において作られている。

【土製品】（図65、図版65、表43）

8点と出土量は少ない。細片以外のものは図化した。99は碁石であると考えられるが、他は用途不明である。101は瓦質である。

⑵　瓦

①　分布

基本層では、調査区全域に分布する２ａ層から最も多くの瓦が出土している。また、元禄年間の二の丸拡張に伴う整地層と考えられる北区Ⅴ層、⑥、⑦層や南区２ｄ層にも多量の瓦が含まれていた。特に北区20～22列では、窪地を南から北側に向けて盛土による整地を行っており、一連の厚い整地層に多くの瓦が含まれている。遺構では、Ⅳ期の１号柱列、１号土坑、７号溝、Ⅲｂ期の門跡２、８号溝、Ⅲａ期の９号溝、３号土坑、Ⅰｂ期の12号溝、Ⅰａ期の20号溝でまとまった量の瓦が出土している。

②　分析方法

一般に、近世の城館には様々な建物が存在し、それに応じた多種多様な瓦が出土する。また地点によっては、同じ種類の瓦が多量に廃棄されている場合もある。近世遺跡から出土する瓦については、遺跡の種類によって他の遺物に比べ出土量が大きく異なることもあり、その取扱い方は、資料の採集から資料化の方法まで、報告者の間で違いが大きい。本地点の調査時には、仙台城二の丸における瓦の種類について限られた知見しか得られていなかったため、はじめから現場で資料の選択を行うことなく、できる限り全ての瓦を採集するように努めた。そのため、限られた時間の中で本地点の瓦の特徴や傾向性を報告書に記載するには、種類の同定が困難な細片を含む多量の瓦をどう数量的に処理するか、どの様な瓦を資料化をすれば良いかが重要な課題となった。

出土した瓦の大別およびその基準は、基本的に第７地点の報告に依拠している（年報４）。この基準では、緩やかに弯曲するものを「平瓦類」とし、全く平らなものは「その他の瓦」に分類した。「平瓦類」には、平瓦、瓦当部分を欠いた軒平瓦、桟部分を失った桟瓦類や棟瓦（伏間瓦）が含まれる。全く平らな瓦の大部分は、板塀瓦と熨斗瓦で占められると考えられる。第７地点の場合、板塀瓦は確認されておらず余り問題にはならないが、本地点では相当数の板塀瓦が出土している。全く平らな瓦を「その他の瓦」に含めてしまったことで、板塀瓦の存在から塀の位置、規模、構造などを考えていくことが難しくなってしまい、資料操作上の問題が残った。「その他の瓦」のうち主な瓦としては、板塀瓦以外に、棟瓦、熨斗瓦、鬼瓦、仮称「Ｔ字瓦」などがあり、種類は不明なものの明らかに大別名称を挙げた瓦以外と判断された資料も含んでいる。「不明」としたものは細片であり、種類の同定が不可能な資料である。

本地点では、表土や撹乱の中からも多量の瓦が出土しているが、これらは層位的な検討が困難なことから集計を行わないこととし、１層以外の基本層や遺構出土の資料とは別に次のような基準を設けて資料の抽出を行った。抽出資料は全て図化し、併せて諸属性の観察を行った。

平瓦・桟瓦・熨斗瓦：幅および長さが計測可能な資料

丸瓦：玉縁の部分を含む長さが計測可能な資料

軒平瓦・軒丸瓦：瓦当が半分以上残っている資料

その他の瓦については、上記の基準に準じて適宜抽出した。例外として刻印、ヘラ描きなどの認められる瓦は種類や残存の度合に関係なく全て資料化した。

１層以外の基本層や遺構から出土した瓦については、数量的分析を目的として層位毎、遺構毎の集計を行った。資料の抽出は次のような基準で行い、諸属性を観察した。

平瓦・丸瓦・桟瓦・輪違い・面戸瓦・棟瓦・熨斗瓦：幅、長さのどちらかが計測可能な資料

軒平瓦・軒丸瓦：瓦当の一部が残っている資料

その他の瓦のうち鬼瓦などの特殊なものは全て抽出した。資料の図化は、表土、撹乱出土の資料と同じ基準で行った。

③　各種類の特徴

【軒丸瓦類】（図67～70、図版39、表22）

軒丸瓦以外に鳥伏間（図69―80）や、大きさから菊丸と考えられる資料（図70―88・89，143）を含む。軒丸瓦の瓦当には、三引両文、九曜文、連珠巴文、巴文が認められる。形態的には、九曜文、連珠巴文、巴文の瓦は、三引両文を施文する瓦に比べ瓦当の直径で約１～２ｃｍ程度大きい。内区の直径には顕著な違いは認められず、この大きさの違いは、三引両文の瓦の周縁幅の狭さに起因している。仙台城三の丸跡の調査では、軒丸瓦の文様が巴文から九曜文に変化するとの指摘がなされているが(結城1985)、今回の調査地点では、そのような傾向を確認できなかった。

【軒平瓦類】（図70・71、図版40、表23）

軒平瓦以外に、小巴部を失った軒桟瓦の垂れ部を含む。全て瓦当部に文様を持つ。

瓦当部の中央には、三枚笹文、雪持笹文、梅文、桔梗文、四弁花文が確認できる。雪持笹文は、笹の葉に太いものと細いものとが見られる。桔梗文には、花弁の先端が剣先形のもの（剣形桔梗文）、花弁が細いもの（細桔梗文）、唐草文との間に三日月状の付加的な要素が加わるもの（特殊桔梗文）がある。

唐草文は、形態により大別５類型、細別８類型が確認された。唐草文は、中央部の文様と対応関係を有しており、両者の組合せから10種類の瓦当文様が抽出できた。

Ａ　三枚笹文＋唐草１類（図70―91・105）

Ｂ　雪持笹文＋唐草２類

　Ｂ１　雪持笹文（細葉）＋唐草２類（図70―99・100）

　Ｂ２　雪持笹文（太葉）＋唐草２類（図70―97・107・111）

Ｃ　梅文＋唐草３ａ類（図71―96・103）

D　桔梗文＋唐草３類

Ｄ１　剣形桔梗文＋唐草３ｂ類（図71―98・106）

Ｄ２　細桔梗文＋唐草３ｂ類（図71―93・101・108：101と108は同笵）

Ｄ３　特殊桔梗文＋唐草３ｃ類（図71―102・104）

E　四弁花＋唐草３ｄ類（図71―90・110）

F　？＋唐草４類（図70―94・95）

G　？＋唐草５類（図72―109）

Ａ類は、19世紀代の堆積層や遺構の埋土からのみ出土しており、文様の構成が軒桟瓦（図72―158）と共通することから、小巴を失った軒桟瓦の垂れ部と考えられる。Ａ類以外では、本来的な帰属層が特定できないＥ類を除き、大部分が二の丸の拡張に伴うと考えられる一連の大規模な盛土層やそれらを掘り込むⅢａ期の遺構から出土している。宮城県松山町の上野館跡からは、「明和四年」（1767年）の刻印を有するＢ類が出土している　**（佐久間・佐藤ほか 1993）**

【軒桟瓦】（図72、図版40・41、表24）

瓦当に文様を持つものと無文のもの（万十）とが存在する。小巴には連珠巴文と巴文が、垂れには唐草１類が確認できる。出土層位から、いずれも19世紀代以降の所産と考えられる。

【平瓦類】（図73・74、図版41・42、表25）

長さは最小148㎜、最大385㎜を測る。平均値は256㎜である。予め谷の部分に溝状の筋目を入れておき、焼成後に筋目に沿って二分割して用いたと考えられる資料（図73―４・５・７）が存在する。北区の２層とⅢ層から、凹面全体と側面、凸面の一部に鉄釉を施した資料が１点づつ出土している（図73―１・２）。

【丸瓦類】（図74～77、図版42・43、表26）

胴部長は210㎜から320㎜まで分布し、平均は274㎜と、平瓦の平均的な長さよりも大きい。元禄期と考えられる盛土から出土したものの大部分は26～28㎝台に集中し、ある程度大きさにまとまりが見いだせるのに対して、上層には様々な大きさのものが存在している。図77の136・137は、凸面に焼成後、クギ状工具で彫られた紀年銘を有している。137は「□政五」という文字が確認でき、寛政五年（1793年）、文政五年（1822年）、安政五年（1858年）の可能性が考えられる。図77の10は、焼成後、凸面にクギ状工具で蓮華状の文様が彫られている。

【板塀瓦】（図78・79・85、図版45、表28）

表土から２点、２ａ層から３点、１号土坑から４点出土している。層位的にみて、全て幕末から明治の可能性が高い。１点を除き、他は全て左桟である。桟と反対側の辺に沿ってＶ字状の小溝が切られており、この溝は、瓦を固定するための穴が開いている側、すなわち瓦を葺いた場合に上辺となる側が浅く、下側に深くなるように切り込まれている。溝は、使用時には桟

の下に隠れており、雨水がこの部分に溜るのを防ぐ意味があったと考えられる。穴の開いている上辺部分を厚くしたもの（図78―１・２）は、瓦を固定した際に力が加わり破損しやすい穴の周辺を補強した改良型と考えられる。桟となる粘土板を接着させる際には、接着面に切込みを入れ、接合面から桟が剝がれるのを防いでいる。

【熨斗瓦】（図80、図版44・46、表29）

全て耳の付く紐熨斗瓦であり、いずれも撹乱から出土している。明治以降、近代のものである。上面に、波形の櫛目を施す例も見られる。

【桟瓦】（図80・81、図版44、表27）

層位の明確なものでは２ａ層が多い。形態的には、片側に袖の付くタイプ（袖瓦）や、裏面に三角形の引っ掛けを２個有するものも見られる。裏面に平行する櫛目を施したり、「宮」の字と漢数字２文字を組合せた刻印を押す場合がある（図81―30、図89―30～32・41～45）。「宮」刻印には、数字の組合せにより、「宮一五」、「宮二九」、「宮三？」、「宮四六」、「宮四七」、「宮五六」、「宮五七」の７種類が確認できた。「宮」刻印に関しては、これまでの仙台城二の丸跡の調査で、第３地点から「宮四九」が（年報１）、第６地点からは「宮五六」が出土している（年報３）。

【輪違い】（図82、図版47、表30）

北区のⅦ層や、Ⅲ期の遺構から多く出土している。長さは最大156㎜、最小117㎜で、13ｃｍ程度のものが多い。

【面戸瓦】（図83・84、図版47・48、表31）

正確には用途が特定できていないが、隙間を埋めるのに用いたと考えたことから、これまで面戸瓦に分類してきており、今回も同じ名称を用いた。層位的には、南区の３ｂ、３ｃ層、北区のⅧ層を除き、ほぼ全ての層から出土している。遺構では、Ⅲａ期の９号溝やピット316からまとまった量が出土している。幅は平均121㎜、長さは平均93㎜を測る。内面に型から離す際に付いたと推定される縄紐の圧痕を残す資料がある。

【その他の瓦】（図85～89、図版46・49～51、表32）

棟瓦（図85―145・146）

角桟伏間瓦と角桟冠瓦がある。層位の判明する資料は、全てⅣ期の遺構から出土している。

仮称「Ｔ字瓦」（図86―148～150）

幅が80～100㎜程度の細長い瓦で、中央部に突起を持ち、断面が凸形になる。突起は一方の端にも付いており、突起部はＴ字状を呈する。もう片方の端は、斜めに切り落とされている。中央の突起部には２箇所以上、瓦を固定するための穴が、突起とは反対の平らな面から穿けられている。仙台城三の丸跡では、このタイプの瓦を「Ｔ字瓦」と呼称し、棟の部分に用いる道具

瓦の一種と報告している(結城1985)。仙台城二の丸跡のこれまでの調査では、第6地点において、18世紀前葉以前に埋没したと考えられる溝の埋土から1点出土している(年報3)。第5地点では、全体で40点が出土している。基本層では、南区の2d層・2c層から比較的多く出土している。遺構に伴う例としては、IIIa期の3号土坑、13号柱列、IIIb期の門跡2、5号柱列、IV期の1・2号土坑から出土している。機能としては、穴と溝を有する偏平な瓦(図88—153)と組み合わせ、交互に配置することで、塀に用いた可能性が考えられる。即ち、穴の開いている辺を棟側にして偏平な瓦を据え、隣に突起を下に向けた「T字瓦」を置く。「T字瓦」の突起は両側から偏平な瓦に挟まれ、2種類の瓦はブロック状に嚙み合う形となる。この時「T字瓦」は斜めに切り落とされた辺が棟側にくる。この2種類の瓦の関係は、ちょうど丸瓦と平瓦の関係と同じで、丸瓦と平瓦が組み合うことで桟瓦が生まれたように、「T字瓦」と穴と溝を有する偏平な瓦が組み合うことで板塀瓦が生み出されたと考えられる。第5地点の場合、板塀瓦はIV期のものしか確認されておらず、III期以前の段階に、「T字瓦」と偏平な瓦が塀に用いられていた可能性は高い。

刻印のある瓦(図88・図89)

先に桟瓦の項で述べた「宮刻印」以外の刻印は、「紋様型」と「文字型」に大別できる。「紋様型」は、円や円の内部に四角、三角、丸などの図形を配置する。「文字型」には、漢字もしくは片仮名の1文字が使われる。文字の周囲を円や四角で囲うものと、文字だけのものがある。細片が多く、類型毎の出土点数も少ないことから、瓦の種類によって、刻印に違いがみられるのかなどの検討は難しい。刻印の押される部位との関係では、「紋様型」がいろいろな部位に見られるのに対して、「文字型」は側面に多い。出土層位からみて、「紋様型」が「文字型」より古く位置づけられる可能性が高い。

偏平な瓦(図87・図88—153)

偏平で、特に突起などを持たない板状の瓦である。溝と穴を有するもの、穴だけを有するもの、溝も穴も持たないものが存在する。溝と穴を有する偏平な瓦に関しては、先に、その大きさと形状から、仮称「T字瓦」と共に塀に用いられる可能性を指摘した。溝も穴も持たないタイプの瓦は、「海鼠瓦」と報告される瓦(東京大学遺跡調査室1990a)に類似している。

瓦加工品(図89—159)

偏平な瓦を長さ43㎜、幅32㎜、厚さ16㎜の立方体に加工している。側面は丁寧に擦って仕上げられているが、表裏面はもとの瓦の表面のままである。一面に篆書で文字を刻んでいる。

⑶　木製品

整理作業の便宜上、木製品として一括したが、漆塗製品や竹製品、植物繊維で編まれたものも含んでいる。箸・杭・加工木・木羽以外のなんらかの製品、もしくはその部材と考えられるものについては、保存処理の関係もあり、全て登録番号を付してある。観察表には資料化したもののみを記載しており、番号が抜けるものが多いのは、このためである。

杭・加工木・木羽は集計のみで、図示したものはない。杭は、角杭と丸杭に分けて、点数を集計した。加工木は、板材・角材・丸材・細片に分類して集計した。横断面の短辺と長辺の比率が、おおむね１：２より大きいものを板材、それより小さいものを角材とした。北区18・19列のⅦ層、７号溝、15号溝などで多量に出土している。木羽は重量を計測して、集計した。北区18・19列のⅦ層において、大量に出土している。

【木簡】（図90～94、図版52～54、表34）

23点出土している。１点だけ竹に線刻で字を刻んだものがあるが、これもここに含めている。他に、墨痕のある削り屑と考えられるものが３点出土している。１がⅣ期の２号柱列の柱穴２から、23がＫ―20区の⑥層から出土している以外は、全てＫ―18・19区（基礎９区）のⅦ層とⅥ層からの出土である。

形態と記載内容から、ほとんどが荷札として使われたと考えられるものである。このうち、年代のわかるものが４点ある。２が元禄４年（1691年）、９は「未ノ閏八月」とあることから同じく元禄４年である。18も元禄年間と考えられる。１は享保11年（1726年）であるが、出土遺構は明治期のものである。

【櫛】（図94、図版56、表35）

５点出土しており、いずれも元禄年間かそれ以前の層・遺構からの出土である。92・98・134が白木の櫛で、69は全面黒漆塗り、135にも黒漆が痕跡的に残っている。観察表の法量は、ａが横の幅、ｂが縦の長さ、ｃが縦の長さの内、歯の部分を除いた長さである。（　）内は残存値である。

【箸状木製品】（図95、図版55、表36）

第５地点から出土した箸状木製品は、両端の残る完形資料が215点、一方の端のみ残存する資料が485点ある。この算定基準に従えば、箸の個体数は最小で458本、最大で700本となる。他の木製品同様、北区18・19列のⅦ層に集中しており、449点が出土している。それ以外にも南区の３層、３ｂ層、３ｂ層上面ゴミ層などでの出土が目立ち、大部分が二の丸が拡張される18世紀初頭以前に位置づけられる資料である。

出土した箸状木製品の個体数を算出しそれらの特徴を抽出する目的で、両端もしくは一方の端が残っている資料700点を対象に属性の観察を行った。観察の項目は、長さ（完形品のみ）、

最大径、先端の形状、整形の度合、被熱・炭化の有無などである。

先端は、特に加工を加えず切断面を残すもの（A類）、先細りに作り出すが切断面が残るもの（B類）、先端を尖らし切断面を残さないもの（C類）、ヘラ状に作り出すもの（D類）の4類型が認められた。完形品の観察の結果、両端形状の組合せは8類型が確認された。その内訳は、ＡＡ類181点、ＡＢ類11点、ＡＣ類7点、ＢＢ類6点、ＢＣ類1点、ＢＤ類6点、ＣＣ類1点、ＣＤ類2点で、ＡＡ類が圧倒的に多い。一方の端のみ残存している資料でも、A類413点、B類54点、C類18点、D類0点となりA類の比率が極めて高い。文献に残された箸の名称との対比では、ＡＡ類、ＡＢ類、ＢＢ類、ＢＤ類が寸胴箸に、ＡＣ類、ＢＣ類、ＣＤ類が片口箸に、ＣＣ類が両口箸にそれぞれ相当し、寸胴箸204点、片口箸10点、両口箸1点となる。

長さとの関係では、ＡＡ類が平均235㎜、同じくＡＢ類250㎜、ＡＣ類160㎜、ＢＢ類258㎜、ＢＣ類240㎜、ＢＤ類236㎜、ＣＣ類108㎜、ＣＤ類236㎜となる。名称別の分類に従えば、平均長はそれぞれ寸胴箸237㎜、片口箸183㎜、両口箸108㎜となる。

本遺跡では、長さ約8寸で、断面略円形の、整形痕を残した寸胴箸が最も一般的であると言える。本田総一郎によれば、儀式や祭礼など非日常的なハレの席では長さ8寸以上の中太両細の箸を用い、日常的なケの食事には男性7寸半、女性7寸の片太片細の箸が用いられたという（本田1978）。また本遺跡出土の箸状木製品にみられる傾向は、東京大学本郷構内医学部附属病院地点の池跡から出土した箸（萩尾1990）ともよく符合している。萩尾によって池跡出土の箸は寛永6年（1629年）の将軍家光御成の際の宴会で用いられた可能性が指摘されている。第5地点出土の箸状木製品の大部分を占める17世紀末・18世紀初頭の資料についても、南側に隣接する二の丸で執り行われた宴会で使われ、西屋敷廃絶後荒れ地となっていた庭園の窪地に廃棄されたと考えられる。

【下駄】（図96～98、図版56・57、表33）

15点出土しており、全てを資料化した。33がⅠ期あるいはⅡ期の時期であるほかは、全てⅡ期の元禄年間の層位から出土している。そのうち北区Ⅶ層出土のものが半数以上を占める。一木から台と歯を切り出した連歯下駄、別材で作った台と歯を組み合わせた差歯下駄、歯をもたない無歯下駄に大別できる。差歯下駄はいずれも、台の表に歯のほぞが露出する露卯差歯下駄である。無歯下駄は、中程で前後に分かれる無歯中折り下駄である。それぞれ、台の形態で、角型、丸型、長円型に分けた。

【その他の木製品】（図99～101、図版58～60、表37）

上記以外のものを、その他の木製品としたが、これも元禄年間の北区18・19列のⅦ層からの出土が大半である。これら以外のものも、元禄年間かそれ以前の層・遺構から出土したものがほとんどである。

図99に示したのは、桶や曲物の部材と考えられるものである。103・194・105は桶の側板の取っ手の部分、84は桶の蓋であろう。その他のものは、曲物の底板、もしくは蓋と思われるものであるが、厚さや大きさは様々である。薄いものには、提灯の底板の可能性もある。82には、黒色の樹脂状の付着物が残っており、部分的に側板が残っている。127にも黒色顔料の痕跡が残っており、横にえぐり込みがみられ、これに直角の方向に小孔が開けられている。91・108・110には、中心に小孔が開けられ、91は端近くにも小孔がある。108・110には、端近くに小孔が開けられ、樹皮が通されている。

図100に示したのは、ある程度用途の推定されるものである。85・100・101・102は栓と考えられるもので、112は戸車であろうか。88・93はヘラで、113・114・123は、大きさには大小あるが、いずれも一方の端を薄くしたクサビ状のものである。95は小刀などの把木と思われるもので、目釘孔が把縁近くにある。また、把縁付近に黒色顔料の痕跡が残る。94はピット453から出土した白木の椀で、保存状態が悪く図化しなかったが、同様のものがもう1点同じピットから出土している。89は刷毛で、柄の片面に焼印が押されている。

これら以外の用途不明のものを図101にまとめた。115・124は、先端を尖らせた杭状のものであるが、下端近くに竹製もしくは木製の釘が刺さる。78・129は竹を加工したものである。脆弱で土ごと取り上げているため図化はできなかったが、写真図版60の80は竹を編んだもの、81は草履のようなものである。

【漆塗製品】(図102・103、図版60・61、表38)

第5地点から出土した漆塗製品には、椀（身・蓋）22点、膳足1点、櫛2点、不明17点がある。このうち櫛については別項で白木の櫛とともに触れている。漆塗製品も他の木製品と同様、北区Ⅶ層に多い。

漆椀には、A類：浅めで高台の低いもの（図102—50・57・58,図103—54・71)、B類：深めで腰が張り高台の高いもの（図102—53・68,図103—43・47・59・66)、C類：深めで高台から直線的に立ち上がるもの(図103—42)の3種類が認められる。B類は全て高台内の刳りが浅く、高台内を半球状に深く刳るものは存在しない。B類には口縁部が直立気味のもの、外反するもの、体部に稜線が1条めぐるものが見られる。装飾との関係では、A類、B類どちらにも内面朱・外面黒、内外面黒、内外朱の3タイプがあり、A類では内外朱、B類では内外黒が多い。内外黒漆塗のB類には朱漆で花菱、蔦、鳥などの文様が見られる。椀の文様は全て黒地に朱もしくは金で描かれ、朱地に描かれる例は認められない。C類は1点だけであり内外ともに黒漆である。高台内に人名と考えられる文字を有する資料も比較的多い。これらの漆椀は、中奥新段階の遺構から出土した資料（図103—54）を除き二の丸拡張の元禄年間以前に位置づけられ、大部分は17世紀末から18世紀初頭の資料である。器形の組合せや形態等の全体的な様相は、増

上寺子院群遺跡や旧芝離宮庭園遺跡等の江戸遺跡における当該期の資料と共通する。

膳足（図103―055）は北区Ⅶ層から出土しており、17世紀末から18世紀初頭の資料である。外面に朱、内面に黒の漆が塗布されている。

⑷ 金属製品

金属製品は、鉄製品が多くを占める。鉄製品の内、釘以外のほとんどは、用途の判明しない部材である。鉄製の釘は、和釘と洋釘に分けて集計した。明治期の２ａ層から比較的多く出土しているが、それ以外で、特に集中して出土している場所はない。

【古銭】（図104、図版62、表39）

雁首銭１点を含めて、43点出土しており、全てを資料化した。その内36点と、ほとんどが寛永通宝である。

【煙管】（図105、図版63、表40・41）

吸口11点、雁首21点の、計32点が出土している。雁首の保存状態が悪いもの１点を除く、31点を図化した。分類は、古泉弘氏の編年研究（都立一橋高校内遺跡調査団1985）を参考に、江戸遺跡から出土している資料をも考慮して行った。なお部分名称については、たばこと塩の博物館編集の『きせる』（同博物館編1983）に依拠した。

雁首は、全体の形状から４類型を設定した。Ⅰ類としたものは、首部に肩がつく形式（肩つき）である。本類は脂返しの形状により、脂返しがいったん下方へ大きく弯曲するもの（ⅠＡ類）と下方へは弯曲しないもの（ⅠＢ類）に細分される。いずれも首部は上方には大きく弯曲する「河骨形」である。Ⅱ類としたものは、首部が１本の管で製作されており、肩の接合されない形式である。本類も脂返しの形状により、脂返しが上方に大きく弯曲し河骨形になるもの（ⅡＢ類）と、脂返しが大きく弯曲せず首部が火皿から比較的急に取り付くもの（ⅡＣ類）に細分される。出土点数は、ⅠＢ類１点、ⅡＢ類13点、ⅡＣ類２点、ⅡＢ、ⅡＣの区別不明なもの１点、形式不明４点で、ⅠＡ類は出土していない。全体形状とは別に、火皿に関しても形状分類を行い４類型を設定した。１類としたものは、火皿の深さが口径の半分以上であり、火皿後方に小孔をもつ１ａ類と小孔のない１ｂ類に細分される。２類としたものは、火皿の深さが口径の半分以下であり、１類同様、火皿後方の小孔の有無により２ａ類と２ｂ類に細分される。１ｂ類が最も多く、全体形状との関係では、全ての類型に１ｂ類が存在する。火皿の接合については、火皿と首部の接合部に補強帯をもつ（１類）、火皿と首部の接合部に補強帯をもたず接合面はほぼ水平になる（２類）、火皿と首部の接合部に補強帯をもたず接合面は水平でない（３類）の３類型が認められた。首部は銅板を管状に折り曲げて作られているが、板の合わせ目はラウ側からみて左側にくるものが多い。21点中、５点に鍍金が認められた。

吸口は、全体形状から５類型を設定した。Ｉ類は径の異なる２本の円筒から肩と狭義の吸口を別個に製作するもので、１本の管から作られるものをII類とした。Ｉ類は、肩と狭義の吸口を接合する際に円板をもって径の差を埋めるもの（ＩＡ類）、肩の後部をすぼめ比較的緩やかに狭義の吸口を接合するもの（ＩＢ類）、形態上接合部に段を有していないもの（ＩＣ類）の３類型に細分される。II類は、形態上は肩と狭義の吸口とが分離しているIIＡ類と、形態上も製作上も肩をもたないIIＢ類に細分される。出土点数は、ＩＢ類１点、IIＡ類１点、IIＢ類７点、形式不明２点で、ＩＡ類やＩＣ類は出土していない。11点中、７点に鍍金が認められた。47は「水口煙管」と呼ばれるものである。全体にかなり形の崩れた桐の文様と筋が彫刻され、肩の部分には「水口」・「吉久」の文字が刻まれている。形態や退化した文様から判断して、本資料は「水口煙管」のなかでも新しい部類と考えられる。出土層位からは、17世紀後半以前の可能性が高い。

【その他の金属製品】（図106、図版64、表42）

その他の金属製品では、銅製品を中心に、ある程度特徴が判明するものを資料化した。76～79は、Ｉａ期のピット387からまとまって出土したもので、全て鍍金されている。76は折り曲げられているが匙で、両端に大小の皿部を有し、柄の表面に蕨手状の列点文が配されている。79も折り曲げられているが、のばすと長さ180cmほどとなるへらである。両端とも薄くなっており、また幅も両端近くが中程よりやや広くなっている。用途は明らかではないが、その形態は、眉作り道具の「しんさし」と呼ばれるものに似ている。77・78は薄板を曲げて筒にしたもので、77は一端が閉じられ、キャップ状となっている。その大きさと形態から、77が筆のようなもののキャップで、78が筆などの縁にまいた縁金のようなものになる可能性が考えられる。81はかんざしなどの装飾品の部材であろう。87もかんざしの部材の可能性がある。89は火打ち金で、えぐり込まれた部分に木製の握りが付くと考えられる。96は２本まとまって出土した鉄製の箸で、火箸と思われる。また、小片のため図化しなかったが、背面に魚々子文様を打ち出した鏡も出土している。

⑸　石器・石製品

【石器】（図107、図版65、表43）

石鏃・フレーク・チップが合計９点出土している。石材は頁岩・鉄石英・メノウ・流紋岩がある。いずれも近世以降の遺構埋土・整地層からの出土である。これまでの二の丸跡での調査では、４次調査（年報５）で石器や縄文土器が出土しており、遺構が検出されたことは無いものの、縄文時代の遺跡が周辺に存在している可能性が考えられる。

【石製品】（図107、図版65、表43）

ほとんどが、硯もしくは温石の破片と考えられる、整形痕のある粘板岩などの板状の破片である。これら以外で、ある程度特徴が判明するものを資料化した。Ｓ７は水晶で、両端につぶれたような使用痕跡が認められるため、火打ち石であると判断した。Ｓ４は図化できなかったが、Ｉｂ期のピットからまとまって出土した雲母片で、明確ではないが、端部に、直線的に切断されたような状態を呈するものがある。香をたく時に火の上におく銀葉（香敷）の可能性があるが、やや大きすぎるため、確実ではない。

⑹　骨角製品（図107、図版65、表43）

鼈甲製の簪の可能性のあるもの、２点のみの出土である。Ｂ１は保存状態が悪く図化できなかったが、簪の頭の飾りの部分と考えられる。Ｂ２は棒状の破片である。

⑺　ガラス製品

ほとんどが明治以降のものである。江戸時代の遺構・整地層から出土しているものも若干あるが、混入の可能性が強く、確実に江戸時代のものと判断できるような資料はない。瓶類と板ガラスに大別し、そのなかで瓶類はビール瓶とその他のものに、板ガラスは通常のものと火熱を受け溶融したものに分けて集計した。

⑻　その他の遺物

その他の遺物としたものは、全て明治以降のものである。ボタンに江戸時代の遺構出土のものがあるが、混入であろう。革製品は、ほとんどが軍靴と考えられるもので、出土地点不明のものを除くと、全てⅣ期の７号溝からの出土である。

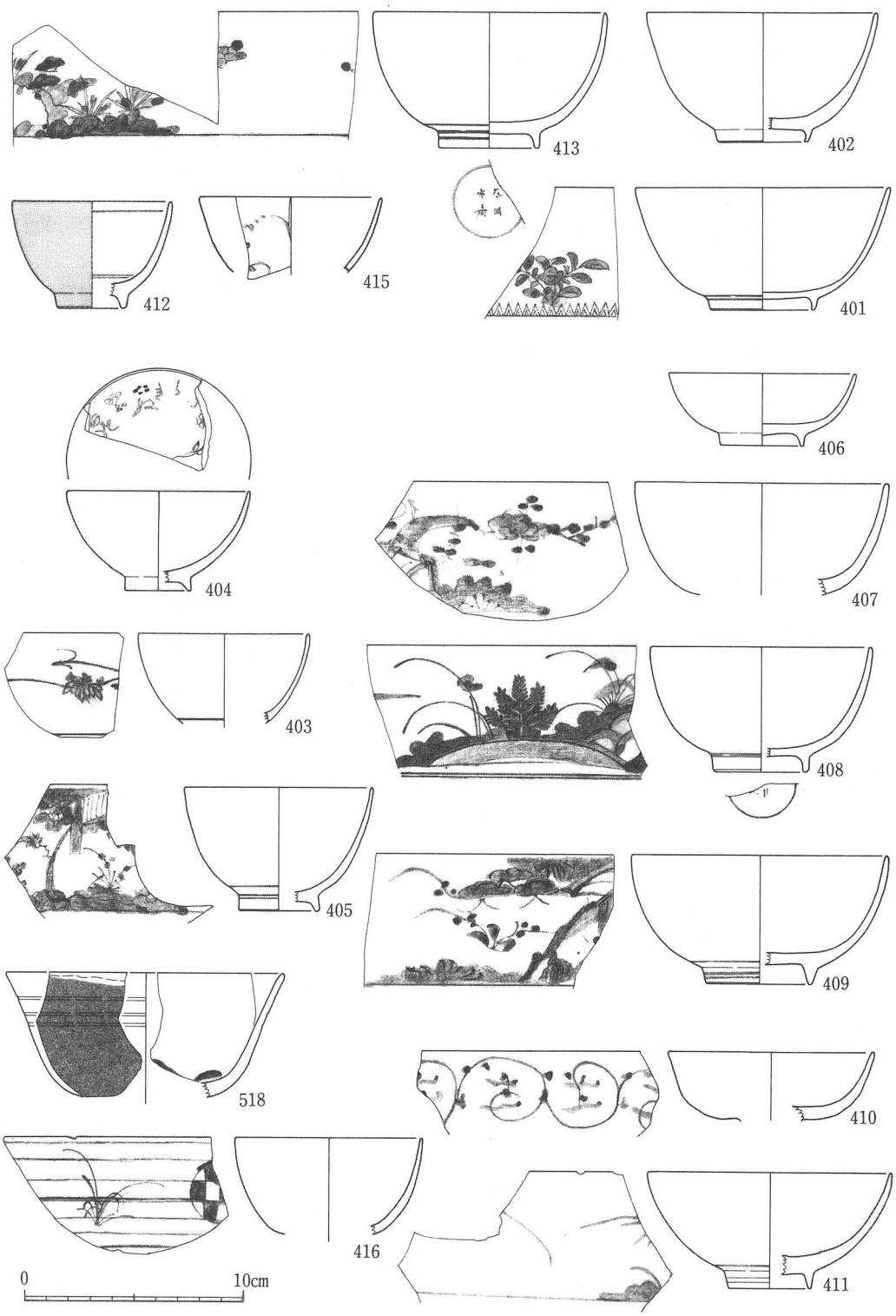


図42　第５地点出土磁器(1)

Fig. 42 Porcelains from NM5(1)

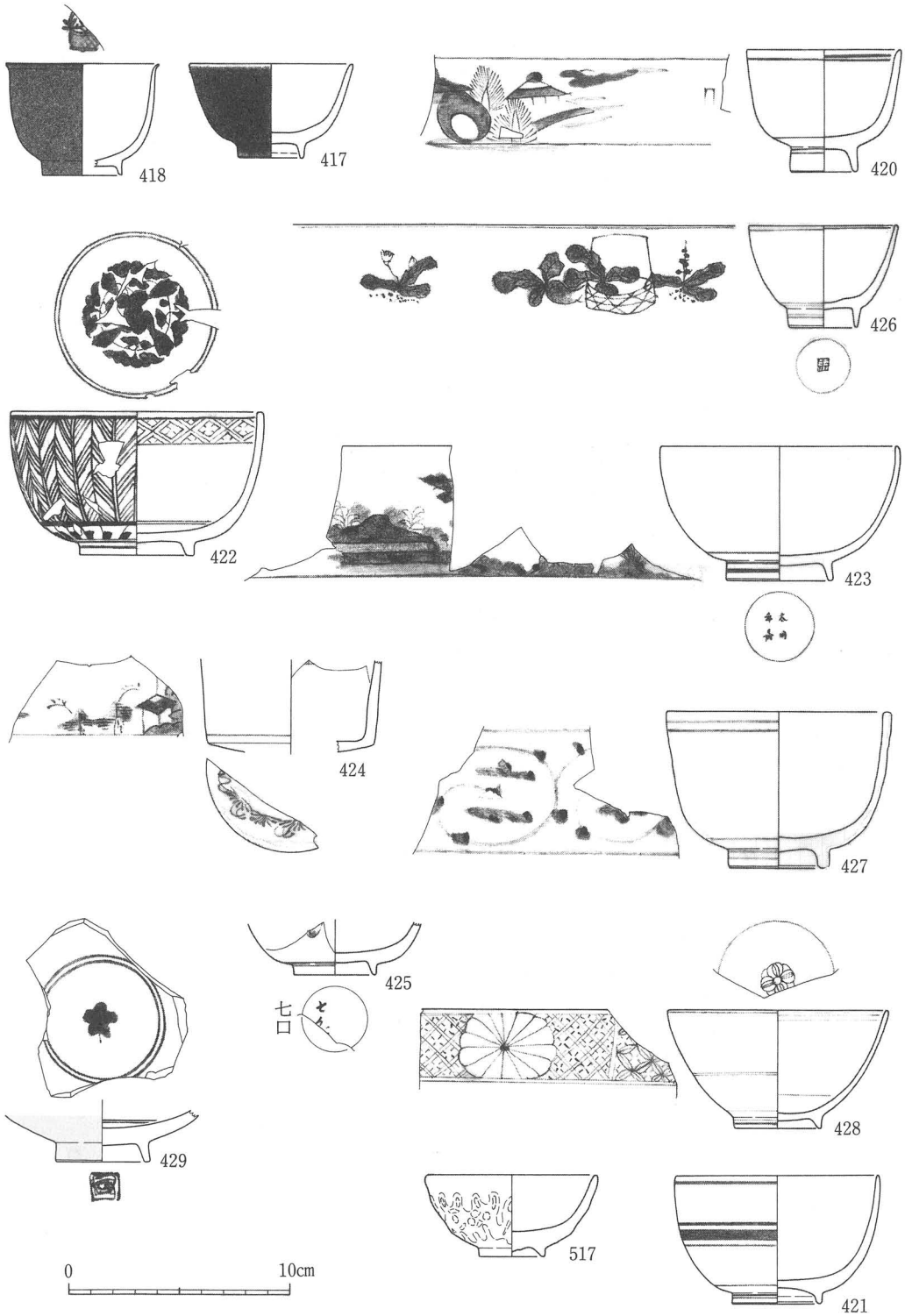


図43　第５地点出土磁器(2)
Fig. 43 Porcelains from NM5(2)

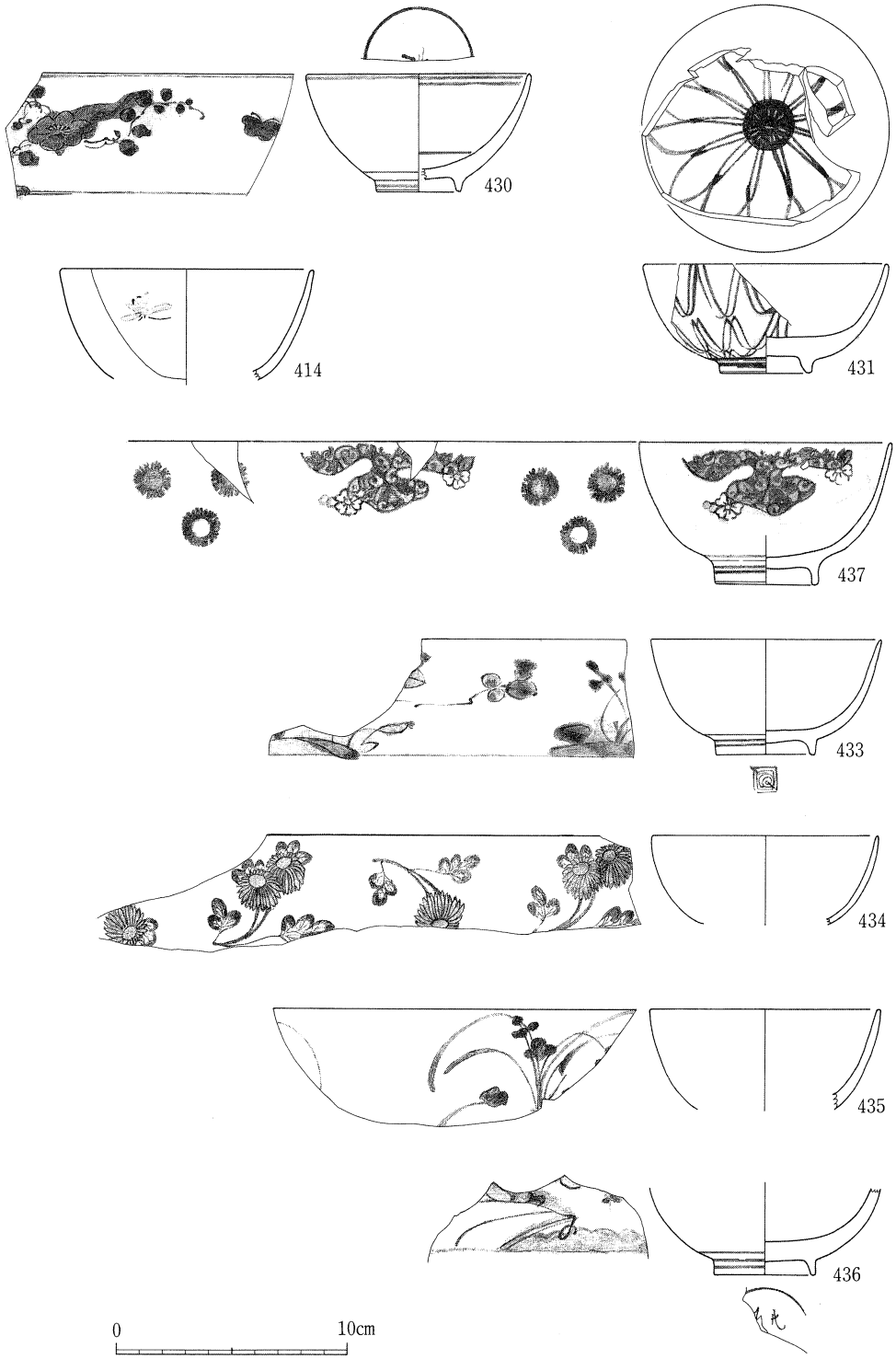


図44　第５地点出土磁器(3)
Fig. 44 Porcelains from NM5(3)

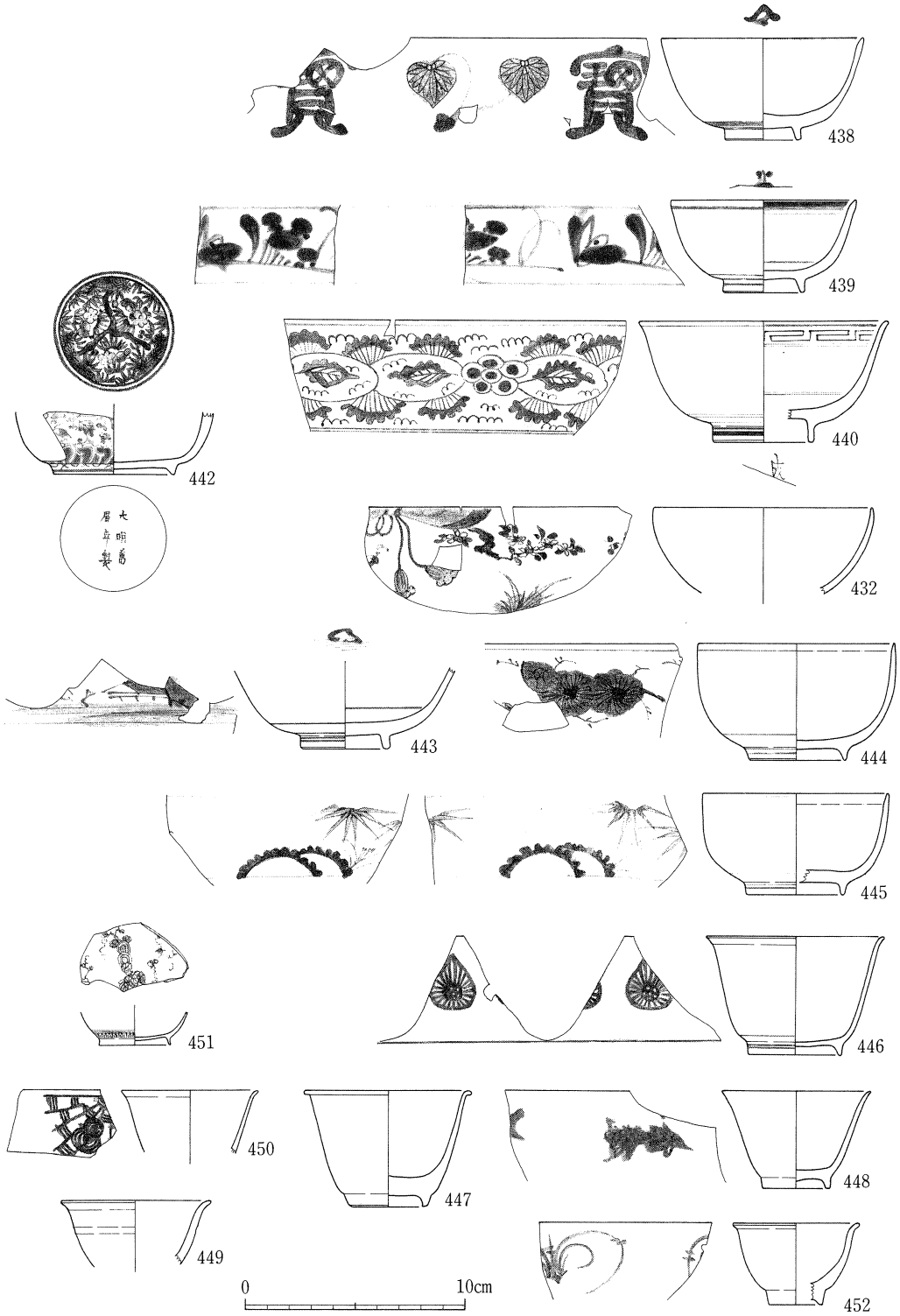


図45　第５地点出土磁器(4)

Fig. 45 Porcelains from NM5(4)

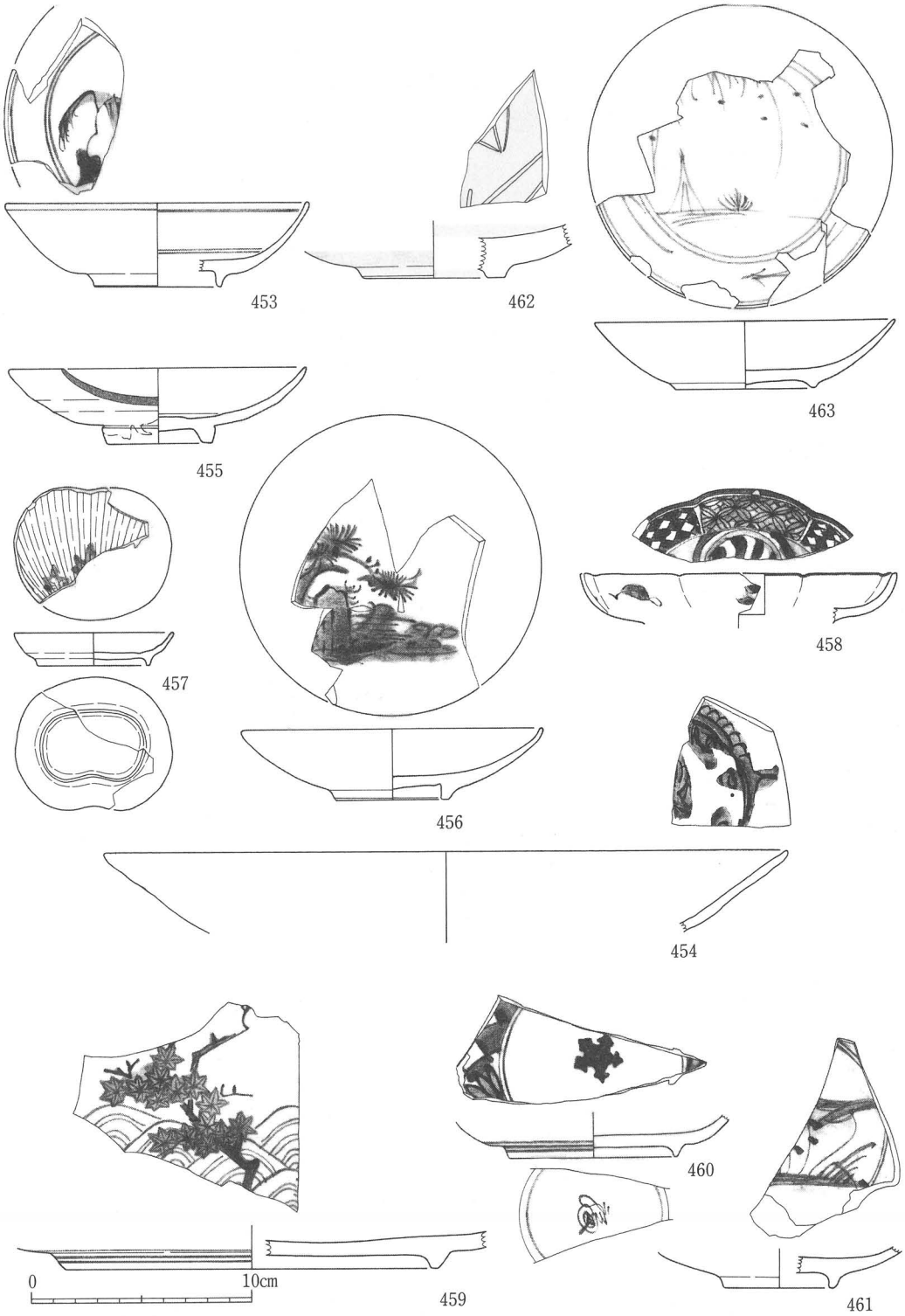


図46　第５地点出土磁器(5)

Fig. 46 Porcelains from NM5(5)

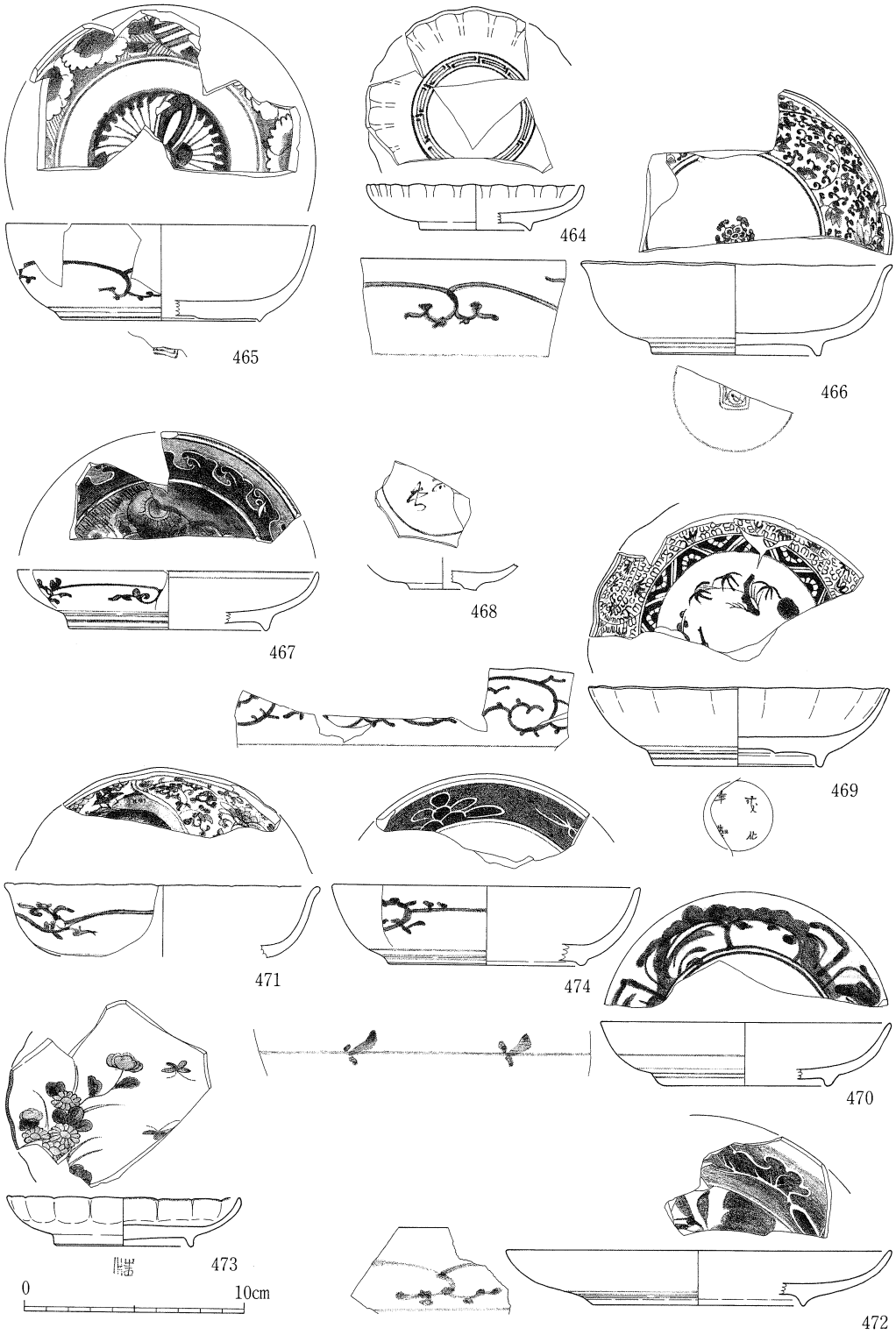


図47　第５地点出土磁器(6)

Fig. 47 Porcelains from NM5(6)

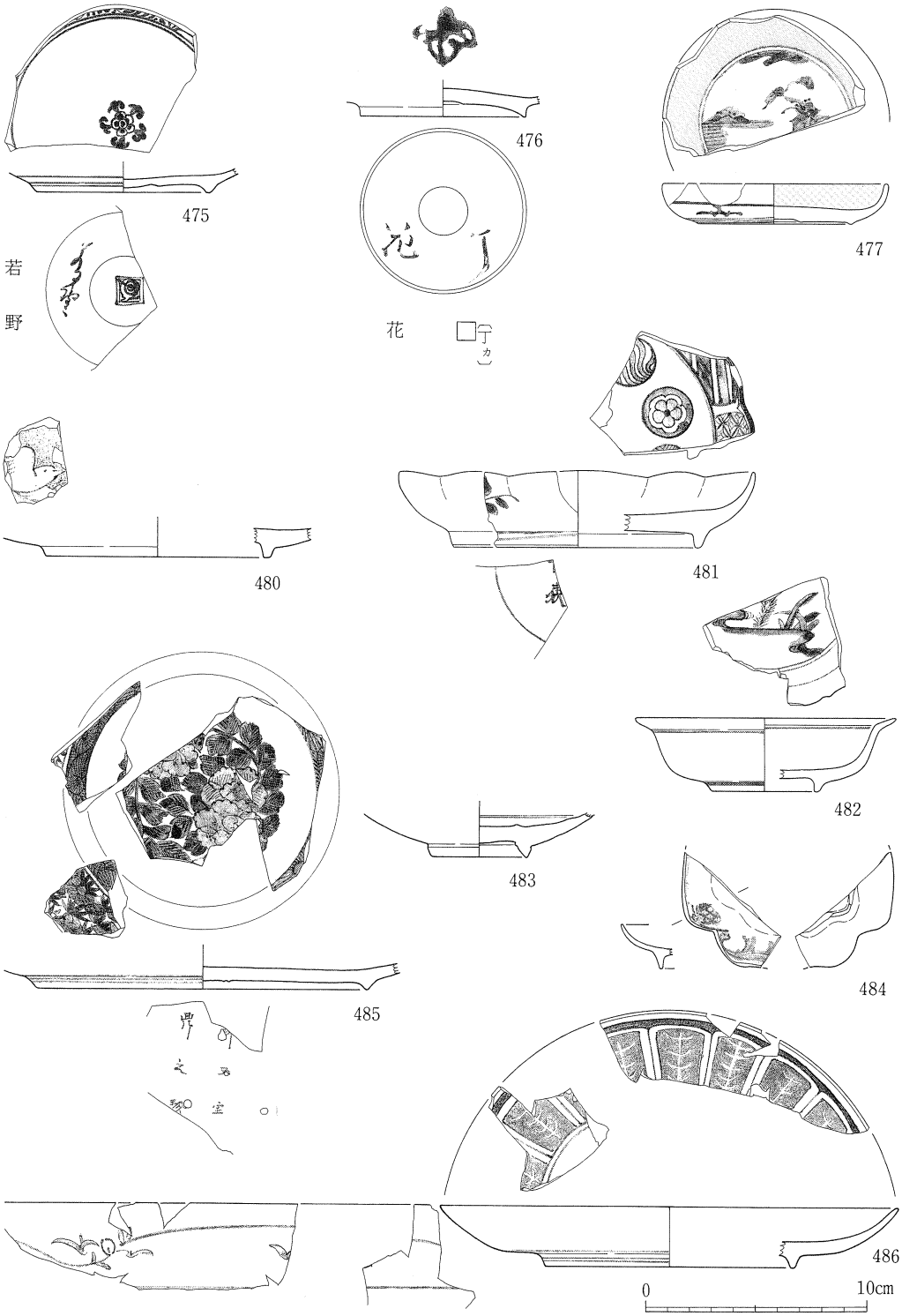


図48　第５地点出土磁器(7)

Fig. 48 Porcelains from NM5(7)

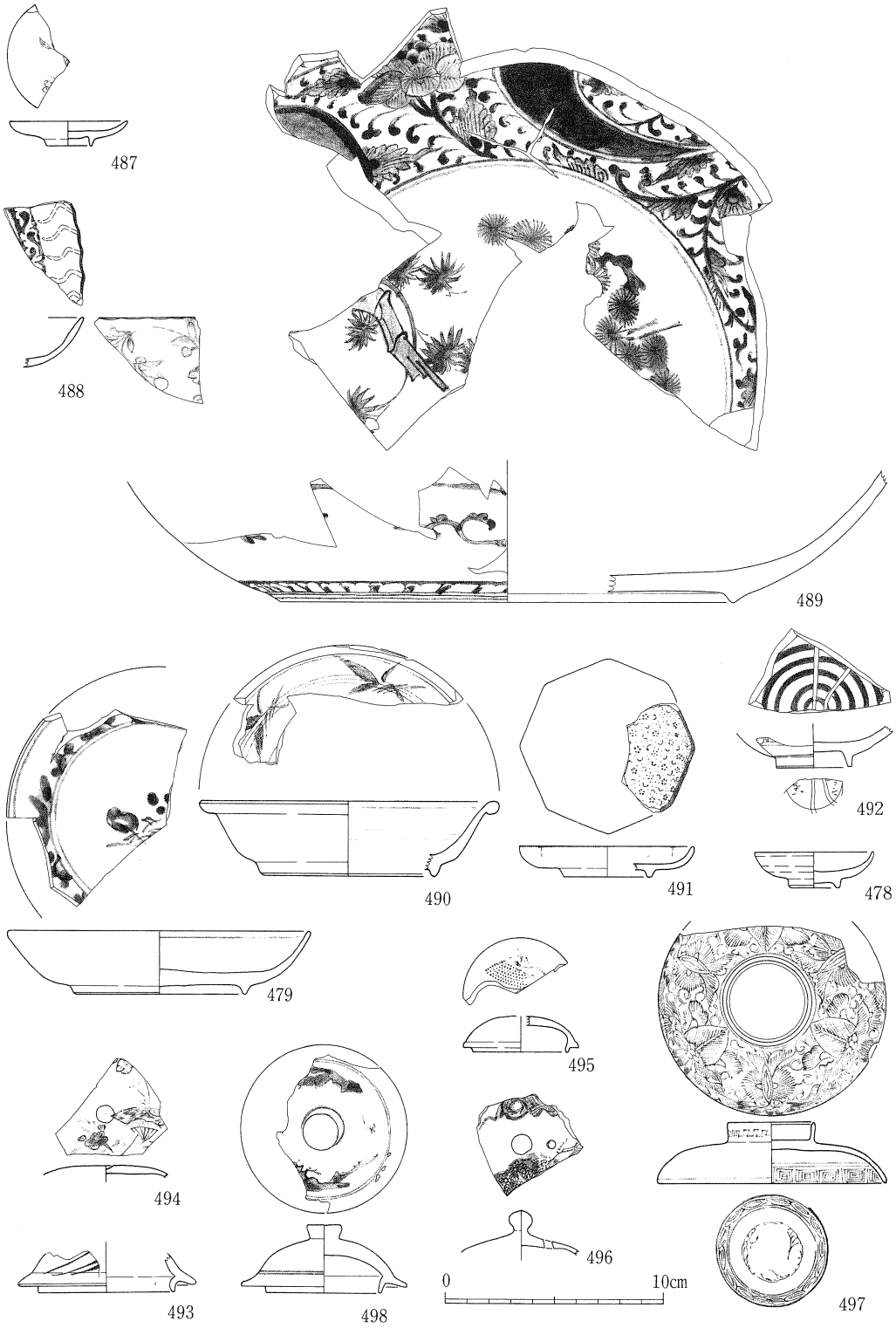


図49　第5地点出土磁器(8)

Fig. 49 Porcelains from NM5(8)

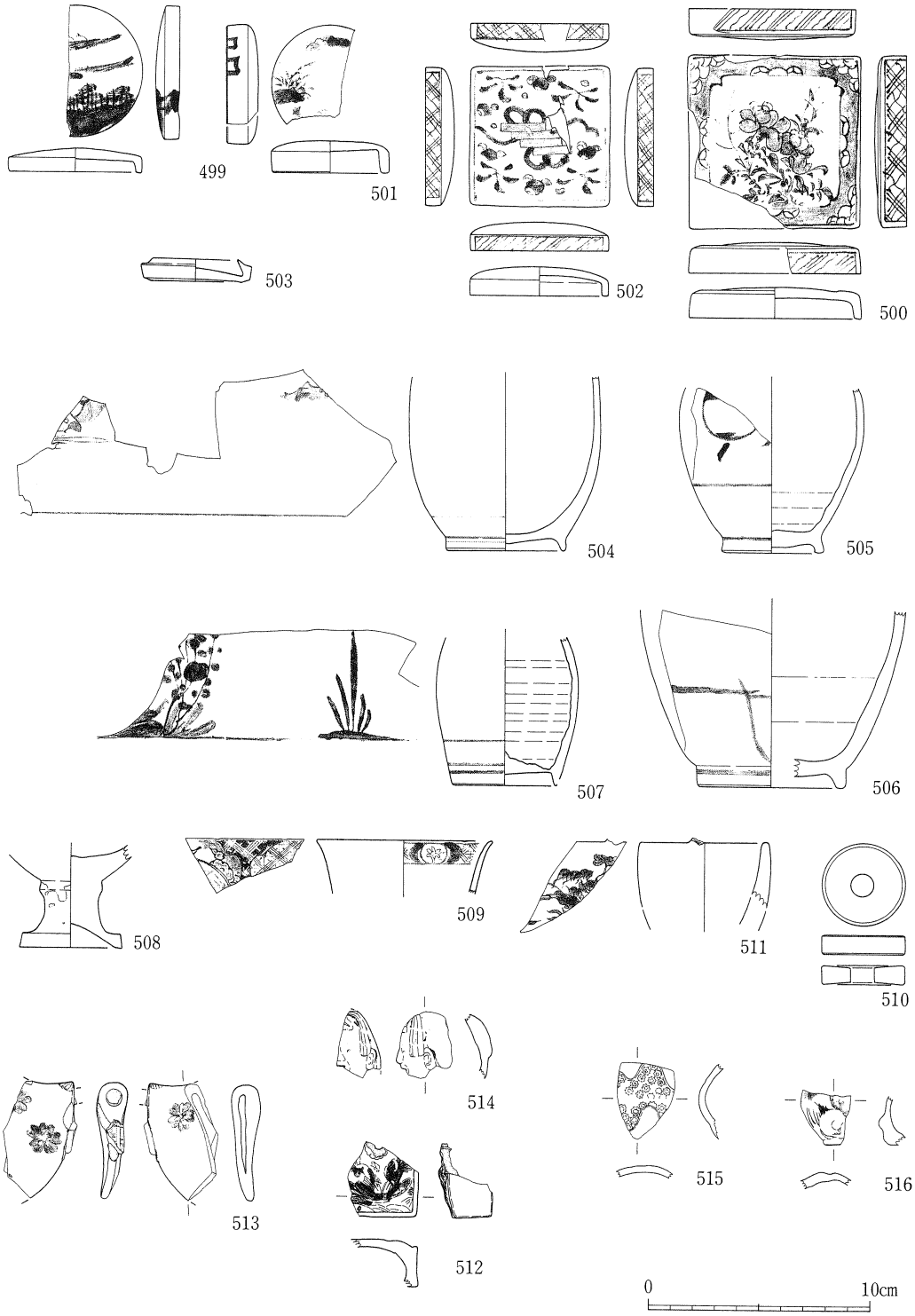


図50　第５地点出土磁器(9)
Fig. 50 Porcelains from NM5(9)

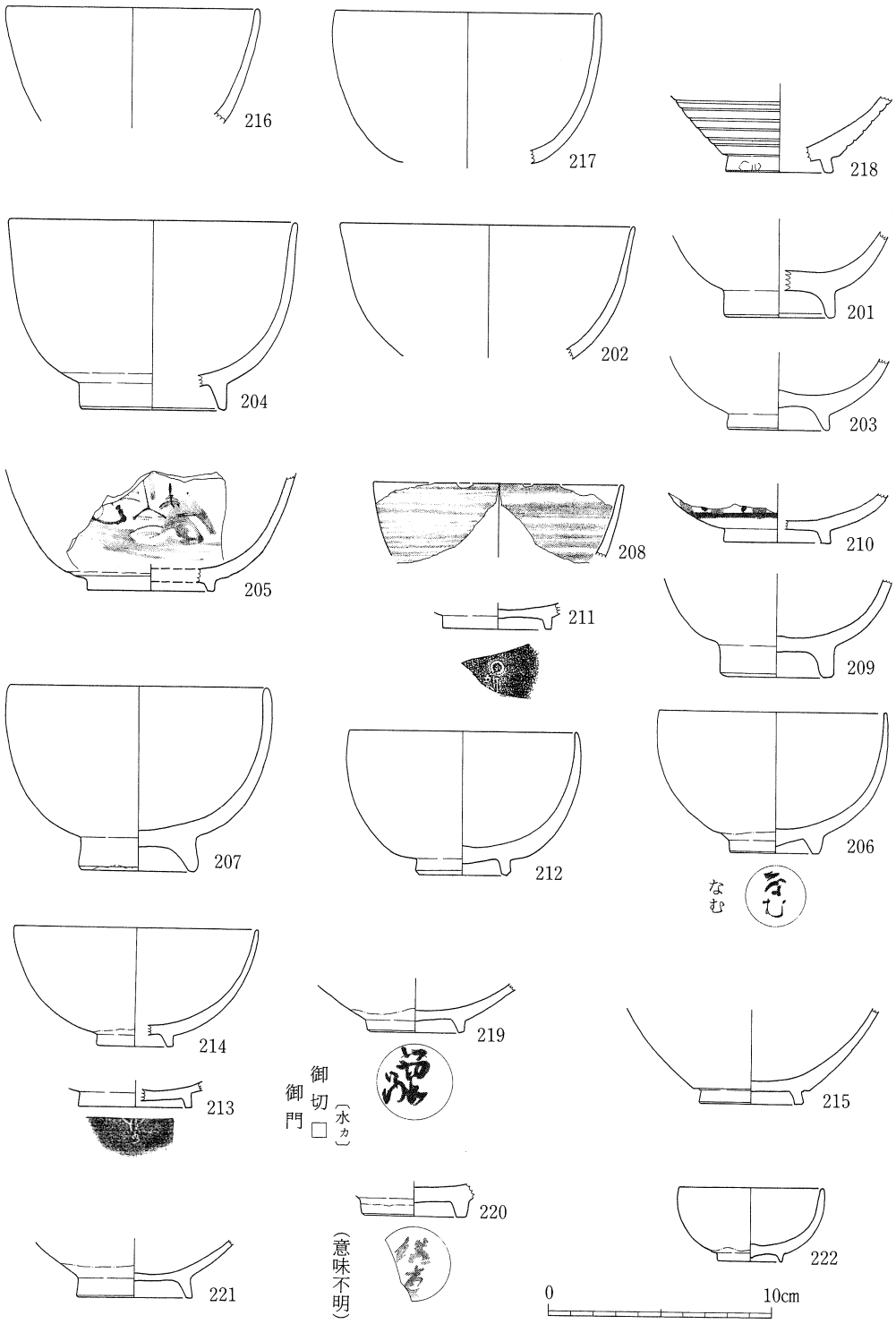


図51　第５地点出土陶器(1)

Fig. 51 Glazed ceramics from NM5(1)

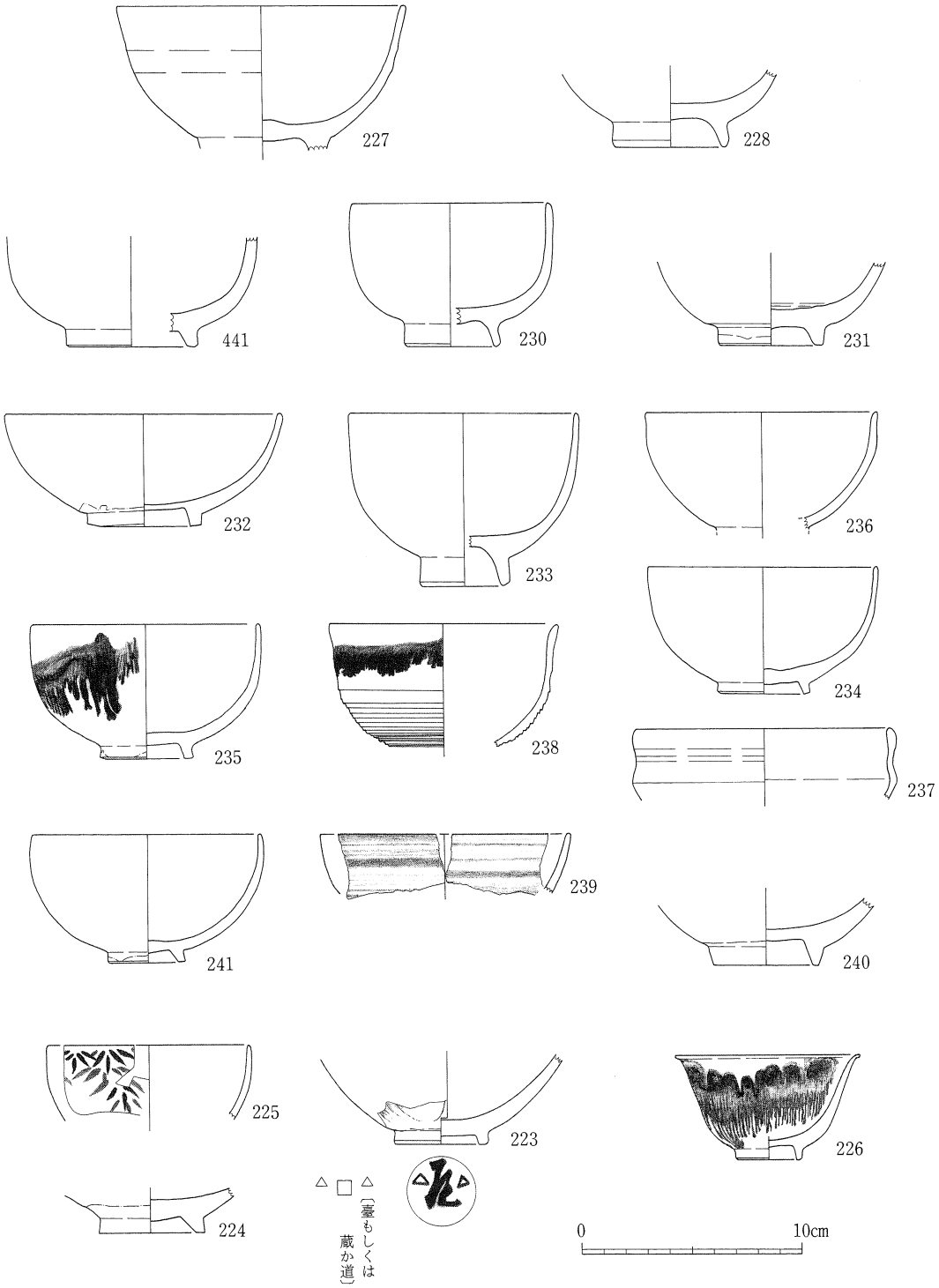


図52　第５地点出土陶器(2)

Fig. 52 Glazed ceramics from NM5(2)

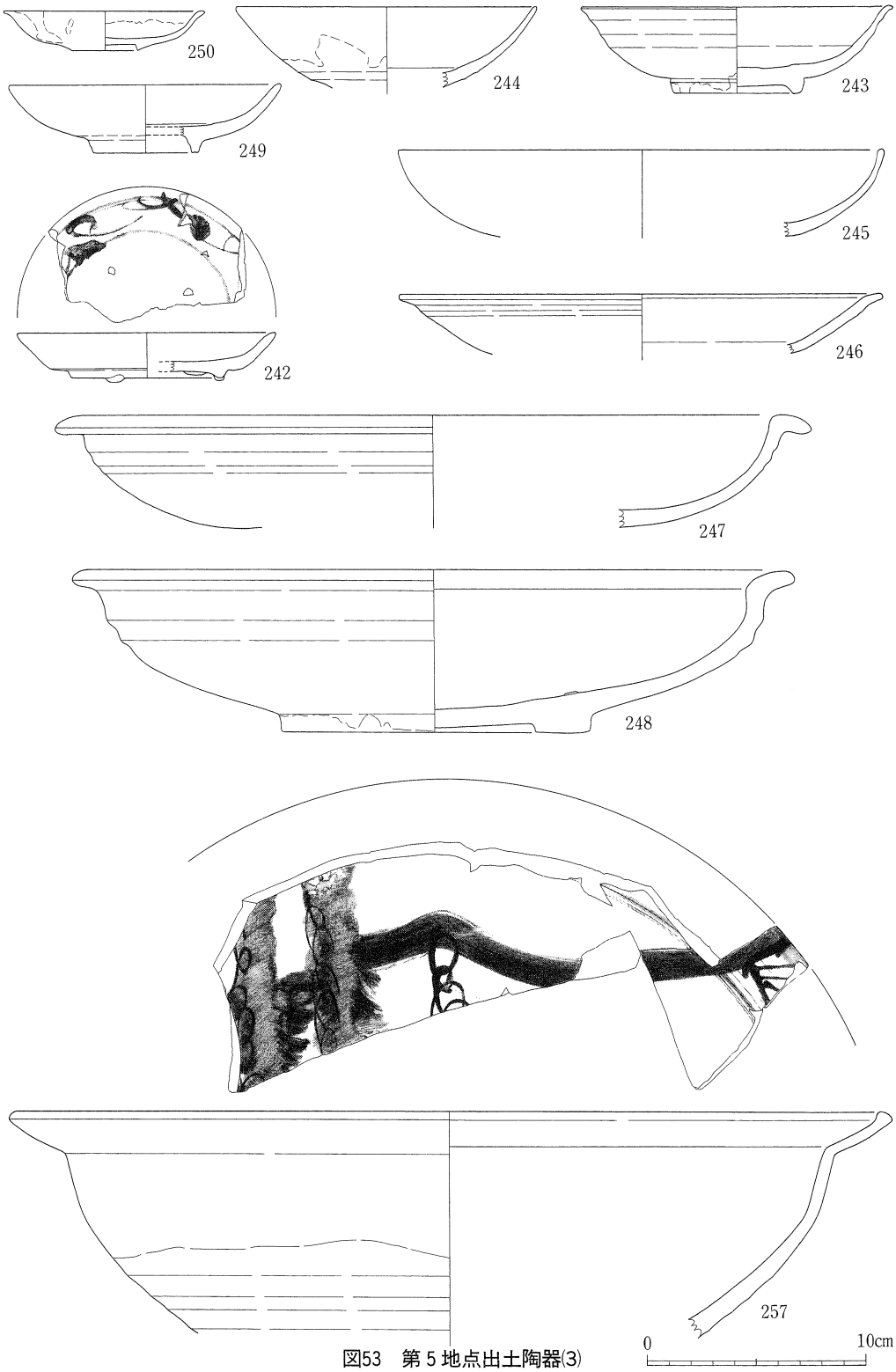


図53　第５地点出土陶器(3)

Fig. 53 Glazed ceramics from NM5(3)

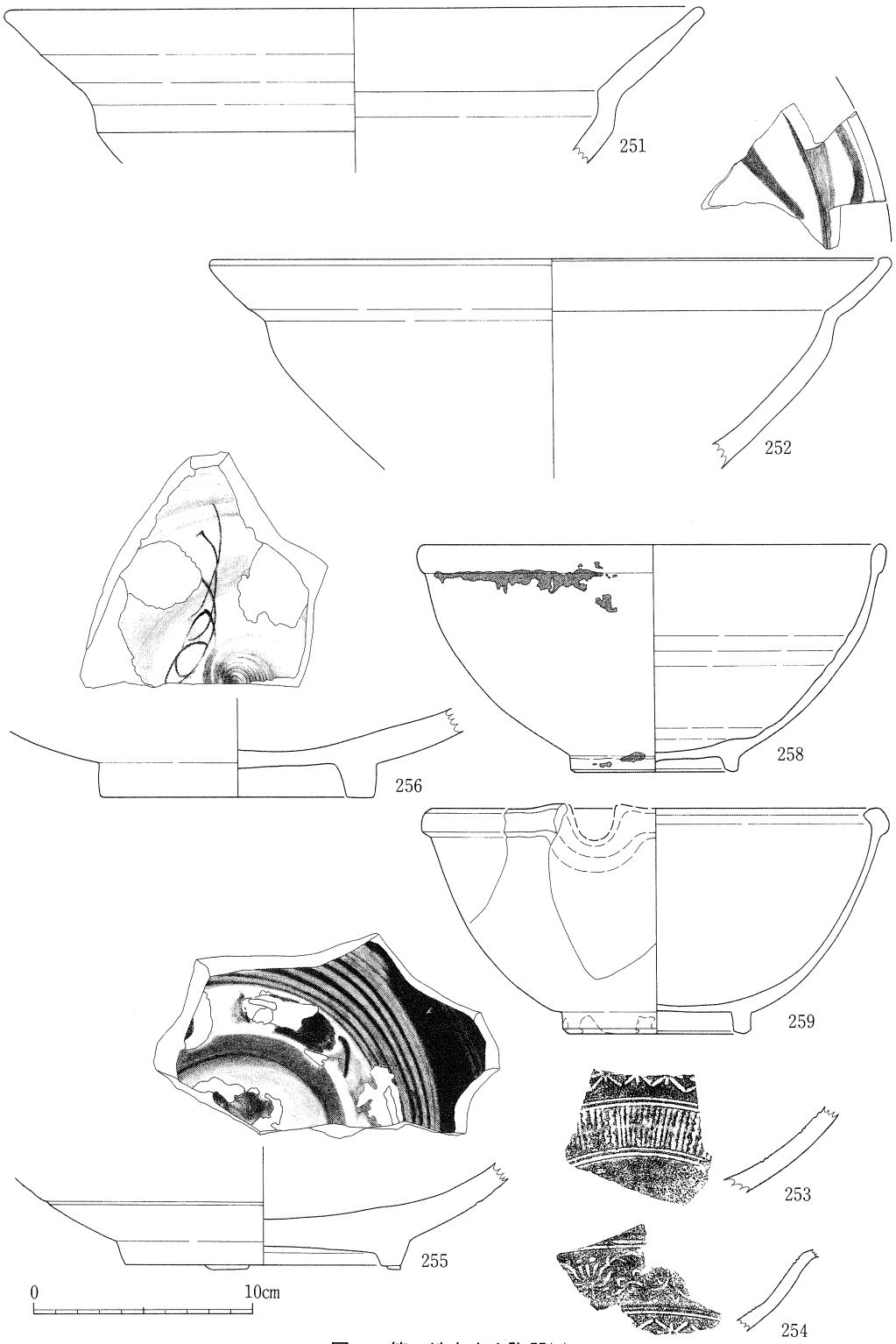


図54　第５地点出土陶器(4)

Fig. 54 Glazed ceramics from NM5(4)

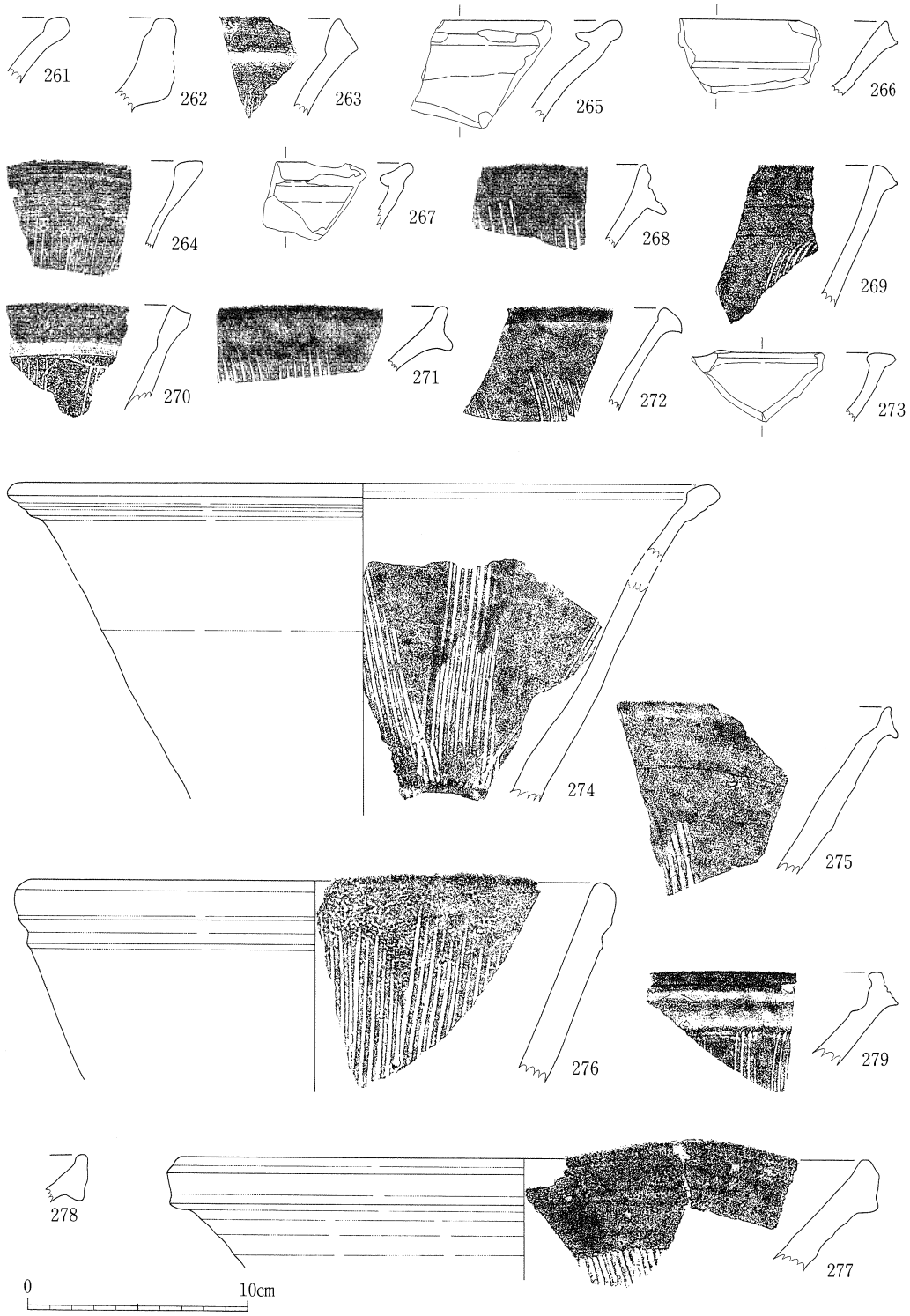


図55　第５地点出土陶器(5)

Fig. 55 Glazed ceramics from NM5(5)

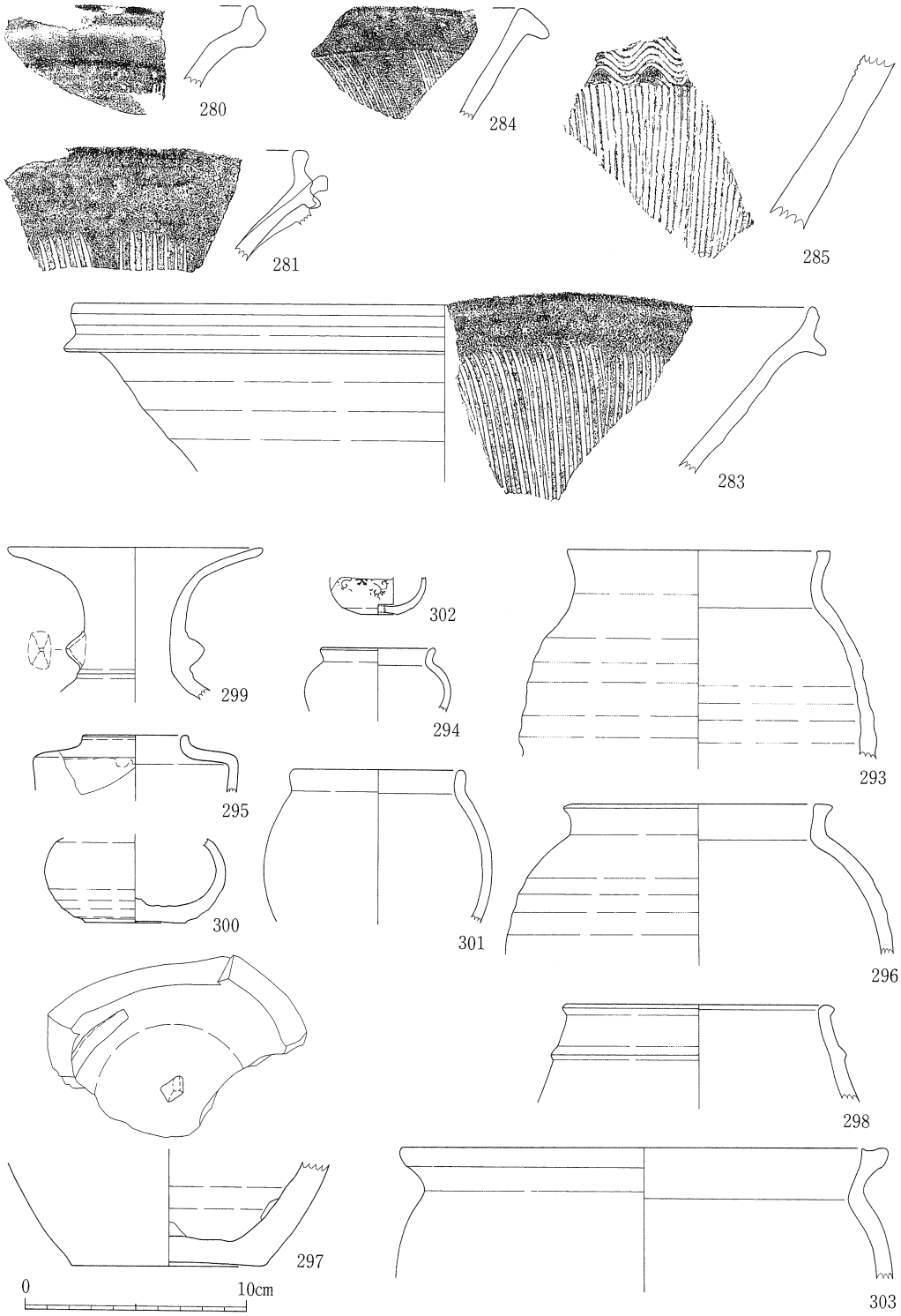


図56　第５地点出土陶器(6)
Fig. 56 Glazed ceramics from NM5(6)

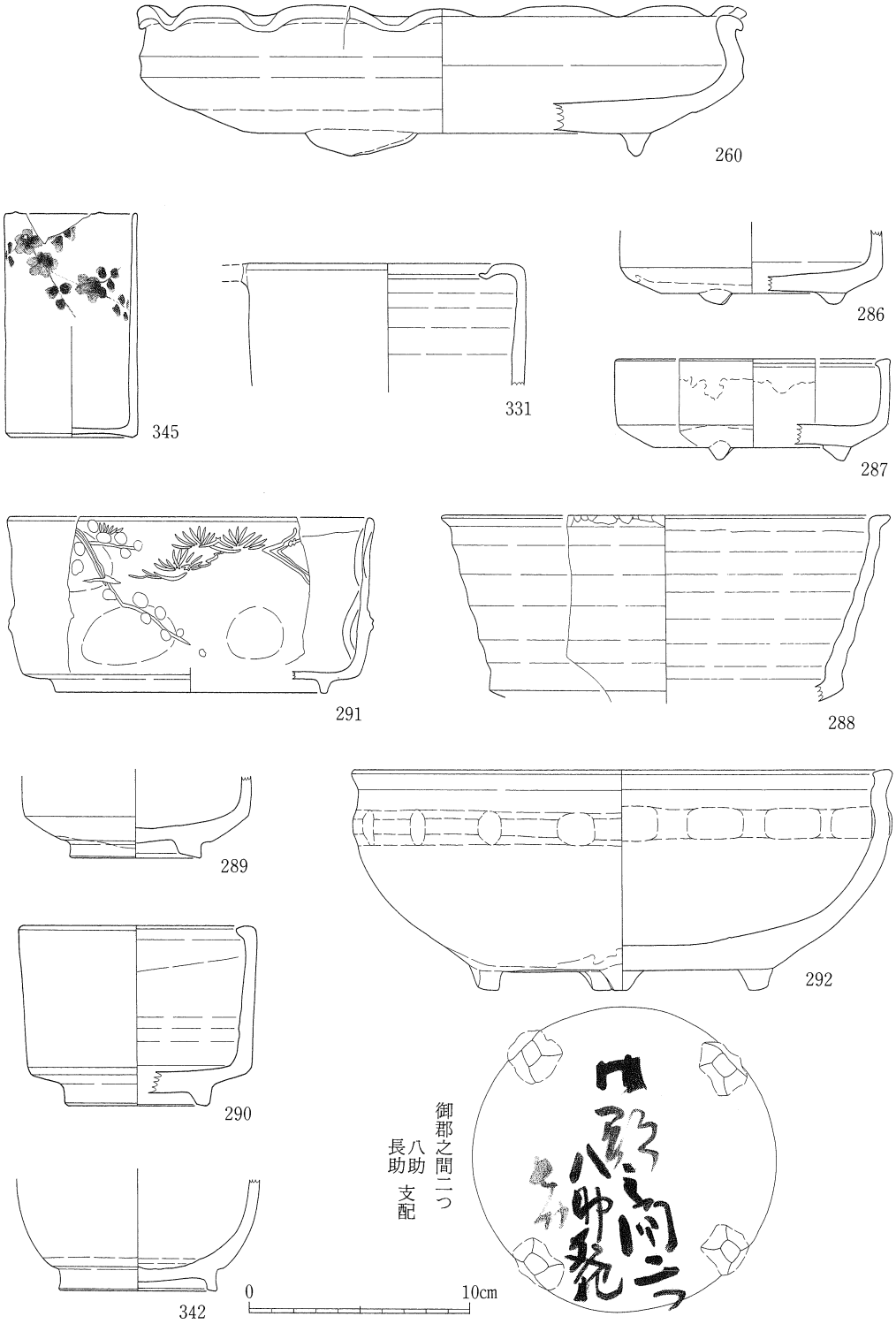


図57　第5地点出土陶器(7)

Fig. 57 Glazed ceramics from NM5(7)

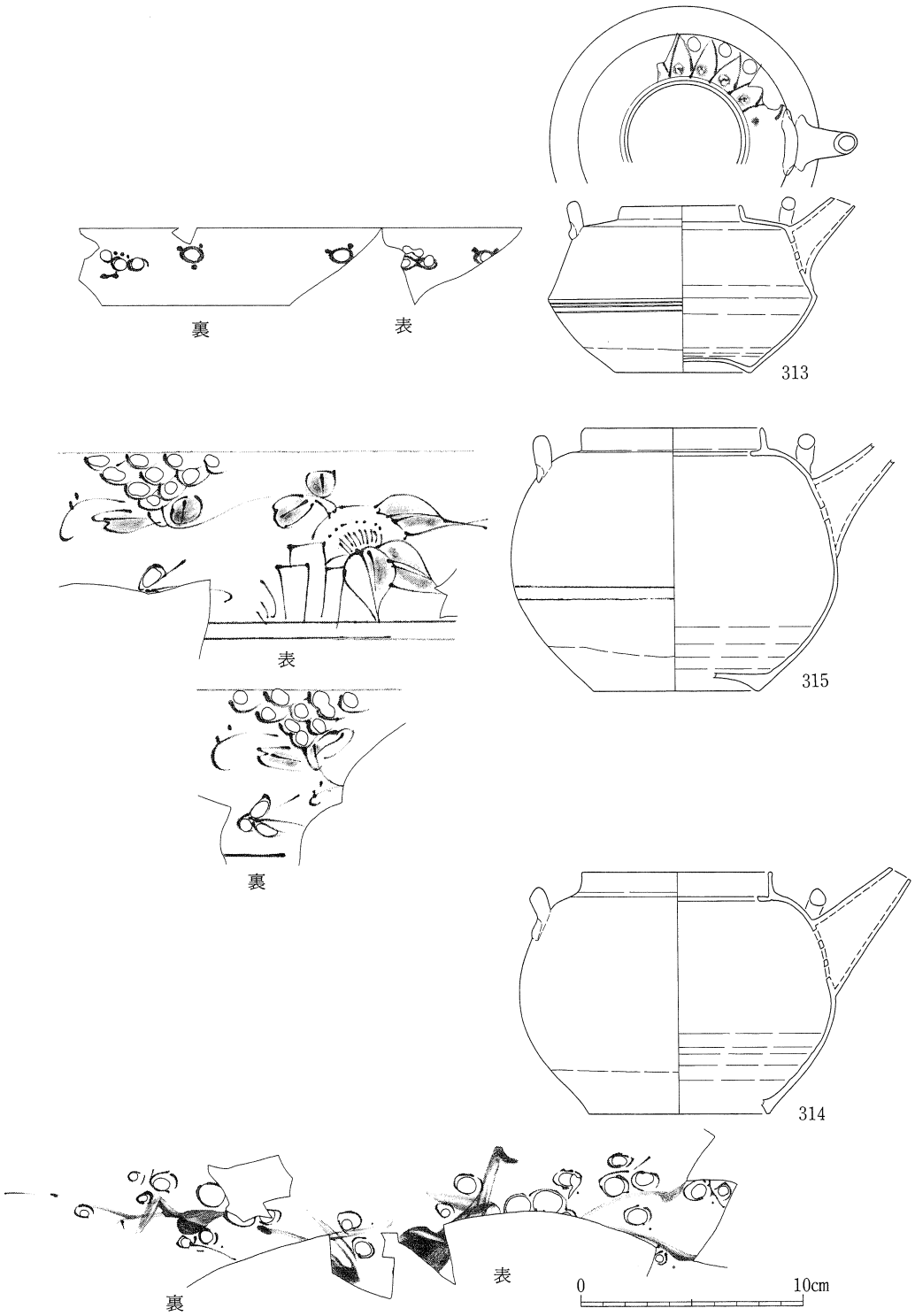


図58　第５地点出土陶器(8)
Fig. 58 Glazed ceramics from NM5(8)

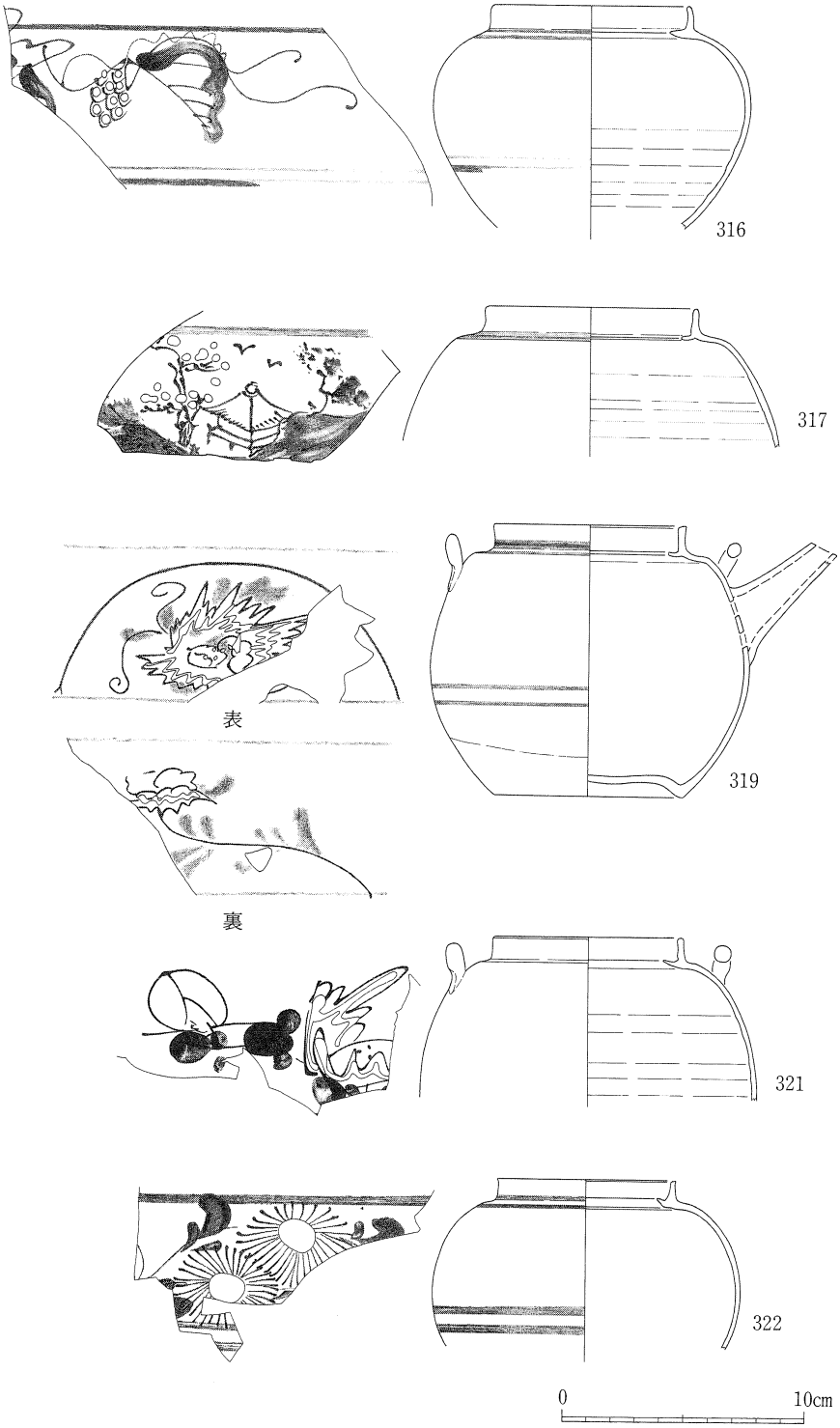


図59　第５地点出土陶器(9)
Fig. 59 Glazed ceramics from NM5(9)

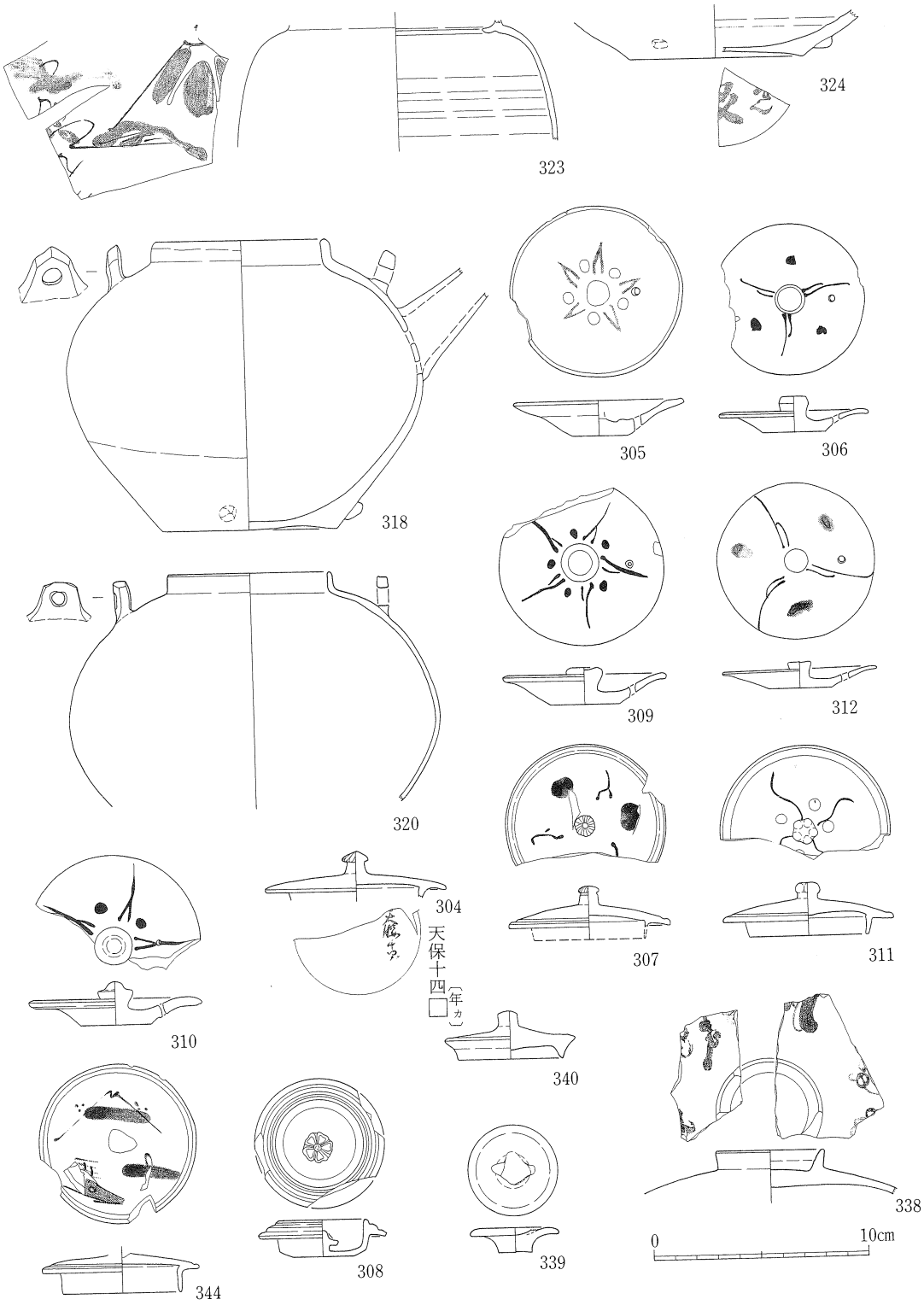


図60　第５地点出土陶器(10)

Fig. 60 Glazed ceramics from NM5(10)

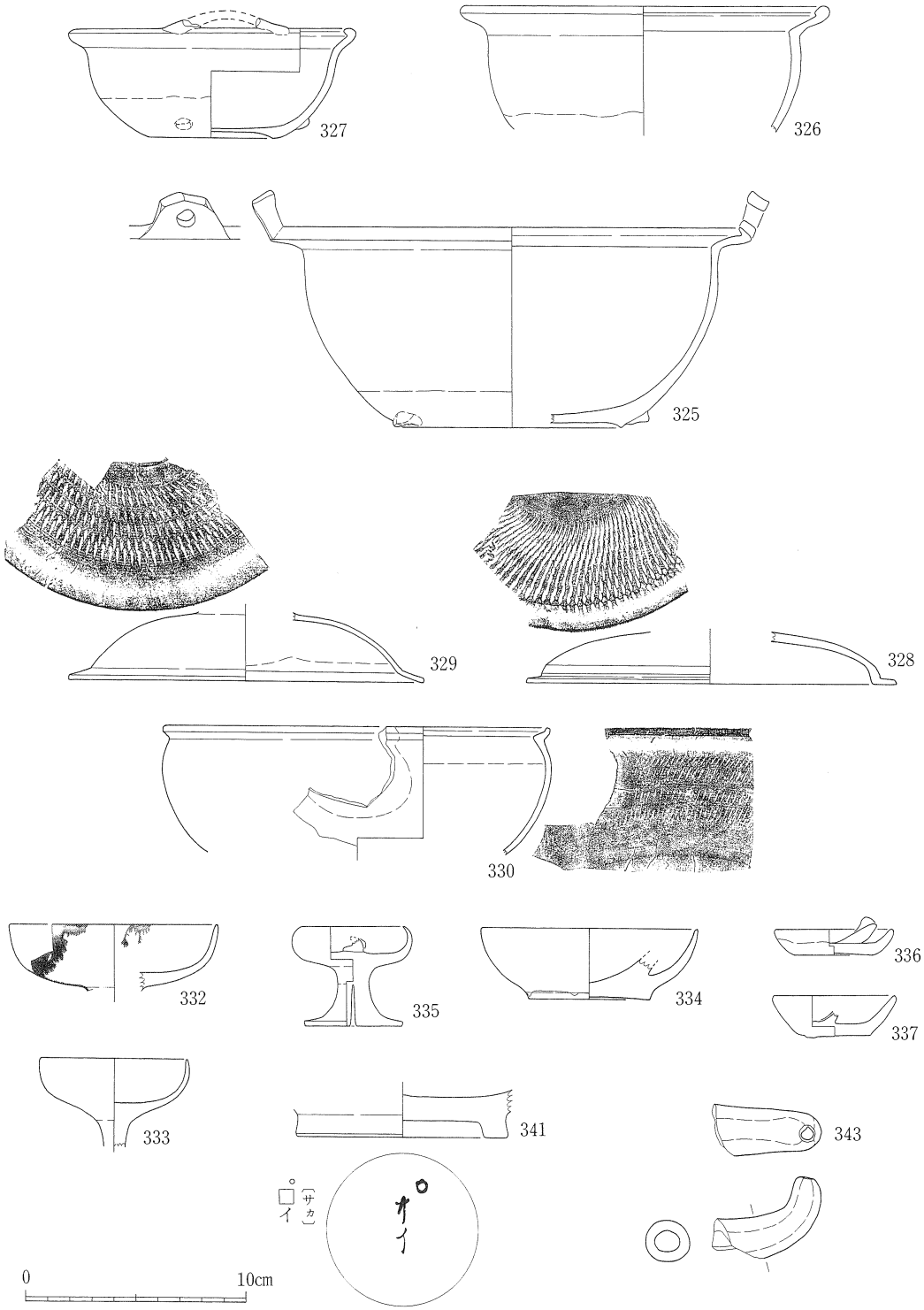


図61　第５地点出土陶器（11）
Fig. 61 Glazed ceramics from NM5(11)

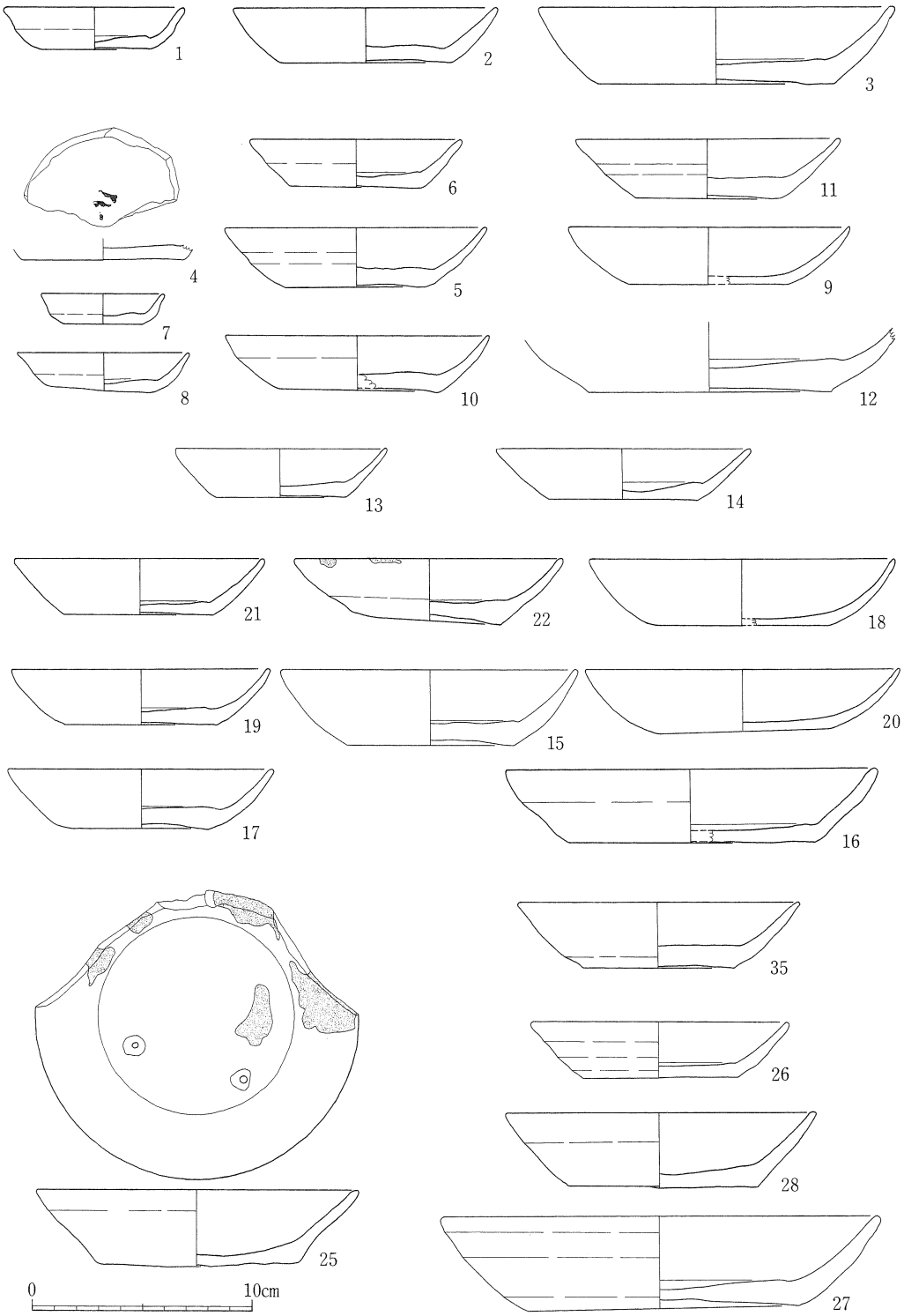


図62　第５地点出土土器(1)

Fig. 62 Ceramics from NM5(1)

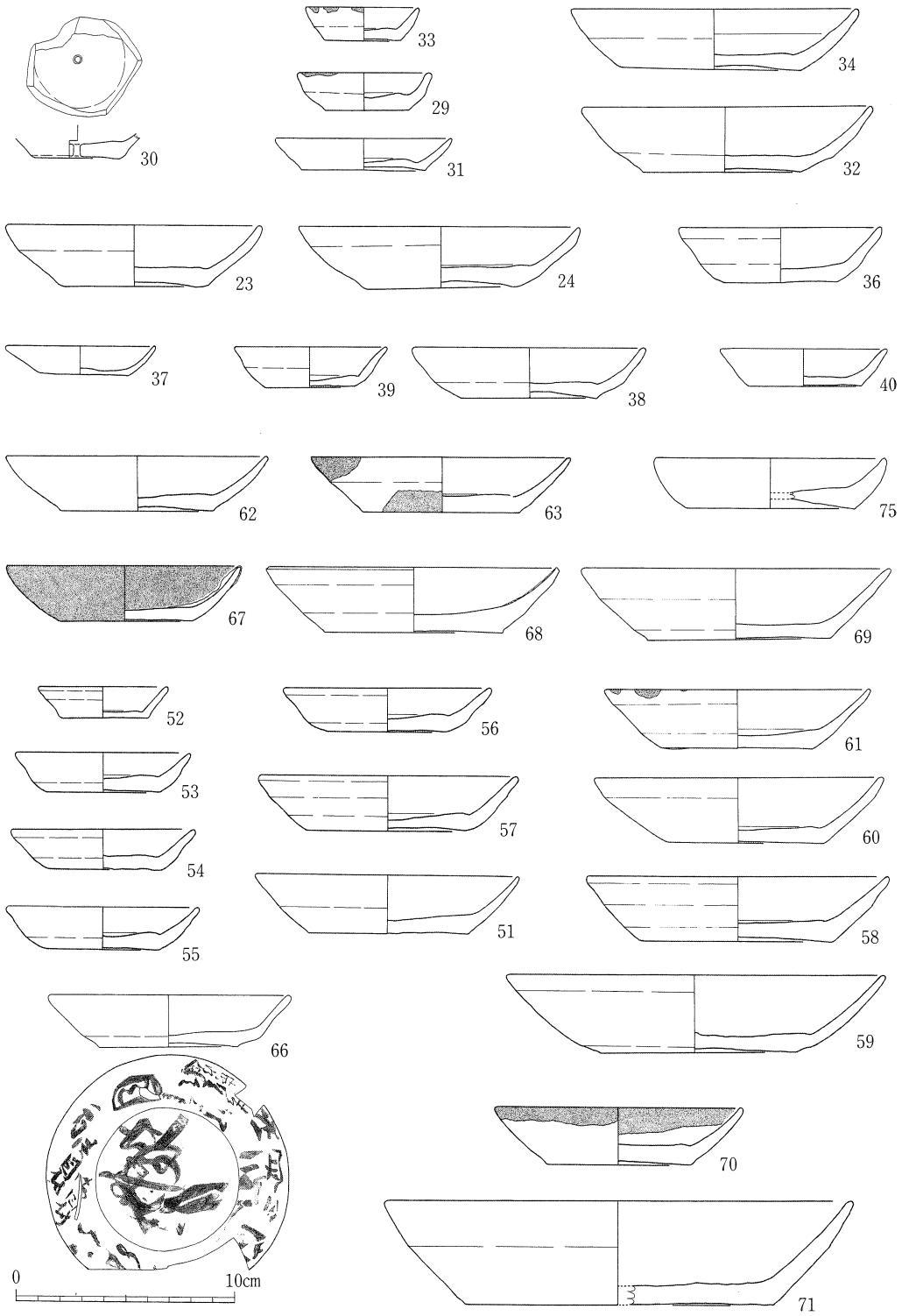


図63　第５地点出土土器(2)

Fig. 63 Ceramics from NM5(2)

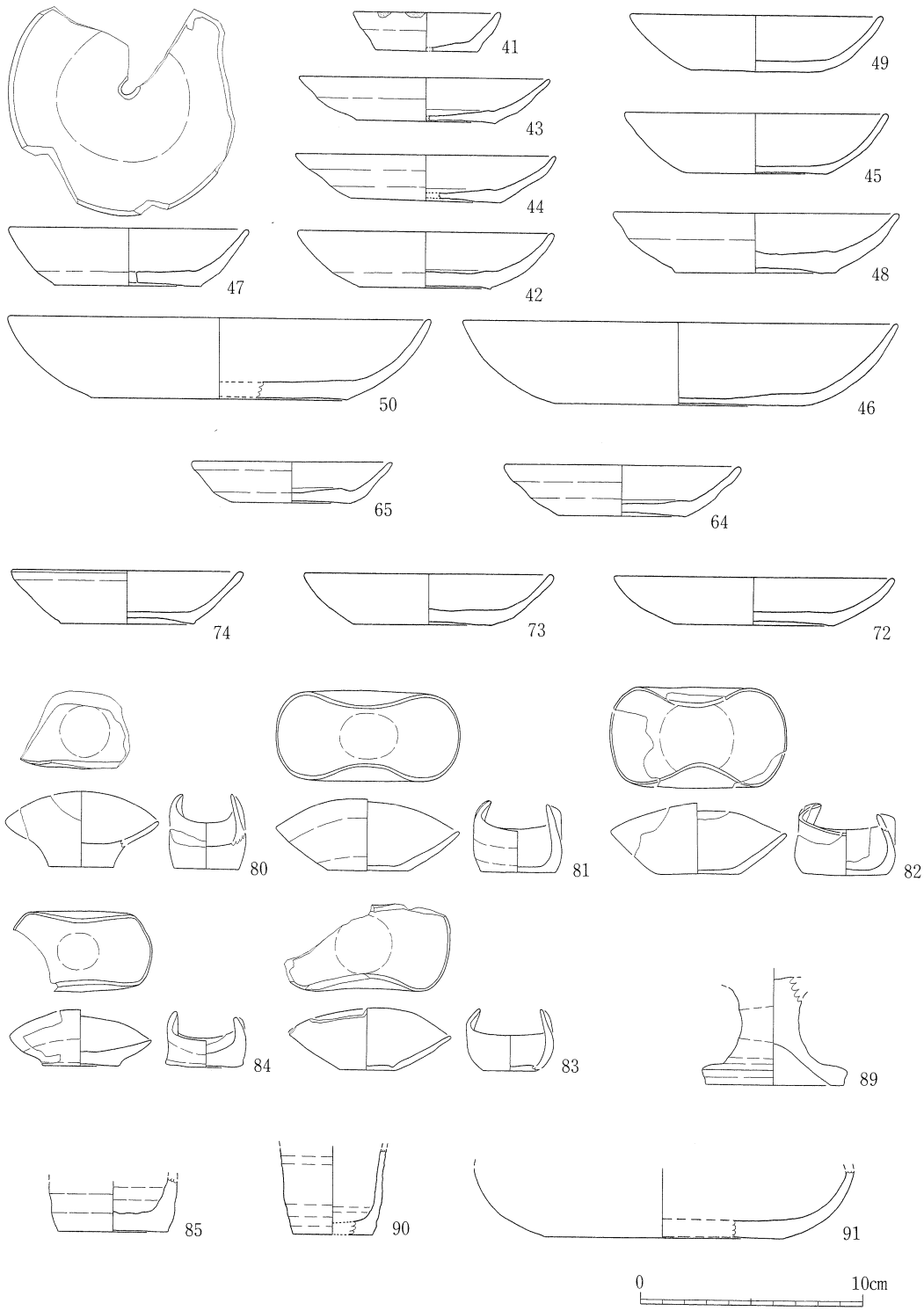


図64　第５地点出土土器(3)

Fig. 64 Ceramics from NM5(3)

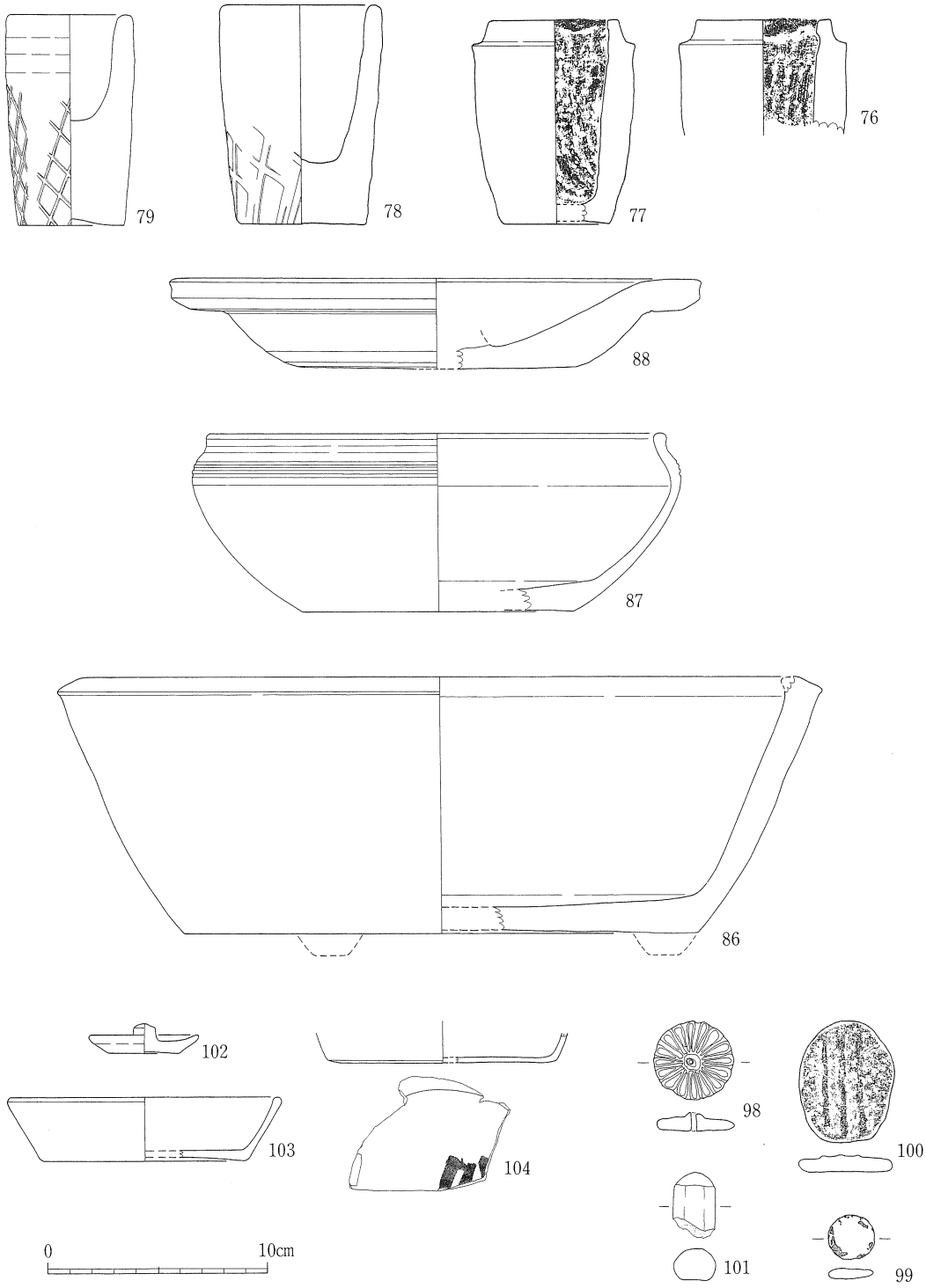


図65　第５地点出土土器(4)
Fig. 65 Ceramics from NM5(4)

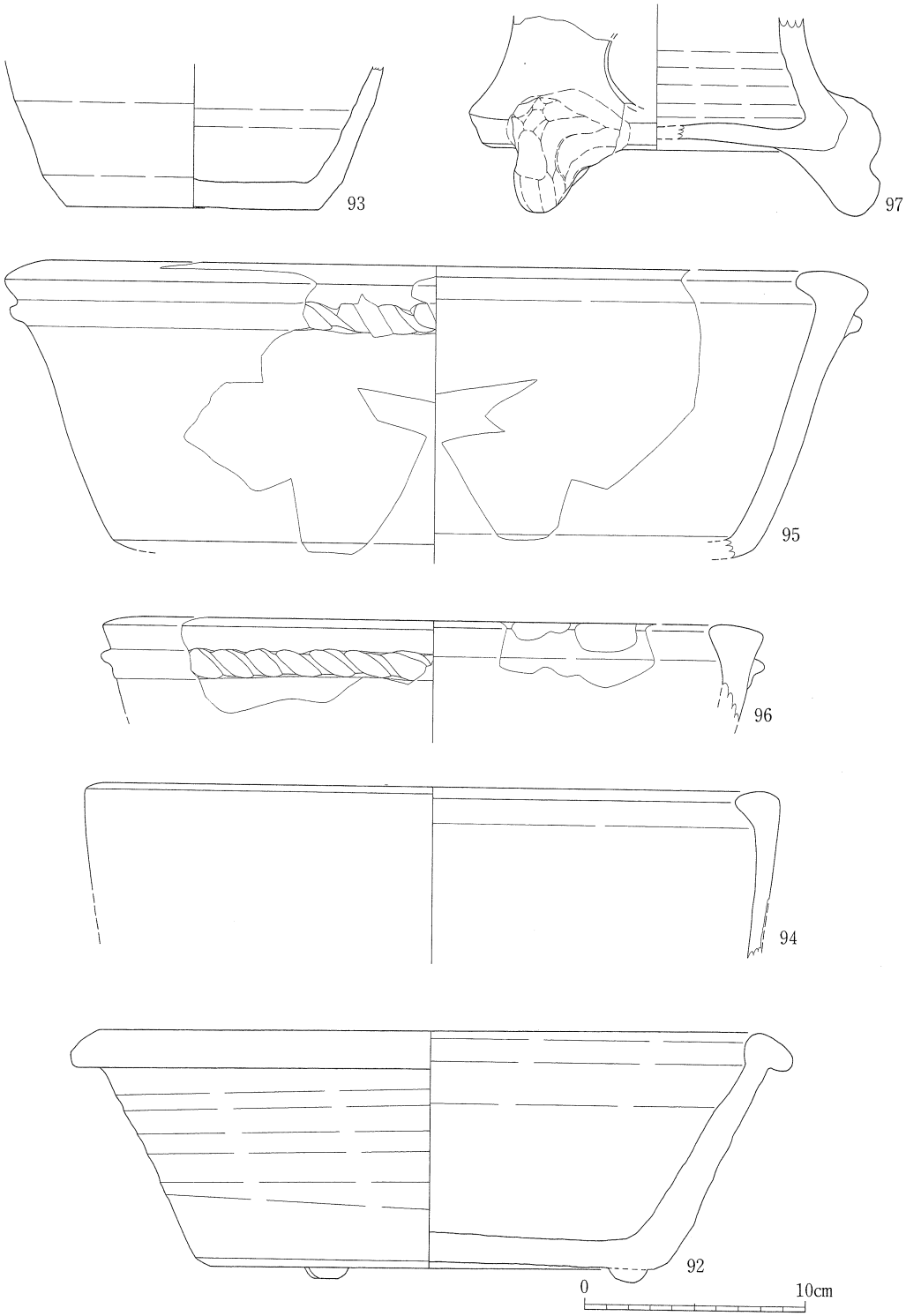


図66　第５地点出土土器(5)
Fig. 66 Ceramics from NM5(5)

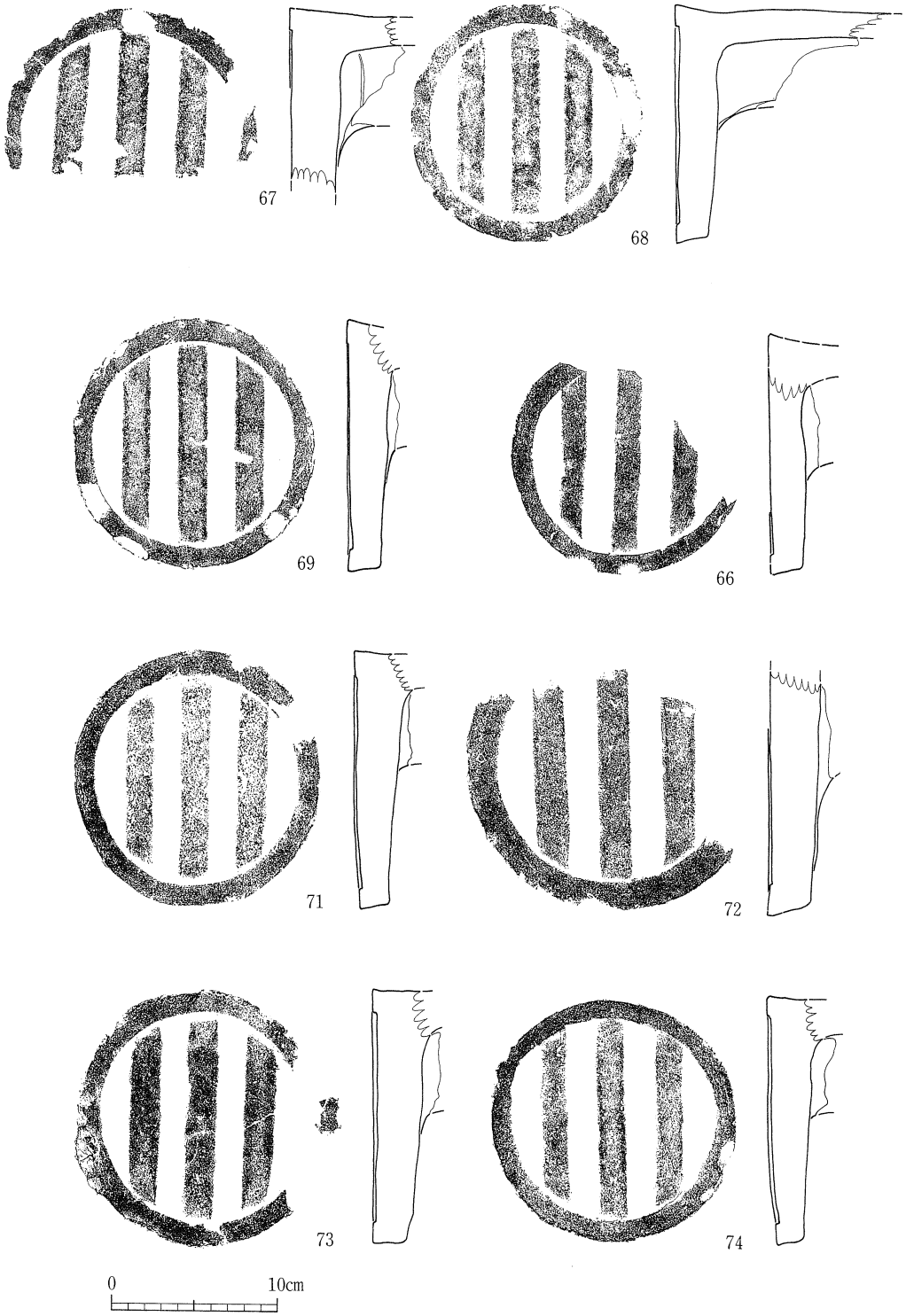


図67　第５地点出土軒丸瓦類(1)
Fig. 67 Round eaves tiles from NM5(1)

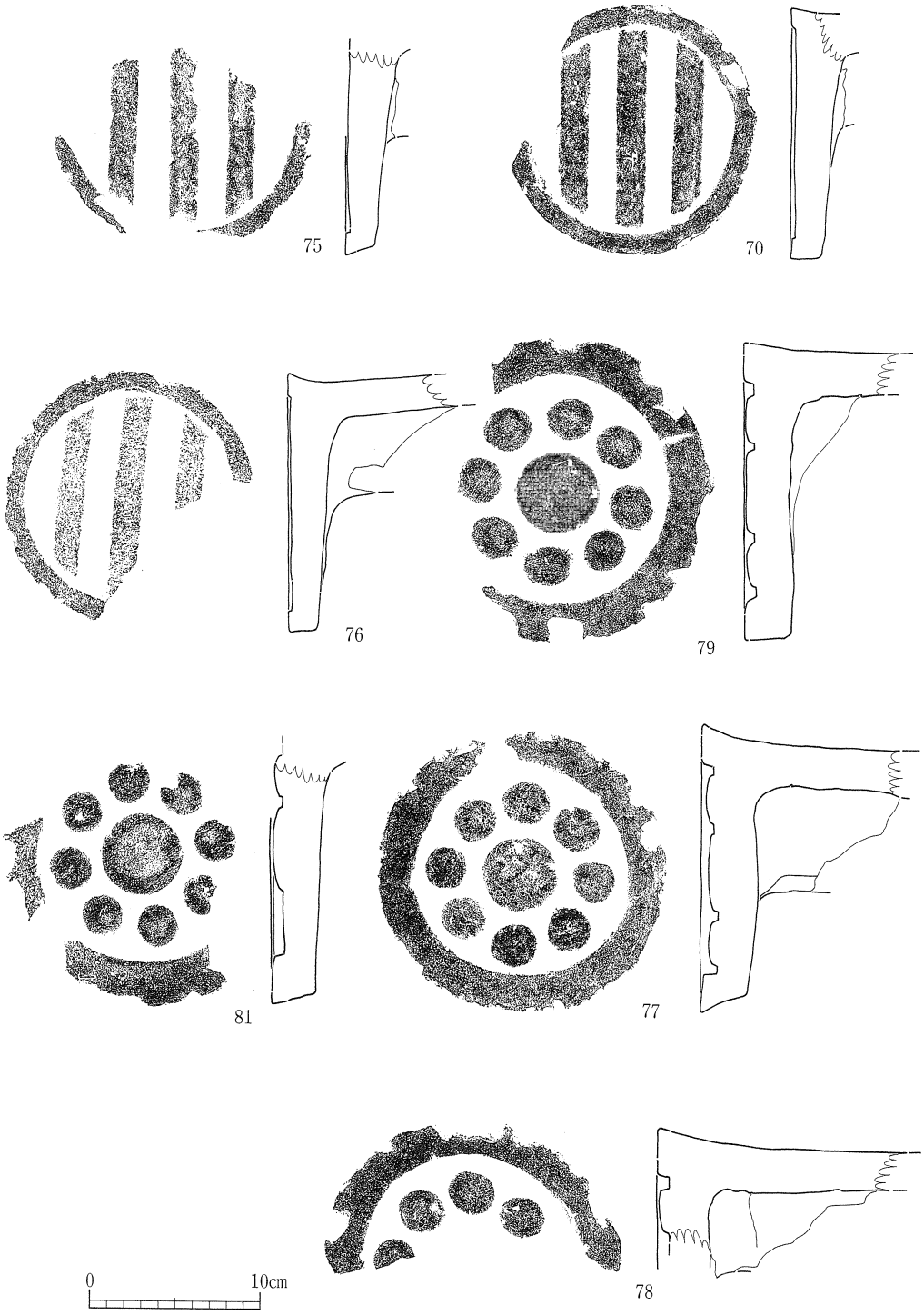


図68　第５地点出土軒丸瓦類(2)
Fig. 68 Round eaves tiles from NM5(2)

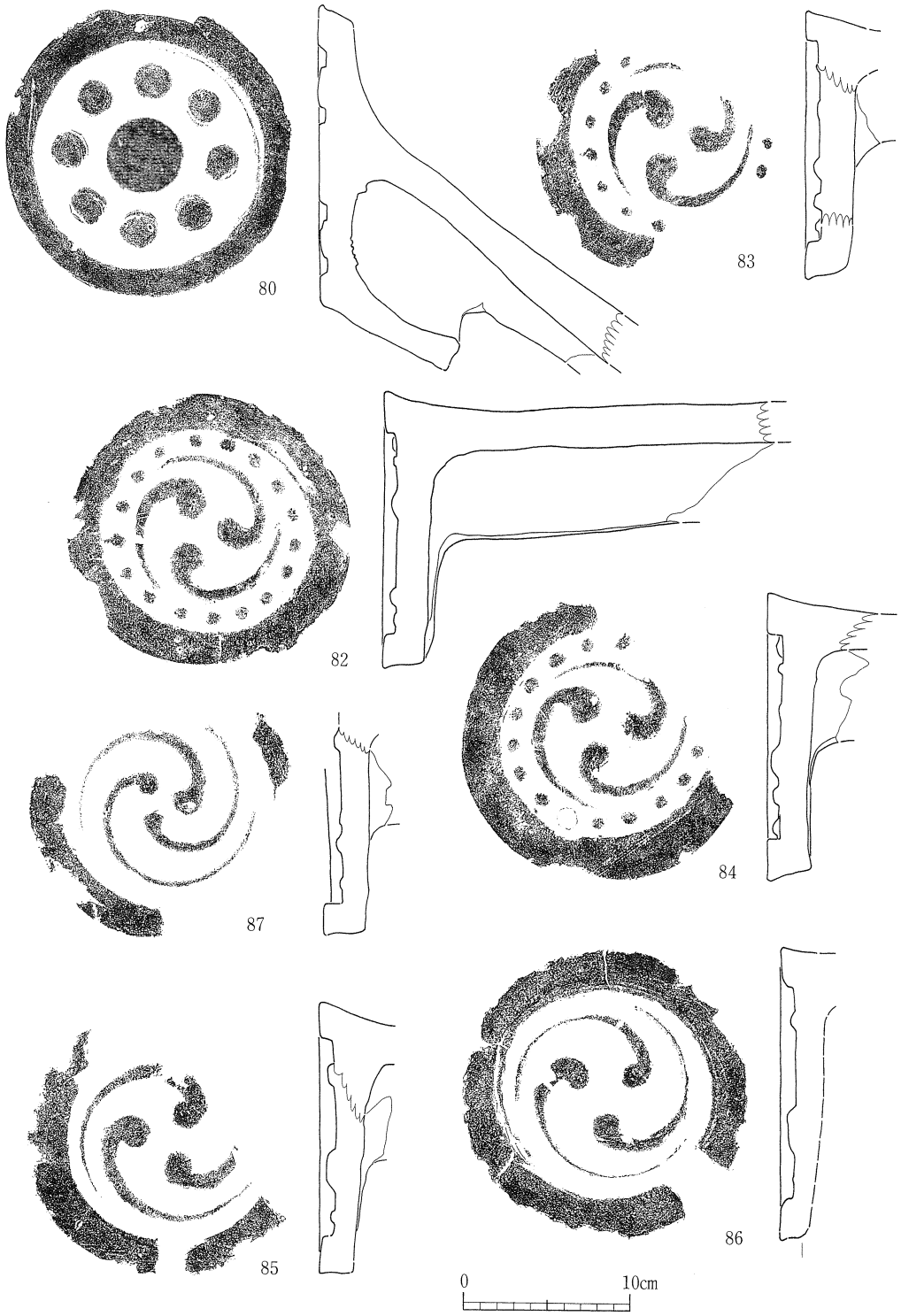


図69　第５地点出土軒丸瓦類(3)
Fig. 69 Round eaves tiles from NM5(3)

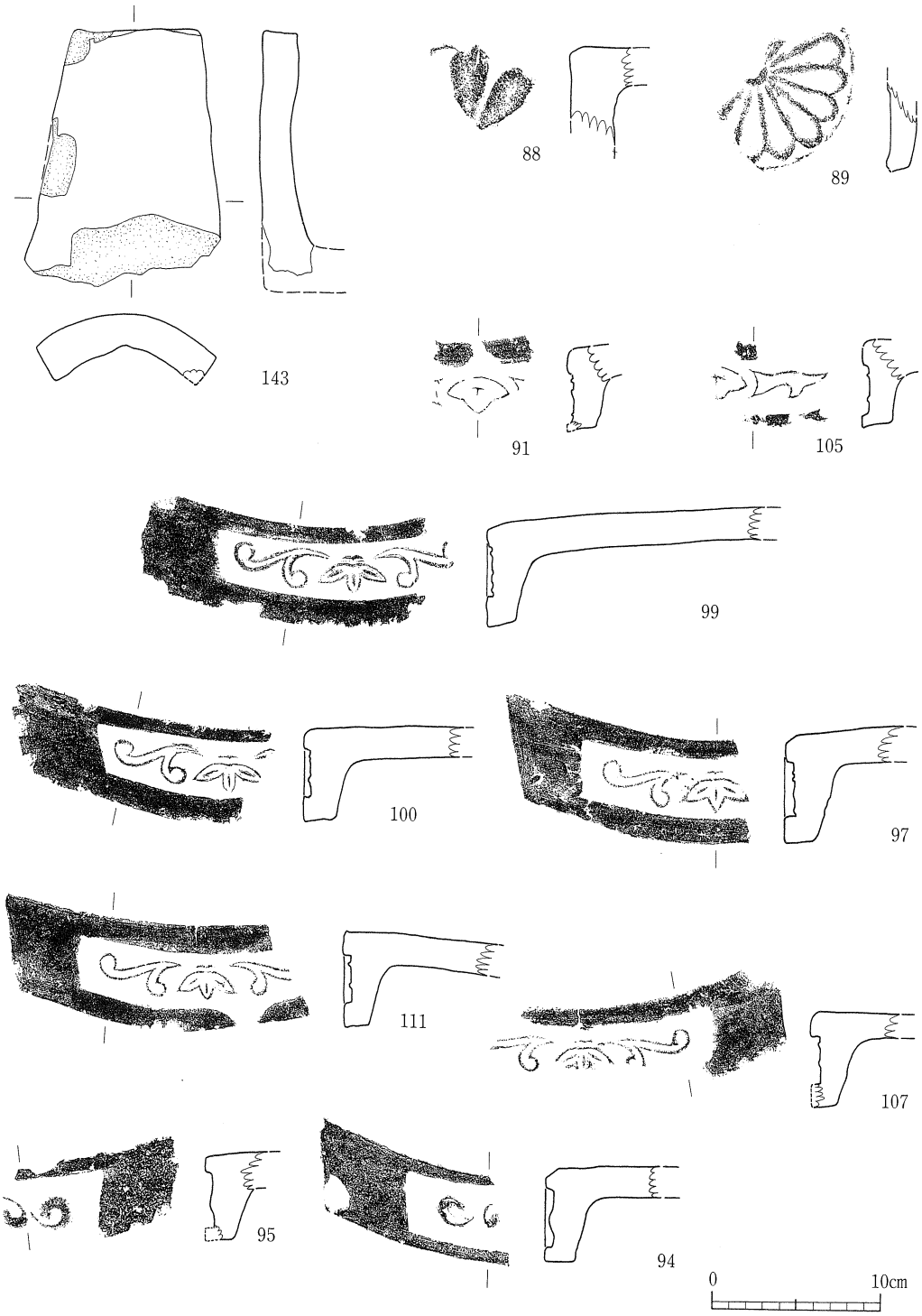


図70　第５地点出土軒丸瓦類(4)・軒平瓦(1)
Fig. 70 Round eaves tiles and flat eaves tiles from NM5

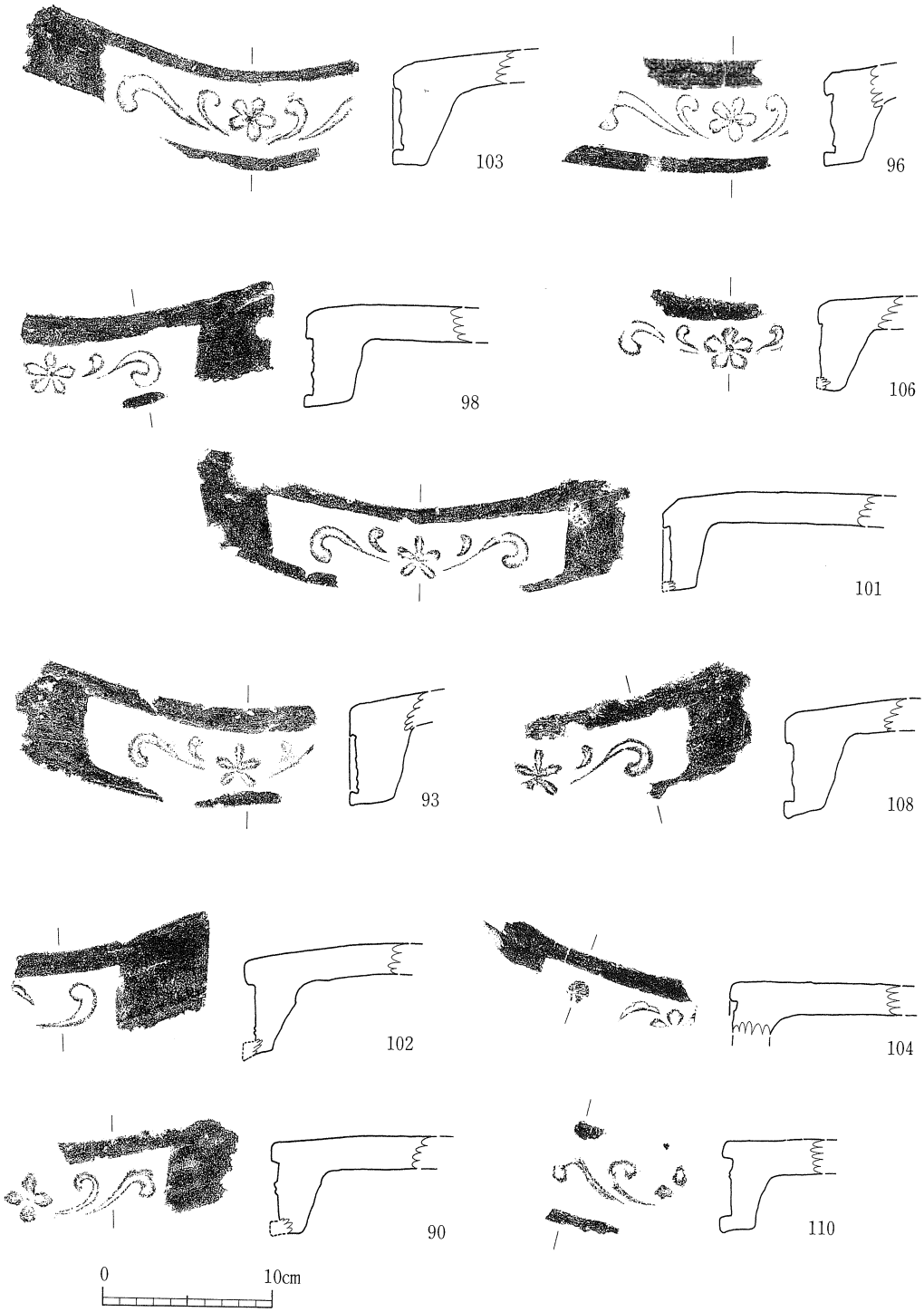


図71　第５地点出土軒平瓦(2)
Fig. 71 Flat eaves tiles from NM5(2)

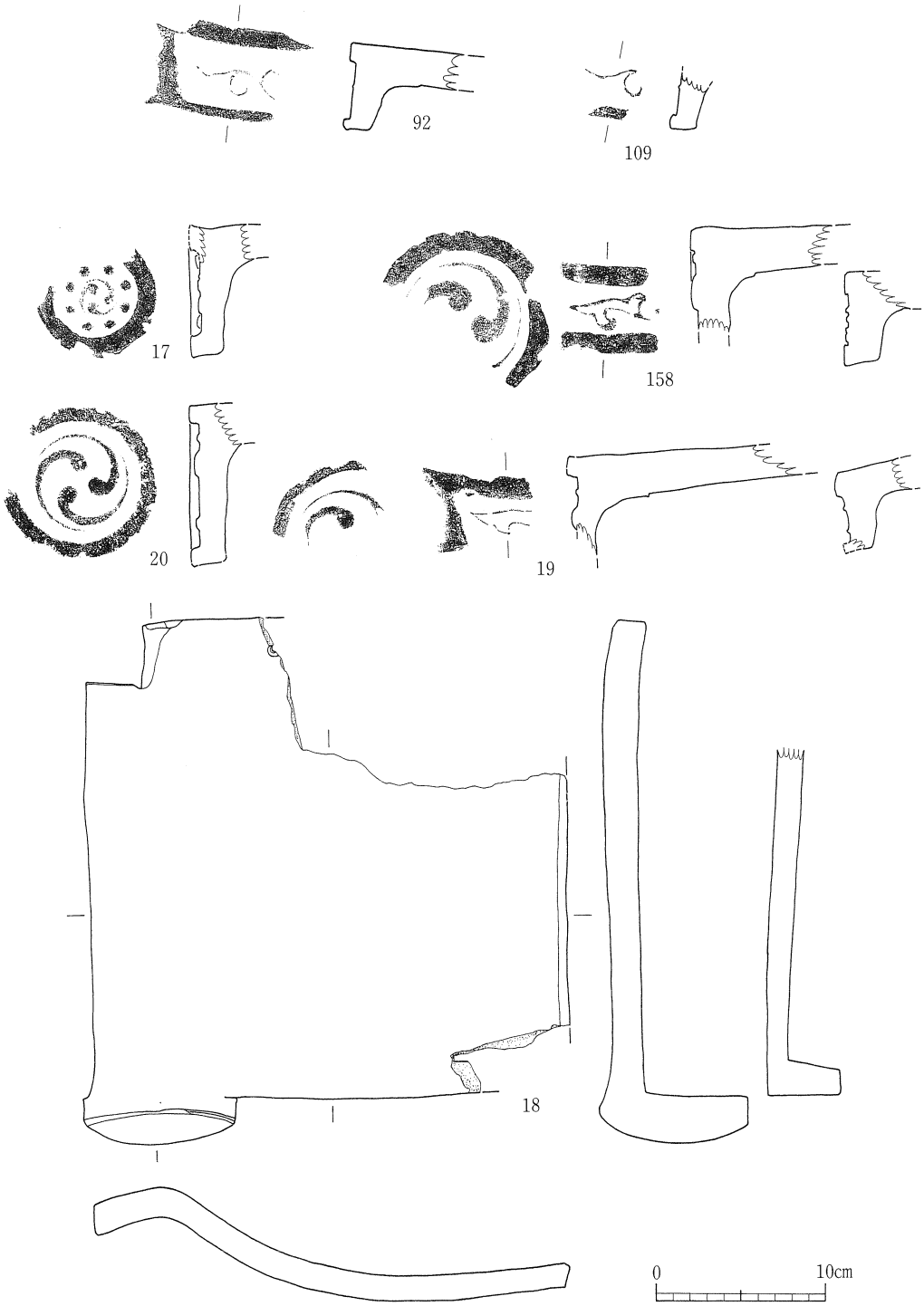


図72　第５地点出土軒桟瓦
Fig. 72 Eaves-pan tiles from NM5

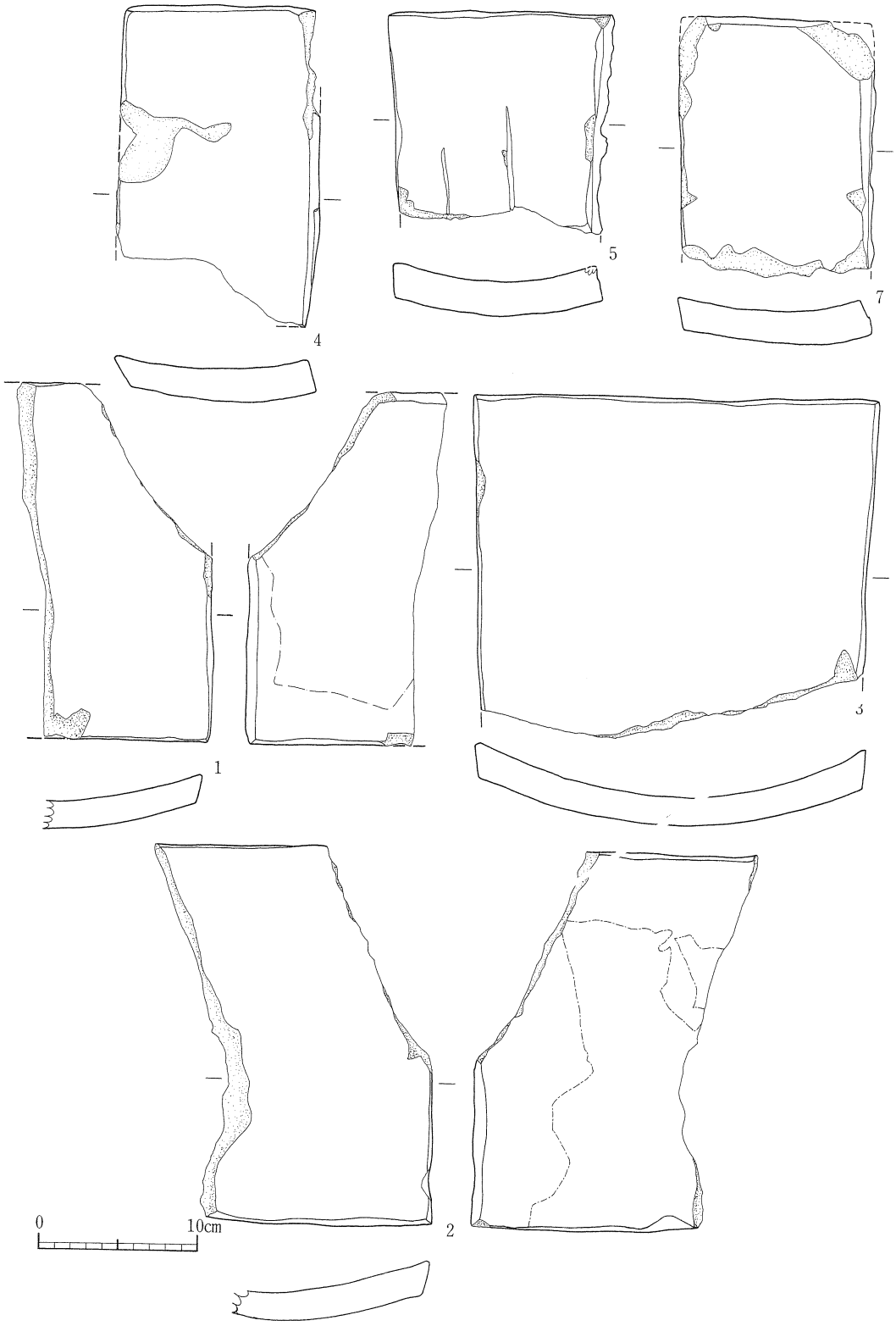


図73　第５地点出土平瓦(1)
Fig. 73 Flat roof tiles from NM5(1)

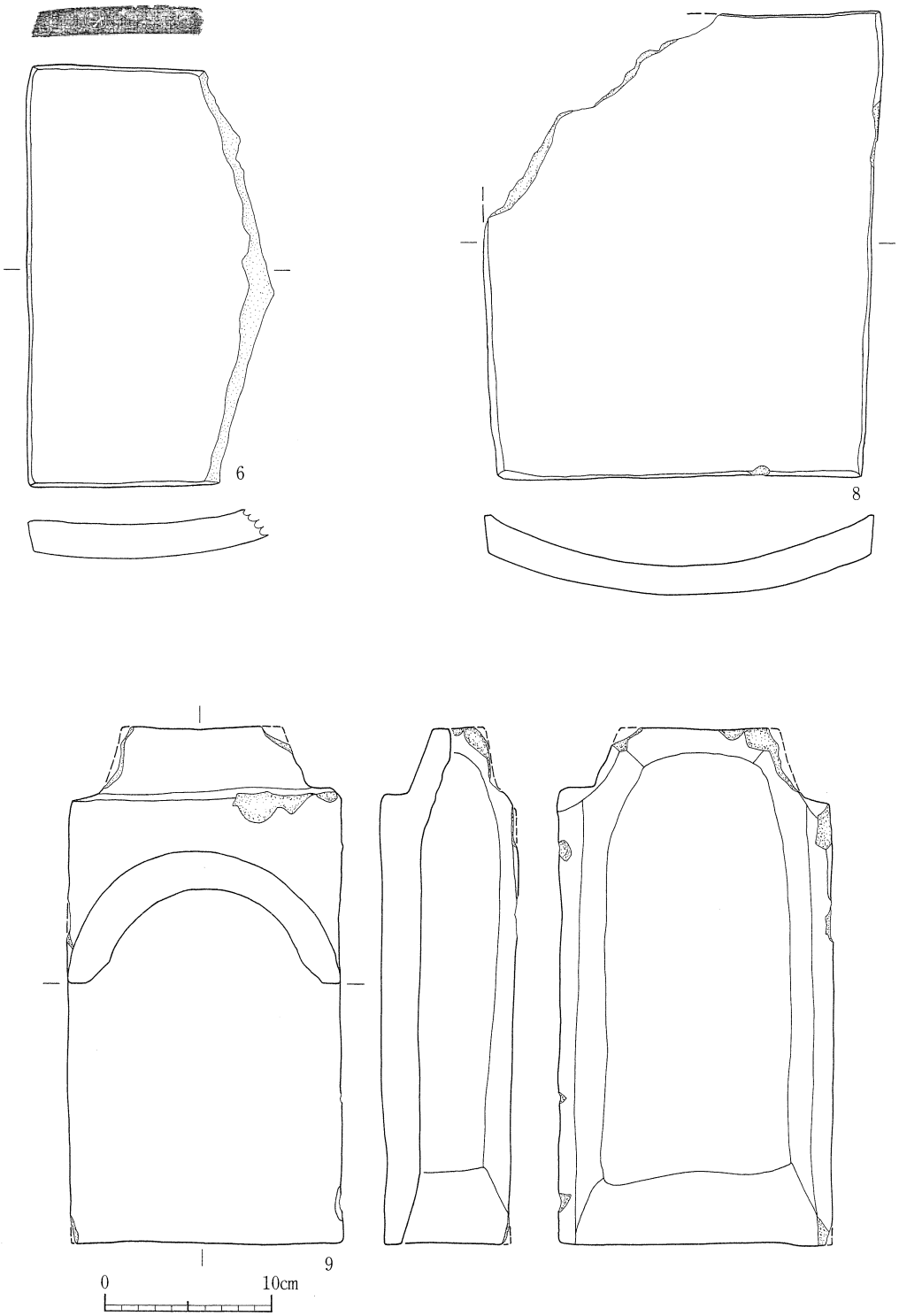


図74　第５地点出土平瓦(2)・丸瓦(1)
Fig. 74 Flat roof tiles and round roof tiles from NM5

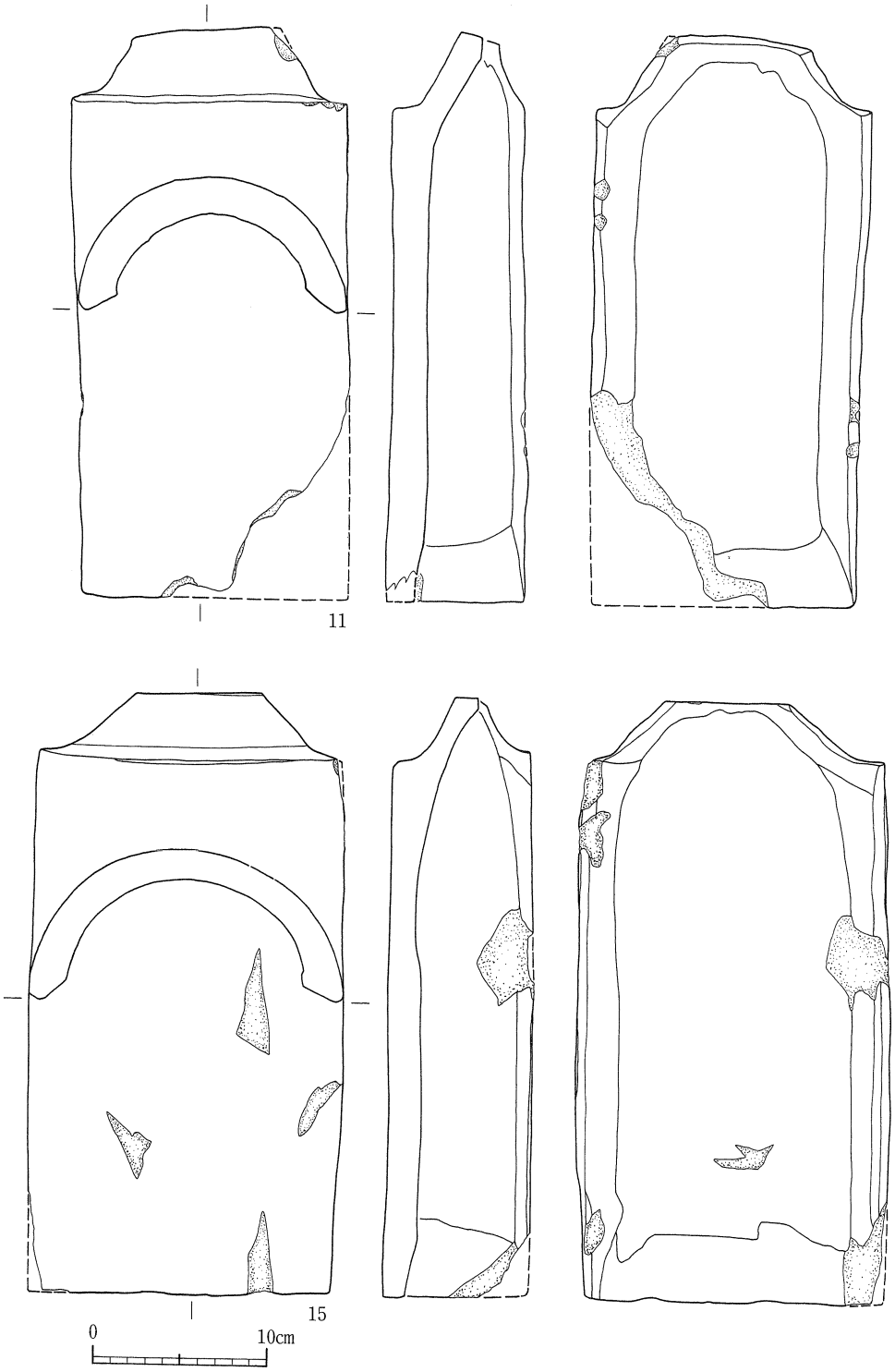


図75　第５地点出土丸瓦(2)
Fig. 75 Round roof tiles from NM5(2)

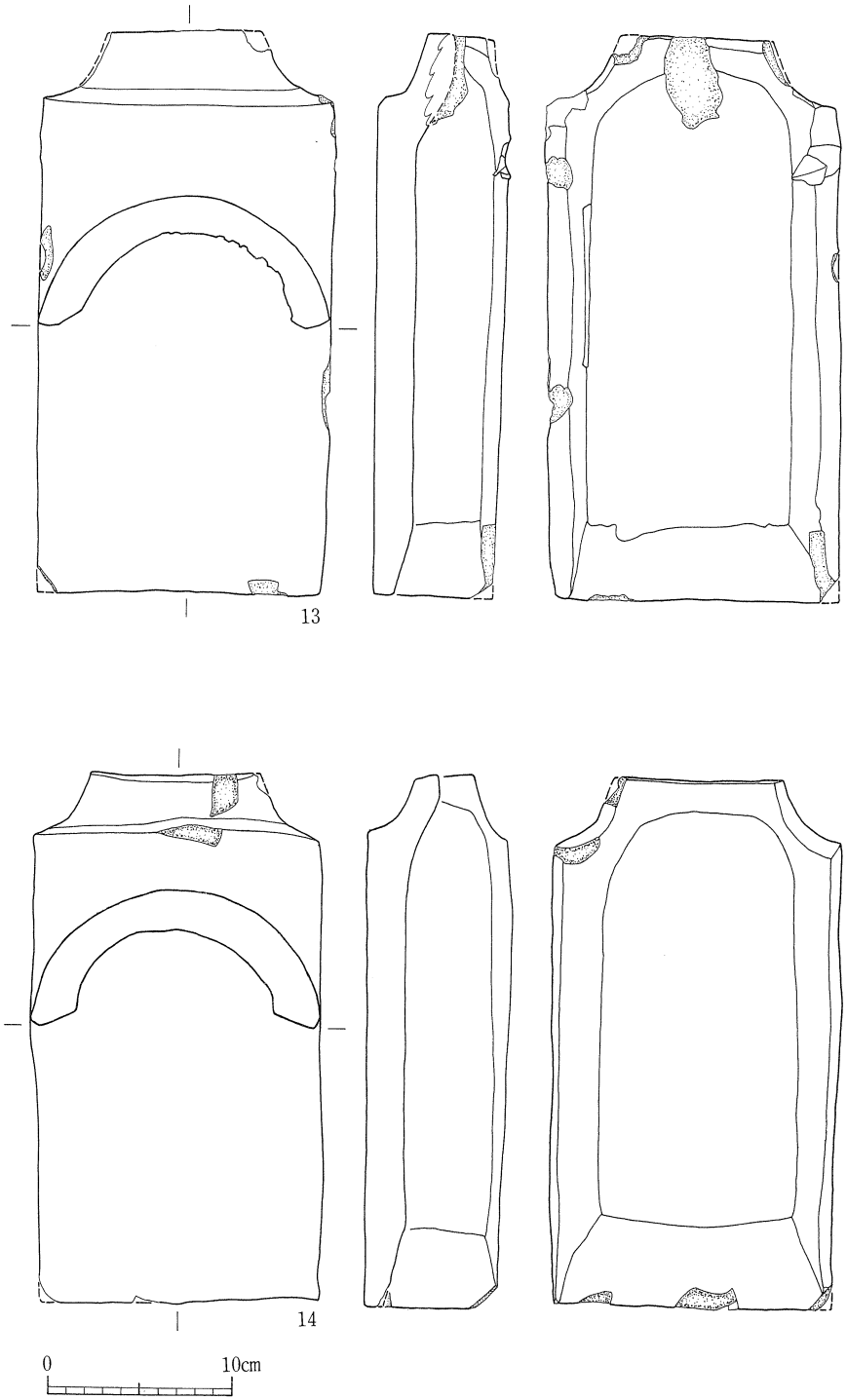


図76　第5地点出土丸瓦(3)
Fig. 76 Round roof tiles from NM5(3)

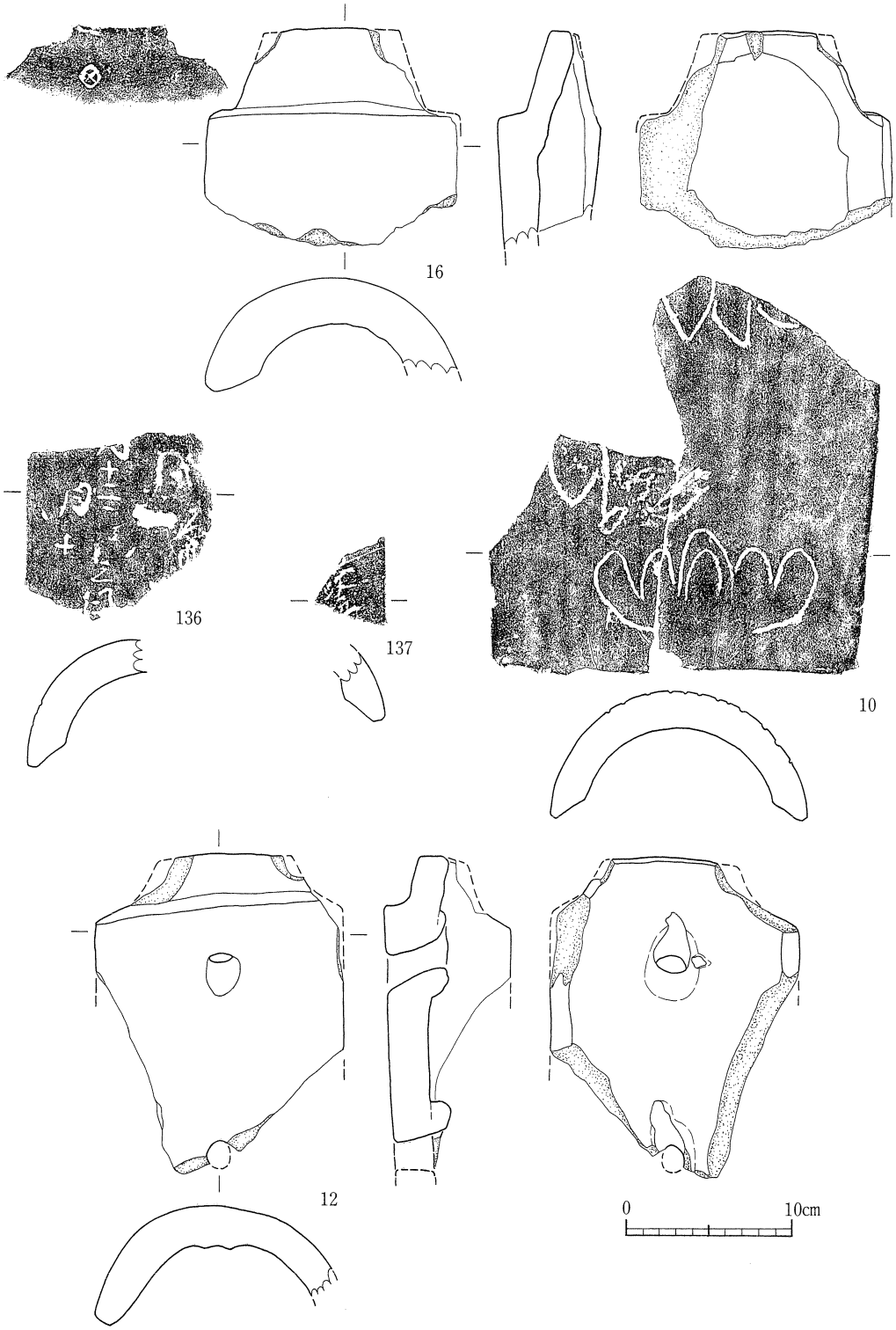


図77　第５地点出土丸瓦(4)

Fig. 77 Round roof tiles from NM5(4)

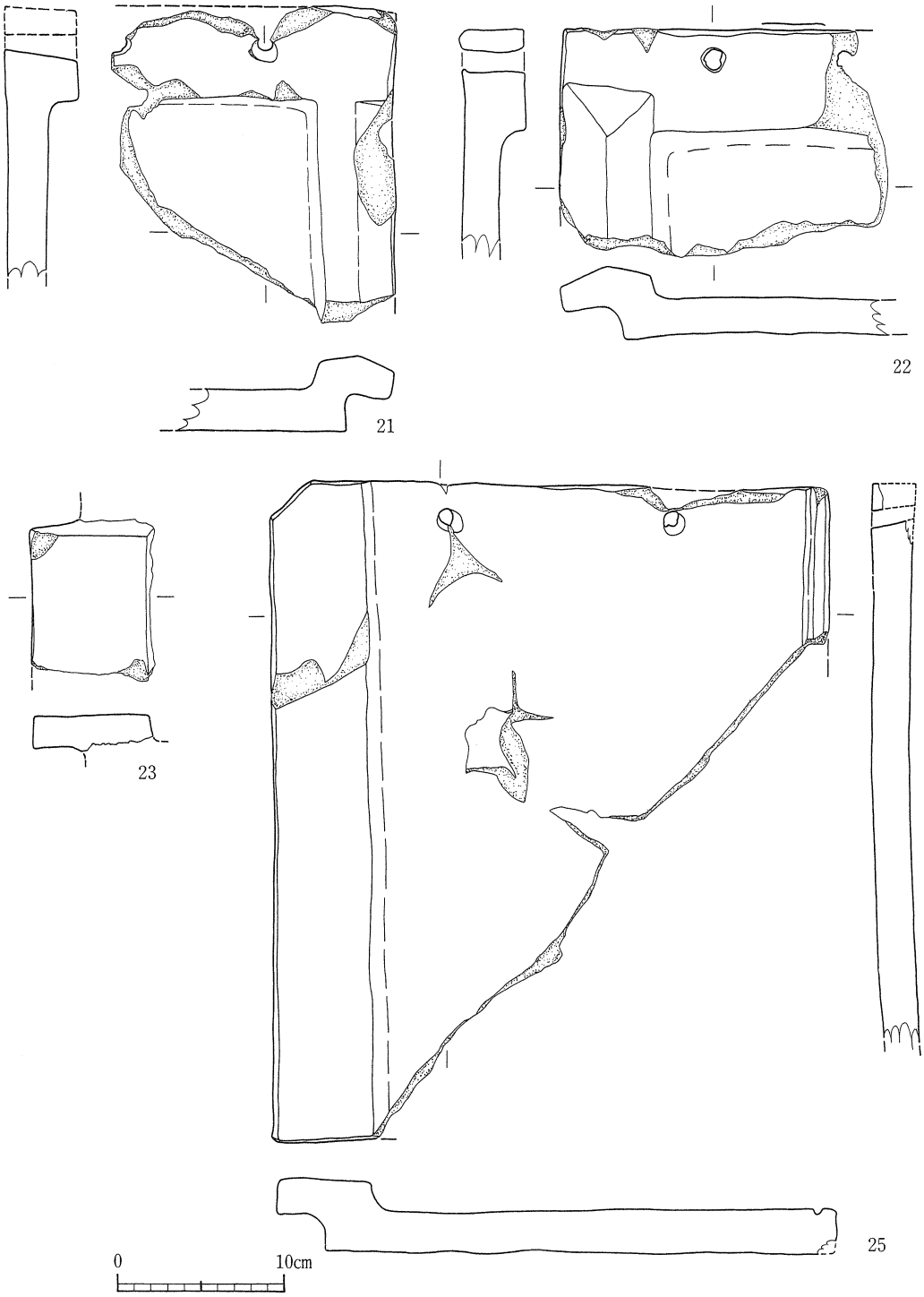


図78　第５地点出土板塀瓦(1)
Fig. 78 Pan tiles used for fence from NM5(1)

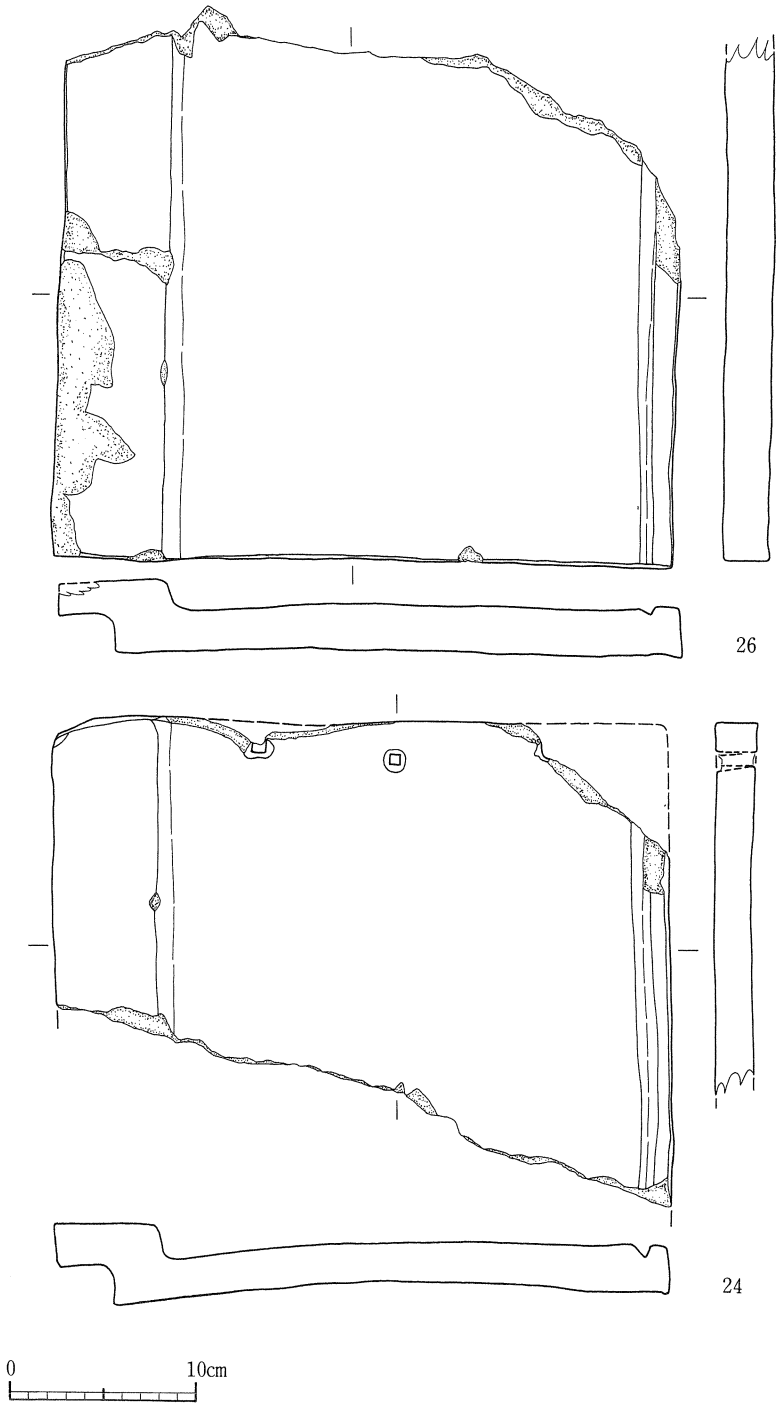


図79　第５地点出土板塀瓦(2)
Fig. 79 Pan tiles used for fence from NM5(2)

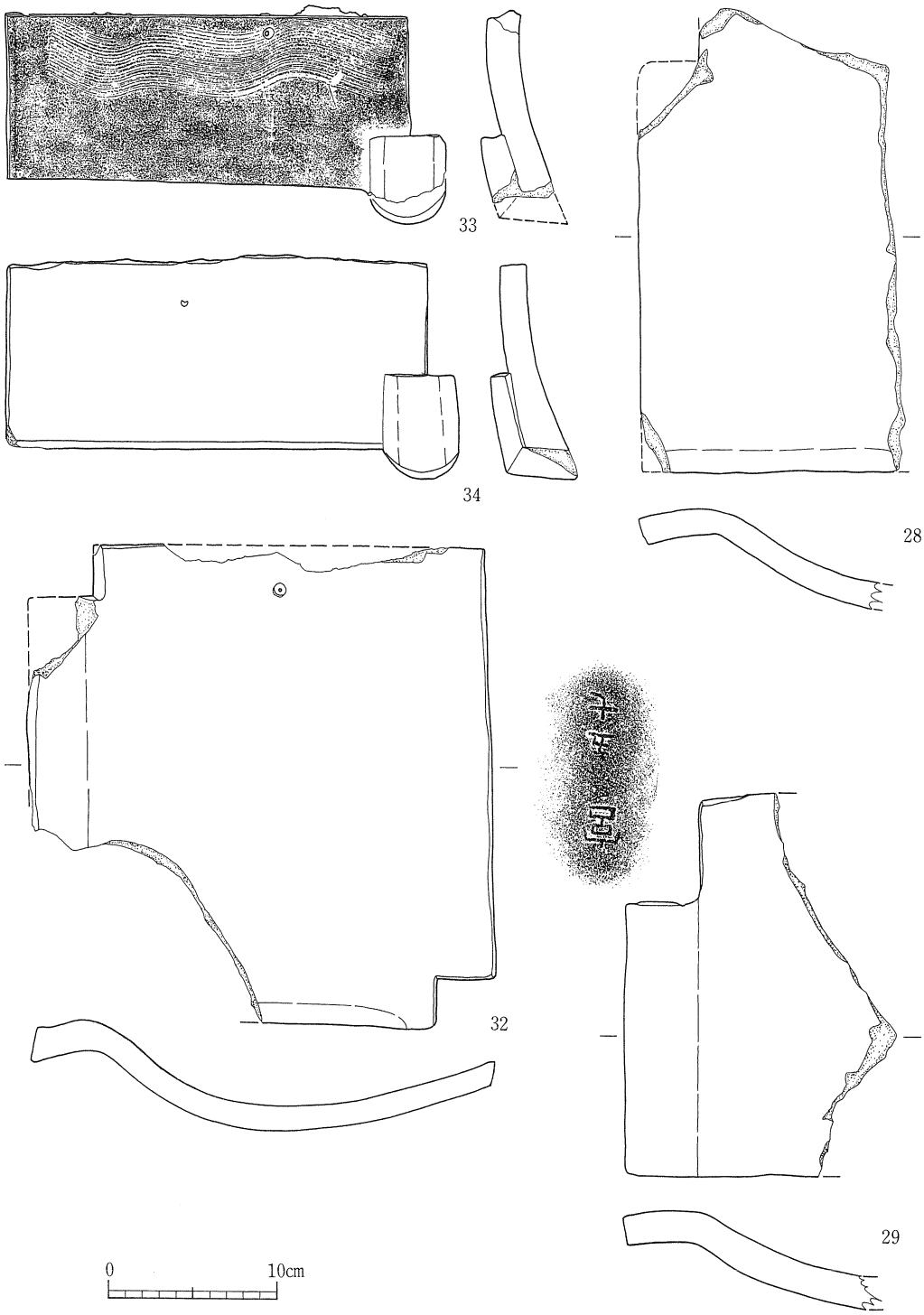


図80　第５地点出土熨斗瓦・桟瓦(1)

Fig. 80 Ridge tiles and pan tiles from NM5

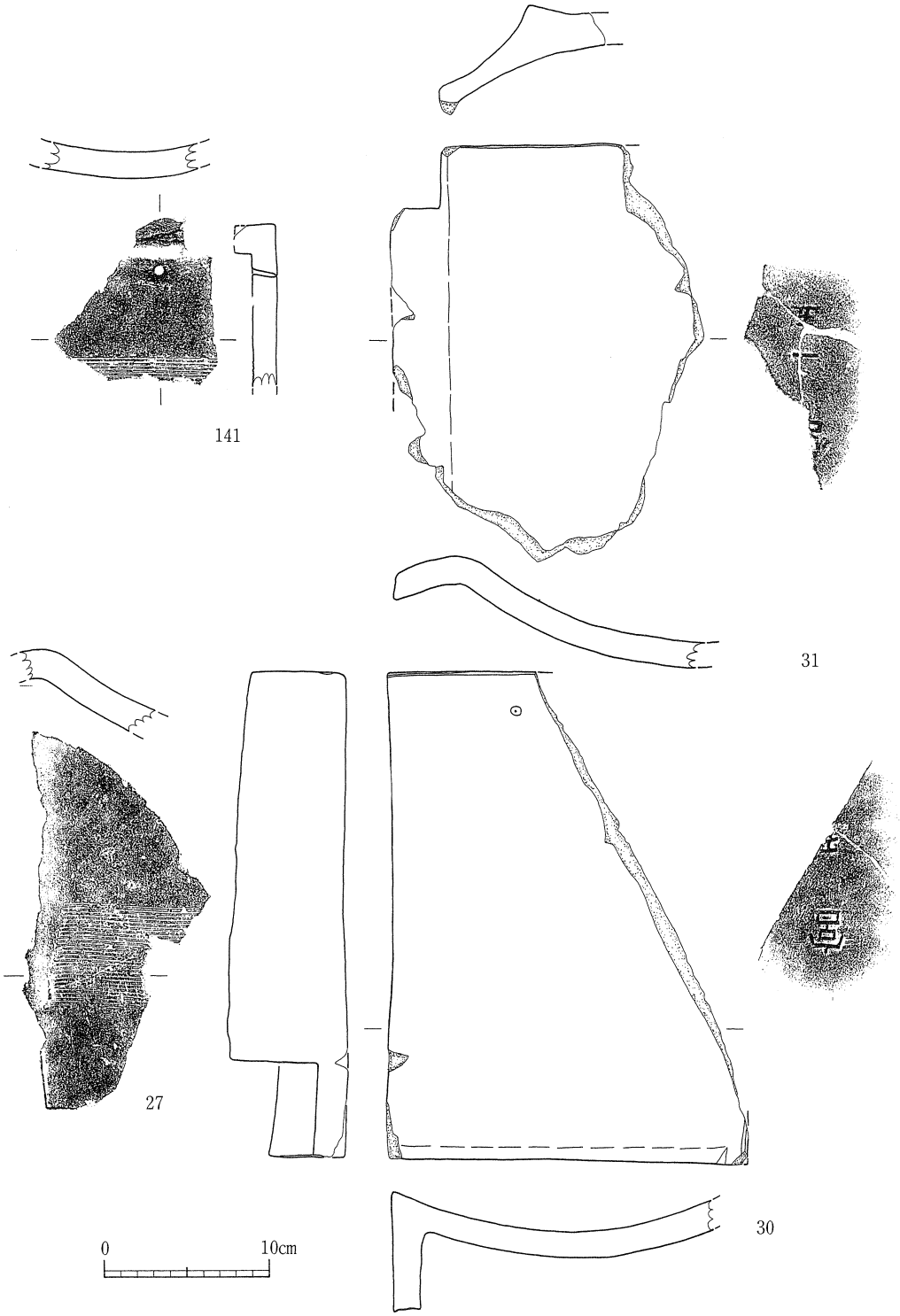


図81　第５地点出土桟瓦(2)
Fig. 81 Pan tiles from NM5(2)

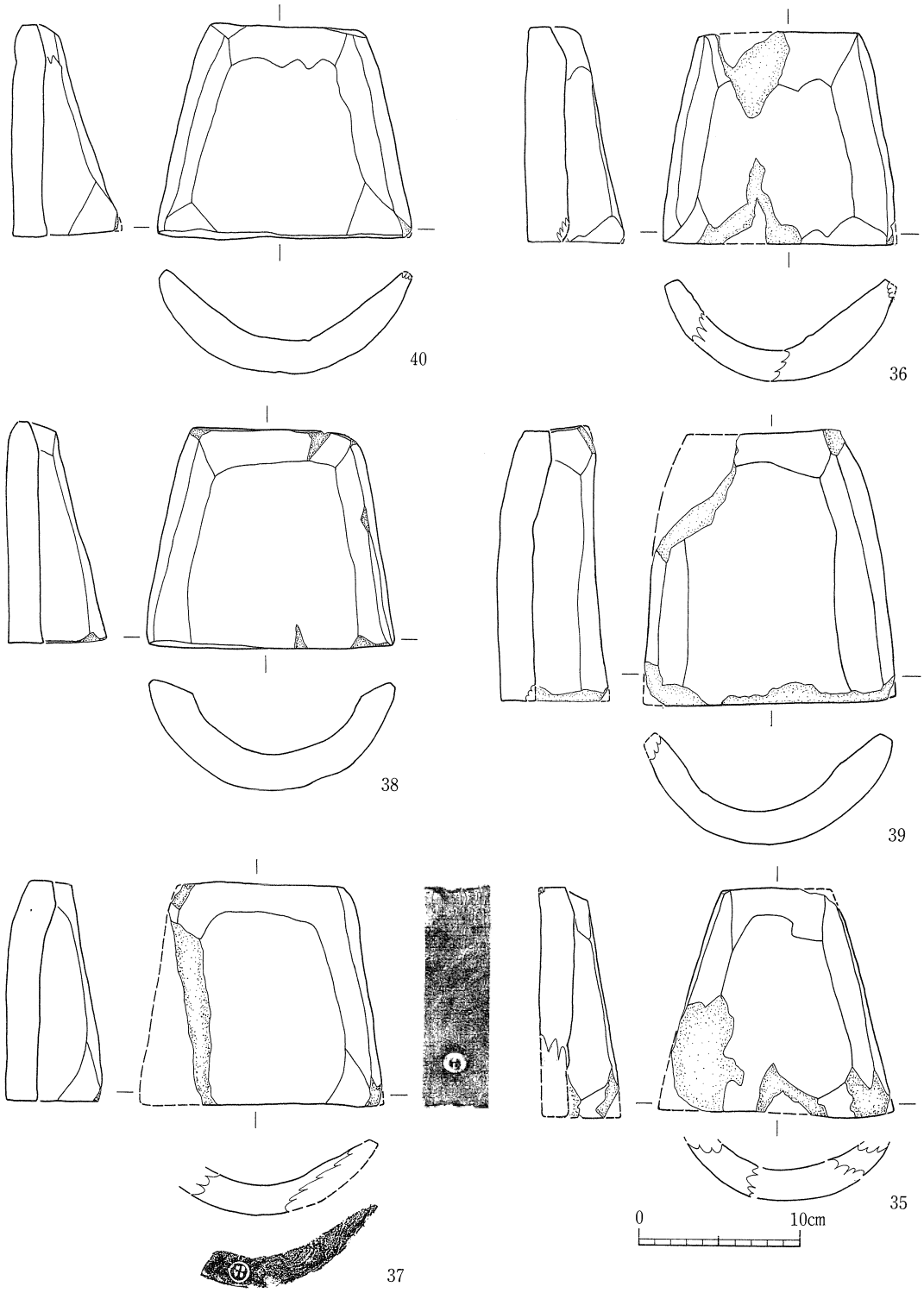


図82　第５地点出土輪違い

Fig. 82 Ridge decoration tiles from NM5

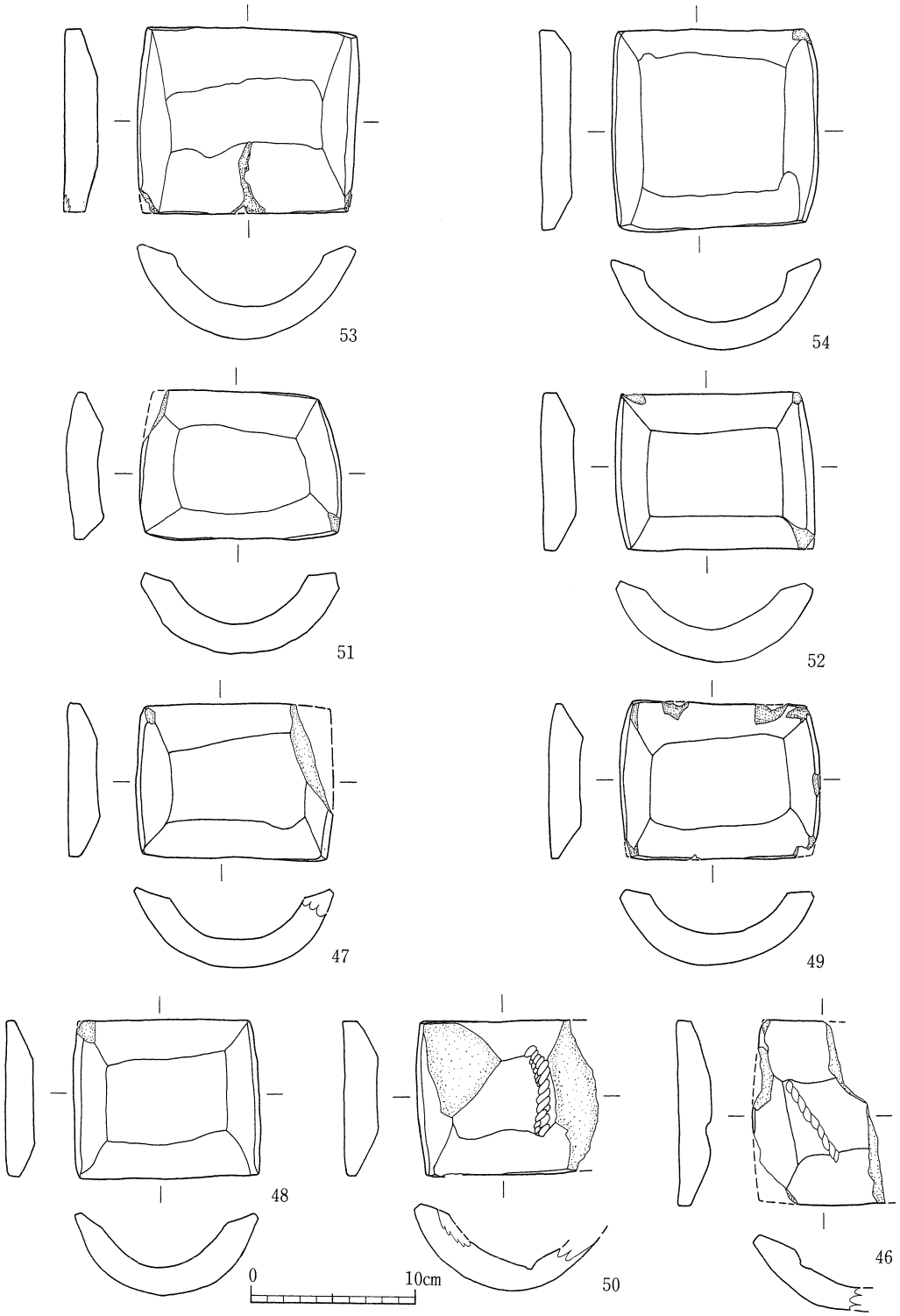


図83　第５地点出土面戸瓦(1)

Fig. 83 Filler tiles from NM5(1)

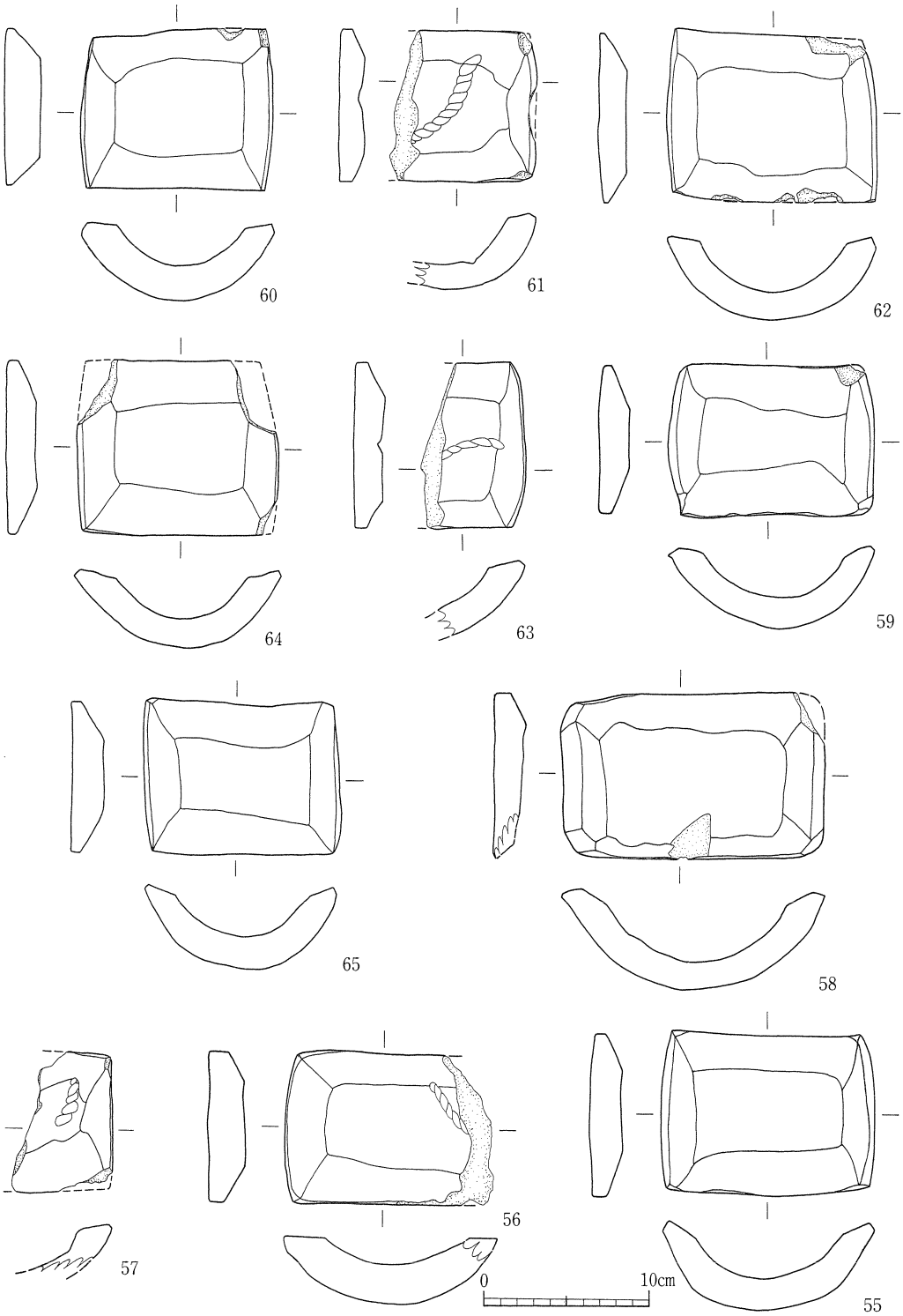


図84　第５地点出土面戸瓦(2)
Fig. 84 Filler tiles from NM5(2)

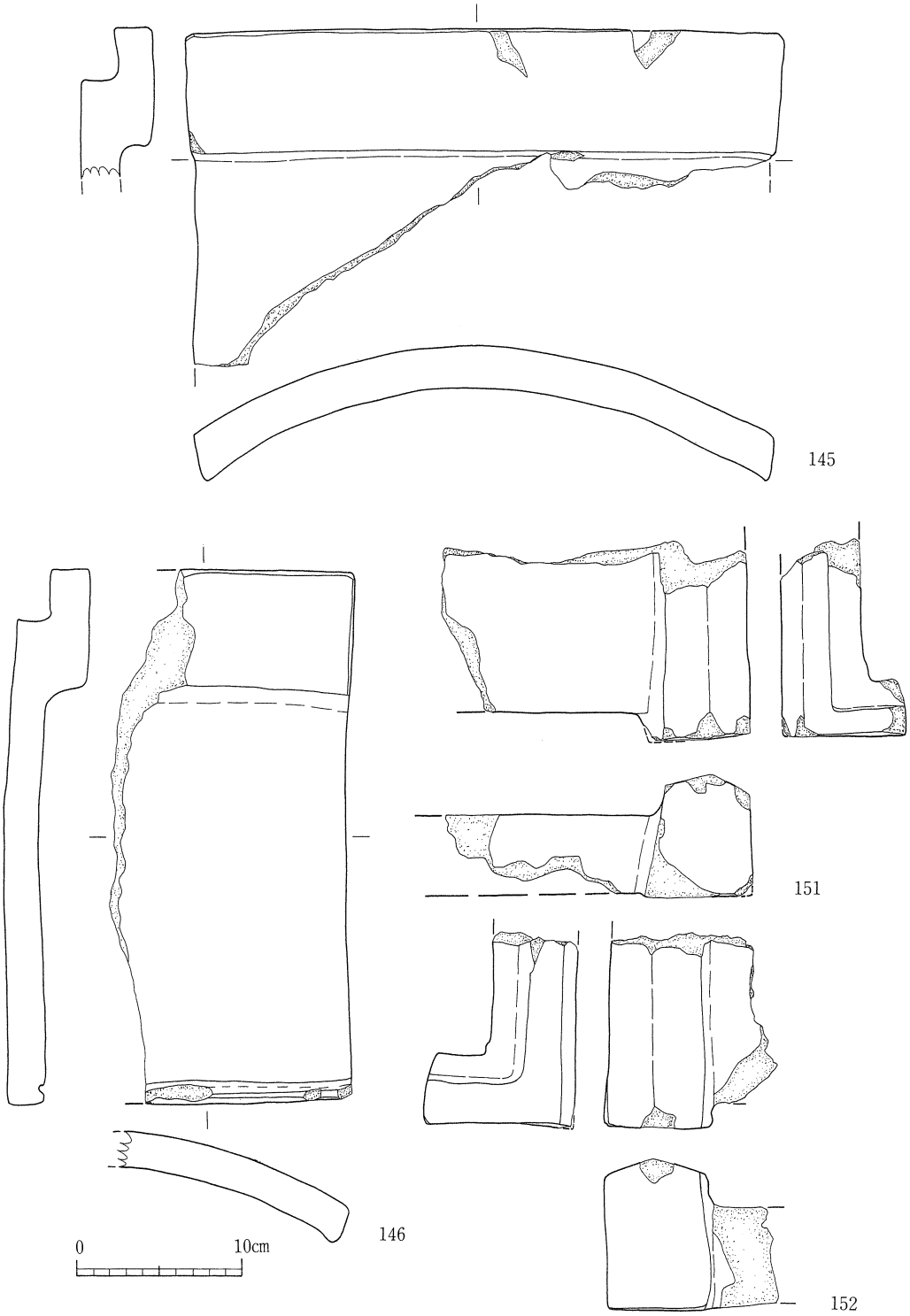


図85　第５地点出土棟瓦・板塀瓦

Fig. 85 Ridge cover tiles and pan tiles used for fence from NM5

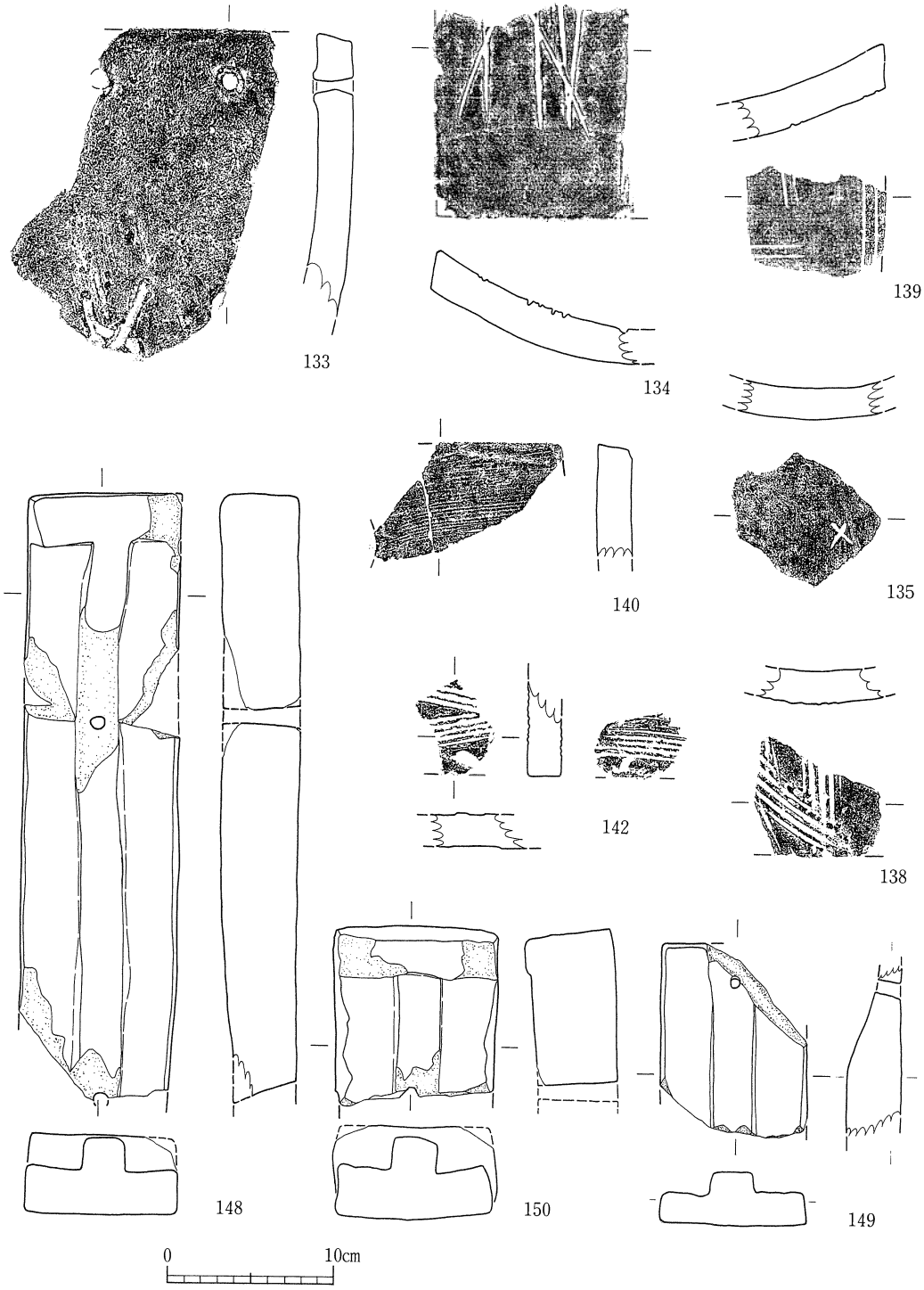


図86　第５地点出土その他の瓦(1)

Fig. 86 Various roof tiles from NM5(1)

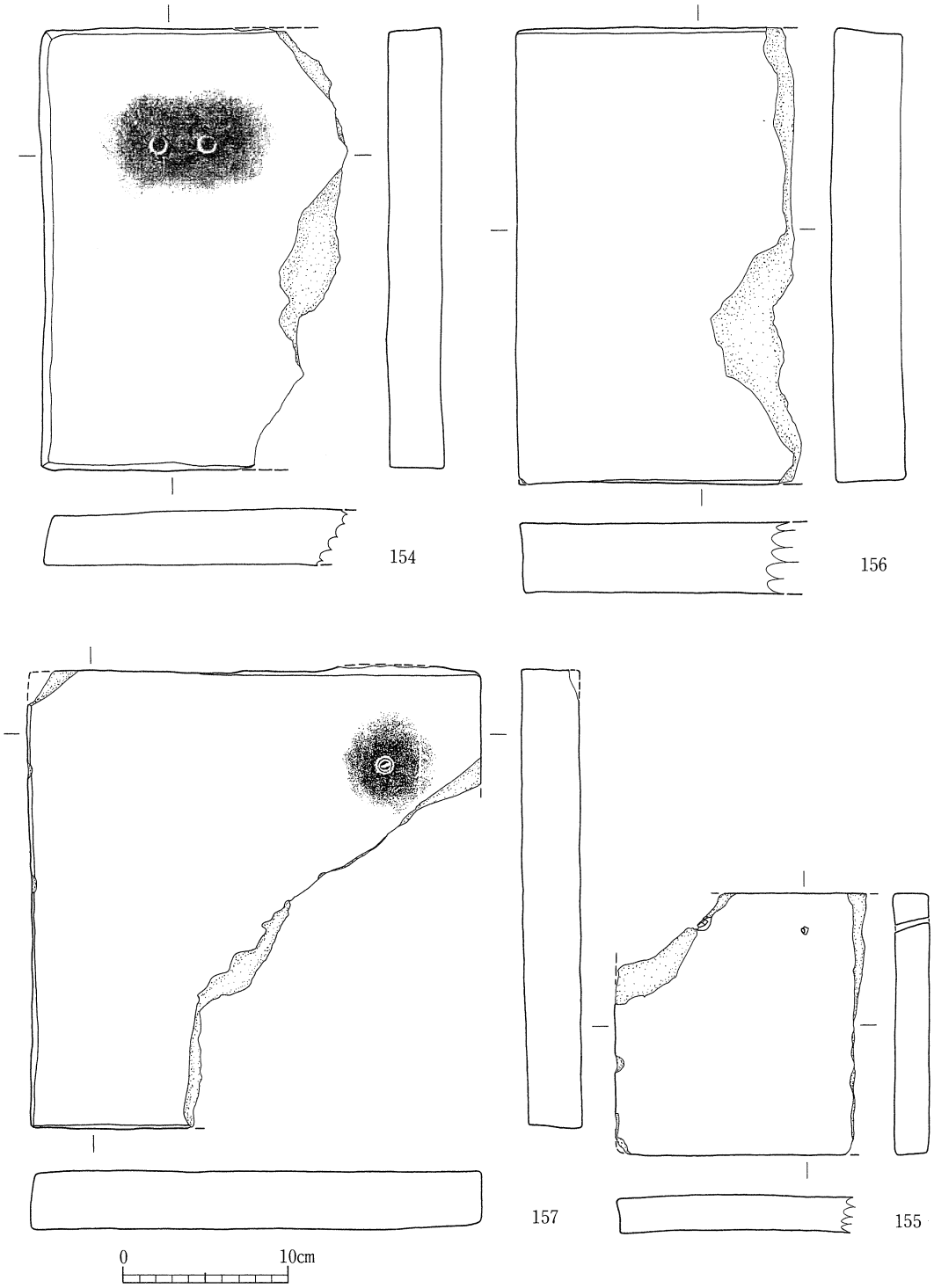


図87　第５地点出土その他の瓦(2)
Fig. 87 Various roof tiles from NM5(2)

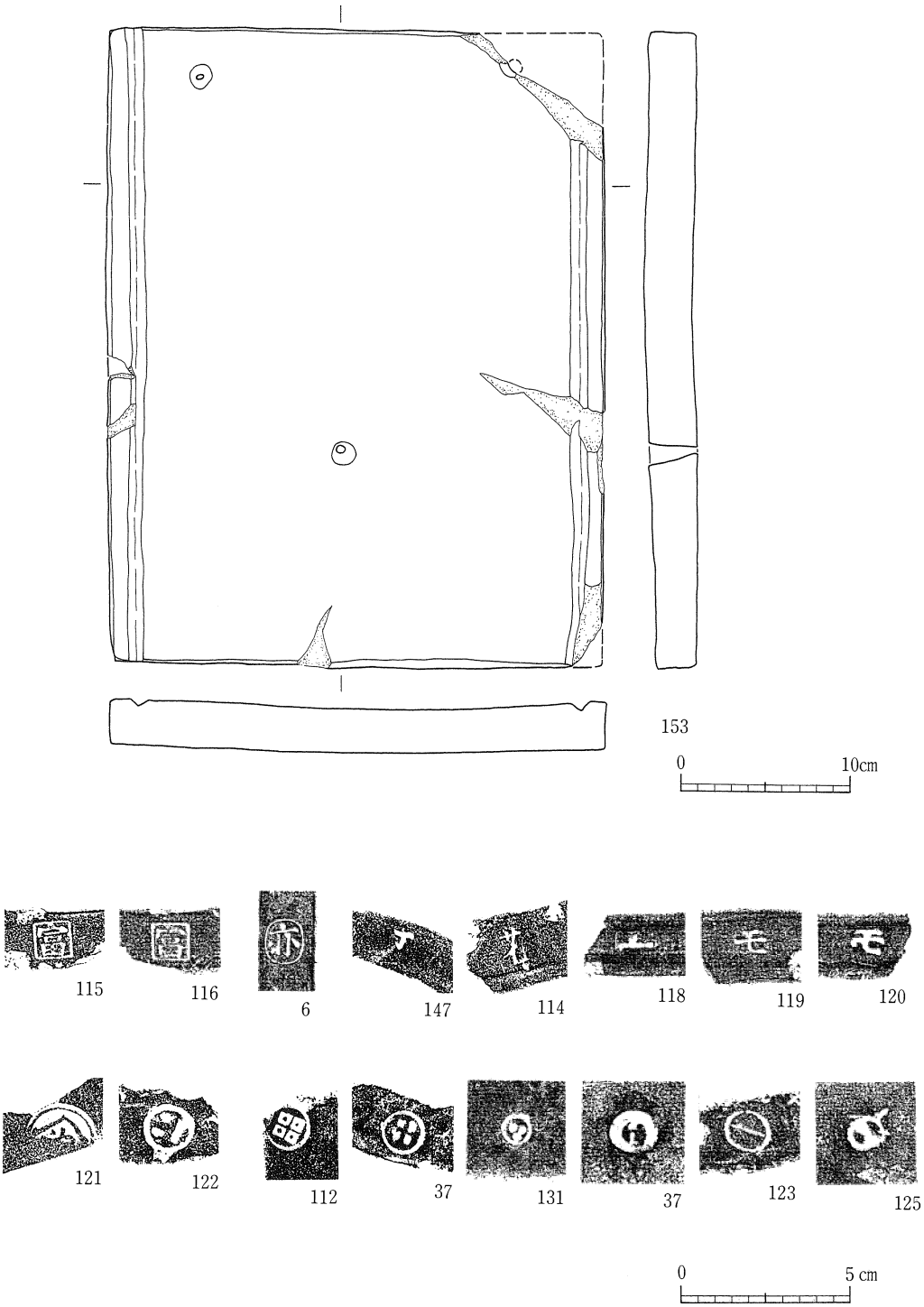


図88　第５地点出土その他の瓦(3)・刻印瓦(1)

Fig. 88 Various roof tiles and roof tiles with seal impression from NM5

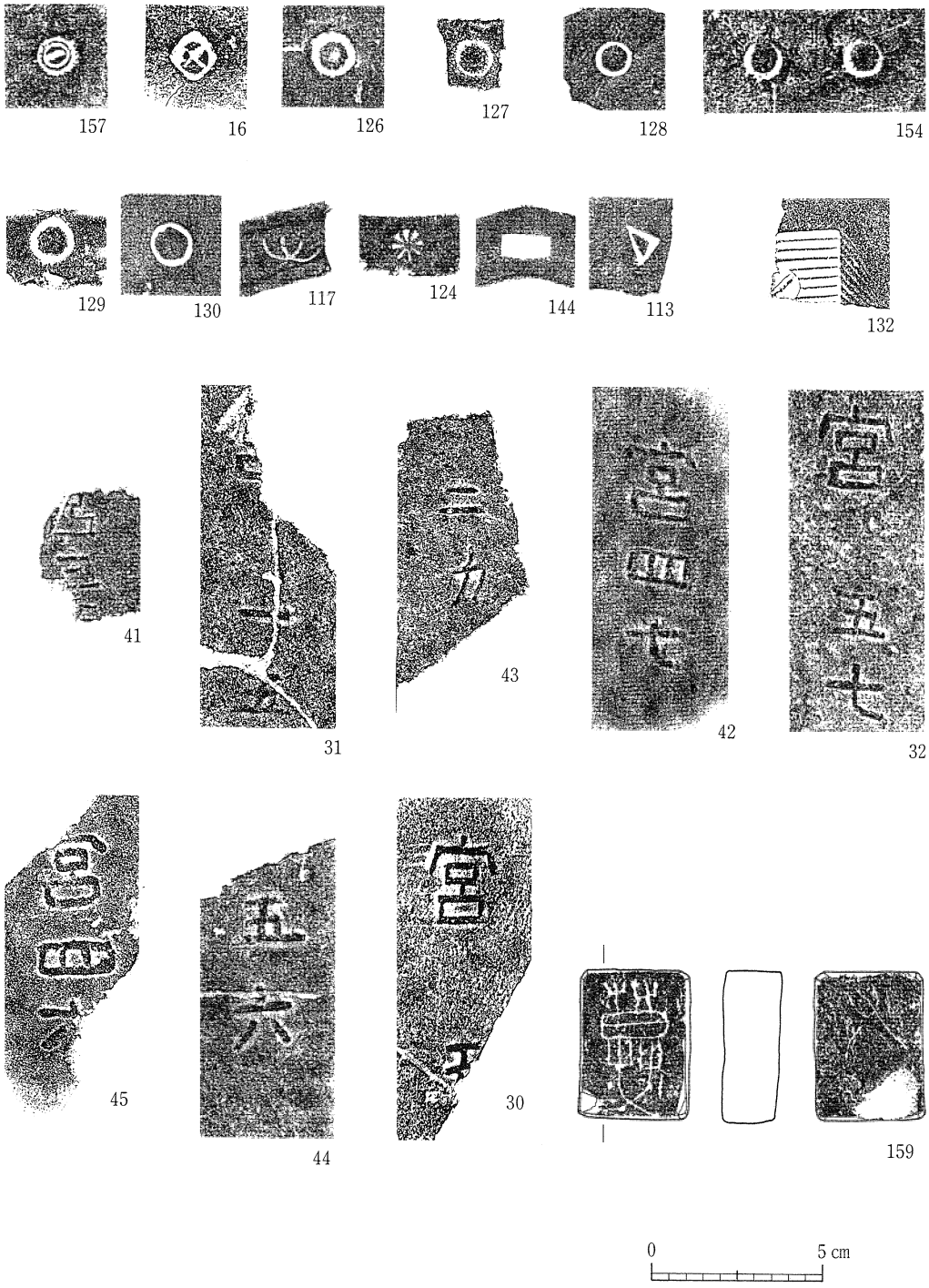


図89　第５地点出土刻印瓦(2)・瓦加工品

Fig. 89 Roof tiles with seal impression and converted roof tile from NM5

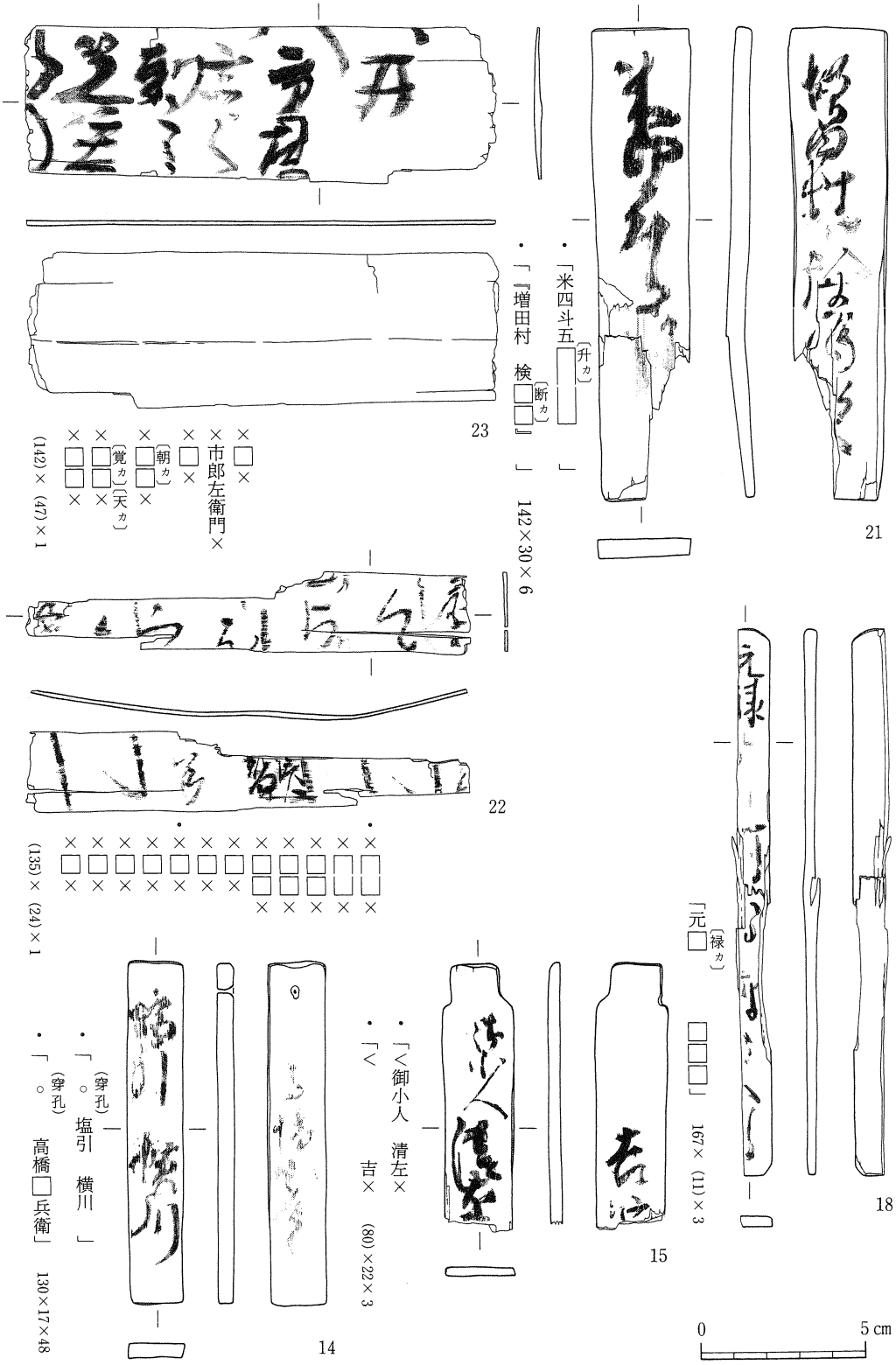


図90　第5地点出土木簡(1)

Fig. 90 Wooden tablets from NM5(1)

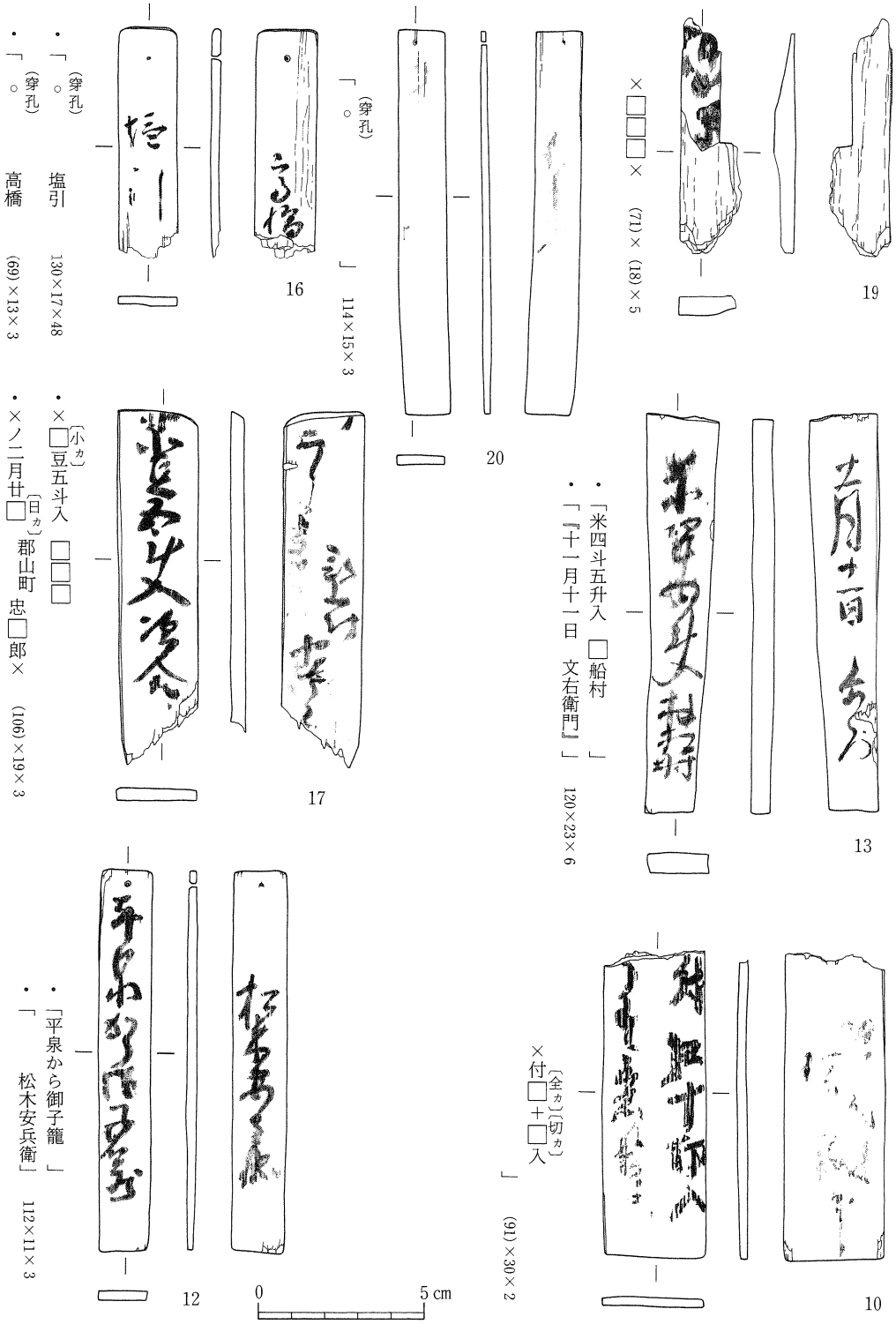


図91　第5地点出土木簡(2)

Fig. 91 Wooden tablets from NM5(2)

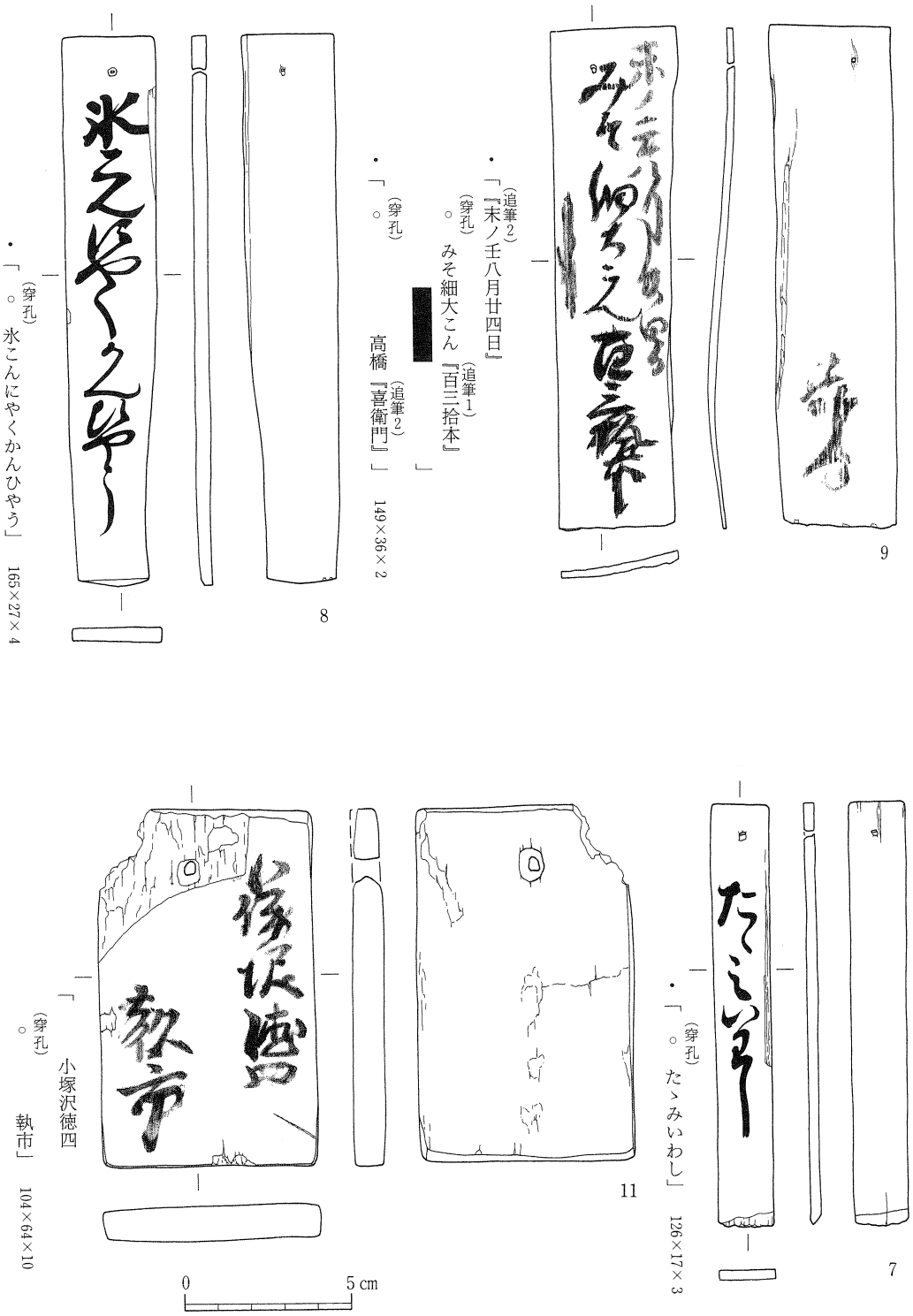


図92　第5地点出土木簡(3)

Fig. 92 Wooden tablets from NM5(3)

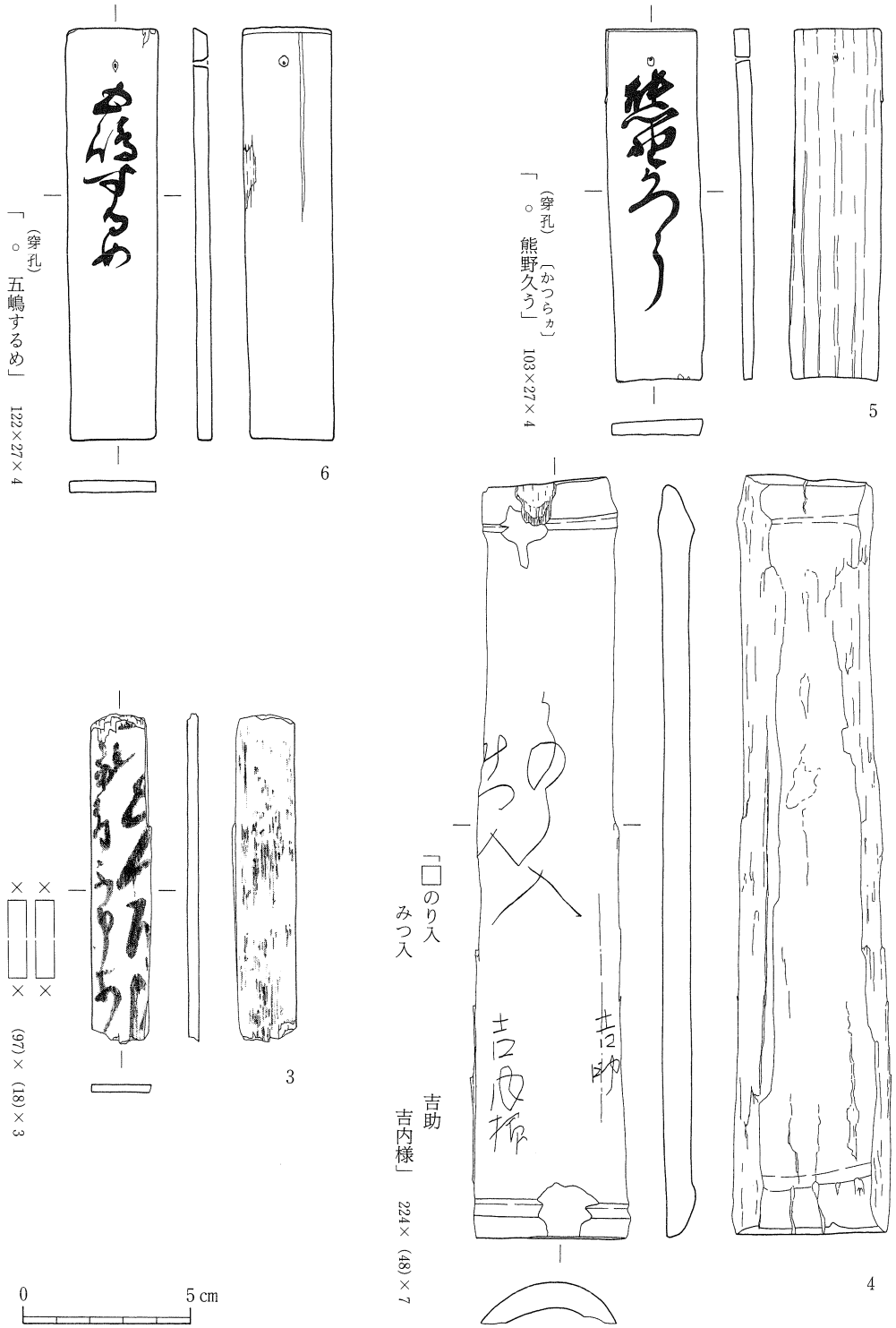


図93　第５地点出土木簡(4)
Fig. 93 Wooden tablets from NM5(4)

図94　第5地点出土木簡(5)・櫛
Fig. 94 Wooden tablets and combs from NM5

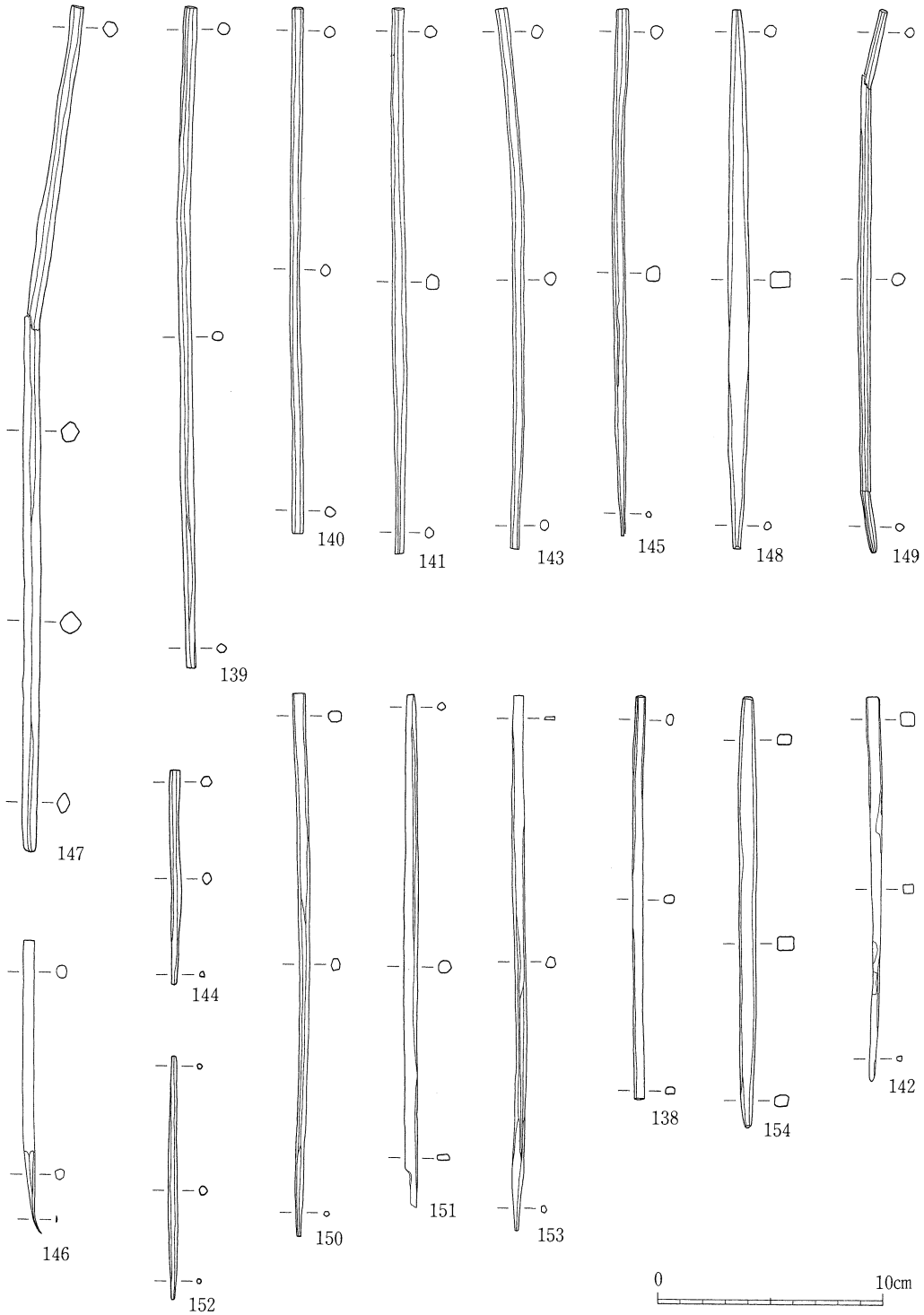


図95　第５地点出土箸状木製品
Fig. 95 Wooden chopsticks from NM5

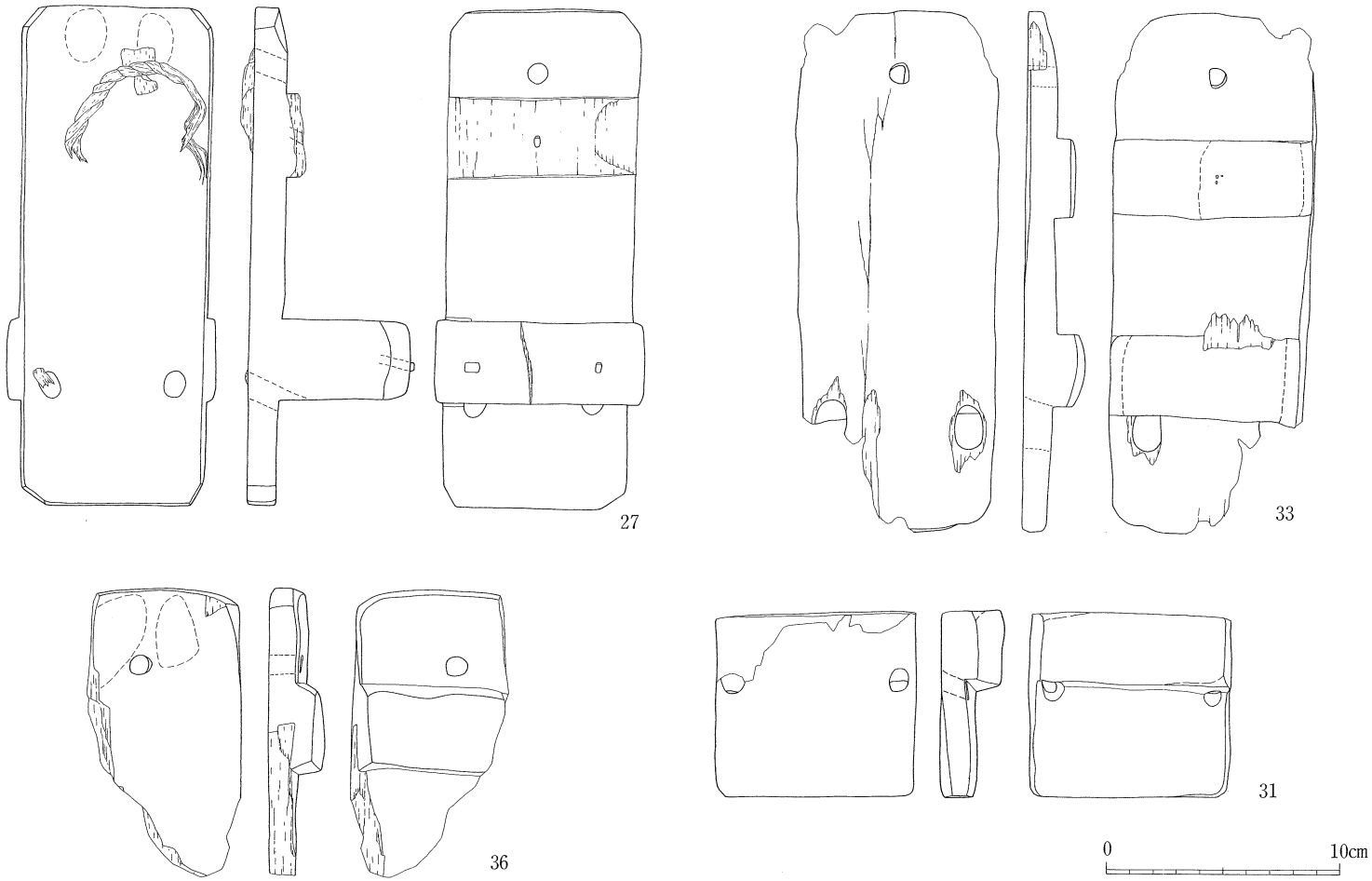


図96　第５地点出土下駄(1)
Fig. 96 Clogs from NM5(1)

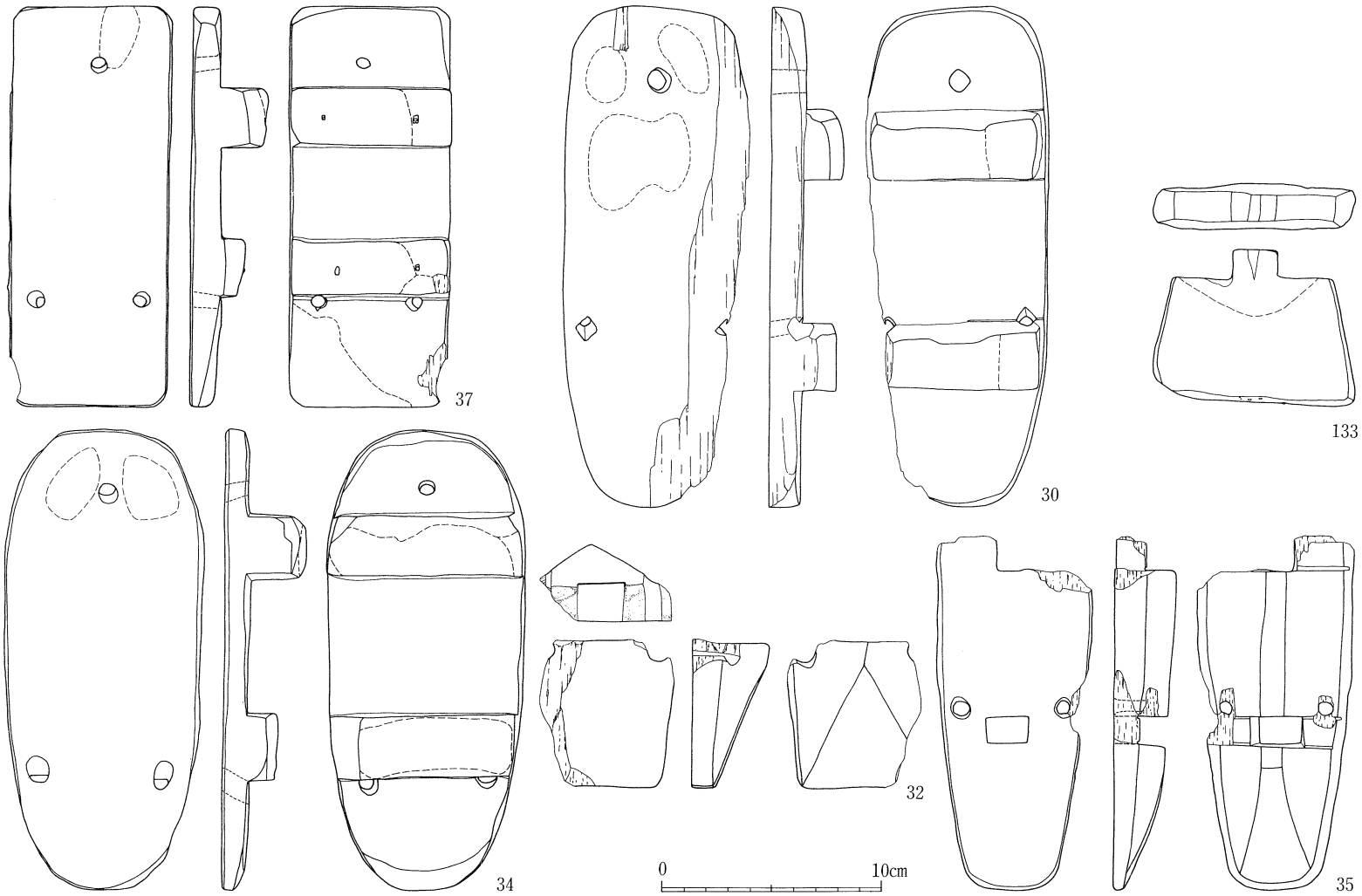


図97　第５地点出土下駄(2)

Fig. 97 Clogs from NM5(2)

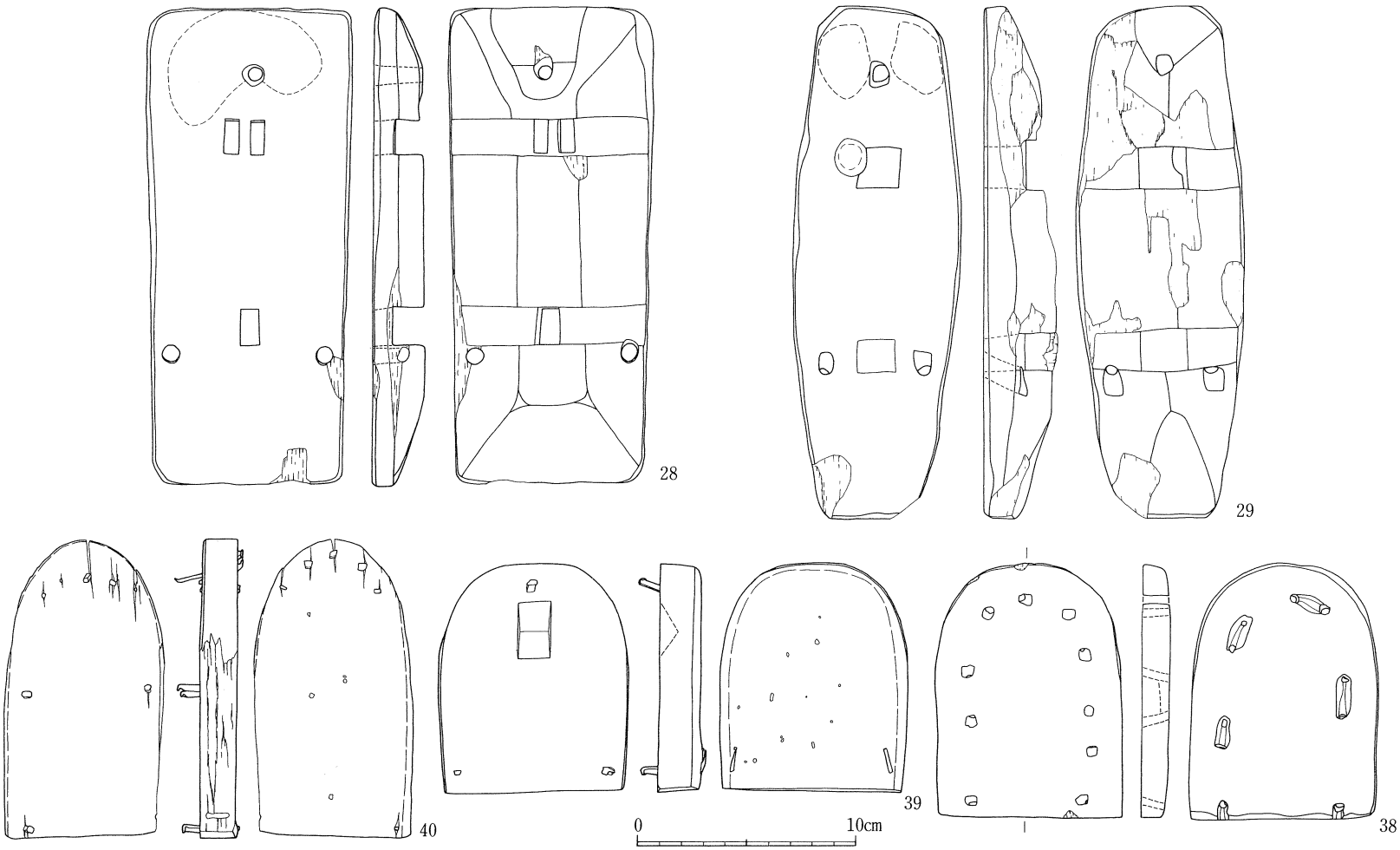


図98　第５地点出土下駄(3)

Fig. 98 Clogs from NM5(3)

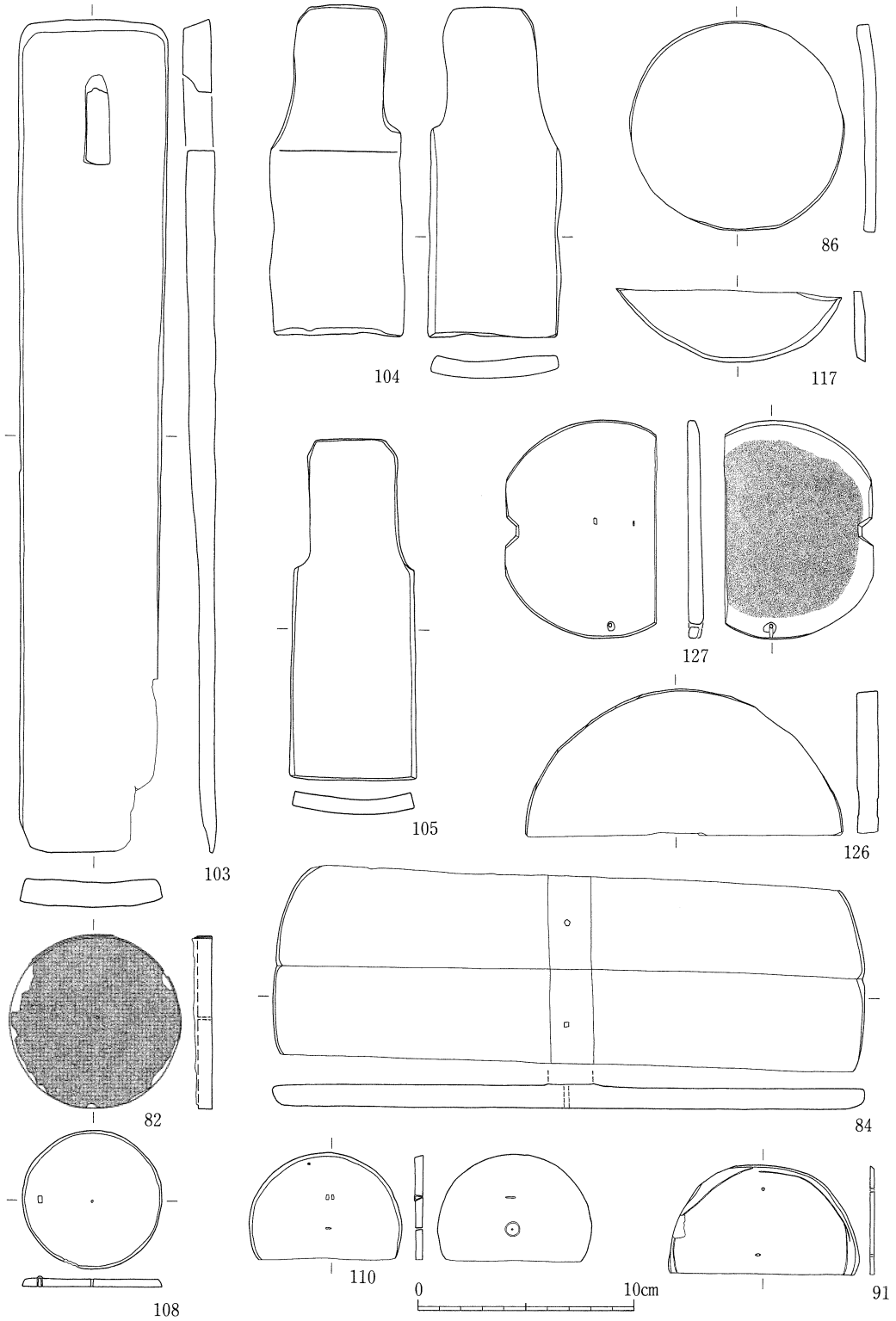


図99　第５地点出土その他の木製品(1)

Fig. 99 Various wooden implements from NM5(1)

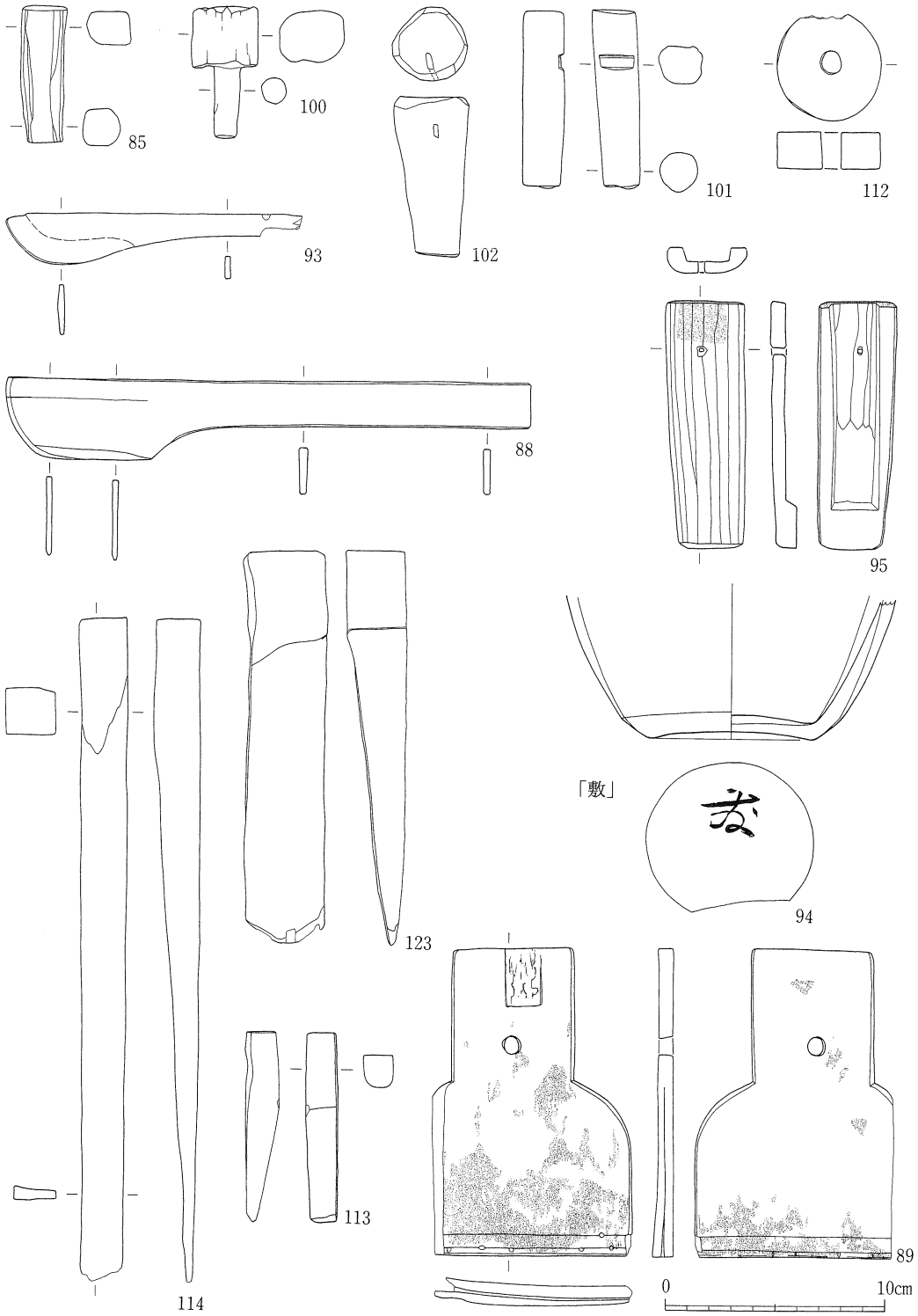


図100　第５地点出土その他の木製品(2)

Fig. 100 Various wooden implements from NM5(2)

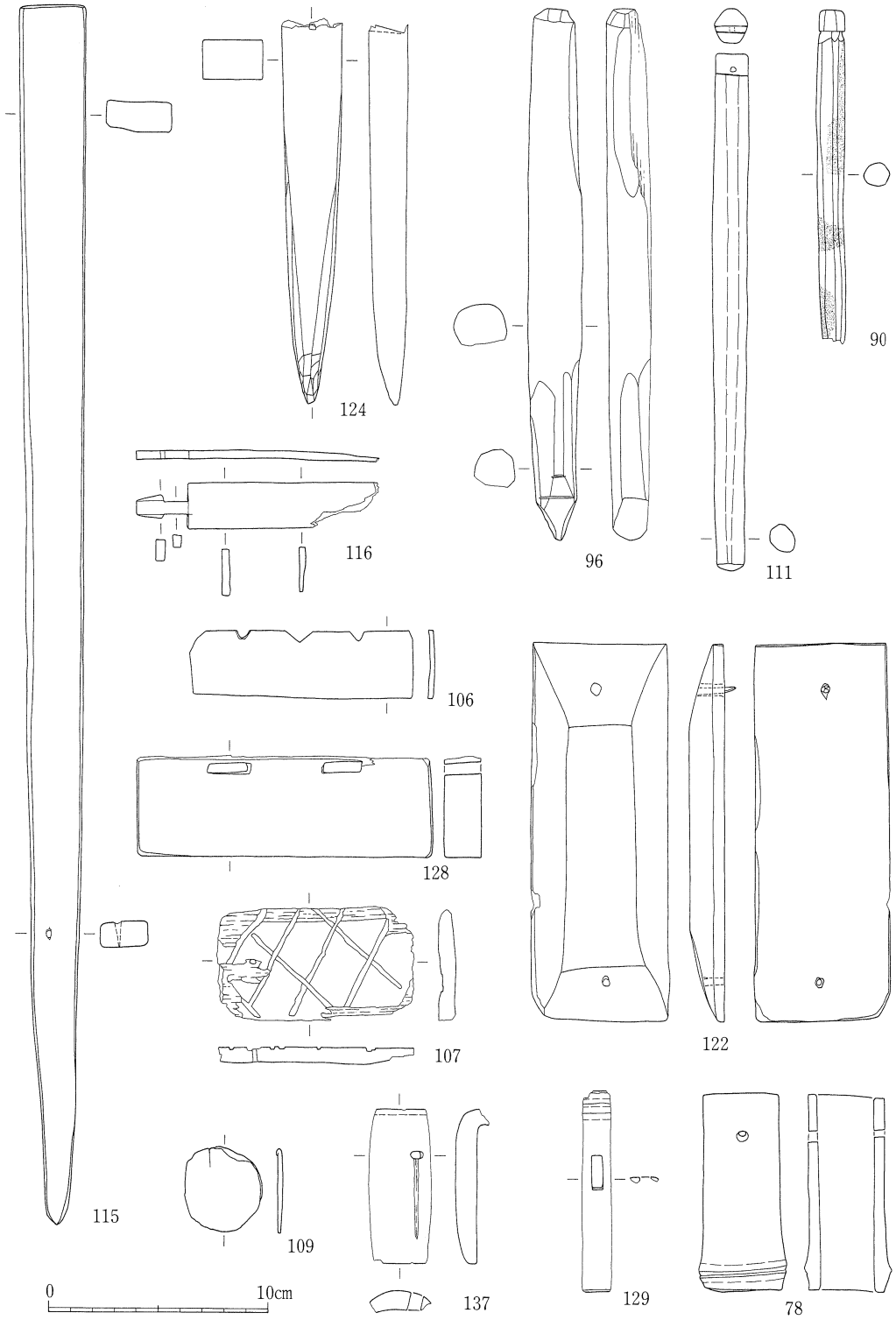


図101　第５地点出土その他の木製品(3)

Fig. 101 Various wooden implements from NM5(3)

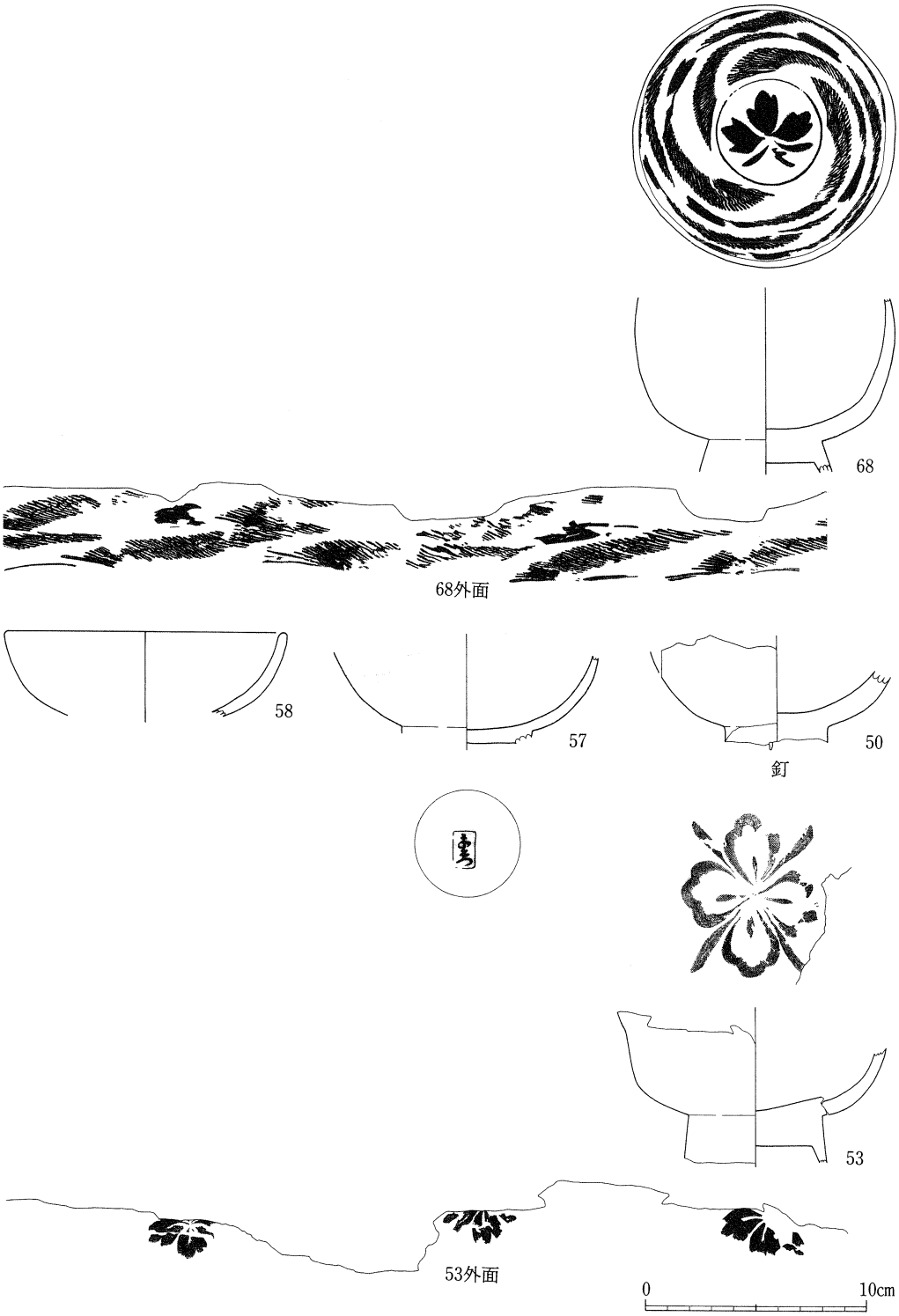


図102　第５地点出土漆塗製品(1)
Fig. 102 Lacquerwares from NM5(1)

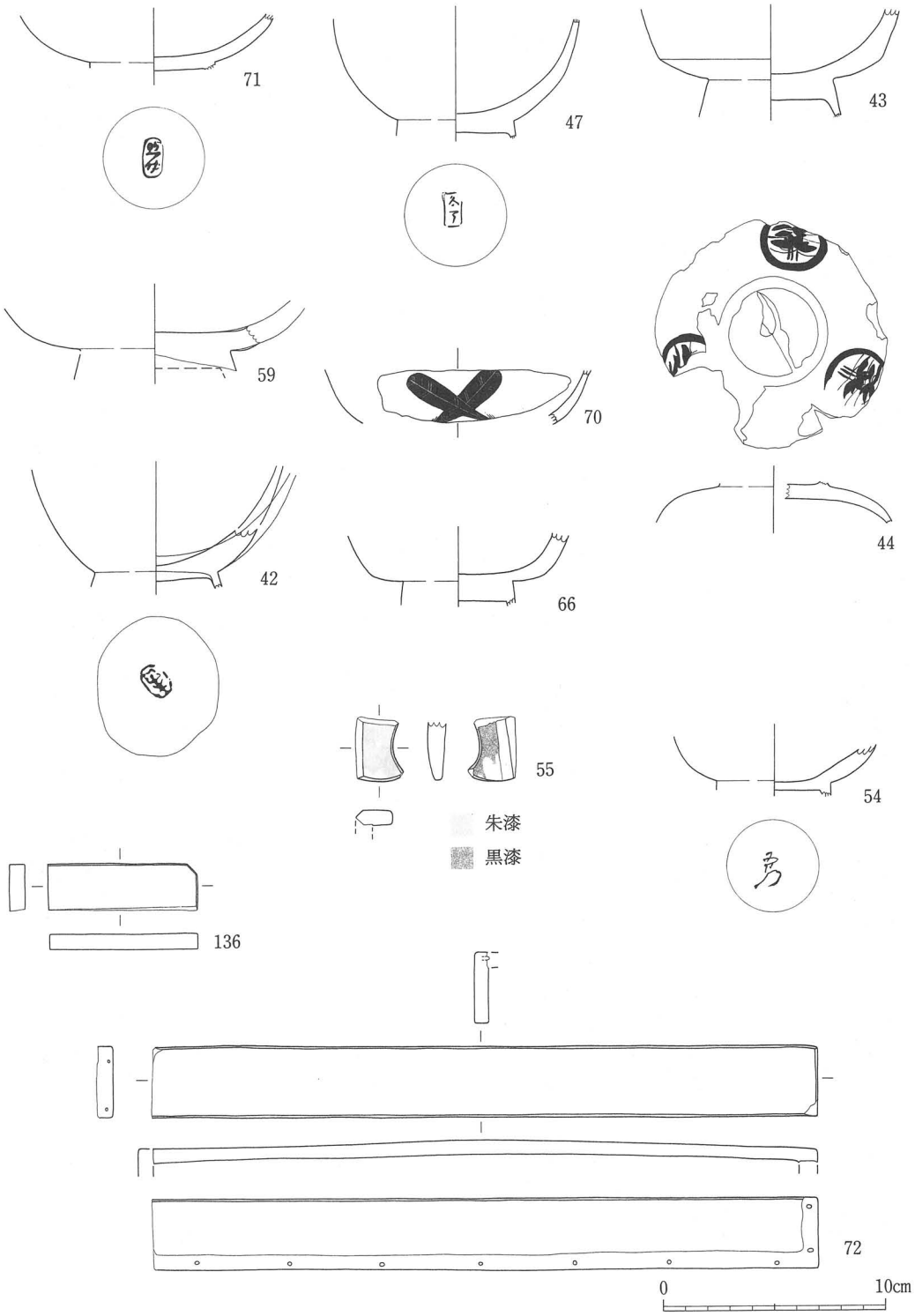


図103　第５地点出土漆塗製品(2)

Fig. 103 Lacquerwares from NM5(2)

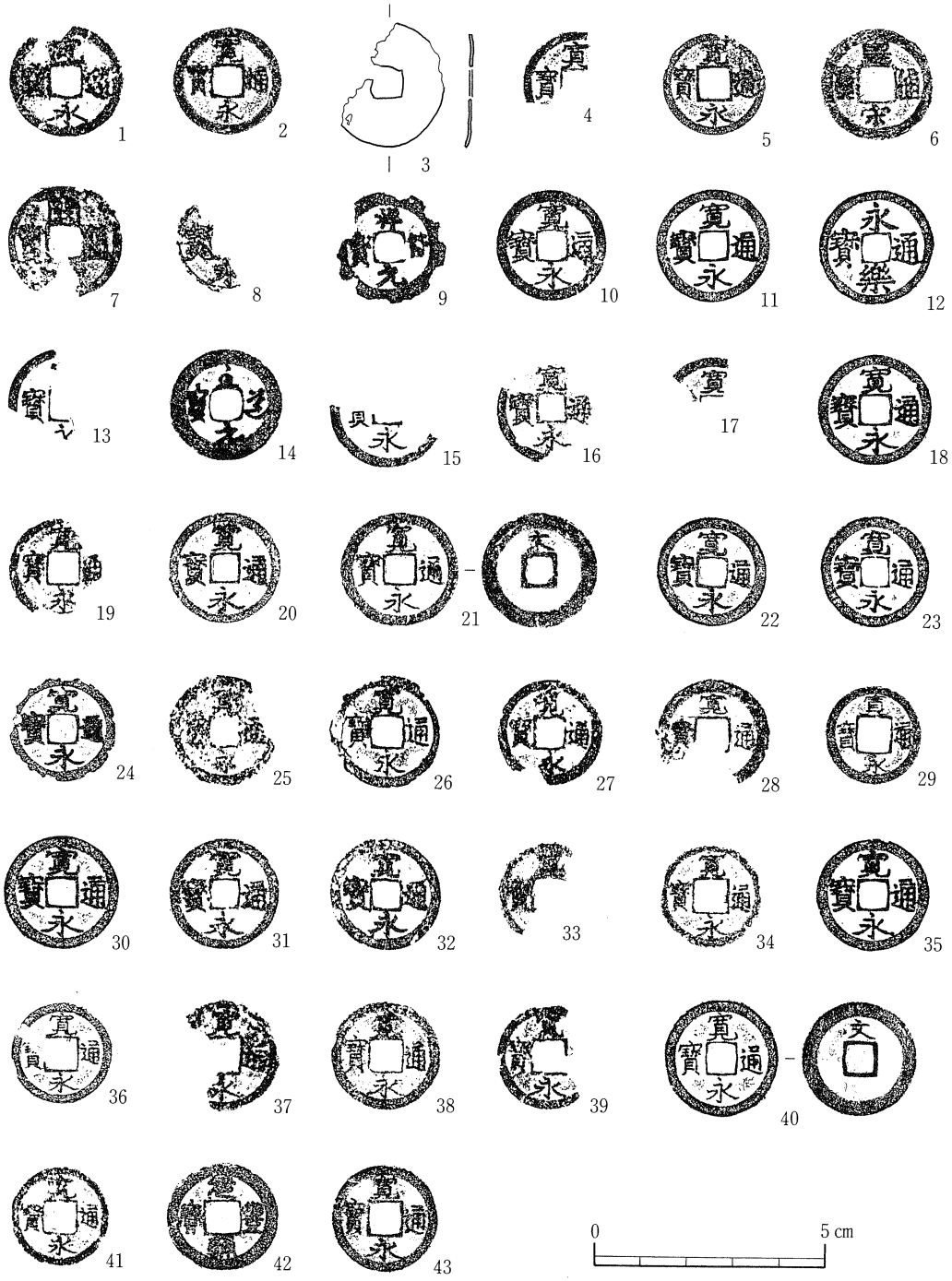


図104　第５地点出土古銭
Fig. 104 Coins from NM5

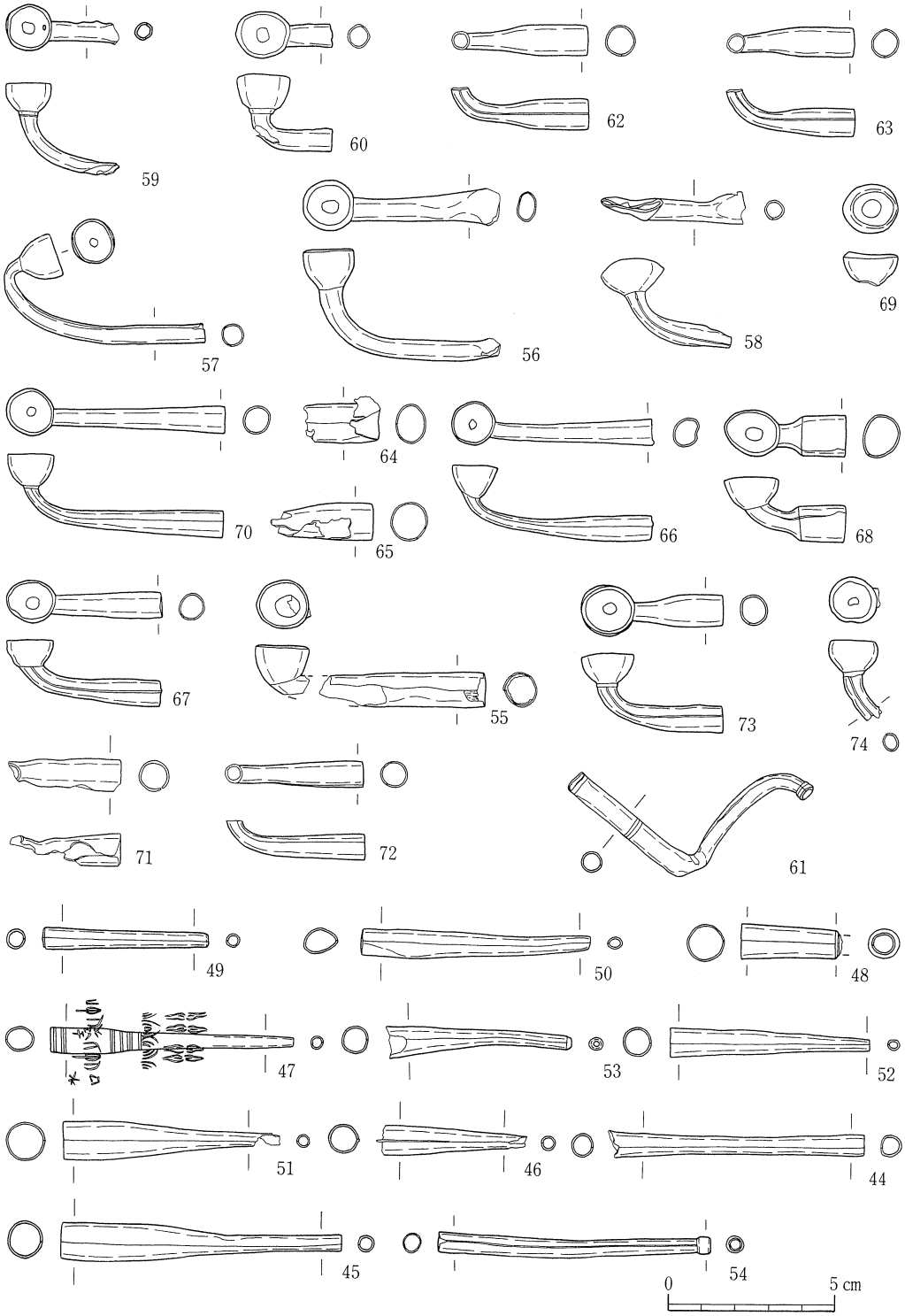


図105　第５地点出土煙管
Fig. 105 Pipes from NM5

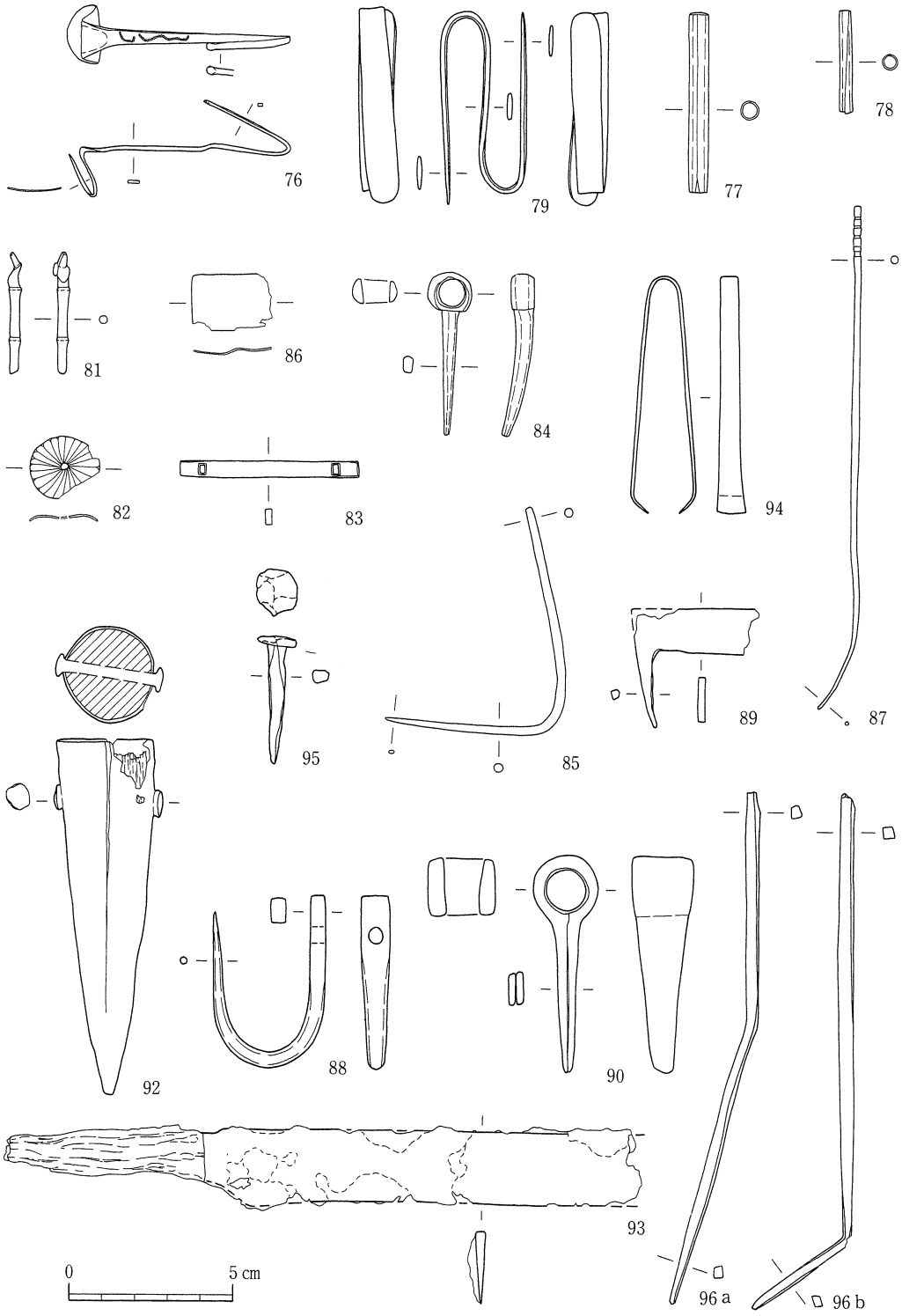


図106　第５地点出土その他の金属製品

Fig. 106 Various metal implements from NM5

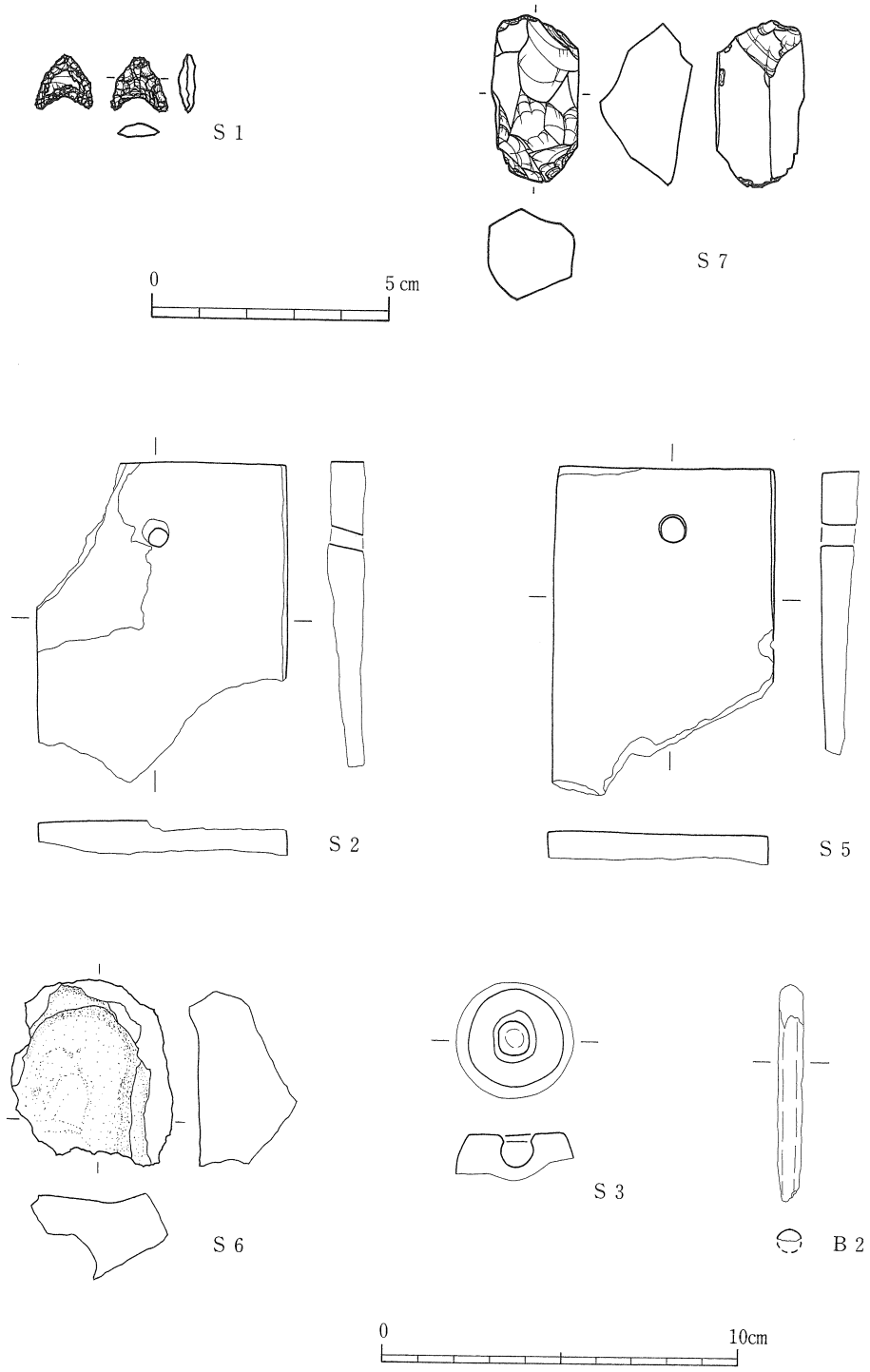


図107　第５地点出土石器・石製品・骨角製品
Fig. 107 Various implements from NM5

表２　第５地点出土磁器集計表(1)

Tab. 2　Distribution of porcelains at NM5(1)

層・遺構	大碗	中碗				小碗				碗	皿			碗皿識別不明	袋物				蓋	その他	不明
		丸形	筒形	端反	広東	丸形	筒形	端反	広東	不明	極小	小中	大		水注	瓶類	その他	不明			
１層	1	3		1	3	34	6	39	2	164		84	10	82	5	25		16	19	12	202
２層上面								2		5		3						1	2		
２層		2				9		8		15	3	9	1	17		2				1	15
２ａ層直上層		2				7	2	1	2	4		11		18		9		2	3	4	15
２ａ層		10			1	48	2	42		111	1	66	3	69	3	11	1	14	12	27	
２ｂ層		5			1	10		10		17	1	29	1	29	1	4		2	1	5	28
南区２ｃ層		1				12		7		3		11		13		1		1			20
南区２ｄ層		3				7		2		6		12		11		2		3	1	2	19
南区３ａ層上面																					
南区３ａ層										2		2		11							1
南区３ｂ層上面ゴミ層								2		2		1								1	1
南区３ｂ層		3				4		2		1		21	1	16		1	1	4		2	7
南区３ｃ層								1		2		2						1			
南区３層上面								1													1
南区３層		4				5		5		8		8		15		2		2		4	9
北区Ⅲ層		5				11		2		5		7		9		2	1	2		5	22
北区Ⅳ層		2				14		4		7		8		25		3	1	2		5	36
北区Ⅴ層		5		1	3	15		3		19		20		60				7		7	68
北区18・19列Ⅵ層		1				4		6				10		16						2	
北区18・19列Ⅶ層		4				2		9		9	1	16		10				1		4	21
北区18・19列Ⅷ層										1				1						2	
北区20～22列⑥層																					
北区20～22列⑦層																					
北区20～22列⑧層						1						1		3							
撹乱	3	41	3	2	5	20	2	46		86	2	81	5	82	2	9	2	8	11	14	53
不明		6		1	1	26	3	24		33	6	39	6	37		8		4	6	11	56
１号建物跡																					
２号建物跡																				猪口 1	
１号柱列										2				1	1						2
２号柱列		1												1					1		
３号柱列																					
１号溝						5		1		3		3		13						蓋物 1	3
３号溝								1		2		1									3
７号溝		1				11		16		5		10	3	38	1	中瓶　1		9	3	6	82
10号溝						1						1		2		中瓶　2					
１号井戸						3				2		4		9		徳利　1			1	猪口 1	1
１号土坑								2		1		4		4							2
２号土坑				1		4		6		2		4		5		瓶1徳利1		1		蓋物 1	14
１号木箱埋設遺構																					
２号木箱埋設遺構																					
３号木箱埋設遺構												1		4							1
４号木箱埋設遺構																					
その他のⅣ期のピット		1				1		1		2		3		10				1	1		10
Ⅳ期の遺構小計		3		1		25		27		19		31	3	87	2	6		11	6	10	118
門跡１						2				1		1		2							3
門跡２												2		1		1				猪口 1	4
４号柱列														1							1
５号柱列																					
６号柱列								1						5		1			1		2
７号柱列																					
８号柱列														1							1
９号柱列																					
２号溝																					1
５号溝																					
８号溝						2				1		3		13		中瓶　1		1		2	21
11号溝																					
その他のⅢｂ期のピット						1						2		1							2
Ⅲｂ期の遺構小計						5		1		2		8		24		3		1	1	3	35

表3　第5地点出土磁器集計表(2)

Tab. 3　Distribution of porcelains at NM5(2)

層・遺構	大碗	中碗				小碗				碗	皿			碗皿識別不明	袋物				蓋	その他	不明
		丸形	筒形	端反	広東	丸形	筒形	端反	広東	不明	極小	小中	大		水注	瓶類	その他	不明			
3号建物跡																					1
10号柱列								1													2
11号柱列														1							
12号柱列										2				4		徳利 1					1
13号柱列														1							1
14号柱列																					
15号柱列																					
18号柱列																					1
4号溝																					
6号溝																					
9号溝						3		5		8		5		12					2		19
16号溝		1																			
17号溝																					
3号土坑		3				7		1		2	1			6		徳利 1		2		猪口 2	5
その他のⅢa期のピット																					1
Ⅲa期遺構小計		1				3		6		10		5		18		1			2		26
その他のⅢ期のピット												1		2							2
15号溝						1		1		5				1		4(瓶2)					4
4号土坑		3				2		2		1				3						猪 1	3
その他のⅡa期のピット																					
Ⅱa期の遺構小計		6				10		2		8	1			10		5			2	1	12
4号建物跡																					
5号建物跡																					
16号柱列																					
17号柱列																					
12号溝												5		6							
14号溝																					
21号溝																					
22号溝																					
1～4号小溝																					
1～4号池									1	1		2									1
5号池																					
6号池												1		1							
2号井戸																					
1号石列遺構																					
その他のⅠb期のピット																					
Ⅰb期の遺構小計								1	1		8		7							1	
6号建物跡																					
7号建物跡																					
13号溝																					
18号溝																					
19号溝																					
20号溝						1		1		1				1		仏花瓶 1					1
23号溝												1	1								
24号溝																					
25号溝																					
26号溝																					
27号溝																					
28号溝													4								1
29号溝																					
30号溝																					
31号溝																					
7・8号池																					
9・10号池						1				1		1	1	2							3
11号池																					
1号配石												1		2							
2号石列遺構																					
3号石列遺構												1									
その他のⅠa期のピット																中瓶 1					
Ⅰa期の遺構小計						2		1		2		4	6	5		2					5
合計	1	107	3	6	14	274	15	253	5	542	15	498	33	677	13	96	6	82	66	122	985

表4　第5地点出土陶器集計表(1)

Tab. 4　Distribution of glazed ceramics at NM5(1)

層・遺構	大碗	中碗 丸形	中碗 その他	中碗 不明	小碗	碗不明	小中鉢	擂鉢	鉢その他	極小皿	小中皿	大皿	碗皿識別不明	土瓶身	土瓶蓋	壷瓶	袋物不明	甕	灯火具	土鍋	行平鍋	鍋蓋	その他	不明
1層	1	13	2	7	9	15	10	56	7		10		10	113	9	10	23	10	5	22	1	2	19	152
2層上面							1							1										4
2層		4	1		4	3	1	6	2		1			8	4	1	1		2	3	1	2	1	26
2a層直上層		1				2	4	6	4		1		2			5		5		1			9	29
2a層		11		2	11	33	18	45	12	1	3		9	426	19	2	26	2	5	42	8	11	13	296
2b層		2	1	12	8	2	2	17	3		1		6	54	5		11	2	2	9		5	4(蓋1)	65
南区2c層		2		2	5	2	1	3						9	2	2	2		1	1		1	蓋 1	28
南区2d層			1		1	1	1	5	3		1		3	8	1		3						蓋 1	18
南区3a層上面																								
南区3a層					1								1										香炉 1	3
南区3b層上面ゴミ層																								
南区3b層		3			2	7		1			2		4	1			2			1			2	16
南区3c層			1		1																			
南区3層上面																								1
南区3層		1		1	2	3	2	6	2		1		3	15		2	5						蓋 1	12
北区III層		4	1		8	9	1	6			1		3	17	2	1	6	1		3			4	36
北区IV層		6		1	8	11		14	3		1		8	1	1	2	1			1			5	27
北区V層		7	1		2	19	1	15	2		1		3			2	5		1	1			10	40
北区18・19列VI層		1			1	2	1	3					1			2				1			3	2
北区18・19列VII層		7			1	5		6			3					1	1	1					3	16
北区18・19列VIII層								1					2											2
北区20～22列⑥層																								
北区20～22列⑦層											1													
北区20～22列⑧層		1						1																2
撹乱		4		2	22	23	6	36	3		7		8	98	6	4	23	8	5	17	1	1	12	171
不明		16		1	9	17	1	26	5		5		6	78	6	3	18	4	1	5		3	10	135
1号建物跡									1				1											3
2号建物跡																								
1号柱列							1		1				1	1									1	1
2号柱列											1			1										2
3号柱列																								
1号溝					2	1	1	1						5	1		1			1			1	6
3号溝							1				1			9										5
7号溝		1			8	8	7	20			3		8	125	4	2	10	3	1	4		5	12	69
10号溝																								
1号井戸		3				2		3	1				2		1					1			2(蓋1)	3
1号土坑		2			1	3		1			1		1	50			6			3	3	2	1	13
2号土坑					2	2		3	2	1		1	1	135	1	1	11	1?	1	2	7	3	1	32
1号木箱埋設遺構														1										
2号木箱埋設遺構																								
3号木箱埋設遺構														1						1				
4号木箱埋設遺構																								
その他のIV期のピット					2	4		3						22								1		16
IV期の遺構小計		6			15	20	10	31	5	1	6	1	14	350	7	3	28	4	2	12	10	11	18	150
門跡1																								
門跡2		2			1	1		2	1				1											9
4号柱列		1				1								1										1
5号柱列																								
6号柱列					1		1	2						2			1						1	1
7号柱列																								1
8号柱列														1										
9号柱列																								
2号溝														2			1			1				5
5号溝																								
8号溝		1			1	3		3					3	9			3			3			2	46
11号溝																								
その他のIIIb期のピット						1	1							8			1			1				1
IIIb期の遺構小計		4			3	6	2	7	1				4	23			6			5			3	64

表5　第5地点出土陶器集計表(2)

Tab. 5　Distribution of glazed ceramics at NM5(2)

層・遺構	大碗	中碗 丸形	中碗 その他	中碗 不明	小碗	碗不明	小中鉢	擂鉢	鉢その他	極小皿	小中皿	大皿	碗皿識別不明	土瓶身	土瓶蓋	壺瓶	袋物不明	甕	灯火具	土鍋	行平鍋	鍋蓋	その他	不明
3号建物跡														1										1
10号柱列		1					1							1										3
11号柱列																								
12号柱列						1	1	1																
13号柱列																								
14号柱列																								
15号柱列																								
18号柱列																								
4号溝																								
6号溝																	4			1			4(蓋1)	31
9号溝		1				7		1	1				1	14										
16号溝																								
17号溝																								
3号土坑		6	1		4	1		2			2	1	2			1	2						4	20
その他のⅢa期のピット												1		2										1
Ⅲa期遺構小計		2				8	2	2	1			1	1	18			4			1			4	36
その他のⅢ期のピット						1							2											4
15号溝		3						3				1	1											3
4号土坑		1									1												香炉 1	2
その他のⅡa期のピット								1																1
Ⅱa期の遺構小計		4						4			1	1	1										1	6
4号建物跡																								
5号建物跡																								
16号柱列																								
17号柱列																								
12号溝		1							1				2										灰吹 1	2
14号溝																								
21号溝																								
22号溝																								
1～4号小溝																								
1～4号池																							1	2
5号池																								
6号池																								1
2号井戸																								
1号石列遺構																								
その他のⅠb期のピット						1																		1
Ⅰb期の遺構小計		7	1		4	2		2	1		2	1	4			1	2						6	26
6号建物跡													1											
7号建物跡																								
13号溝									1															
18号溝																								
19号溝																			1				香炉 1	7
20号溝	1					2		1			3				1									
23号溝																								
24号溝																								
25号溝																								1
26号溝								1						3										
27号溝																								
28号溝																								
29号溝																								
30号溝																								
31号溝																								
7・8号池																								
9・10号池		1				1	2	1															1	1
11号池																								
1号配石																								
2号石列遺構																								
3号石列遺構																								
その他のⅠa期のピット								1																
Ⅰa期の遺構小計	1	1		1		3	2	4			3			3	1				1				2	9
合計	2	107	9	29	117	194	66	303	54	2	51	4	96	1,223	63	41	166	37	25	125	21	36	133	1,376

表6　第5地点出土土器・土製品集計表(1)

Tab. 6　Distribution of ceramics and clay objects at NM5(1)

層・遺構	土師質土器							瓦質土器				軟質施釉土器				土製品
	皿	耳皿	塩壷	鉢類	その他	不明	小計	鉢類	その他	不明	小計	焙烙	その他	不明	小計	
1層	323			33	1	66	422	28	十能1炬燵1	6	36	17		14	31	
2層上面	20					2	22									
2層	34			1	1		36	3		1	4	2		1	3	
2a層直上層	85			23		7	115	4		5	9	3		1	4	
2a層	772	1	1	16	小型碗？1	10	801	18	十能1	10	29	77		13	90	
2b層	469			1		13	483	8	炬燵1	2	11	8	1	3	12	1
南区2c層	434			3		3	440	1		6	7	4		4	8	1
南区2d層	159			4		1	164	7	炬燵1	1	9	1		1	2	
南区3a層上面	1						1									
南区3a層	94	1				3	98	1		1	2					
南区3b層上面ゴミ層	46					35	81			1	1					
南区3b層	442			1		6	449			1	1					不明1
南区3c層	17						17									
南区3層上面	5				1	1	7							1	1	
南区3層	304	1		1		5	311	4		3	7					
北区Ⅲ層	273	1	1	7		1	283	1		2	3	4		4	8	不明1
北区Ⅳ層	225			3		6	234	2			2			3	3	
北区Ⅴ層	1479	5	4	10		24	1522	4		1	5	4	2(蓋？1)	1	7	不明1
北区18・19列Ⅵ層	94						94									
北区18・19列Ⅶ層	783	1	2	7		405	1198	12			12					1
北区18・19列Ⅷ層	35	1				1	37									
北区20～22列⑥層	47		1	1			49	1			1	1			1	
北区20～22列⑦層	11						11	1			1					
北区20～22列⑧層	55					7	62	1			1		1		1	
攪乱	277			22	1	16	316	11		4	15	18		17	35	
不明	486			4		18	508	4		2	6	12		2	14	2(人形？1)
1号建物跡	2						2									
2号建物跡	6						6									
1号柱列	22						22									
2号柱列	5	1					6	1			1					
3号柱列																
1号溝	151					32	183	4		15	19	3			3	
3号溝	2					2	4					1			1	
7号溝	174			4		6	184	3	炬燵1	4	8	27		11	38	
10号溝	9						9									
1号井戸	9						9			1	1	2			2	
1号土坑	10			8		1	19					5			5	
2号土坑	65			4		8	77	2		2	4	26			26	
1号木箱埋設遺構																
2号木箱埋設遺構																
3号木箱埋設遺構	2						2									
4号木箱埋設遺構																
その他のⅣ期のピット	69					1	70	2		7	9	4		2	6	
Ⅳ期の遺構小計	526	1		16		50	593	12	1	29	42	68		13	81	
門跡1	4						4									
門跡2	3						3	2			2			1	1	
4号柱列	2						2	1			1					
5号柱列	2						2									
6号柱列	4			1			5					1			1	
7号柱列	10						10									
8号柱列	12						12									
9号柱列	6						6									
2号溝	246					8	254			1	1					
5号溝																
8号溝	105					11	116			2	2	8		1	9	
11号溝																
その他のⅢb期のピット	38						38			1	1	1			1	
Ⅲb期の遺構小計	432			1		19	452	3		4	7	10		2	12	

表7　第5地点出土土器・土製品集計表(2)

Tab. 7　Distribution of ceramics and clay objects at NM5(2)

層・遺構	土師質土器							瓦質土器				軟質施釉土器				土製品
	皿	耳皿	塩壷	鉢類	その他	不明	小計	鉢類	その他	不明	小計	焙烙	その他	不明	小計	
3号建物跡	15						15			1	1					
10号柱列	13						13									
11号柱列	7						7									
12号柱列	14						14									
13号柱列	3						3									
14号柱列																
15号柱列	3						3			1	1					
18号柱列	3						3									
4号溝	9						9									
6号溝	1						1									
9号溝	131		1	1	1		134					6			6	
16号溝	3						3									
17号溝																
3号土坑	639		4	1	5	5	654	5			5					
その他のIIIa期のピット	9						9									
IIIa期遺構小計	850		5	2	6	5	868	5		2	7	6			6	
その他のIII期のピット	93			1			94			2	2					
15号溝	75					2	77									
4号土坑	172	1	2	4		5	184	1			1					
その他のIIa期のピット	10					4	14									
IIa期の遺構小計	257	1	2	4		11	275	1			1					
4号建物跡						1	1									
5号建物跡	11						11									
16号柱列																
17号柱列																
12号溝	20					1	21			1	1					
14号溝																
21号溝	1						1									
22号溝	1						1									
1～4号小溝																
1～4号池	18						18									
5号池																
6号池																
2号井戸								1			1					
1号石列遺構																
その他のIb期のピット	22						22									
Ib期の遺構小計	73					2	75	1		1	2					
6号建物跡	7						7									
7号建物跡																
13号溝	1						1									
18号溝																
19号溝																
20号溝	32					26	58			2	2	3			3	
23号溝	3						3									
24号溝																
25号溝	13						13									
26号溝	30						30			2	2	1			1	
27号溝																
28号溝																
29号溝																
30号溝																
31号溝																
7・8号池																
9・10号池	22						22									
11号池																
1号配石	6						6									
2号石列遺構																
3号石列遺構																
その他のIa期のピット																
Ia期の遺構小計	114					26	140			4	4	4			4	
合計	9,315	13	16	161	11	743	10,259	133	6	88	227	239	4	80	323	8

表8　第5地点出土瓦集計表(1)

Tab. 8　Distribution of roof tiles at NM5(1)

カッコ内は重量kg

層・遺構	平瓦類	丸瓦類	桟瓦類	軒平瓦類	軒丸瓦類	面戸瓦	輪違い	その他の瓦	不明瓦
1層									
2層上面									
2層	331(57.795)	51(11.22)	51(16.175)	2(0.195)		1(0.15)		1(0.43)	46(2.275)
2a層直上層	299(51.405)	55(11.195)	56(14.365)	1(0.135)		1(0.195)		4(1.18)	31(0.685)
2a層	1710(216.978)	327(48.453)	167(38.505)	6(0.725)	13(2.815)	4(1.085)	7(1.31)	32(9.775)	464(14.439)
2b層	636(88.825)	214(25.665)	32(4.96)	3(0.26)	3(0.42)	9(1.55)	3(1.03)	5(1.34)	197(5.165)
南区2c層	185(24.395)	58(6.33)	9(1.41)		2(0.04)	3(0.685)		5(2.315)	85(1.605)
南区2d層	1236(178.358)	248(39.356)	34(9.585)	8(2.77)	4(1.48)	9(1.8)		6(3.295)	180(3.95)
南区3a層上面	3(0.34)	1(0.09)	2(0.605)						
南区3a層	24(2.12)	14(1.33)							28(0.445)
南区3b層上面ゴミ層									12(0.03)
南区3b層	255(23.184)	76(7.245)	8(0.505)	1(0.23)	3(0.685)			1(0.09)	169(3.043)
南区3c層	6(0.525)	3(0.345)							5(0.11)
南区3層上面	63(6.87)	2(0.167)	1(0.245)						4(0.15)
南区3層	583(81.74)	177(25.453)	24(6.541)	5(1.505)	6(1.37)	3(0.37)		1(0.15)	157(5.364)
北区III層	293(38.315)	73(10.615)	15(7.855)	2(0.18)	4(0.495)	2(0.41)		2(0.435)	98(2.02)
北区IV層	189(23.06)	72(9.975)	3(0.48)	1(0.08)	1(0.12)				71(2.115)
北区V層	400(52.223)	141(20.41)	6(0.585)	8(1.2)	6(2.325)	12(2.425)	1(0.645)		135(3.605)
北区18・19列VI層	151(30.96)	41(8.456)		2(0.3)	4(1.368)			3(0.91)	10(0.808)
北区18・19列VII層	594(120.4913)	173(41.234)	3(1.135)	7(1.35)	7(2.63)	6(1.615)	7(2.625)	2(0.97)	262(1.6875)
北区18・19列VIII層	16(1.21)	7(0.87)							6(0.957)
北区20～22列⑥層	877(157.518)	283(71.328)	2(0.203)	6(2.407)	15(5.408)	8(1.656)	2(0.725)	2(0.428)	52(1.748)
北区20～22列⑦層	574(103.505)	200(46.001)	11(6.505)	14(6.061)	12(6.51)	4(1.29)	2(0.43)	1(0.5)	23(0.63)
北区20～22列⑧層	654(109.6822)	185(42.392)		11(2.787)	13(7.455)	3(0.56)			32(0.5889)
攪乱	2(0.08)		1(0.035)						
不明	580(76.422)	143(40.206)	9(2.835)	11(2.318)	16(4.288)	28(6.0)	1(0.115)	5(1.321)	135(2.496)
1号建物跡	8(0.45)		1(0.05)		1(0.225)				4(0.06)
2号建物跡	6(0.615)	3(0.93)	1(0.17)	1(0.2)	1(0.15)				2(0.03)
1号柱列	94(10.394)	19(3.353)		1(0.305)	3(0.408)	1(0.125)			16(0.285)
2号柱列	4(0.33)	1(0.455)							2(0.06)
3号柱列	3(0.295)								3(0.042)
1号溝	183(24.24)	60(9.32)	27(7.328)		2(0.285)	1(0.125)			88(1.653)
3号溝	30(4.59)	8(1.545)		1(0.03)					8(0.165)
7号溝	254(33.61)	41(6.375)	29(8.585)	2(0.145)	1(0.405)	1(0.255)			150(2.78)
10号溝	6(0.99)	1(0.17)	1(0.13)						5(0.045)
1号井戸	85(12.609)	14(4.44)	23(5.99)	1(0.49)				1(0.16)	12(0.33)
1号土坑	104(23.836)	27(14.056)	24(24.275)		1(0.081)			1(0.325)	154(1.053)
2号土坑	41(12.54)	5(0.62)	9(5.81)		1(2.5)			2(2.835)	8(0.12)
1号木箱埋設遺構	1(0.165)								
2号木箱埋設遺構									
3号木箱埋設遺構	5(0.645)								5(0.04)
4号木箱埋設遺構									
その他のIV期のピット	102(12.629)	19(6.664)	9(4.076)		4(0.285)		1(0.359)	1(0.42)	35(0.549)
IV期の遺構小計	926(137.938)	198(47.928)	124(56.414)	6(1.17)	14(4.339)	3(0.505)	1(0.359)	5(3.74)	492(7.212)
門跡1									
門跡2	315(35.853)	84(9.546)	7(1.647)	1(0.019)	1(0.025)	2(0.24)	1(0.28)	5(1.28)	93(1.274)
4号柱列	6(0.98)		3(1.37)						4(0.11)
5号柱列	2(0.185)							1(0.255)	
6号柱列	11(1.353)	3(0.173)					1(0.11)		8(0.123)
7号柱列	12(3.307)	4(0.329)							2(0.029)
8号柱列	24(3.905)	2(0.23)	3(0.755)						12(0.185)
9号柱列	10(1.015)	2(0.17)				1(0.195)			10(0.115)
2号溝	15(1.41)	6(0.635)	3(0.725)						31(0.42)
5号溝	1(0.14)		1(0.21)						1(0.055)
8号溝	96(14.35)	41(5.945)	12(4.62)		1(0.125)		1(0.365)	6(0.495)	83(0.794)
11号溝									
その他のIIIb期のピット	70(7.552)	20(2.396)	1(0.24)		1(0.55)				44(0.648)
IIIb期の遺構小計	562(70.05)	162(19.424)	30(9.567)	1(0.019)	3(0.7)	3(0.435)	3(0.755)	12(2.03)	288(3.753)

表9　第5地点出土瓦集計表(2)

Tab. 9　Distribution of roof tiles at NM5(2)

カッコ内は重量kg

層・遺構	平瓦類	丸瓦類	桟瓦類	軒平瓦類	軒丸瓦類	面戸瓦	輪違い	その他の瓦	不明瓦
3号建物跡	6(0.38)								3(0.04)
10号柱列	30(3.542)	8(0.944)	1(0.126)	1(0.17)					7(0.138)
11号柱列	18(2.095)	5(0.567)	2(0.39)						3(0.039)
12号柱列	9(1.368)	7(0.6)				1(0.165)			8(0.191)
13号柱列	13(3.535)	3(0.33)					1(0.36)	2(1.07)	9(1.485)
14号柱列	9(1.31)		1(0.115)				1(0.235)		7(0.13)
15号柱列	14(1.095)	4(0.365)							6(0.123)
18号柱列	5(0.51)	3(0.455)						1(0.01)	
4号溝	1(0.1)	3(0.53)							4(0.08)
6号溝	1(0.065)	2(0.18)							4(0.14)
9号溝	150(20.58)	63(5.74)	8(4.125)	1(0.395)	6(1.51)	12(2.235)	2(0.695)	1(0.155)	67(1.385)
16号溝	11(1.46)	3(0.43)							3(0.2)
17号溝									
3号土坑	81(18.821)	23(3.48)	2(0.785)		1(0.09)			1(0.598)	10(0.27)
その他のⅢa期のピット	134(25.368)	41(12.77)	1(0.059)	2(0.505)	2(0.41)			1(0.065)	20(0.405)
Ⅲa期遺構小計	482(80.229)	165(26.391)	15(5.6)	4(1.07)	9(2.01)	13(2.4)	4(1.29)	6(1.898)	151(4.626)
その他のⅢ期のピット	108(14.36)	25(4.409)	5(0.831)		1(0.153)			4(1.39)	31(0.578)
15号溝	69(9.655)	30(4.695)		1(0.06)					17(0.284)
4号土坑	12(1.95)	10(1.43)			2(0.435)				1(0.04)
その他のⅡa期のピット									3(0.01)
Ⅱa期の遺構小計	81(11.605)	40(6.125)		1(0.06)	2(0.435)				21(0.334)
4号建物跡	8(1.595)	1(0.189)							2(0.02)
5号建物跡		1(0.05)							3(0.051)
16号柱列	1(0.19)	2(0.28)							3(0.035)
17号柱列									
12号溝	104(12.775)	34(3.02)	1(0.07)	1(0.055)	2(0.175)	3(0.61)			23(0.595)
14号溝									
21号溝	7(0.66)	3(0.665)							6(0.165)
22号溝									
1～4号小溝									
1～4号池									
5号池	24(4.48)	8(1.2)							2(0.05)
6号池	11(2.245)	5(1.625)							1(0.03)
2号井戸	1(0.145)	4(1.31)							1(0.02)
1号石列遺構	2(0.16)								
その他のⅠb期のピット	13(1.308)	9(0.895)							7(0.13)
Ⅰb期の遺構小計	171(23.558)	67(9.154)	1(0.07)	1(0.055)	2(0.175)	3(0.61)			48(1.096)
6号建物跡									
7号建物跡									
13号溝	97(15.405)	72(10.9)	2(0.12)		3(0.29)	2(0.81)	16(3.8)		28(0.46)
18号溝									
19号溝									
20号溝	122(14.597)	44(5.11)						1(0.065)	86(1.5)
23号溝	6(0.88)	4(0.365)							6(0.18)
24号溝									
25号溝		1(0.2)							
26号溝	1(0.05)	1(0.04)							
27号溝									
28号溝	16(2.0)	2(0.105)							
29号溝									
30号溝	1(0.12)								
31号溝									
7・8号池									
9・10号池	91(13.54)	40(7.3)	3(0.825)		1(0.345)			1(0.07)	33(0.365)
11号池	5(0.45)	2(0.495)							
1号配石	25(0.4)	22(2.825)							3(0.075)
2号石列遺構									
3号石列遺構	5(0.92)	2(0.423)							1(0.02)
その他のⅠa期のピット	1(0.57)	3(0.23)							1(0.035)
Ⅰa期の遺構小計	369(52.532)	192(27.993)	5(0.945)		4(0.635)	2(0.81)	16(3.8)	2(0.135)	157(2.635)
合計	12360(1836.2735)	3393(609.76)	614(185.956)	101(24.877)	144(45.856)	117(24.551)	47(13.084)	99(32.332)	3390(74.150)

表10　第５地点出土木製品・漆塗製品集計表(1)

Tab. 10　Distribution of wooden implements at NM5(1)

カッコ内は炭化したものの数

層・遺構	木製品					漆塗製品		木簡	杭		加工木				木羽(g)
	下駄	箸	栓	その他	不明	漆碗	その他		角材	丸材	板材	角材	丸材	小片	
1層										2	22(2)	9	1	30(15)	5
2層上面														1	
2層											1	1		1	
2a層直上層											3	1		3(3)	
2a層		1	1								11(2)	5(2)	2	41(29)	
2b層											2		1(1)	8(7)	7
南区2c層														17(6)	
南区2d層		1					1				26(2)	6		61(36)	148.18
南区3a層上面											2	1		2	
南区3a層		6									3			8	
南区3b層上面ゴミ層		72		櫛1、桶側板1							64(1)	4(1)	2(2)	302(151)	115.48
南区3b層	2	42				1					55	4(1)	1	253(94)	161.5
南区3c層											1			2(1)	
南区3層上面	1	1			1										
南区3層	1	32		竹製篦1	2						70(19)	8(1)	1	84(29)	92.98
北区III層		1									10	1(1)		15(5)	
北区IV層						2					11			21(11)	
北区V層		7					1				15(3)	2	2	199(148)	31.9
北区18・19列VI層								3			5	1		13(6)	24.0
北区18・19列VII層	9	449	2	11	13	15	13	21			433(31)	143(2)	8(3)	2046(223)	8068.1
北区18・19列VIII層		1									2	1(1)		3(3)	
北区20～22列⑥層	1	12					1	1			146	18	5	234(23)	638.6
北区20～22列⑦層			1								80	9		61(8)	49.8
北区20～22列⑧層		1			1						20(1)	2		33(2)	54.0
撹乱		1							3	1	15(1)	7(2)		23(13)	5.0
不明		14			1				6	1	96(4)	32(3)	3	235(68)	318.2
1号建物跡															
2号建物跡															
1号柱列										3	22	5		45(1)	
2号柱列								1				1			
3号柱列															
1号溝											7(1)			45(23)	
3号溝															
7号溝				竹製品1						2	191(4)	15(2)	16(1)	213(52)	20.0
10号溝															
1号井戸										1	12(5)	2		11(5)	3.0
1号土坑											63(20)	8(1)		210(149)	559.2
2号土坑											45(3)	6(3)		56(37)	3390
1号木箱埋設遺構															
2号木箱埋設遺構															
3号木箱埋設遺構														4(1)	
4号木箱埋設遺構															
その他のIV期のピット											34	2(1)		55(13)	
IV期の遺構小計				1				1		6	374(33)	39(7)	16(1)	639(281)	3972.2
門跡1									1		75	11		152(3)	9.0
門跡2										2	115	25(1)		236(13)	32.6
4号柱列															
5号柱列															
6号柱列											4			8	
7号柱列											1	1		3(1)	
8号柱列											13	4		21(8)	218.0
9号柱列														1(1)	
2号溝														2	
5号溝															
8号溝											3(1)	1		7(3)	7.0
11号溝															
その他のIIIb期のピット		1				1					41	19		168(72)	3.0
IIIb期の遺構小計		1				1			1	2	252(1)	61(1)		598(101)	269.6

表11　第５地点出土木製品・漆塗製品集計表(2)

Tab. 11　Distribution of wooden implements at NM5(2)

カッコ内は炭化したものの数

層・遺構	木製品					漆塗製品		木簡	杭		加工木				木羽(g)
	下駄	箸	栓	その他	不明	漆碗	その他		角材	丸材	板材	角材	丸材	小片	
３号建物跡														2	46.0
10号柱列											1	7		9(3)	
11号柱列															
12号柱列														6(3)	
13号柱列											1	1			
14号柱列														1	
15号柱列															
18号柱列												1		1(1)	
４号溝															
６号溝															
９号溝		10		蓋状木製品1					26	4	87(1)	4(1)		115(45)	31.4
16号溝											4			5(2)	
17号溝															
３号土坑							1				3(2)	2(2)		120(116)	
その他のⅢａ期のピット											2			35(35)	
Ⅲａ期の遺構小計		11		1			1		26	4	98(3)	15(3)		294(205)	77.4
その他のⅢ期のピット		1		椀2	1	1					15(4)	2	1	24(6)	1.7
15号溝	1	17		桶側板1、櫛1							103(2)	10(1)	2	146(17)	155.6
４号土坑		2				1					7			43(25)	20.6
その他のⅡａ期ピット		12		蓋状木製品1							38(2)	1(1)		38(8)	3.7
Ⅱａ期の遺構小計	1	31		3		1					148(4)	11(2)	2	227(50)	179.9
４号建物跡															
５号建物跡														5(2)	
16号柱列															
17号柱列															
12号溝						1					5	1		31(15)	
14号溝															
21号溝														1(1)	
22号溝															
１～４号小溝															
１～４号池															
５号池															
６号池														3(2)	4
２号井戸											34	2		14(2)	
１号石列遺構															
その他のＩｂ期のピット											2	2		18(10)	9.1
Ｉｂ期の遺構小計						1					41	5		72(32)	13.1
６号建物跡		1									2			13(1)	78.4
７号建物跡															
13号溝															
18号溝															
19号溝															
20号溝		12		ワラジ蓋曲物1							23	5	2(1)	167(30)	38.6
23号溝															
24号溝															
25号溝														8(8)	
26号溝															
27号溝															
28号溝															
29号溝															
30号溝															
31号溝															
７・８号池											1			1	
９・10号池										1	6	1(1)		8(3)	
11号池															
１号配石		2									3			1	
２号石列遺構															
３号石列遺構															
その他のＩａ期のピット							1								
Ｉａ期の遺構小計		15		3			1			1	35	6(1)	2(1)	198(42)	117.0
合計	15	700	4	24	6	22	18	26	36	17	2056(111)	394(28)	47(8)	5748(1598)	14350.64

表12　第５地点出土その他の遺物集計表(1)

Tab. 12　Distribution of various implements at NM5

層・遺構	金属製品								ガラス製品			石製品	皮製品	ボタン	土管	レンガ
	古銭	煙管	釘	鉄製品	銅製品	銃弾	薬莢	その他	瓶(ビール)	板(溶融)	その他					
1層	1		和釘12洋釘18	鎹4 鎖1 不明33	板状1ネジ1匙2	4	5		19(4)	25(2)	2	1			37	4
2層上面				不明3											1	5
2層			和釘1　洋釘3	不明1											4	
2a層直上層		雁首1	和釘3　洋釘2	不明3	板状7		1		1	3	不明1	1				
2a層	3	吸口2	和釘16 洋釘40	不明75	筒状1 ピン状1		41		50(29)	41(1)		2			20	
2b層	1	吸口1		不明4		1	1		16(3)	54		1		2		
南区2c層			和釘3	不明11						2(1)						
南区2d層	7		和釘3 洋釘1	金槌1鎹1不明10	棒状2 毛抜1				1(1)						6	
南区3a層上面																1
南区3a層	1	雁首1		不明1	留金具1											
南区3b層上面ゴミ層			和釘11					金箔付紙1		1						
南区3b層	1	吸口2雁首5	他2	不明4	板状2円状1簪1				1			4				
南区3c層			和釘1			1										
南区3層上面																
南区3層	3	吸口2雁首2	和釘4洋釘3他1	石突1輪1留金1	筒1針1金具1							2				
北区III層			和釘3	金具1 不明1				亜鉛？1								
北区IV層	1	吸口1		火箸1								1			1	
北区V層		雁首5	洋釘2							2(2)		1				
北区18・19列VI層																
北区18・19列VII層	2	吸口2雁首2	和釘35	鉤1 不明8				金粉付紙1				5				
北区18・19列VIII層																
北区20～22列⑥層																
北区20～22列⑦層																
北区20～22列⑧層																
攪乱			和釘6 洋釘27	鎹3 鉄1 不明35	板状1 鑁 1	1	2	不明鉛1	15(3)	15	不明2	7			18	2
不明	8	吸口1雁首1	洋釘4	不明12	金具2針金他2				11(2)	8		1	1		2	4
1号建物跡																
2号建物跡	2		和釘1	不明1												
1号柱列				不明1												
2号柱列			和釘3													
3号柱列																
1号溝	1			不明6					13	1		1				
3号溝			和釘17 洋釘1	不明1										1		
7号溝	1		和釘26 洋釘19	不明34	筒状1板状1不明1				154(24)	33(3)	不明2	7	65	4	5	5
10号溝			和釘6　洋釘8	不明30												
1号井戸			和釘3　洋釘1	針金5 不明6			1					1				5
1号土坑			和釘1	不明4						2						
2号土坑				不明13								2				
1号木箱埋設遺構			和釘11													
2号木箱埋設遺構																
3号木箱埋設遺構	1		和釘2 洋釘3	不明11												
4号木箱埋設遺構																
その他のIV期のピット	3		和釘3 洋釘2	蹄鉄1 不明5								1				
IV期の遺構小計	8		和釘73 洋釘34	118	3		1		167(24)	36(3)	2	12	65	5	5	10
門跡1																
門跡2			和釘3													
4号柱列																
5号柱列																
6号柱列						1										
7号柱列																
8号柱列			和釘1													
9号柱列																
2号溝				不明2												
5号溝																
8号溝																
11号溝			和釘3	不明1												
その他のIIIb期のピット		雁首1		不明7												
IIIb期の遺構小計		雁首1	和釘7	10		1										

表13　第５地点出土その他の遺物集計表(2)

Tab. 13　Distribution of various implements at NM5(2)

層・遺構	金属製品								ガラス製品			石製品	皮製品	ボタン	土管	レンガ
	古銭	煙管	釘	鉄製品	銅製品	銃弾	薬莢	その他	瓶(ビール)	板(溶融)	その他					
3号建物跡				不明1												
10号柱列			和釘2	不明1												
11号柱列			和釘1									1				
12号柱列				不明1												
13号柱列				不明1												
14号柱列				不明1												
15号柱列																
18号柱列				不明1												
4号溝																
6号溝																
9号溝										1(1)						
16号溝																
17号溝									1(1)							
3号土坑	3		和釘1	小刀1 不明11					1			3				
その他のⅢa期のピット				不明1												
Ⅲa期遺構小計	3		和釘4	19					2(1)	1(1)		4				
その他のⅢ期のピット				不明4					1					1		
15号溝			和釘2	不明1												
4号土坑												1				
その他のⅡa期のピット																
Ⅱa期の遺構小計			和釘2	1								1				
4号建物跡				不明1												
5号建物跡																
16号柱列																
17号柱列														1		
12号溝																
14号溝																
21号溝																
22号溝																
1～4号小溝																
1～4号池	1	雁首1														
5号池																
6号池				不明1												
2号井戸					板状1											
1号石列遺構																
その他のⅠb期のピット	1	雁首1	和釘1									ウンモ1				
Ⅰb期の遺構小計	2	雁首2	和釘1	2	1							1		1		
6号建物跡			不明1	鏡1												
7号建物跡																
13号溝	1															
18号溝																
19号溝																
20号溝																
23号溝																
24号溝																
25号溝												1				
26号溝			和釘1	不明1												
27号溝																
28号溝																
29号溝																
30号溝																
31号溝																
7・8号池																
9・10号池		雁首1		不明1												
11号池																
1号配石																
2号石列遺構																
3号石列遺構	1															
その他のⅠa期のピット																
Ⅰa期の遺構小計	2	雁首1	和釘1	3	1							1				
合計	43	吸口11雁首21	和186洋134他3	375	35	8	51	4	284(67)	187(10)	7	45	66	9	95	25

表14　第５地点出土磁器観察表(1)

Tab. 14　Notes on porcelains at NM5(1)

登録番号	出土場所	器種	口径	底径	器高	文様等	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
401	基礎9区 Ⅶ-8層	中型丸碗	11.6	4.8	5.6	草花文 貫入顕著	やや粗	肥前	1670年代	漆継ぎ	42	17
402	基礎9区 Ⅶ-6層	中型丸碗	10.6	4.0	5.9	無文 貫入あり	普通	肥前	不明		42	17
403	基礎9区 Ⅵ層	小型丸碗	7.8	—	—	桐文(コンニャク判) 折れ松葉文	普通	肥前	17C末～18C初		42	17
404	I 18 Ⅵ層	小型丸碗	8.4	3.0	4.6	色絵(赤・青・緑)「らきぬ」「□そ」花文	普通	肥前	17C後半		42	17
405	G20 Ⅴ-2層	小型丸碗	8.7	3.7	5.6	菱垣 松竹梅文 貫入顕著	やや粗	肥前	1680-90年代		42	17
406	G18 Ⅴ層	小型丸碗	8.6	3.7	3.3	無文	やや粗	肥前	不明		42	17
407	H18 Ⅴ層	中型丸碗	11.6	—	—	松竹梅文	やや粗	肥前	17C末～18C前半	くらわんか手	42	17
408	J 19 Ⅴ層	中型丸碗	10.2	4.4	5.7	若松(コンニャク判) 草花文 高台内に銘	普通	肥前	17C末～18C初		42	17
409	H20 Ⅴ層	中型丸碗	11.8	4.8	5.9	松竹梅文	普通	肥前	17C末～18C前半	くらわんか手	42	17
410	M20 Ⅲ層	小型丸碗	9.3	—	—	蔓唐草文	やや粗	肥前	18C後半～19C初		42	17
411	M19 Ⅲ層・M19 2a層	中型丸碗	11.2	3.8	5.3	草花文 見込蛇ノ目釉剝ぎ 生掛け	やや粗	肥前	18C	くらわんか手	42	17
412	D24 2d層・K19 Ⅵ層 他	小型丸碗	7.2	3.1	4.9	外面青磁釉 高台内青磁釉	やや粗	肥前	18C後半		42	17
413	J 28 3層・I 26 2b層	中型丸碗	10.8	4.6	6.2	雪輪に草花文 高台内「太明年製」銘	普通	肥前	1680-90年代		42	17
414	6号建物跡	中型丸碗	11.0	—	—	色絵(赤・緑) 蝶文	やや粗	肥前	17C後半		44	18
415	F24 3bゴミ層	碗	8.4	—	—	色絵(赤・緑・黒) 草花文	やや粗	肥前	17C後半		42	17
416	J 28 2d層	小型丸碗	8.6	—	—	横線に市松円文と草文	普通	肥前	18C		42	17
417	F25 2b層	小型丸碗	7.4	3.0	4.3	外面瑠璃釉	普通	不明	19C		43	17
418	J 21 2b層	小型端反碗	6.9	3.6	5.0	外面鉄釉 見込花籠文(コンニャク判)	やや粗	肥前	17C末～18C初		43	17
419	欠番											
420	F24 2a層	小坏	7.0	2.9	5.6	楼閣山水文	やや密	瀬戸	19C前半		43	17
421	I 24 2a層	小型丸碗	9.2	4.1	5.8	横線文	やや粗	肥前	17C後半		43	17
422	K29 2a層	中型丸碗	11.4	5.2	6.5	矢羽根文 見込円花文	やや密	肥前	18C後～19C前		43	17
423	J 28 2a層	中型丸碗	10.6	4.7	6.1	流水に草花文 高台内「太明年製」銘	普通	肥前	1680-90年代		43	17
424	L28 2a層	小型筒形碗	—	—	—	楼閣山水文	やや粗	肥前	18C後～19C前		43	17
425	M27 2a層	碗	—	3.7	—	色絵(赤・緑・黒) 見込蝶文 高台内色絵「七□」銘	密	不明	18C後～19C前		43	17
426	M28 2a層	小坏	6.8	3.1	4.6	編籠に大根文 蒲公英文 高台内銘あり	やや密	肥前？	19C前半	焼継ぎ	43	17
427	M28 2a層	中型丸碗	10.2	4.4	7.1	蔓唐草文 貫入顕著	粗	肥前	18C	生掛け	43	17
428	F24 2層上面	中型丸碗	10.0	4.0	5.4	区画割菊花文 見込円花文 貫入顕著	やや粗	肥前	18C後半～19C初		43	18
429	K29 2a層直上炭層	碗	—	4.3	—	外面青磁釉 見込五弁花(コンニャク判？) 高台内角渦「福」銘	粗	肥前	18C後半	貫入顕著	43	18
430	K22 1層	中型丸碗	9.8	3.6	5.1	梅枝文に蝶 見込寿文？	密	肥前	19C前半	焼継ぎ	44	18
431	K28 1層	中型丸碗	10.2	4.0	4.7	二重網目文 見込菊花文(コンニャク判)	普通	肥前	18C	くらわんか手	44	18
432	不明	中型丸碗	10.0	—	—	幔幕に草花文	やや密	肥前	18C		45	18
433	3号土坑 埋3層	中型丸碗	10.0	4.3	5.0	草花文 高台内角渦「福」銘	普通	肥前	17C末～18C前半		44	18
434	3号土坑 埋3層	中型丸碗	9.8	—	—	菊文	やや密	肥前	18C		44	18
435	3号土坑 埋3層	中型丸碗	10.0	—	—	草花文	やや粗	肥前	18C		44	18
436	9号溝・H21 Ⅳ層	碗	—	4.4	—	草花文 高台内銘あり	やや粗	肥前	18C	くらわんか手	44	18
437	4号土坑	中型丸碗	11.0	4.4	6.1	雪輪に桜花文(コンニャク判) 貫入顕著	普通	肥前	1680-90年代		44	18
438	1号溝・F24 2a層	小型丸碗	9.2	3.4	4.7	「宝」字文＋草花文 口紅 見込千鳥文	密	瀬戸	19C中～後		45	18
439	2号土坑 埋3層	小型丸碗	8.4	3.6	4.2	草花文 見込文あり	密	瀬戸	19C中～後		45	18
440	2号土坑 埋3層	中型端反碗	11.4	4.6	5.5	花文 見込「成化年製」？銘	やや密	瀬戸	19C中		45	18
441	15号溝	中型丸椀	—	5.7	—	無文 貫入顕著	粗	不明	18C？		52	24
442	6号暗渠	中型筒形碗	—	5.6	—	花唐草文 見込松竹梅文 高台内「大明萬暦年製」銘	やや密	肥前	18C後～19C前		45	18
443	不明	碗	—	3.9	—	楼閣山水文 見込荒磯文	やや密	切込	19C中		45	18
444	L25 2a層	中型丸碗	8.9	4.4	5.3	松笠文 貫入顕著	粗	肥前	19C前～中	蓋物	45	18
445	1号土坑・2号土坑	中型丸碗	8.4	4.5	4.6	雪輪に笹文	普通	不明	19C前～中	蓋物	45	18
446	E25 3層	猪口	8.2	4.2	5.4	不明文(コンニャク判)	普通	肥前	1680-90年代		45	18
447	不明	猪口	7.5	3.4	5.3	無文	粗	肥前	17C中		45	18
448	3号土坑 埋3層	猪口	6.8	3.1	4.4	不明文(コンニャク判) 貫入あり	普通	肥前	18C前半		45	18
449	3号土坑 埋3層	猪口	6.8	—	—	無文	やや粗	肥前	18C		45	18
450	E29 3層	猪口	6.2	—	—	蜘蛛の巣に蜘蛛文(コンニャク判) 貫入顕著	やや粗	肥前	1680-90年代		45	18
451	M24 2a層	酒坏	—	3.3	—	瓜文？	やや密	不明	19C中～後		45	18
452	撹乱	小坏	5.8	2.4	3.7	草花文	粗	肥前	1640-50年代		45	18
453	池7 埋1層・I 18 Ⅷ層	小・中皿	13.7	5.7	3.8	柳文	やや粗	肥前	1640-50年代		46	19
454	基礎9区 Ⅶ-10層	小・中皿	30.9	—	—	龍・麒麟文？	粗	中国	明末清初　17C中		46	19
455	基礎9区 Ⅶ-7層	小・中皿	13.5	4.8	3.4	青磁 高台内無釉 見込蛇ノ目釉剝ぎ	やや密	肥前	17C末～18C初	漆継ぎ	46	19
456	基礎9区 Ⅶ-6層	小・中皿	13.8	5.2	3.8	山水文	粗	肥前	17C末～18C初		46	19
457	基礎9区 Ⅶ-6層	変形皿	7.2	5.1	1.5	楓文	普通	肥前	17C末～18C初	糸切り	46	19
458	J 18 Ⅶ-下層	小・中皿	14.4	—	—	区画割文 口紅	やや粗	肥前	17C中	型打ち	46	19
459	H20 Ⅴ層	大皿	—	17.0	—	楓文(コンニャク判)に青海波文 貫入顕著	粗	肥前	17C末～18C初		46	19
460	H20 Ⅴ層	小・中皿	12.4	—	—	見込五弁花(コンニャク判) 高台内渦「福」銘	やや粗	肥前	18C	くらわんか手	46	19
461	G22 Ⅳ層	小・中皿	—	5.0	—	草花文	やや粗	肥前	1640-50年代		46	19
462	D29 3d層	大皿	—	6.5	—	青磁 牡丹文？(刻線)	やや粗	肥前	17C		46	19
463	1号配石・E26 3b層他	小・中皿	13.7	6.2	3.1	草花文と折れ松葉文	普通	肥前	17C後半		46	19

表15　第５地点出土磁器観察表(2)

Tab. 15　Notes on porcelains at NM5(2)

登録番号	出土場所	器種	口径	底径	器高	文様等	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
464	F25 2c・b層・F26 2層	小・中皿	9.9	5.0	2.1	雷文繋ぎ	普通	肥前	18C後～19C前	型打ち	47	19
465	M25 2c層・M26 2a層	小・中皿	14.2	9.0	4.4	牡丹繋ぎ 見込円銀杏文 高台内銘あり	粗	肥前	18C後～19C前	蛇ノ目凹型高台	47	19
466	M28 2c層・M28 2a層	小・中皿	14.0	7.7	4.2	花唐草文 見込五弁花 高台内角渦「福」銘	普通	肥前	18C	型打ち	47	19
467	K21 2b層	小・中皿	13.8	9.2	2.7	草花文 波繋ぎ 口紅 墨弾き	普通	肥前	18C		47	20
468	I 24 2b層	極小皿	—	3.1	—	「長？」	普通	肥前	17C		47	20
469	H26 2a層	小・中皿	13.8	7.6	3.6	小紋唐草文に円松竹梅文 高台内「成化年製」銘	普通	肥前	19C前～中	蛇ノ目凹型高台	47	20
470	H28 2a層	小・中皿	13.1	7.4	2.8	雪輪に草花文	普通	肥前	18C	くらわんか手	47	20
471	M18 2a層	小・中皿	14.4	—	—	区画割に楼閣山水文と花唐草文	やや粗	肥前	18C後～19C前		47	20
472	L25 2a層	小・中皿	17.6	9.2	2.5	草花文 松葉繋ぎ 墨弾き	やや粗	肥前	18C		47	20
473	L26 2a層・M28 2a層	小・中皿	10.6	6.4	2.2	菊花に蝶文 口紅 高台内銘あり	普通	肥前	19C前～中	型打ち	47	20
474	M28 2a層	小・中皿	13.9	8.6	3.1	花と蝶文 墨弾き	普通	肥前	18C		47	20
475	M28 2a層	小・中皿	—	7.9	—	見込五弁花 高台内角渦「福」銘	やや密	肥前	18C後～19C前	蛇ノ目凹型高台 墨書あり	48	20
476	K29 2a層	小・中皿	—	7.5	—	見込桐文？(コンニャク判)	粗	不明	18C	高台内蛇ノ目釉剝ぎ 墨書あり	48	20
477	試掘7区 1層	小・中皿	10.2	6.8	1.8	内側側面青磁 山水文	普通	肥前	18C後	蛇ノ目凹型高台	48	20
478	不明	極小皿	5.4	1.2	1.6	無文	普通	肥前	18C後～19C前		49	21
479	不明	小・中皿	13.9	7.8	2.9	草花文	やや粗	肥前	17C後半		49	21
480	6号池	小・中皿	10.2	—	—	鴛文 吹墨	普通	肥前	17C前半		48	20
481	K19 池状遺構 壁面	小・中皿	16.2	11.2	3.4	区画割文 円文 口紅 高台内銘あり	やや粗	肥前	1640-50年代		48	20
482	D25 3b層・D26 3a層他	小・中皿	11.8	4.8	3.3	流水に草花文	普通	肥前	17C中		48	20
483	12号溝	小・中皿	—	4.2	—	不明	粗	肥前	17C末～18C初	見込蛇ノ目釉剝ぎ 高台内無釉	48	20
484	3号土坑 埋3層	変形皿	5.8	2.3	2.0	鶯形	やや粗	肥前	17C末～18C初	糸切り	48	20
485	8号溝掘方・H20 V層	小・中皿	—	14.9	—	牡丹文 高台内「奇玉宝鼎之珍」銘	普通	肥前	18C	ハリささえ	48	21
486	K22 III層・Pit4	小・中皿	20.8	11.4	2.7	区画割文 墨弾き	やや粗	肥前	17C末～18C前		48	21
487	不明	極小皿	5.4	2.1	1.1	草花文	やや密	不明	18C後～19C前		49	21
488	不明	小・中皿	—	—	—	唐草文 口紅	普通	肥前	1660-70年代	型打ち	49	21
489	7号溝・J21 III層 他	大皿	—	20.8	—	牡丹文 円松竹梅文	やや粗	肥前	18C末～19C前		49	21
490	7号溝・H24 2b層	小・中皿	13.8	7.8	4.4	笹文	やや密	平清水	19C中		49	21
491	6号暗渠	変形皿	—	—	—	花小紋(刷絵) 口紅	やや粗	肥前	17C末～18C初	糸切り	49	21
492	3号溝 埋2層	小碗	—	3.4	—	色絵(赤・緑) 同心円文	密	瀬戸	19C前～中	焼継ぎ 焼継ぎ人名あり	49	21
493	20号溝 埋土 他	蓋(壺)	6.4	—	—	草文	普通	肥前	17C後半	内面無釉	49	22
494	9号溝 埋1-3a層 他	蓋	—	—	—	色絵(赤・緑・黒) 扇に草花文	普通	肥前	17C後半	つまみ欠損	49	22
495	8号溝 埋1層	蓋	4.4	—	—	扇文(刷絵)	やや粗	肥前	17C末～18C初		49	22
496	M24 2a層	蓋(急須？)	—	—	—	山水文	普通	不明	19C中～後		49	22
497	M28 2a層	蓋(碗)	10.4	—	2.8	草花文(素描) 内面円松竹梅文	やや密	肥前	19C前		49	22
498	不明	蓋(壺)	5.2	—	3.1	山水文	やや密	不明	18C		49	22
499	L27 2a層	蓋(香合)	6.0	—	1.1	山水文	普通	肥前	19C前～中		50	22
500	L27 2a層	蓋(合子)	7.8	—	1.4	牡丹文	密	瀬戸	19C前～中		50	22
501	K29 2a層直上炭層	蓋(香合)	5.4	—	1.4	山水文	普通	肥前	19C前～中		50	22
502	L28 2a層	蓋(合子)	6.2	—	1.3	宝尽し文	密	肥前	19C前～中		50	22
503	M27 1層	香合	5.0	4.1	1.0	無文	密	瀬戸？	19C前～中		50	22
504	E26 3b層・E25 3層	徳利	—	5.4	—	不明	普通	肥前	17C中～後		50	22
505	3号土坑 埋3層	徳利	—	4.3	—	草花文	普通	肥前	17C中		50	22
506	12号柱列 柱5 底面	徳利	—	5.6	—	不明	やや粗	不明	18C		50	22
507	2号土坑 埋3・4層	徳利	—	4.6	—	草花文	やや粗	肥前	18C後～19C前		50	22
508	E24 3b層・E27 3層上面	仏飯器	—	4.6	—	脚部鉄釉	普通	肥前	不明		50	22
509	K29 2a直上炭層	向付？	8.0	—	—	染錦(赤・緑・金・呉須) 区画割文	やや密	肥前	18C		50	22
510	F22 1層	戸車	3.7	—	0.85		密	不明	19C		50	22
511	H18 VIII層	不明	5.8	—	—	草花文	普通	不明	不明		50	22
512	K19 III層	水滴		—	2.3	菊花文	普通	肥前	18C後～19C前	型打ち	50	22
513	基礎9区 VII-10層	人形			—	色絵(赤・黒) 桜文	やや粗	肥前	17C後半	袖部	50	22
514	D25 3b層・E24 3b層	人形			—	色絵(赤・黒)	やや粗	肥前	17C後半	型打ち	50	22
515	基礎9区 VII-6層	人形or水滴		—	—	菊花文？	やや密	肥前	17C後半	型打ち	50	22
516	L21 III層	人形or水滴		—	—		やや密	肥前	不明	型打ち	50	22
517	M20 2a層	小型丸碗	7.6	3.0	3.7	無文	密	不明	19C後	飛鉋	43	17
518	K27 2d層	中型丸碗	12.6	—	—	外面鉄釉 貫入顕著	普通	肥前	17C後半		42	17

表16　第５地点出土陶器観察表(1)

Tab. 16　Notes on glazed ceramics at NM5(1)

登録番号	出土場所	器種	口径	底径	器高	文様等	釉薬	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
201	基礎9区 VII-10層	中型丸碗	—	4.8	—		灰釉 貫入顕著	やや密	肥前？	17C末～18C前		51	23
202	基礎9区 VII-7層	中型丸碗	13.0	—	—		灰釉	やや密	肥前？	17C末～18C前		51	23
203	J18 VII-7層	中型丸碗	—	4.4	—		灰釉 貫入顕著	やや密	肥前？	17C末～18C前		51	23
204	I18 VII層	中型丸碗	12.9	6.4	8.4		鉄釉 貫入顕著	やや密	肥前？	17C末～18C前		51	23
205	I18 VI層	中型丸碗	—	5.7	—	楼閣山水文(鉄釉)	灰釉 貫入顕著	やや密	肥前？	17C末～18C前	京焼風	51	23
206	L19 V層	中型丸碗	10.2	4.0	6.3		灰釉 貫入顕著	やや密	大堀相馬？	17C末～18C初？		51	23
207	G18 V層・H18 V層	中型丸碗	11.4	5.0	8.2		灰釉 貫入顕著	やや密	不明	17C末～18C前		51	23
208	H18 V層・I18 V層	碗	11.2	—	—	刷毛目	灰釉 貫入顕著	やや密	肥前	17C末～18C前		51	23
209	M18 V層	中型丸碗	—	5.1	—		灰釉 貫入顕著	やや密	肥前？	17C末～18C前		51	23
210	H19 V層・F24 整地層④	碗	—	4.8	—	縦縞文(緑・鉄釉)	灰釉	普通	不明	不明		51	23
211	K19 V層	碗	—	4.8	—		灰釉 貫入顕著	やや密	肥前	17C末～18C前	京焼風	51	23
212	H21 V層	中型丸碗	10.2	3.9	6.4		灰釉 貫入顕著	やや密	大堀相馬？	17C末～18C初		51	23
213	H21 IV層	碗	—	5.1	—		灰釉 貫入顕著	やや密	肥前	17C末～18C前	京焼風	51	23
214	L21 IV層	中型丸碗	10.8	3.1	5.3		灰釉 貫入顕著	普通	不明	不明		51	23
215	M19 III層	中型平碗	—	4.5	—		灰釉 貫入顕著	やや密	不明	不明		51	23
216	D25 3b層	中型丸碗	11.2	—	—		灰釉 貫入顕著	やや密	肥前？	17C末～18C前		51	23
217	E26 3b層・E28 3層	中型丸碗	11.8	—	—		灰釉 貫入顕著	やや密	不明	不明		51	23
218	G25 3層	中型碗	—	4.8	—	腰部刻線文	外：鉄釉 内：灰釉	やや密	大堀相馬？	不明		51	23
219	F24 2d層	中型碗	—	3.9	—		灰釉	やや密	大堀相馬？	18C	墨書あり	51	23
220	K21 2b層	小型碗	—	4.4	—		灰釉 貫入顕著	普通	不明	不明	墨書あり	51	23
221	J24 2b層	中型碗	—	5.1	—		灰釉 貫入顕著	密	大堀相馬？	18C後～19C前		51	24
222	M26 2a層	碗	6.4	2.8	3.3		灰釉	やや密	大堀相馬	18C後～19C		51	24
223	不明	中型丸碗	—	4.0	—	柳文	灰釉 貫入あり	普通	瀬戸	19C前	墨書あり	52	24
224	不明	碗	—	4.7	—		灰釉 貫入顕著	密	大堀相馬？	18C後～19C前		52	24
225	不明	碗	9.2	—	—	色絵(赤・青・緑) 笹文	灰釉 貫入顕著	やや密	京・信楽	18C		52	24
226	攪乱	小型端反碗	8.4	2.8	4.7	流し掛け(鉄釉)	灰釉 貫入あり	やや密	大堀相馬	19C		52	24
227	20号溝 掘方埋土 他	大型丸碗	13.0	—	—		灰釉 貫入顕著	やや密	京・信楽	17C中～18C前		52	24
228	12号溝 埋2層	中型丸碗	—	5.0	—		灰釉 貫入顕著	やや密	肥前？	17C末～18C前		52	24
229	欠番												
230	J・K18 V層	中型丸碗	8.8	4.0	6.5		灰釉 貫入顕著	やや密	肥前？	17C末～18C前		52	24
231	15号溝 埋1層	中型丸碗	—	4.7	—		灰釉	やや粗	不明	不明		52	24
232	9号溝・J22 III層	中型丸碗	12.6	5.2	5.1		灰釉	やや密	大堀相馬	18C後～19C前		52	24
233	3号土坑 埋3層	中型丸碗	10.3	3.6	7.8		灰釉 貫入顕著	やや密	肥前？	17C末～18C前		52	24
234	3号土坑 埋3層	中型丸碗	10.3	3.7	5.7		灰釉 貫入顕著	密	大堀相馬	18C		52	24
235	3号土坑 埋3層	中型丸碗	10.3	3.6	6.1	流し掛け(鉄釉)	灰釉 貫入顕著	やや密	大堀相馬	18C		52	24
236	3号土坑 埋3層	中型丸碗	10.6	—	—		灰釉 貫入顕著	やや密	大堀相馬？	18C		52	24
237	3号土坑 埋3層	中型腰折形碗	11.7	—	—		灰釉	やや密	不明	18C		52	24
238	3号土坑 埋3層	中型丸碗	10.4	—	—	流し掛け(鉄釉) 腰部刻線文	灰釉 貫入顕著	やや密	大堀相馬	18C	腰さび	52	24
239	柱列4 柱2	碗	11.4	—	—	刷毛目	灰釉 貫入顕著	やや密	肥前	17C末～18C前		52	24
240	Pit15・M26 2b層	碗	—	4.8	—		灰釉	普通	不明	不明		52	24
241	不明	中型丸碗	10.3	3.4	5.8		灰釉 貫入顕著	やや密	大堀相馬？	18C		52	24
242	K21 2a層	小・中皿	11.6	6.8	2.0	唐草文(鉄釉)	長石釉 貫入あり	やや粗	美濃	17C前	円錐ピン痕	53	25
243	20号溝 埋土 他	小・中皿	14.3	5.8	3.9		銅緑釉 貫入あり	普通	肥前	17C末～18C前	見込蛇ノ目釉剝	53	25
244	20号溝・E26 3b層 他	小・中皿	13.6	—	—		銅緑釉	普通	肥前	17C末～18C前	見込蛇ノ目釉剝 漆継	53	25
245	3号土坑 埋3層	大皿	22.1	—	—	流し掛け(鉄釉)	灰釉 貫入顕著	やや密	大堀相馬	18C		53	25
246	1号溝・F24 整地層③	小・中皿	22.0	—	—	流し掛け(鉄釉)	灰釉 貫入あり	やや密	大堀相馬	18C末～19C		53	25
247	Pit128柱痕・E24 2b層	大皿	22.5	—	—	流し掛け(銅緑釉)	灰釉	やや粗	美濃・瀬戸	18C		53	25
248	2号土坑 埋1層	大皿	32.9	14.0	7.4		灰釉	やや粗	美濃・瀬戸	18C		53	25
249	M19 III層	小・中皿	12.2	4.8	3.1		灰釉	粗	不明	不明	見込蛇ノ目釉剝	53	25
250	2号土坑 埋6層上面	極小皿	9.1	3.0	1.3		鉄釉	やや密	大堀相馬？	18C後～19C前	口縁部に煤付着	53	25
251	I20 ⑧層・L18 VI層	大鉢	21.4	—	—		灰釉	普通	唐津？	17C後～18C前		54	26
252	E・D26 3b層・G18 V層	大鉢	31.0	—	—	流し掛け(銅緑釉) 指描き	白化粧土	普通	唐津	17C後～18C前		54	26
253	K21 IV層	大鉢	—	—	—	象嵌	灰釉	普通	唐津	17C後～18C前		54	26
254	K28 2d層	大鉢	—	—	—	象嵌	白化粧土	普通	唐津	17C後～18C前		54	26
255	I22 2b層	大鉢	—	12.6	—		灰釉	普通	唐津	17C後～18C前		54	25
256	13号溝 埋6層	大鉢	—	12.5	—	鉄絵 刷毛目	白化粧土	普通	唐津	17C後～18C前		54	25
257	12号溝 埋5-2層	大鉢	20.2	—	—	松文(鉄釉・銅緑釉)	白化粧土	普通	唐津	18C前		53	26
258	I21・J22 III層 他	片口鉢？	21.6	7.8	10.4		灰釉 貫入顕著	やや密	大堀相馬？	18C後～19C中		54	26
259	F24 3層・F24 2b層	片口鉢	20.5	8.0	10.2		灰釉	やや密	大堀相馬？	18C後～19C中	被熱	54	26
260	K29 2a層直上炭層 他	水盤？	—	—	6.6	流し掛け(銅緑釉)？	灰釉	普通	不明	不明	被熱	57	30
261	基礎9区 VII-8層	擂鉢	—	—	—		鉄釉	普通	不明	不明		55	27
262	基礎9区 VII-6層	擂鉢	—	—	—		鉄釉	やや密	唐津	17C後～18C前		55	27
263	基礎9区 VII-4層	擂鉢	—	—	—			やや粗	不明	不明	焼きしめ	55	27

表17　第５地点出土陶器観察表(2)

Tab. 17　Notes on glazed ceramics at NM5(2)

登録番号	出土場所	器種	口径	底径	器高	文様等	釉薬	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
264	I 18 IV層	擂鉢	—	—	—			普通	不明	不明	焼きしめ	55	27
265	K20 ⑦層	擂鉢	—	—	—		口縁部に灰釉	やや密	唐津？	不明		55	27
266	基礎4区 VI層	擂鉢	—	—	—			やや粗	不明	不明	焼きしめ	55	27
267	H18 V層	擂鉢	—	—	—		口縁部に灰釉	普通	不明	不明		55	27
268	H18 V層	擂鉢	—	—	—		鉄釉	普通	不明	不明		55	27
269	J 19 V層	擂鉢	—	—	—		鉄釉	普通	不明	不明		55	27
270	M18 V層	擂鉢	—	—	—			普通	不明	不明	焼きしめ	55	27
271	M20 IV層	擂鉢	—	—	—		鉄釉	普通	不明	不明		55	27
272	K29 3b層	擂鉢	—	—	—		鉄釉	密	不明	不明		55	27
273	E27 3層	擂鉢	—	—	—		鉄釉	普通	不明	不明		55	27
274	I 23 3層・I 24 3層	擂鉢	32.4	—	—		鉄釉	やや粗	不明	不明		55	28
275	L26 2d層	擂鉢	—	—	—		鉄釉	普通	不明	不明		55	28
276	M26 2c層	擂鉢	27.2	—	—		鉄釉	普通	不明	不明		55	28
277	F25 2b層	擂鉢	32.4	—	—		鉄釉	普通	不明	18C後～19C		55	28
278	J 23 2b層	擂鉢	—	—	—		鉄釉	普通	不明	不明		55	28
279	M26 2b層	擂鉢	—	—	—		鉄釉	普通	不明	不明		55	28
280	20号溝	擂鉢	—	—	—		口縁部に灰釉	普通	不明	不明		56	28
281	J 17 V層	擂鉢	—	—	—		鉄釉	やや粗	不明	不明		56	29
282	欠番												
283	J・K17 V層	擂鉢	34.0	—	—		鉄釉	普通	不明	不明		56	29
284	3号土坑 埋1層	擂鉢	—	—	—		鉄釉	普通	不明	不明		56	29
285	柱列6 柱1	擂鉢	—	—	—		鉄釉	普通	不明	19C		56	29
286	基礎9区 VII-7層	香炉	—	—	—		鉄釉	普通	不明	不明		57	30
287	K18 VII-6層	香炉	12.4	9.0	4.6		口縁鉄釉	普通	唐津？	17C		57	30
288	J 18 VII層上	火入	20.5	—	—		灰釉 貫入顕著	普通	瀬戸？	17C末～18C前		57	30
289	K21 III層・K21 IV層	火入	—	6.0	—		灰釉 貫入顕著	やや密	唐津？	17C後～18C前		57	30
290	3号土坑 埋3層	火入	10.6	6.4	8.1		灰釉 貫入あり	やや粗	不明	18C		57	31
291	K29 2a層直上炭層	火入	16.4	12.2	7.9	松竹梅文(刻文・白釉)	外：鉄釉 内：灰釉	普通	大堀相馬？	19C	被熱	57	31
292	12号溝・J 21 ⑧層他	火鉢？	24.6	13.4	9.9		鉄釉	普通	唐津	17C後～18C前	墨書あり	57	30
293	基礎9区 VII-6層	小壺	12.0	—	—		鉄釉	普通	不明	不明		56	29
294	I 18 VI層	壺	5.3	—	—		灰釉	普通	唐津	17C後～18C前		56	30
295	M19 VI層	壺	4.8	—	—	流し掛け(白釉)	灰釉 貫入あり	普通	唐津	17C		56	30
296	E24 3層・E24 2d層	壺	12.2	—	—		灰釉 貫入顕著	普通	唐津	17C		56	29
297	K29 2a層直上炭層	お歯黒壺？	—	8.8	—		鉄釉	普通	不明	不明		56	29
298	L28 1層	壺	12.4	—	—		鉄釉	やや密	唐津	不明		56	29
299	L29 1層	壺	11.6	—	—		鉄釉	やや粗	不明	19C		56	29
300	3号土坑 埋3層	壺	—	4.6	—		灰釉 貫入顕著	やや粗	不明	不明		56	29
301	3号土坑 埋3層	壺	8.0	—	—		灰釉	普通	唐津	17C		56	29
302	基礎9区 VII-7層	甕	—	1.6	—	唐草文(鉄・呉須)	灰釉	やや密	京・信楽？	17C	内面に煤付着	56	30
303	H25 2a層	甕	22.2	—	—		鉄釉	普通	不明	不明		56	30
304	F25 2b層	蓋(土瓶)	—	—	—		灰釉 貫入顕著	やや密	大堀相馬	19C前～中	墨書あり	60	33
305	E24 2b層	蓋(土瓶)	8.1	—	1.65	鉄絵 白釉	灰釉 貫入あり	普通	不明	19C中～後		60	32
306	F24 2a層	蓋(土瓶)	7.0	—	1.7	鉄絵	灰釉 貫入あり	やや密	大堀相馬	19C中		60	32
307	F24 2c層	蓋(土瓶)	—	—	—	千鳥文(鉄釉) 銅緑釉	灰釉	やや密	大堀相馬	19C前～中		60	33
308	L27 2a層	蓋(土瓶)	6.0	—	1.7		無釉	やや密	大堀相馬？	19C		60	33
309	1号井戸 掘方埋2層	蓋(土瓶)	7.8	—	1.7	鉄絵	灰釉 貫入あり	やや密	大堀相馬	19C中		60	32
310	1号溝 埋3層	蓋(土瓶)	8.2	—	2.0	鉄絵	灰釉	やや密	大堀相馬	19C中		60	33
311	2号土坑 埋4層	蓋(土瓶)	5.6	—	2.5	鉄絵 白釉	灰釉 貫入顕著	普通	大堀相馬	19C中		60	32
312	2号土坑 埋6層	蓋(土瓶)	7.2	—	1.25	鉄絵 銅緑釉	灰釉	やや密	大堀相馬	19C中		60	32
313	1号溝 埋3層	土瓶	5.2	6.2	7.5	花文(鉄釉・銅緑釉・白釉)	灰釉	やや密	大堀相馬	19C中	底部に煤 茶こし孔4	58	31
314	2号土坑 埋2-4層	土瓶	8.4	7.9	10.9	梅枝文(鉄釉・白釉)	灰釉 貫入あり	密	大堀相馬	19C中	茶こし孔5	58	31
315	2号土坑 埋3層	土瓶	8.0	7.5	11.9	椿と葡萄と蝶文(鉄釉・銅緑釉・白釉)	灰釉	やや密	大堀相馬	19C中	茶こし孔6	58	31
316	2号土坑 埋3層	土瓶	8.2	—	—	葡萄文(鉄釉・白釉)	灰釉 貫入あり	やや密	大堀相馬	19C中		59	31
317	2号土坑 埋3層	土瓶	8.7	—	—	楼閣山水文(鉄釉・白釉)	灰釉 貫入あり	やや密	大堀相馬	19C中		59	31
318	2号土坑 埋4層	土瓶	8.0	8.2	13.5		銅緑釉	やや密	大堀相馬	19C前～中	茶こし孔4	60	32
319	2号土坑 埋4層	土瓶	8.0	7.8	11.2	牡丹文(鉄釉・銅緑釉・白釉)	灰釉	やや密	大堀相馬	19C中		59	32
320	2号土坑 3・4層 他	土瓶	7.6	—	—		銅緑釉	やや密	大堀相馬	19C前～中		60	32
321	2号土坑 埋4層	土瓶	7.9	—	—	梅枝文(鉄釉・白釉)	灰釉 貫入顕著	やや密	大堀相馬	19C中		59	32
322	2号土坑 埋4層	土瓶	7.4	—	—	菊花文(鉄釉・白釉)	灰釉 貫入顕著	やや密	大堀相馬	19C中		59	32
323	2号土坑 埋3・4層	土瓶	9.9	—	—	山水文(鉄釉・銅緑釉・白釉)	灰釉	やや密	大堀相馬	19C中		60	32
324	2号土坑 埋4層	土瓶	—	8.0	—		不明	やや密	大堀相馬	19C前～中	底部に煤 墨書あり	60	31
325	I 21 2b層 他	土鍋	21.6	10.0	—		鉄釉	密	大堀相馬？	19C前～中	底部煤 口縁炭化物	61	33
326	L20・L28 2a層	土鍋	16.4	—	—		鉄釉	密	大堀相馬？	19C中～後		61	33

表18　第５地点出土陶器観察表(3)

Tab. 18　Notes on glazed ceramics at NM5(3)

登録番号	出土場所	器種	口径	底径	器高	文様等	釉薬	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
327	J22Ⅲ層・9号溝 埋1-3a層	土鍋	12.5	5.5	—		鉄釉	やや密	大堀相馬	19C		61	33
328	K21 2b層	蓋(行平鍋)	16.8	—	—	飛鉋	外：鉄釉 内：灰釉 貫入あり	やや密	大堀相馬	19C		61	33
329	E24 2a層	蓋(行平鍋)	16.1	—	—	飛鉋	外：鉄釉 内：灰釉	やや密	大堀相馬	19C	端部に炭化物付着	61	33
330	2号土坑 埋3・4層	行平鍋	17.6	—	—	飛鉋	外：鉄釉 内・注口部：灰釉	やや密	大堀相馬	19C		61	33
331	M21 Ⅳ層	水注	—	—	—		鉄釉	普通	大堀相馬？	18C後～19C		57	31
332	L20 3層・K18 1層	仏飯器	9.6	—	—	流し掛け(鉄釉)	灰釉 貫入顕著	普通	大堀相馬	18C		61	33
333	3号土坑 埋3層	仏飯器	6.6	—	—		灰釉 貫入顕著	普通	大堀相馬	18C		61	33
334	H25 2c層	秉燭	9.8	5.5	3.2		鉄釉	普通	大堀相馬？	18C後～19C中	糸切り底	61	33
335	J22 1層	秉燭	4.5	4.4	4.5		鉄釉	やや密	大堀相馬	18C後～19C	糸切り底	61	33
336	F23 2a層	秉燭	5.4	3.5	1.2		鉄釉	やや粗	堤？	19C	糸切り底	61	33
337	I25 1層	秉燭	5.6	3.3	1.9		鉄釉 全面施釉	やや粗	堤？	19C	糸切り底	61	33
338	G25 3層	蓋	—	—	—	鉄絵	灰釉 貫入あり	普通	京・信楽	18C？		60	33
339	L20 1層	蓋	4.2	—	1.1		鉄釉	密	不明	19C		60	33
340	不明	蓋	5.0	—	2.2		灰釉 貫入顕著	密	大堀相馬	19C中		60	33
341	不明	不明	—	9.6	—		鉄釉	やや粗	不明	不明	墨書あり	61	33
342	K20 Ⅴ層	袋物不明	—	7.1	—		外：鉄釉 内：灰釉	やや粗	美濃・瀬戸	17C末～18C		57	31
343	I28 2a層	袋物不明	—	—	—		不明	やや密	不明	不明	被熱	61	33
344	M28 2a層	蓋(土瓶)	5.6	—	—	山水文（鉄釉・銅緑釉）	灰釉 貫入あり	やや密	大堀相馬	19C中		60	32
345	3号土坑 埋3層	筆筒？	6.0	5.5	10.1	梅枝文(鉄釉)	灰釉	やや密	京・信楽？	18C		57	31
102	H20 Ⅴ層	蓋？	4.9	3.3	1.3		透明釉	粗	不明	不明	回転糸切り	65	37
103	2号土坑 埋4層	焙烙	12.6	9.6	2.9		透明釉	粗	堤	19C		65	37
104	2号土坑・1号土坑	焙烙	—	10.3	—		透明釉	粗	堤	19C	底部外面に墨書あり	65	37

表19　第５地点出土土師質土器皿観察表(1)

Tab. 19　Notes on ceramic plates at NM5(1)

登録番号	出土場所	口径	底径	器高	調整 内面	調整 体部外面	調整 底部外面	回転方向	付着物	備考	図	図版
001	H18 Ⅷ層	8.2	5.0	1.9	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		62	34
002	基礎9区 Ⅶ層下面	11.8	7.8	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	右	なし		62	34
003	I18 Ⅶ層下面	15.9	10.7	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	右	口縁部に煤		62	34
004	基礎9区 Ⅶ-8層	—	—	7.3	ロクロナデ	不明	回転糸切？無調整	右	なし	底部内面に墨書あり	62	34
005	基礎9区 Ⅶ-8層	11.8	6.4	2.7	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		62	34
006	基礎9区 Ⅶ-7層	9.5	6.0	2.2	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	口縁部に煤？		62	34
007	基礎9区 Ⅶ-7層	5.5	3.6	1.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		62	34
008	基礎9区 Ⅶ-7層	7.8	4.8	1.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		62	34
009	基礎9区 Ⅶ-7層	12.7	7.2	2.6	ロクロナデ	全体丁寧なミガキ		不明	なし		62	34
010	基礎9区 Ⅶ-7層	11.8	7.2	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		62	34
011	基礎9区 Ⅶ-7層	12.1	6.5	2.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	口縁部に煤？		62	34
012	基礎9区 Ⅶ-6層	—	11.0	2.9	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	内面全体に煤と漆？		62	34
013	I18 Ⅵ層	9.5	5.8	2.3	ロクロナデ？	器面残存不良のため不明		不明	内外面に煤？		62	34
014	I18 Ⅵ層	11.5	6.8	2.3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	内外面全体に煤	瓦質に近い色調	62	34
015	H20 Ⅴ層	13.2	7.6	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切後一部にナデ	左	なし		62	34
016	H20 Ⅴ層	16.4	11.0	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		62	34
017	H21 Ⅴ層	12.0	6.2	2.7	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		62	34
018	H21 Ⅴ層	13.6	7.9	3.0	ミガキ	全体丁寧なミガキ		不明	なし		62	34
019	H21 Ⅴ層	11.6	6.9	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	内面に漆？		62	34
020	I21 Ⅴ層	14.1	7.6	2.8	ロクロナデ	全体丁寧なミガキ		不明	内面に煤？		62	34
021	K19 Ⅴ層	11.3	6.8	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整？	左	なし	器面残存不良	62	34
022	K21 Ⅴ層	12.1	5.7	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整？	左	口縁部に煤	瓦質に近い色調 器面残存不良	62	34
023	G21 Ⅴ層上	11.3	6.2	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		63	35
024	H21 Ⅴ層上	12.8	7.0	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整？	左	外面体部～底部に煤	底部外面残存不良	63	35
025	E24 3b層直上ゴミ 層	14.5	9.0	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左？	内外面と割れ口に煤	底部に焼成前穿孔2	62	34
026	E25 3b層直上ゴミ 層	11.6	7.1	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	内外面に煤		62	34
027	E25 3b層直上ゴミ 層	19.6	12.2	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	不明	内面全体に煤		62	34
028	F24 3b層直上ゴミ 層	14.0	8.6	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	不明	内外面に煤		62	34
029	J28 3Y層	5.9	3.8	1.7	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整？	不明	口縁部に煤	底部外面残存不良	63	35
030	E26 3層	5.7	3.8	—	ロクロナデ？	ロクロナデ	回転糸切無調整？	不明	なし	底部中央に焼成前穿孔1	63	35
031	E29 3層	8.0	5.6	1.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左？	内面体部に煤？		63	35
032	K29 3層	13.1	7.1	3.1	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	右	内外面に煤		63	35
033	J26 3層	5.1	3.5	1.6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左？	口縁部に煤		63	35
034	J26 3層	12.9	7.9	2.7	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	右	口縁部半周に煤		63	35
035	F25 3b層	14.7	6.9	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	右	なし		62	34
036	G20 Ⅳ層	9.0	5.1	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	不明	なし		63	35
037	F25 2b層	6.8	4.1	1.4	ロクロナデ	全体丁寧なミガキ		不明	なし		63	35
038	M26 2a層	10.6	6.2	2.3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	右	なし	底部に切離用糸の圧痕	63	35
039	L29 2a層	6.9	4.0	1.9	不明	器面残存不良のため不明		不明	口縁部に煤		63	35

表20　第５地点出土土師質土器皿観察表(2)

Tab. 20　Notes on ceramic plates at NM5(2)

登録番号	出土場所	口径	底径	器高	調整 内面	調整 体部外面	調整 底部外面	回転方向	付着物	備考	図	図版
040	L28 1層	7.5	5.2	1.7	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	不明	内外面全体に煤		63	35
041	3号土坑 埋3層	8.6	4.6	1.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左？	口縁部に煤		64	36
042	3号土坑 埋3層	10.5	6.0	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切後ケズリ？	不明	なし		64	36
043	3号土坑 埋3層	11.3	6.2	2.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		64	36
044	3号土坑 埋3層	11.7	6.8	2.2	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	右？	なし	底部外面に切離用糸の圧痕	64	36
045	3号土坑 埋3層	11.8	6.3	2.8	底部ミガキ	全体ミガキ		不明	なし		64	36
046	3号土坑 埋3層	19.6	11.4	3.7	ロクロナデ	全体ミガキ？		不明	内外面に煤		64	36
047	3号土坑 埋3層	10.8	6.6	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整？	不明	なし	底部中央に焼成前穿孔1 切離用糸の圧痕	64	36
048	3号土坑 埋3層	12.8	7.2	2.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整？	不明	なし	底部外面に切離用糸の圧痕	64	36
049	3号土坑 埋3層	11.3	5.9	2.6	ロクロナデ	全体ミガキ		不明	なし		64	36
050	3号土坑 埋3層	19.1	11.6	3.7	ロクロナデ？	全体ミガキ		不明	なし		64	36
051	4号土坑	11.9	7.2	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		63	35
052	4号土坑	5.8	4.0	1.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整？	不明	口縁部1/4周に煤		63	35
053	4号土坑	7.9	5.1	1.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		63	35
054	4号土坑	8.3	5.2	1.9	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		63	35
055	4号土坑	8.7	5.2	1.9	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	口縁部に煤		63	35
056	4号土坑	9.3	5.6	2.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		63	35
057	4号土坑	11.8	7.6	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		63	35
058	4号土坑	13.6	8.6	2.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		63	35
059	4号土坑	17.1	9.0	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし		63	35
060	4号土坑	13.0	7.1	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	内外面に煤？		63	35
061	4号土坑	12.1	6.9	2.7	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	口縁部に煤		63	35
062	1号溝 埋2層	12.0	7.0	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整？	右？	なし		63	35
063	1号溝	11.8	7.0	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	内外面に煤		63	35
064	3号溝 埋1層	10.7	5.8	2.3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左？	なし	瓦質に近い色調	64	36
065	3号溝 埋1層	9.0	5.3	1.9	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし	瓦質に近い色調	64	36
066	9号溝 埋3b層	11.1	6.5	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	右	なし	外面に習書あり	63	35
67	15号溝 埋1層	10.7	5.8	2.5	不明	全体ミガキ？		不明	内外面全体に煤？		63	35
068	J・K17 V層	13.2	8.1	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整？	不明	内面全体に漆？		63	35
069	16号溝 埋1層	13.9	8.3	3.2	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	右	口縁部に煤		63	35
070	柱列11 柱6 埋2	11.2	6.6	2.6	ロクロナデ	ロクロナデ？	回転糸切無調整	左	口縁部に煤		63	35
071	柱列18 柱3	21.2	14.0	4.7	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	内面に煤		63	35
072	Pit69 埋1層	12.6	7.2	2.2	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整？	右	内外面に煤	瓦質に近い色調 切離用糸の圧痕	64	36
073	2号土坑 埋3層	11.2	6.7	2.3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	不明	なし		64	36
074	2号土坑 埋4層	10.6	6.0	2.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	不明	なし		64	36
075	12号溝 埋2層	10.4	7.6	2.3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切無調整	左	なし	瓦質に近い色調 底部中央に焼成前穿孔？	63	35

表21　第５地点出土その他の土師質土器・瓦質土器観察表

Tab. 21　Notes on various ceramics at NM5

登録番号	出土場所	器種	口径	底径	器高	備考	図	図版
076	基礎9区 Ⅶ-7層	土師質土器　焼塩壺	6.0	—	—	内面に布目痕 外面ロクロナデ	65	36
077	4号土坑 埋土	土師質土器　焼塩壺	5.8	4.8	9.2	内面に布目痕 外面ロクロナデ	65	36
078	4号土坑 埋土	土師質土器　焼塩壺	6.7	5.8	9.9	内外面ロクロナデ後外面体部下半に格子叩 底部回転糸切後ナデ？ 左回転	65	36
079	I19 V層	土師質土器　焼塩壺	5.2	4.8	9.5	内外面ロクロナデ後外面体部下2/3に格子叩 底部回転？糸切後周縁部ナデ	65	36
080	H18 Ⅷ層	土師質土器　耳皿	—	3.8	—	内面ロクロナデ 外面底部含め残存部すべてミガキ	64	36
081	H20 V層	土師質土器　耳皿	8.3	3.5	3.2	内外面ロクロナデ 底部外面ミガキ 完形	64	36
082	H21 V層	土師質土器　耳皿	—	3.8	3.2	内外面ロクロナデ後外面体部下半～底部ミガキ	64	36
083	M28 2a層	土師質土器　耳皿	—	2.4	2.8	内外面ロクロナデ後外面体部下半～底部ミガキ	64	36
084	G26 3層	土師質土器　耳皿	—	3.4	2.6	内外面ロクロナデ後部分的にミガキ？底部回転糸切無調整？ 器面残存不良	64	36
085	D29 2a層	土師質土器　小型碗？	—	5.0	—	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り後周縁部ナデ 左回転	64	36
086	4号土坑 埋土	土師質土器　鉢	34.8	23.4	—	内外面ロクロナデ後外面ミガキ 底部回転糸切後ミガキ 足の痕跡1	65	37
087	4号土坑 埋土・G18 V層	土師質土器　鉢？	21.0	12.3	8.1	内外面ロクロナデ後外面口唇部と沈線以下ミガキ	65	37
088	J22 Ⅲ層	土師質土器　火消壺蓋	24.2	12.6	4.1	内外面ロクロナデ後内面平坦部回転ヘラケズリ 内面煤付着あり つまみ欠損	65	37
089	M22 1層	土師質土器　不明	—	6.2	—	内面ケズリ 上面・外面ロクロナデ	64	36
090	L26 2a層	土師質土器　小型鉢？	—	3.6	—	内外面ロクロナデ 底部回転糸切無調整	64	36
091	6号暗渠	土師質土器　不明	—	10.9	—	内面ロクロナデ 外面ミガキ	64	36
092	2号土坑 埋4層	瓦質土器　鉢	29.9	20.2	11.4	内外面ロクロナデ後外面体部下端ケズリ 底部回転糸切後周縁部ナデ 右回転？ 三足	66	37
093	4号土坑 埋土	瓦質土器　鉢	—	11.4	—	内面ロクロナデ 外面全体ミガキ	66	37
094	3号土坑 埋3層	瓦質土器　鉢	31.6	—	—	内面ロクロナデ 外面ミガキ？	66	37
095	基礎9区 Ⅶ-8層	瓦質土器　鉢	39.2	29.2	—	内外面ロクロナデ後外面口唇部と突帯以下ミガキ	66	37
096	G18 V層	瓦質土器　鉢	30.0	—	—	内外面ロクロナデ後口唇部外面ミガキ？ 器面残存不良	66	37
097	6号建物跡 柱13	瓦質土器　不明	—	16.0	—	内外面ロクロナデ 底部回転糸切後周縁部ナデ 底部内面赤変・煤付着あり	66	37

表22　第５地点出土軒丸瓦類観察表

Tab. 22　Notes on round eaves tiles at NM5

登録番号	出土場所	瓦当文様	瓦当直径	瓦当内径	周縁幅	備考	図	図版
066	M28 2a層	三引両文	14.3	11.7	1.3		67	38
067	I 18 VI層	三引両文	15.0	12.5	1.3		67	38
068	基礎1区 ⑧層	三引両文	14.1	11.7	1.2		67	38
069	基礎4区 ⑦層	三引両文	14.8	12.4	1.2		67	38
070	9号溝 裏込め	三引両文	14.6	12.2	1.2		68	38
071	K20 ⑥層	三引両文	15.2	12.6	1.3		67	38
072	K20 ⑥層	三引両文	17.7	13.9	1.9		67	38
073	K20 ⑥層	三引両文	15.2	12.6	1.3		67	38
074	P i t 316	三引両文	14.7	12.5	1.1		67	38
075	J・K22⑦層	三引両文	14.2	11.8	1.2		68	38
076	不明	三引両文	14.9	12.5	1.3		68	38
077	基礎4区 ⑥層	九曜文	17.0	12.4	2.3		68	39
078	基礎1区 ⑧層	九曜文	17.0	12.4	2.3		68	39
079	基礎9区 VII-4'層	九曜文	17.2	12.4	2.4		68	38
080	2号土坑 埋6層	九曜文	17.1	13.5	1.8	鳥伏間	69	39
081	撹乱	九曜文	—	12.3	2.6		68	39
082	L18 V層	連珠巴文	16.7	12.3	2.2		69	39
083	K20 ⑦層	連珠巴文	—	12.0	2.2		69	39
084	基礎7区 ⑧層	連珠巴文	17.2	12.0	2.6		69	39
085	L28 3層	巴文	16.0	11.6	2.2		69	39
086	D25 3b層	巴文	17.5	13.1	2.2		69	39
087	不明	巴文	16.0	12.4	1.8		69	39
088	12号溝	菊文	—	—	—		70	39
089	D25 3b層	菊文	—	—	—		70	39
143	I 18 VI層	不明	—	—	—		70	39

表23　第５地点出土軒平瓦類観察表

Tab. 23　Notes on flat eaves tiles at NM5

登録番号	出土場所	瓦当文様	瓦当形状	瓦当幅	頭幅	備考	図	図版
090	K22 1層	四弁花＋唐草3d類	不明	—	—		71	40
091	M26 2a層	三枚笹＋唐草1類	不明	—	—		70	40
093	M26 2d層	細桔梗＋唐草3b類	太剣	5.7	—		71	40
094	M29 2d層	？＋唐草4類	不明	—	—		70	40
095	F24 3層	？＋唐草4類	不明	—	—		70	40
096	M28 3層	梅＋唐草3a類	太剣	5.5	—		71	40
097	基礎2区 ⑦層	雪持笹(太葉)＋唐草2類	太剣	6.2	—		70	40
098	基礎1区 ⑧層	剣形桔梗＋唐草3b類	太剣	5.5	—		71	40
099	基礎1区 ⑧層上面	雪持笹(細葉)＋唐草2類	太剣	5.8	—		70	40
100	基礎1区 ⑧層上面	雪持笹(細葉)＋唐草2類	太剣	5.5	—		70	40
101	基礎1区 ⑧層上面	細桔梗＋唐草3b類	太剣	5.4	—	108と同笵	71	40
102	基礎4区 ⑧層	特殊桔梗＋唐草3c類	不明	—	—		71	40
103	基礎1区 ⑦層	梅＋唐草3a類	太剣	6.1	—		71	40
104	基礎4区 IVa層	特殊桔梗＋唐草3c類	不明	—	—		71	40
105	7号溝	三枚笹＋唐草1類	不明	—	—		70	40
106	P i t 316 埋2層	剣形桔梗＋唐草3b類	太剣	5.3	—		71	40
107	K・H21 III層	雪持笹(太葉)＋唐草2類	不明	—	—		70	40
108	⑥層	細桔梗＋唐草3b類	不明	—	—	101と同笵	71	40
109	3号溝	？＋唐草5類	不明	—	—		72	40
110	不明	四弁花＋唐草3d類	不明	—	—		71	40
111	P i t 316	雪持笹(太葉)＋唐草2類	太剣	5.9	—		70	40

表24 第5地点出土軒桟瓦観察表

Tab. 24 Notes on eaves-pan tiles at NM5

登録番号	出土場所	瓦当小巴部分文様	瓦当垂れ部分文様	瓦当垂れ形状	備考	図	図版
092	M28 2a層	不明	?＋唐草5類	不明	小巴部分欠損	72	40
017	F22 1層	連珠三ツ巴文	不明	不明		72	40
018	J27 1層	無文(万十)	無文	並剣		72	41
019	L25 2a層	三ツ巴文	?＋唐草	不明		72	41
020	7号溝 埋2層	三ツ巴文	不明	不明		72	40
158	試掘7区 9a層	三ツ巴文	三枚笹＋唐草1	並剣		72	41

表25 第5地点出土平瓦観察表

Tab. 25 Notes on flat roof tiles at NM5

登録番号	出土場所	長	頭幅	尻幅	谷深(頭)	谷深(尻)	備考	図	図版
001	H21 2層	21.7	—	—	—	—	施釉（凹面全体，側面・凸面の一部）	73	41
002	K22 III層	23.1	—	—	—	—	施釉（凹面全体，側面・凸面の一部）	73	42
003	K18 VI層	—	—	25.5	—	3.3		73	41
004	基礎1区 ⑦層	—	12.3(残存部の下端付近)		—	—	特殊（凹面に分割界線を入れ焼成後？分割）	73	41
005	基礎9区 VII-6層	—	12.2～13.4		—	—	特殊（凹面に分割界線を入れ焼成後分割 凹面にへら描沈線あり）	73	41
006	7号溝 埋2層	25.1	—	—	—	—	刻印あり	74・88	42・51
007	門跡2 控柱2 埋2層	—	11.5(残存部の中央付近)		—	—	特殊（凹面に分割界線を入れ焼成後分割）	73	41
008	不明	28.2	22.4	—	2.4	—		74	42

表26 第5地点出土丸瓦観察表

Tab. 26 Notes on round roof tiles at NM5

登録番号	出土場所	胴長	頭幅	尻幅	玉縁長	備考	図	図版
009	K29 3層	27.4	16.4	16.5	3.9		74	42
010	K22 ⑧層	—	15.2	—	—	クギ彫りによる文様あり	77	43
011	K20 ⑥層	28.4	—	15.9	3.8		75	42
012	1号井戸 埋4層	—	—	14.8	3.3		77	43
013	1号土坑 埋5層	26.9	15.3	15.7	3.2		76	43
014	1号土坑 埋5層	25.0	15.2	15.7	2.6		76	43
015	不明	30.5	17.3	17.4	3.5		75	43
016	1号柱列 柱4 埋2層	—	—	15.3	5.4	刻印あり	77・89	43・51
136	I21 ⑦層	—	—	—	—	クギ彫りによる紀年銘あり	77	43
137	Pit22 埋2層	—	—	—	—	クギ彫りによる紀年銘あり	77	43

表27 第5地点出土桟瓦観察表

Tab. 27 Notes on pan tiles at NM5

登録番号	出土場所	全長	全幅	きき幅	きき足	備考	図	図版
027	M26 2a層	—	—	—	—	櫛目あり	81	44
028	M26 2d層清掃土	—	—	—	—		80	44
029	K22 III層	22.3	—	—	—		80	44
030	撹乱	29.0	—	—	—	刻印「宮五(　)」(裏面) 袖瓦	81・89	44・51
031	撹乱	—	—	—	—	刻印「宮一五」(裏面) 引掛	81・89	44・51
032	撹乱	28.0	27.0	22.3	21.8	刻印「宮五七」(裏面)	80・89	44・51
041	撹乱	—	—	—	—	刻印「宮三□」	89	51
042	撹乱	—	—	—	—	刻印「宮四七」	89	51
043	撹乱	—	—	—	—	刻印「(宮) 二九」	89	51
044	撹乱	—	—	—	—	刻印「(宮) 五六」	89	51
045	撹乱	—	—	—	—	刻印「宮四六」	89	51
141	M26 2a層	—	—	—	—	櫛目あり	81	44

表28　第５地点出土板塀瓦観察表

Tab. 28　Notes on pan tiles used for fence at NM5

登録番号	出土場所	全長	全幅	きき幅	きき足	桟接合法	桟断面形	釘穴	備考	図	図版
021	L26 1層	—	—	—	—	不明	B	B	溝不明	78	45
022	L28 1層	—	—	—	—	不明	B	B	溝不明	78	45
023	L26 2a層	—	—	—	—	A1	不明	不明	溝不明	78	45
024	1号土坑 埋5層	—	32.8	29.1	—	不明	A	B	溝あり	79	45
025	1号土坑 埋5層	39.2	33.2	29.9	—	不明	A	B	溝あり	78	45
026	1号土坑 埋5層	—	32.7	29.4	—	B	A	不明	溝あり	79	45

表29　第５地点出土熨斗瓦観察表

Tab. 29　Notes on ridge tiles at NM5

登録番号	出土場所	長	厚	幅	耳長	備考	図	図版
033	撹乱	23.5	1.9	—	—	紐熨斗 波形の櫛目あり	80	46
034	撹乱	24.6	1.7	—	—	紐熨斗	63	46

表30　第５地点出土輪違い観察表

Tab. 30　Notes on ridge decoration tiles at NM5

登録番号	出土場所	長	上幅	下幅	高	備考	図	図版
035	K27 2a層	13.6	7.5	13.5	4.9		82	47
036	K21 2b層	13.0	9.7	14.1	5.9		82	47
037	I18 VII層	13.7	10.3	—	6.1	刻印あり	82・88	47・51
038	基礎9区 VII-8層	13.3	10.0	15.1	6.6		82	47
039	13号溝	15.6	—	15.5	7.0		82	47
040	撹乱	12.8	9.6	15.6	6.7		82	47

表31　第５地点出土面戸瓦観察表

Tab. 31　Notes on filler tiles at NM5

登録番号	出土場所	長	幅	高	備考	図	図版
046	I24 2c層	11.3	—	—	縄状圧痕（裏面）	83	48
047	G21 V層	9.3	11.8	5.1		83	47
048	G25 V層	9.4	11.4	5.1		83	48
049	G25 V層	9.3	12.2	4.5		83	47
050	J21 V層	9.1	—	—	縄状？圧痕（裏面）	83	48
051	基礎1区 ⑧層上面	8.7	11.9	5.1		83	47
052	基礎1区 ⑧層上面	9.4	12.0	4.8		83	47
053	K18 VII層	11.2	13.1	5.8		83	47
054	基礎9区 VII-7層	12.1	12.6	5.5		83	47
055	9号溝	9.5	12.8	5.4		84	48
056	K22 III層	8.9	—	—	縄状圧痕（裏面）	84	48
057	9号溝 埋1～3a層	8.5	—	—	縄状圧痕（裏面）	84	48
058	13号溝	9.7	15.6	6.2		84	48
059	J22 ⑦層	8.9	12.3	4.7		84	48
060	Pit316	9.3	11.7	4.7		84	48
061	Pit316	9.3	—	—		84	48
062	Pit316	10.3	12.5	4.7		84	48
063	J・K22 ⑦層	9.9	—	—	縄状圧痕(裏面)	84	48
064	J・K22 ⑦層	10.2	12.0	4.8		84	48
065	J・K22 ⑦層	8.9	11.6	5.0		84	48

表32　第５地点出土その他の瓦観察表

Tab. 32　Notes on various roof tiles at NM5

登録番号	出土場所	種類	備考	図	図版
112	L28 1層	袖付軒桟瓦	刻印あり	88	51
113	K29 1層	丸瓦類	刻印あり	89	51
114	2a層	平瓦類	刻印あり	88	51
115	M26 1層・M26 2a層	平瓦類	刻印あり	88	51
116	M26 2a層	平瓦類	刻印あり	88	51
117	M21 2a層	平瓦類	刻印あり	89	51
118	M20 2a層	平瓦類	刻印あり	88	51
119	M20 2a層	平瓦類	刻印あり	88	51
120	L20 2a層	平瓦類	刻印あり	88	51
121	F23 2a層	平瓦類	刻印あり	88	51
122	G27 3層	平瓦類	刻印あり	88	51
123	F26 3層	平瓦類	刻印あり	88	51
124	K19 VI層	平瓦類	刻印あり	89	51
125	J18 VII-下層	熨斗瓦	刻印あり	88	51
126	9区 1層	丸瓦類	刻印あり	89	51
127	L27 2a層直上炭層	不明	刻印あり	89	51
128	I26 2c層	丸瓦類	刻印あり	89	51
129	M26 2d層	平瓦類	刻印あり	89	51
130	基礎9区 VII-6層	丸瓦類	刻印あり	89	51
131	1号暗渠	丸瓦類	刻印あり	89	51
132	撹乱	平瓦類	刻印あり	89	51
133	L28 1層	平瓦類	ヘラ描きあり	86	50
134	G18 2a層	平瓦類	ヘラ描きあり	86	50
135	K23 2a層	平瓦類	ヘラ描きあり	86	50
138	F23 2a層	平瓦類	櫛目あり	86	50
139	L27 2a層	平瓦類	櫛目あり	86	50
140	M18 2a層	不明	櫛目あり	86	50
142	撹乱	不明	櫛目あり	86	50
144	J25 2a層	桟瓦	刻印あり	89	51
145	2号土坑 埋5a層	棟瓦	角桟伏間瓦	85	46
146	2号土坑 埋5a層	棟瓦	角桟伏間瓦	85	46
147	不明	棟瓦	刻印あり	88	51
148	H24 2c層	不明	仮称「T字瓦」	86	50
149	K28 2d層	不明	〃	86	50
150	13号柱列 柱5	不明	〃	86	50
151	K29 2a層	不明		85	46
152	基礎1区 ⑦層	不明		85	46
153	門跡2	不明		88	49
154	M27 1層	不明	刻印あり	87・89	49・51
155	M28 2a層	不明		87	49
156	J18 VII-下層	不明		87	49
157	J18 VII-下層	不明	刻印あり	87	49
159	3号土坑 埋3層	瓦加工品	刻字あり	89	51

表33　第５地点出土下駄観察表

Tab. 33　Notes on wooden clogs at NM5

登録番号	出土場所	種別	長	幅	高	備考	図	図版
027	基礎9区 VII-6層	角型連歯	21.4	8.95	7.10	鼻緒残存 釘による歯の補修	96	56
028	E26 3b層	角型露卯差歯	21.9	9.45	—		98	57
029	E25 3b層上	長円型露卯差歯	23.5	7.75	—		98	57
030	K20 ⑥層	丸型連歯	23.9	8.45	3.35		97	56
031	基礎9区 VII-6層	角型連歯	—	8.60	2.70		96	56
032	基礎9区 VII-1層	角型露卯差歯	—	—	3.50	差歯孔にくさび痕跡	97	57
033	F29 3層中	角型連歯	22.4	8.75	2.10		96	56
034	J24 3層上	丸型連歯	21.0	8.95	4.70		97	57
035	J18 VII-下層	長円型露卯差歯	—	7.00	2.80		97	57
036	基礎9区 VII-6層	角型連歯	—	—	2.50		96	56
037	J18 V層	角型連歯	18.4	7.40	3.50	釘による歯の補修	97	56
038	基礎9区 VII-1層	丸型無歯中折り	—	8.55	—		98	57
039	基礎9区 VII-9層	丸型無歯中折り	—	8.70	2.90		98	57
040	基礎9区 VII-9層	丸型無歯中折り	—	7.25	2.90		98	57
133	基礎9区 VII-6層	差歯	—	9.10	7.20		97	57

表34　第５地点出土木簡観察表

Tab. 34　Notes on wooden tablets at NM5

登録番号	出土場所	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	特徴等	図	図版
001	柱列2 柱2	170	23	6	表裏面・両側面に削痕明瞭に残る	94	54
002	K19 VI層	(166)	124	4	下端を薄く加工？	94	54
003	K19 VI層	(97)	(18)	3	上・下端を欠損	93	54
004	K19 VI層	224	(48)	7	竹筒？ 釘書き 上・下端切断後調整	93	54
005	基礎9区 VII-3層・植物層	103	27	4	両側面を除き調整良好	93	54
006	K18 VII-4'層	122	27	4	調整良好	93	54
007	K18 VII-4'層	126	17	3	調整良好 下端を薄く加工	92	54
008	K18 VII-5層	165	27	4	調整良好	92	53
009	K18 VII-5層	149	36	2	加筆修正の為に下1/3程削り直し	92	53
010	K18 VII-5層	(91)	30	2	上端欠損	91	53
011	K18 VII-5層	104	64	10	調整良好	92	53
012	K18 VII-6層	112	11	3	調整良好	91	53
013	K18 VII-6層	120	23	6	両側面に削り痕明瞭に残る	91	53
014	基礎9区 VII-7層	130	17	48	調整良好	90	52
015	K18 VII-7層	(80)	22	3	下端欠損	90	52
016	基礎9区 VII-7層	(69)	13	3	下端欠損 調整良好	91	52
017	K18 VII-7層	(106)	19	3	下端欠損	91	52
018	K18 VII-7層	167	(11)	3	左半分を欠損	90	52
019	K18 VII-7層	(71)	(18)	5	一端を薄く加工？	91	52
020	K18 VII-7層	114	15	3	調整良好	91	52
021	K18 VII-8層	142	30	6	表面に削り痕明瞭に残る	90	52
022	K18 VII-8層	(135)	(24)	1		90	52
023	K20 ⑥層	(142)	(47)	1		90	52
024	K18 VII-8層	—	—	—	削り屑 かんな屑状のごく薄片	—	—
025	K18 VII-8'層	11	9	0.9	削り屑 文字判読不能	—	—
026	K18 VII-2層	37	8	1	削り屑 文字判読不能	—	—

表35　第５地点出土櫛観察表

Tab. 35　Notes on combs at NM5

登録番号	出土場所	法量			備考	図	図版
069	Pit387	a 9.00	b 3.90	c 2.45	黒漆塗り	94	56
092	基礎9区 VII-10層	a (3.50)	b (2.55)	c 1.05		94	56
098	E24 3bゴミ層	a (3.15)	b (2.40)	c 1.40		94	56
134	E24 3bゴミ層	a (3.70)	b (4.10)	c 1.80		94	56
135	15号溝 埋1層	a (3.70)	b —	c 1.10	黒漆塗り	94	56

表36　第５地点出土箸状木製品観察表

Tab. 36　Notes on wooden chopsticks at NM5

登録番号	出土場所	先端形状	全長(mm)	最大径(mm)	整形	備考	図	図版
138	9号溝 3b～4層	AA	179	5.0	不良		95	55
139	基礎9区 VII-7層	AA	295	5.9	不良		95	55
140	基礎9区 VII-2層	AA	233	5.8	良		95	55
141	J18 VII-下層	AB	242	6.1	不良		95	55
142	不明	AB	169	6.0	不良		95	55
143	基礎9区 VII-8層	AB	239	6.3	良		95	55
144	K18 VII-5層	AC	95	5.3	不良	先端を二次加工？	95	55
145	基礎9区 VII-6層	AC	233	5.8	不良		95	55
146	基礎9区 VII-5層	AC	133	5.4	良	先端を二次加工？	95	55
147	基礎9区 VII層	BB	380	9.8	不良	一部炭化	95	55
148	基礎9区 VII-7層	BB	239	8.2	不良		95	55
149	K18 VII-2層	BB	242	5.8	良		95	55
150	基礎9区 VII-2層	BC	240	6.7	不良		95	55
151	基礎9区 VII-7層	BD	228	6.1	不良		95	55
152	基礎9区 VII-6層	CC	108	4.1	不良	先端炭化	95	55
153	基礎9区 VII-7層	CD	236	5.7	不良		95	55
154	K18 VII-1層	BB	191	7.8	不良	先端炭化	95	55

表37　第５地点出土その他の木製品観察表

Tab. 37　Notes on various wooden implements at NM5

登録番号	出土場所	種類	法量	備考	図	図版
078	基礎9区 VII-6層	竹製品	長 9.0　最大径4.0	穿孔あり	101	60
080	3層	竹製篦		幅4～5㎜に薄く割いた竹材を2本一組にして平織状に編んでいる	—	60
081	20号溝 埋3層	草履			—	60
082	F26 3b層	曲物	径 7.9　厚0.9	穿孔1 側面に巡らした薄板が残存 外面に樹脂状付着物あり	99	58
084	基礎9区 VII-5層	蓋	長27.5　厚1.1	穿孔・取手痕あり	99	58
085	基礎9区 VII-7層	栓	長 6.3　最大径2.0		100	60
086	基礎9区 VII-6層	蓋	径 9.9　厚0.6		99	58
088	基礎9区 VII-6層	篦状木製品	長23.9　最大幅3.6　厚0.4	表裏とも丁寧な削りで平滑に仕上げられている	100	59
089	基礎9区 VII-8層	刷毛	長13.9　最大幅9.1　厚1.0	片面上端に焼印（判読不能）あり 黒色塗料により彩色？ 穿孔あり	100	60
090	基礎9区 VII-6層	不明	長(15.2)　最大径1.3	黒色塗料により彩色？	101	59
091	基礎9区 VII-3層	蓋	径 8.9　厚0.2	穿孔2 片面縁近くに釘描き弧線 不明付着物あり	99	58
093	基礎9区 VII-7層	篦	長(13.5)　最大幅2.3　厚0.3		100	59
094	Pit453	椀	底径7.6　器高(6.4)	底部外面に墨書「敷」	100	59
095	基礎9区 VII-7層	把	長11.2　最大幅3.6	穿孔1 一部に漆？により彩色？ 面取り風の整った削り	100	59
096	基礎9区 VII-7層	不明	長24.3　最大径2.4		101	59
100	L18 VII層	栓	長 6.0　最大径3.2		100	60
101	H23 2a層	栓	長 8.1　最大径2.1	上部は隅丸方形に、先端2cm程を楕円形に整形	100	60
102	基礎1区 VI-0層	栓	長7.25　最大径3.5	上面から側面に向け穿孔1 上部隅丸方形、先端部楕円形	100	60
103	基礎9区 VII-6層	桶側板	長38.6 最大幅6.4 最大厚1.5	木目に平行する長楕円形の穿孔1 下方ほど薄くなる	99	58
104	D24 3bゴミ層	桶側板	長15.3 最大幅6.3 最大厚0.9	外面くびれのやや下に細い直線状の切込み1条あり 105と同形・同巧	99	58
105	15号溝 埋土	桶側板	長15.9 最大幅5.9 最大厚1.0	外面くびれのやや下に細い直線状の切込み1条あり 104より残存良好	99	58
106	L28 3層上	不明	長10.2 最大幅3.1 最大厚0.25	片側に2.7cm間隔でV字形の刻み	101	59
107	K24 3層	不明	長 5.1 最大幅9.0 最大厚0.9	片面に斜格子状の溝　鉄釘あり	101	59
108	9号溝 裏込め	蓋	径 6.5　厚0.4	中央に穿孔1 桜皮？の綴じ痕1	99	58
109	K19 ⑦層	蓋状木製品	径 3.9　厚0.3		101	59
110	Pit317	蓋	径 7.2　厚0.4	穿孔1 孔の周囲に環状の圧痕 桜皮？の綴じ痕1	99	58
111	L28 3層	不明	長23.5　最大径1.5	一端を丸く加工、他端はほぞ状に加工して穿孔1	101	59
112	基礎9区 VII-9層	不明	径 5.0　厚1.7　孔径1.1	中心に穿孔1 上下面ともごく平坦	100	59
113	基礎2-6区 ⑧層	楔形木製品	長 8.6　最大幅1.5 最大厚1.45		100	59
114	基礎9区 VII-2層	楔形木製品	長30.0　最大幅2.3 最大厚2.06		100	59
115	基礎9区 VII-6層	不明	長55.6　最大幅3.1 最大厚1.4	下端より13.2cmのところに穿孔（釘痕？）1	101	59
116	不明	不明	長(11.1)最大幅2.1 最大厚0.4	各面とも平滑に仕上げられている	101	60
117	基礎9区 VII-7層	蓋	径(10.6)　厚0.5		99	58
122	基礎9区 VII-7層	容器側板？	長17.1　幅6.3　最大厚1.6	2ヶ所に釘残存	101	59
123	基礎9区 VII-6層	楔形木製品	長17.8　最大幅3.7　最大厚2.7		100	59
124	基礎9区 VII-6層	不明	長(17.6)　最大幅2.8		101	59
126	基礎9区 VII-6層	蓋	径14.7　厚1.0		99	58
127	基礎9区 VII-7層	容器の底板	径10.1　厚0.7	内面（周縁部を除く）に黒色の付着物あり	99	58
128	基礎9区 VII-7層	不明	長(4.6)　幅13.5 厚1.7	各面とも丁寧な削りで平滑に仕上げられている 長方形の穿孔2	101	60
129	基礎9区 VII-7層	不明竹製品	長 9.1　幅1.3	長方形の穿孔1	101	60
137	基礎9区 VII-6層	不明	長 7.0　最大幅2.9　最大厚1.0	楕円形の穿孔1	101	59

表38　第５地点出土漆塗製品観察表

Tab. 38　Notes on lacquerwares at NM5

登録番号	出土場所	種類	口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	高台高	文様等	高台裏銘等	図	図版
042	基礎9区 VII-2層上	椀	—	—	(2.6)	(0.7)	地：内外黒	不明文字有(朱)	103	61
043	基礎9区 VII-7層	椀	—	—	(4.9)	(1.7)	地：内面朱 外面黒		103	61
044	基礎9区 VII-1層	椀蓋	—	—	(1.9)	—	地：内面朱 外面黒 外面草花文(金)		103	61
046	H18 地山面直上	椀	—	—	—	—	地：内面朱 外面黒 外面丸に蔦文(朱)		—	61
047	基礎9区 VII-7層	椀	—	—	(5.3)	(0.7)	地：内外黒	「□了」(金)	103	61
048	4号土坑	椀	—	—	—	—	地：内外朱 高台裏黒	「□」(朱)	—	—
050	基礎9区 VII-9層	椀	—	—	(4.8)	(0.7)	地：内面朱 外面黒	釘付着	102	60
053	基礎9区 VII-7層	椀	—	—	(5.2)	(2.2)	地：内外黒 見込み花菱？文(朱)外面蔦？文(朱)		102	60
054	Pit452 埋1層	椀	—	—	(2.3)	(0.6)	地：内外朱 高台裏黒	「又右エ門」(朱)	103	61
055	基礎9区 VII-6層	膳足	2.9	2.2	0.8	—	地：外面朱 内面黒		103	61
057	基礎9区 VII-9層	椀	—	—	(3.6)	(0.3)	地：内外朱 高台裏黒	「□右門」(朱)	102	60
058	1号配石	椀	12.8	—	—	—	地：内外黒		102	60
059	基礎9区 VII-5層	椀	—	—	—	—	地：内外朱		103	61
066	J19 IV層	椀	—	—	(3.2)	(1.1)	地：内面朱 外面黒		103	61
068	6号池 底面	椀	—	—	(7.8)	(1.4)	地：内外黒 見込み蔦？文(朱) 内外面鳥文(朱)	「半蔵」(朱)	102	60
070	基礎9区 VII-1層	椀	—	—	—	—	地：内面朱 外面黒　外面違い鷹の羽文(朱)		103	61
071	基礎9区 VII-7層	椀	—	—	(2.5)	—	地：内外朱 高台裏黒	「惣□」(朱)	103	61
072	基礎9区 VII-6層	不明	30.1	3.2	0.6	—	地：黒	釘付着	103	61
136	基礎9区 VII-6層	不明	6.8	(2.1)	0.7	—	地：黒		103	61

表39　第５地点出土古銭観察表

Tab. 39　Notes on coins at NM5

登録番号	出土場所	銭名	外径(mm)	穿径(mm)	重量(g)	備考	図	図版
001	J26 1層	寛永通宝	25.0	6.2	2.2	一部欠 銹化顕著	104	62
002	L20 2a層	寛永通宝	23.4	6.7	2.4	完形 銹化顕著	104	62
003	L28 2a層	(雁首銭)	—	—	0.9	3/4残	104	62
004	M25 2a層	寛永通宝	—	—	1.0	1/4残	104	62
005	M25 2b層	寛永通宝	22.3	7.0	2.0	完形	104	62
006	J24 2d層上面	皇宋通宝（真書）	24.2	7.6	2.9	完形 渡来銭(北宋)	104	62
007	J24 2d層上面	開元通宝	24.5	6.8	2.1	一部欠 渡来銭(唐)	104	62
008	F25 2d層	寛永通宝	—	—	0.5	1/3残 銹化顕著	104	62
009	J24 2d層	祥符元宝	—	6.2	2.3	一部欠 劣化顕著 渡来銭(北宋)	104	62
010	J27 2d層	寛永通宝	23.9	6.5	3.0	完形	104	62
011	J27 2d層	寛永通宝	24.6	5.9	3.4	完形	104	62
012	J27 2d層	永楽通宝	24.8	5.8	3.2	完形	104	62
013	E29 3層	寛永通宝	—	—	0.8	1/4残	104	62
014	E28 3層中	至道元宝（行書）	24.3	6.5	3.0	完形 渡来銭(北宋)	104	62
015	3層	寛永通宝	—	—	1.2	1/3残	104	62
016	J29 3a層	寛永通宝	—	5.5	1.8	一部欠	104	62
017	D26 3b層	寛永通宝	—	—	0.4	1/6残	104	62
018	E25 不明	寛永通宝	24.2	5.8	2.8	完形	104	62
019	H22 IV層	寛永通宝	—	6.2	0.9	一部欠 銹化顕著	104	62
020	基礎9区 VII-3層	寛永通宝	23.9	5.9	3.4	完形	104	62
021	I18 VII層下面	寛永通宝	25.0	5.6	3.5	完形 文銭	104	62
022	池4 植物面2	寛永通宝	23.4	5.9	2.5	完形	104	62
023	3号石列遺構 掘方埋1層	寛永通宝	23.6	6.3	3.3	完形	104	62
024	13号溝 埋土	寛永通宝	22.8	5.5	2.8	一部欠	104	62
025	3号土坑 埋3層	寛永通宝	—	6.1	1.4	一部欠 銹化顕著	104	62
026	3号土坑 埋3層	寛永通宝	24.1	6.4	2.2	一部欠	104	62
027	3号土坑 埋3層	寛永通宝	—	5.8	1.5	一部欠 銹化顕著	104	62
028	1号溝北辺 掘方埋1層	寛永通宝	—	—	1.3	一部欠 銹化顕著	104	62
029	7号溝	寛永通宝	20.9	6.2	2.0	完形	104	62
030	Pit354	寛永通宝	24.8	6.3	3.9	完形	104	62
031	不明	寛永通宝	23.9	5.4	3.3	完形 銹化顕著	104	62
032	不明	寛永通宝	23.7	5.1	1.9	完形 銹化顕著	104	62
033	3号木箱埋設遺構	寛永通宝	—	—	0.9	1/2残 銹化顕著	104	62
034	Pit8	寛永通宝	22.1	6.7	1.7	完形 銹化顕著	104	62
035	Pit8	寛永通宝	24.5	5.8	2.5	完形	104	62
036	2号建物跡 柱1	寛永通宝	—	—	1.2	一部欠 銹化顕著	104	62
037	2号建物跡 柱3	寛永通宝	—	—	2.3	2/3残 銹化顕著	104	62
038	不明	寛永通宝	23.4	6.4	2.4	完形	104	62
039	不明	寛永通宝	—	—	1.0	3/4残 銹化顕著 鉄銭	104	62
040	1号暗渠	寛永通宝	24.8	6.5	4.1	完形 文銭	104	62
041	不明	寛永通宝	20.9	6.4	1.5	完形 銹化顕著	104	62
042	不明	元豊通宝（篆書）	23.7	7.2	2.4	完形 銹化顕著 渡来銭(北宋)	104	62
043	不明	寛永通宝	23.0	6.1	2.5	完形	104	62

表40　第５地点出土煙管（吸口）観察表

Tab. 40　Notes on pipes (mouthpieces) at NM5

登録番号	出土場所	全体形状	全長(mm)	ラウ口直径(mm)	吸口直径(mm)	備考	図	図版
044	L26 2a層	IIB	—	—	6.2		105	63
045	L27 2a層	IIB	84.3	10.6	5.0	ラウ木質部残存	105	63
046	K22 2b層	不明	—	—	—		105	63
047	D24 3層	IIA	73.3	7.1	2.9	水口キセル 鍍金	105	63
048	D27 3層	不明	28.6	10.3	—		105	63
049	F25 3b層	IIB	49.5	5.8	3.7	鍍金	105	63
050	F26 3b層	IIB	68.4	7.5	3.6	鍍金	105	63
051	K18 IV層	IIB	—	11.1	—	鍍金	105	63
052	基礎9区 VII-7層	IIB	59.4	8.3	3.5	鍍金	105	63
053	I18 VII層下面	IIB	—	—	4.0	鍍金	105	63
054	不明	IB	81.9	4.8	5.9	鍍金	105	63

表41　第５地点出土煙管（雁首）観察表

Tab. 41　Notes on pipes (stems and bowls) at NM5

登録番号	出土場所	全体形状	火皿形状	接合方法	首部アワセメ	全長(mm)	火皿直径(mm)	ラウ口直径(mm)	備考	図	図版
055	K29 2a層直上炭層	IIC	1b	3	左上	—	15.3	10.1		105	63
056	D29 3層中	IIB	1b	2	右下	58.2	14.6	9.6		105	63
057	E28 3層中	IIB	1b	2	左上	—	13.4	5.8		105	63
058	D25 3a層	IIB	1b	3	左下	—	—	—	鍍金	105	63
059	D24 3b層	IIB	1a	1	右下	37.0	13.8	—		105	63
060	D26 3b層	IIB	1b	1	左下	28.2	15.1	7.2		105	63
061	E25 3b層	IIB	不明	1	左下	—	—	—	鍍金	105	63
062	E26 3b層	IIB	不明	1	左中	—	—	9.0	鍍金	105	63
063	F25 3b層	IIB	不明	1	左中	—	—	8.2		105	63
064	G18 V層	不明	不明	不明	左下	—	—	—		105	63
065	G18 V層	II	不明	不明	左下	—	—	11.1		105	63
066	G18 V層	IIB	1b	2	左中	60.9	13.2	6.9		105	63
067	H21 V層	IIB	1b	2	左中	46.7	14.7	7.5		105	63
068	M19 V層	IB	1b	3	左上	36.3	16.3	11.2		105	63
069	K18 VII-2層	不明	1b	不明	不明	—	16.6	—		105	63
070	I18 VII層下面	IIB	1b	1	左上	66.5	14.4	8.5	鍍金	105	63
071	1号溝	IIC	不明	不明	左下	—	—	9.3		105	63
072	10号池 埋2層	IIB	不明	不明	左上	—	—	7.8		105	63
073	Pit354 埋1層	IIB	2b	1	左上	44.5	15.4	8.3	鍍金	105	63
074	不明	不明	1b	1	左上	—	14.5	—		105	63
075	Pit98	不明	1b	不明	不明	—	17.0	—		—	—

表42　第５地点出土その他の金属製品観察表

Tab. 42　Notes on various metal implements at NM5

登録番号	出土場所	種類	素材	備考	図	図版
076	Pit387	匙	銅	鍍金 柄部に蕨手形の列点文	106	64
077	Pit387	管状金属製品	銅	鍍金	106	64
078	Pit387	管状金属製品	銅	鍍金	106	64
079	Pit387	へら？	銅	鍍金	106	64
080	6号建物跡 柱26	鏡	銅		—	—
081	D26 3b層	簪？	銅	鍍金	106	64
082	E28 3層中	飾金具	銅		106	64
083	不明	不明	銅		106	64
084	D25 3a層	留め金具	銅		106	64
085	D25 3b層上面	不明	銅		106	64
086	不明	飾金具	銅	鍍金	106	64
087	E25 3層	針状金属製品	銅		106	64
088	D26 3b層	鉤	鉄		106	64
089	6号池 埋1層	火打ち金	鉄		106	64
090	G24 3層	留め金具	鉄		106	64
091	I21 III層	不明	亜鉛？	混入？	—	—
092	E24 3層	石突	鉄	内部に木質残存	106	64
093	3号土坑	小刀	鉄	柄部分に木質残存	106	64
094	L22 2d層	毛抜き	銅		106	64
095	G26 3層	釘	銅		106	64
096	L21 IV層	火箸	鉄		106	64

表43　第５地点出土その他の遺物観察表

Tab. 43　Notes on various implements at NM5

登録番号	出土場所	種類	長(長径)	幅(短径)	厚	材質	備考	図	図版
S001	基礎9区 VII-8層	石鏃	1.10	1.13	0.24	珪質頁岩		107	65
S002	F23 3X層	温石	(8.9)	6.9	—	結晶片岩		107	65
S003	Pit354	不明	3.3	—	—	石英安山岩		107	65
S004	Pit366	銀葉？	—	—	—	白雲母		—	65
S005	12号溝 埋2層	温石	(9.1)	6.2	—	結晶片岩		107	65
S006	Pit94	不明	—	—	—	鉄滓？		107	65
S007	I24 3層	火打ち石	3.4	1.9	1.6	水晶		107	65
B001	8号溝・H22 ⑥層	簪	—	—	—	鼈甲	菊花・葉文（両面）透彫 被熱変色	—	65
B002	E24 3b ゴミ層	簪？	6.5	0.6	—	鼈甲	被熱変色	107	65
C098	J23 2b層	円盤形土製品	3.5	—	0.7,1.0	—	土師質 片面に菊花状の文様の型押し？ 中央に穿孔1	65	65
C099	H23 2c層	円盤形土製品	2.0	1.9	0.5	—	土師質	65	65
C100	不明	円盤形土製品	5.6	4.3	0.8	—	土師質 片面に3条の平行突線	65	65
C101	K18 VII-2層	棒状土製品	—	1.9	1.4	—	瓦質 片面を平坦にする	65	65

≪引用・参考文献≫

愛知県陶磁資料館　1984　『近世城館跡出土の陶磁』

朝倉治彦・安藤菊二・樋口秀雄・丸山信編　1970　『事物起源事典（衣食住編）』東京堂出版

浅野二郎・鈴木啓・野崎準・谷口悟編　1986　『梁川城本丸・庭園』梁川町文化財調査報告書第６集

阿刀田令造　1936　『仙台城下絵図の研究』斉藤報恩会博物館図書部研究報告第四

伊東信雄　1967　「仙台城の歴史」『仙台城』pp.１～22　仙台市教育委員会

伊藤正義ほか　1990　『東北の陶磁史』福島県立博物館

江戸遺跡研究会　1991　『よみがえる江戸』新人物往来社

江戸遺跡研究会　1992　『考古学と江戸文化』江戸遺跡研究会第５回大会発表要旨

江戸陶磁土器研究グループ　1992　『江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅰ』シンポジウム資料

江戸遺跡研究会　1993　『遺跡にみる幕末から明治』江戸遺跡研究会第６回大会発表要旨

大橋康二・西田宏子ほか　1988　『別冊太陽№63　古伊万里』平凡社

大橋康二　1989　『肥前陶磁』ニューサイエンス社

大竹憲二　1989　『大堀・長井屋窯跡』浪江町教育委員会

大堀相馬焼協同組合・創業三百年祭実行委員会　1988　『創業三百年記念誌』

奥津春生　1967　「仙台城の地形・地質」『仙台城』pp.123～165　仙台市教育委員会

小田原市教育委員会　1990　『小田原城とその城下』

金森安彦　1985　「三の丸巽門跡（VI区）の調査」『仙台城三の丸跡発掘調査報告書』
仙台市文化財調査報告書第76集　pp.509～546

元興寺文化財研究所　1982　『中・近世瓦の研究―元興寺篇』

九州陶磁文化館　1984　『国内出土の肥前陶磁』

九州陶磁文化館　1990　『柴田コレクション展（Ⅰ）』

九州陶磁文化館　1991ａ　『柴田コレクション展（II）』図版編・資料編

九州陶磁文化館　1991ｂ　『肥前の色絵「その始まりと変遷」展』

古泉弘　1990　『江戸を掘る』柏書房

小林清治編　1982　『仙台城と仙台領の城・要害』日本城郭史研究叢書２

佐久間光平・山田しょう・田中秀和　1989　「宮城・仙台城二の丸跡（第五地点）」『木簡研究』11
pp.83～85　木簡学会

佐久間公平・佐藤憲幸ほか　1993　『上野館跡（III）』　宮城県文化財調査報告書第149集

佐藤宏一ほか　1987　『宮城町西館跡、利府町郷楽・天神台遺跡』　宮城県文化財調査報告書第123集

佐藤　巧　1967　「仙台城の建築」『仙台城』pp.23～87　仙台市教育委員会

佐藤広史ほか　1990　『切込窯跡』宮崎町文化財調査報告書第３集

新宿区内藤町遺跡調査会　1992　『内藤町遺跡』

新宿区歴史博物館　1990　『江戸のくらし―近世考古学の世界―』

関　善内　1974　『堤焼と陶工たち』　萬葉堂書店

芹沢長介編　1978　『切込』東北大学文学部考古学研究会

芹沢長介ほか　1981　『日本やきもの集成』1　平凡社
芹沢長介　1983　「東北地方の近世陶磁」『世界陶磁全集』9　pp.227～259　小学館
芹沢長介　1987　『東北の近世陶磁』東北陶磁文化館
仙台市教育委員会　1967　『仙台城』
仙台市教育委員会　1985　『仙台城三の丸跡』仙台市文化財調査報告書第76集
高橋良一郎　1977　『ふくしま文庫40　相馬のやきもの』福島中央テレビ
田口昭二　1983　『美濃焼』ニューサイエンス社
たばこと塩の博物館編　1983　『きせる』
坪井利弘　1976　『日本の瓦屋根』理工学社
坪井利弘　1977　『図鑑瓦屋根』理工学社
東京大学遺跡調査室　1989　『理学部7号館地点』東京大学遺跡調査室発掘調査報告書1
東京大学遺跡調査室　1990a　『法学部4号館・文学部3号館建設地遺跡』
東京大学遺跡調査室発掘調査報告書2
東京大学遺跡調査室　1990b　『医学部附属病院地点』東京大学遺跡調査室発掘調査報告書3
東京大学埋蔵文化財調査室　1990　『山下会館・御殿下記念館地点』
東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書4
東北大学埋蔵文化財調査委員会　1985　『東北大学埋蔵文化財調査年報』1
東北大学埋蔵文化財調査委員会　1988　『仙台城二の丸跡第5地点の調査―現地説明会資料』
東北大学埋蔵文化財調査委員会　1990　『東北大学埋蔵文化財調査年報』3
東北大学埋蔵文化財調査委員会　1991　『仙台城二の丸跡第9地点の調査―現地説明会資料』
東北大学埋蔵文化財調査委員会　1992　『東北大学埋蔵文化財調査年報』4・5
東北大学埋蔵文化財調査室　1989　「仙台城二の丸跡第5地点の調査」『考古学ジャーナル』312　pp.24～29
都立一橋高校内遺跡調査団　1985　『江戸　都立一橋高校地点発掘調査報告』
長崎窯業試験場　1982　『波佐見古陶磁文様集』　肥前波佐見焼振興会
楢崎彰一ほか　1980　『日本のやきもの集成』3　平凡社
萩尾昌枝　1990　「江戸時代の儀礼的な宴会の食器について」『医学部附属病院地点』
東京大学遺跡調査室発掘調査報告書3　pp.908～911
土生慶子　1987　『伊達政宗娘　いろは姫』　東光出版
藤本強　1990　『埋もれた江戸』平凡社
平凡社編集部編　1984　『やきもの事典』
本田総一郎　1978　『箸の本』　柴田書店
ポーラ文化研究所　1989　『日本の化粧―道具と心模様』ポーラ文化研究所コレクション2
港区麻布台一丁目遺跡調査会　1986　『郵政省飯倉分館構内遺跡』
山内幹夫ほか　1989　『国営請戸川農業水利事業関連遺跡調査報告　中平遺跡』福島県文化財調査報告書第208集
結城慎一　1985　「瓦」『仙台城三の丸跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第76集　pp.158～182
結城慎一・渡辺誠　1989　「大年寺惣門」『仙台平野の遺跡群　』仙台市文化財調査報告書第87集
pp.37～55

REPORT
OF THE ARCHAEOLOGICAL RESEARCH ON THE CAMPUS OF
TOHOKU UNIVERSITY
vol. 6 March 1993
The Commission of Buried Cultural
Properties on Campus, Tohoku University
Katahiracho, Sendai 980 JAPAN

THE EXCAVATION OF THE SECONDARY CITADEL OF THE SENDAI CASTLE

This is a report of the *Ninomaru* Loc. 5 (west of Library at Kawauchi Campuse of Tohoku University), which was excavated by the Commission of Buried Cultural Properties on Campus, in 1985-88.

The History of Ninomaru (the secondary citadel of Sendai Castle)

The main citadel of Sendai Castle was built in A.D.1600 by Masamune DATE, the first *daimyo* of *Sendai-han* (feudal clan comprising a governmental organization in Edo period) appointed by the TOKUGAWA shogunate. The main citadel is known today as the ruin of Aobajo which is located on a hill 120m above sea level.

It was a strategic location because its eastern and southern boundaries were guarded by cliffs of 70m.

However, when the age of war in Japan was over, the primary citadel on the high hill became useless, and in 1638, Tadamune DATE, the second *daimyo* , built a secondary citadel on a lower terrace which had been used as the house of Muneyasu DATE (4th son of Masamune DATE).

The *Ninomaru* had practically been the center of the government of *Sendai-han* for some 250 years until the Meiji Restoration. Although it was destroyed by earthquakes and fires a couple of times, it was quickly reconstructed each time.

In 1886, the Tokugawa shogunate was replaced by the new government of the Emperor (the Edo period was over and the Meiji period began). Japan put an end to 200 years of national isolation, and Western culture was imported rapidly. Prefectures were estab-

lished instead of feudal clans, and the DATE family's rule was over. In 1871, the *Ninomaru* was occupied by the Japanese Imperial Army which had been newly organized in Western style. In 1882, almost all of the structures of *Ninomaru* were lost in a fire, and its brilliant history was over.

The site was continuosly occupied by the Imperial Army, until the American Army occupied it after World War II. The site area became the Tohoku University campus in 1957 and an organized excavation began in 1983. So far, 5 locations have been excavated.

The Results of the Excavation at Loc.5

The excavations revealed that presevation of structures and artifacts was fairly excellent. Largely six phases belonging to Edo period (1615-1868) and one phase belonging to Meiji period (1868-1912) are recognized in the archaeological structures found at Loc.5.

The I a phase (1620—the middle 17th century)

The ruins of buildings and garden are probably related to the *Nishi-yashiki*, residence of Iroha-hime (the eldest daughter of Masamune DATE).

Masamune married Iroha-hime to Tadateru Matsudaira (the seventh son of Ieyasu Tokugawa, the first *shogun* of Edo period) in 1606. Just after Ieyasu's death, Tadateru lost his fiefs. So Iroha-hime was divorced and came back to the DATE family. In 1620, Iroha-hime began to live at *Nishi-yashiki*, north of Muneyasu's residence.

The structural remains of the I a phase consist of buildings constructed on foundation stone, rain gutters lined with stones, ponds, and so on.

Many ponds are associated with the garden placed northwest by buildings.

Ceramics such as Chinese Porcelains (Jingdezhen ware, Swatow ware) and early Japanese porcelains (Hizen ware) were found.

The I b phase (the middle 17th century—the late 17th century)

Structures of the I a phase were rebuilt more than once. East part of the ponds had been filled up, and the house was constructed there on foundation stones. Ponds were enlarged to the south part of this residence, and a well was dug on the east shore of the pond.

Probably, after Iroha-hime died in 1661, buildings of *Nishi-yashiki* continued there for

twenty to thirty years.

Among the ceramics, sherds of lady figure overglagzed enamels are most interesting.

The II phase (the end of the 17th century—the beginning of the 18th century)

This phase corresponds to the time period from the abolition of *Nishi-yashiki* to the extension of *Ninomaru*. After Nishi-yashiki ceased to be used, ponds of the garden located at northwest part of this residence were filled up with the landfill, which is 1.7 meters thick and contains many archaeological materials.

At the IIa phase, a pit and two ditches running from west to east existed atthe north part of this site. At the IIb phase, north and east parts of this site was used as kitchen gardens for a short span of time.

Wooden artifacts include lacquerwares. Wooden tablets were preserved in relatively good condition in the fill of ponds due to the near-constant saturation of the soil.

Ceramics belonging to this phase consist of a lot of Hizen ware and a few of other ware (Ohbori-Souma ware, Kyoto ware and so on).

The III phase (the beginning of the 18th century—the middle 19th century)

This phase corresponds to the time period of *Ninomaru*. This site was used as *Oku*, which is the private place for *daimyo* and his wives.

Many pillar-holes and ditches were found, superimposed in plan, at the center of this site. These remains include buildings and pillared fence related to *Oku*. The ditches running from west to east were discovered at the north of the buildings.

Probably, a road existed between the ditches. The area north of the road was used as *Baba* (a riding ground). These structures were rebuilt more than once. The old stage of phase III is the IIIa, new stage is the IIIb. Outer walls of *Oku* were accompanied with ditches. At the IIIb phase, the gate was built on the north line of *Oku*. The gate had been rebuilt not lessthan once, too. The gate of the old stage is complicated in structure, stonebases, stones below foundation and foundation boards has remained in the post holes. The gate of the new stage is simple, wooden plank attached to the base of pillars had been in the pit.

As many women lived at *Oku*, artifacts discovered there include a lot of makeup utensils, ornamental hairpins and smoking pipes. Those give us clues to the research for samurai'

s wives who lived in a local castle town of Sendai.

Ceramics in the 18th century mainly consist of two products: Hizen, Ohbori-souma (Fukushima prefecture). In the first half of 19th century, Ohbori-souma were especially numerous, and varieties. Nearby minor kilns such as Tsutsumi (Miyagi prefecture), Kirigome (Miyagi prefecture) and Hirashimizu (Yamagata prefecture) supplied a few of ceramics to this site.

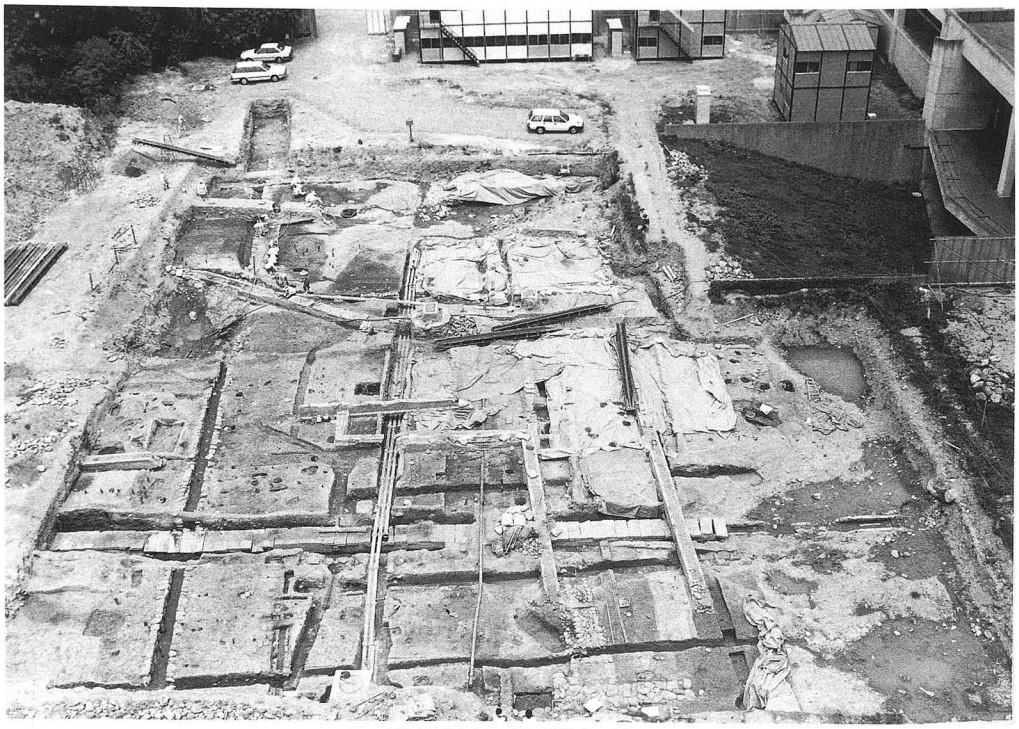
The IV phase (the Meiji period and after)

This site was used by the Imperial Army. We discovered several features such as structural remains of buildings, lavatories laid wooden boxes, a well of brick construction, ditches lined with stones, covered conduits and garbage pits. Many kinds of objects belonging to the middle 19th century were found at the garbage pits.

The excavation tells us that archaeological features of the early Edo period as well as *Ninomaru* are finely preserved under Kawauchi campus of Tohoku University. We hope that many people use this report as a help to understand the Sendai Castle which is a symbol of Sendai, a castle town.

写　真　図　版

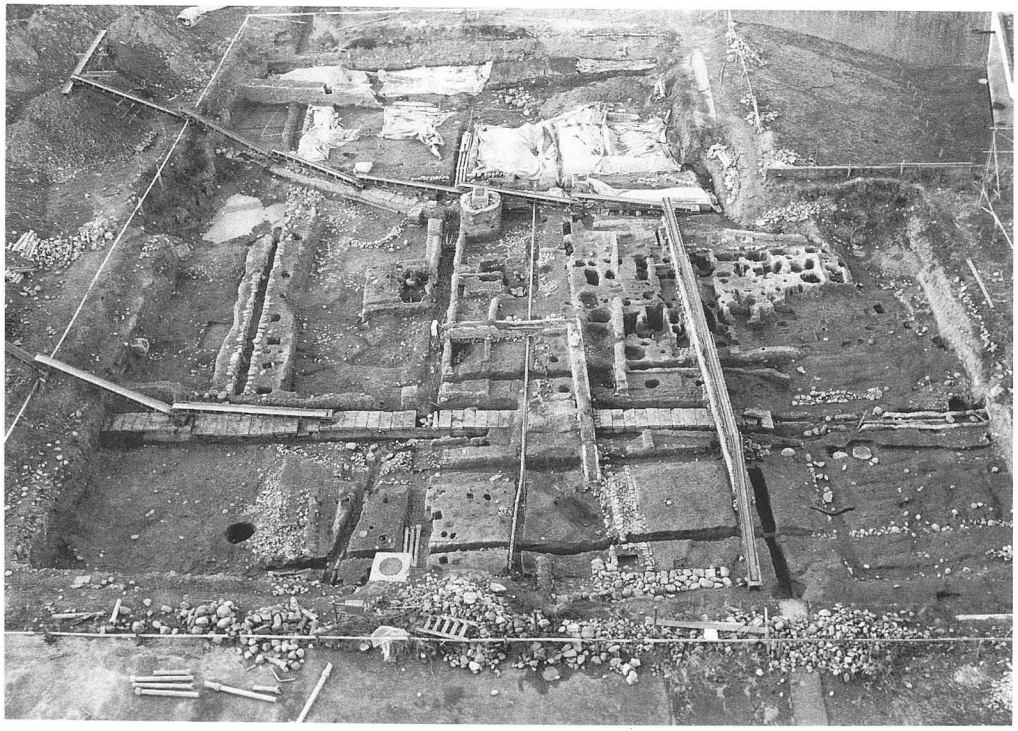
1.　調査前全景（西から）



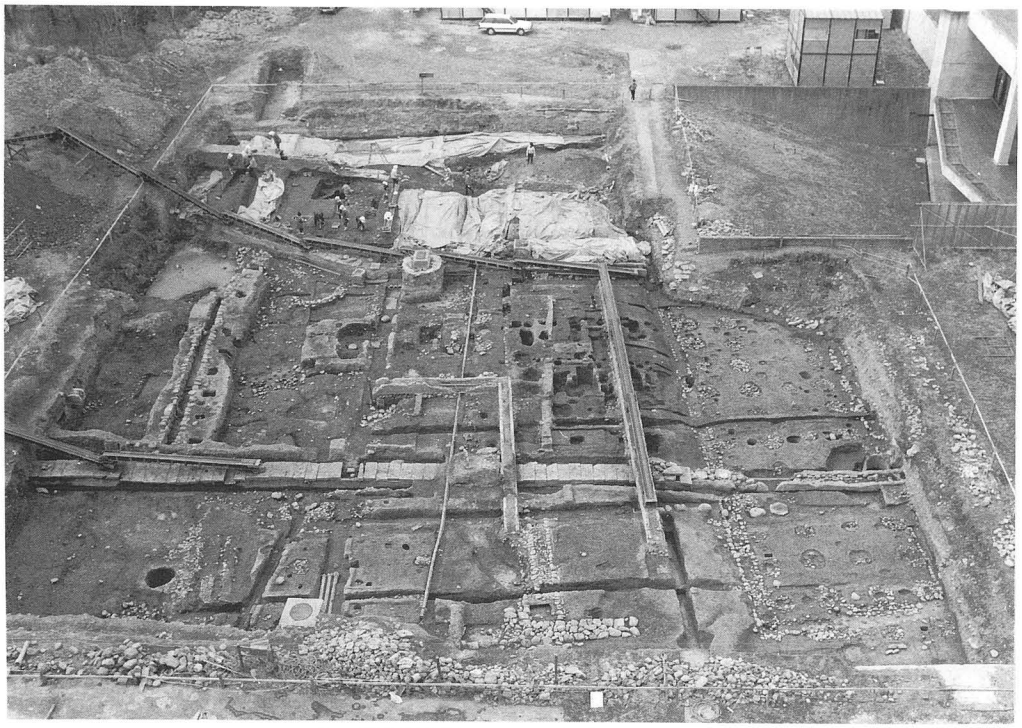
2.　調査区全景・Ⅳ期相当（南から）

図版１　第５地点全景(1)

Pl. 1 Views of NM5 (1)



1.　調査区全景・III～Ⅰb期相当（南から）

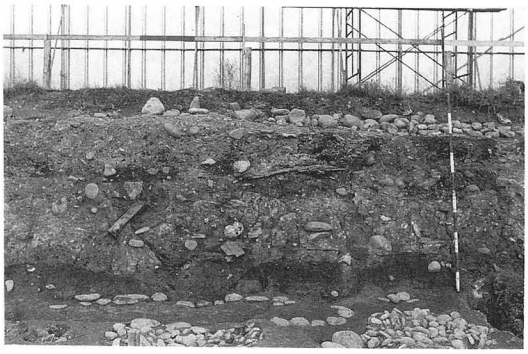


2.　調査区全景・III～Ⅰa期相当（南から）

図版2　第5地点全景(2)

Pl. 2 Views of NM5 (2)

1.　K・L29区・調査区南壁セクション（北から）



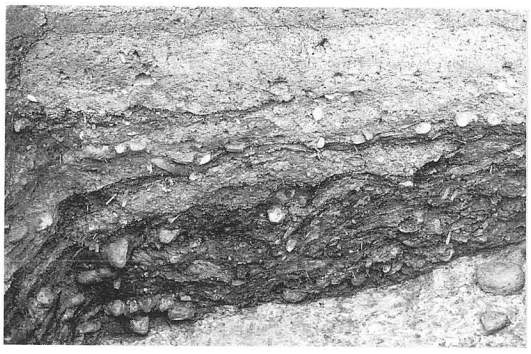
2.　D25･26区・調査区東壁セクション（西から）

3.　K18区・調査区北壁セクション（南から）

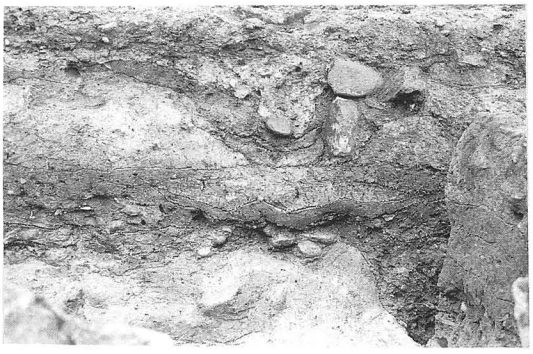
4.　K18区・北壁セクション（南から）

5.　J18区・調査区北壁セクション（南から）

6.　J20･21区・I期セクション（西から）



7.　基礎9区・北壁セクション（南から）



8.　基礎8区・北壁セクション（南から）

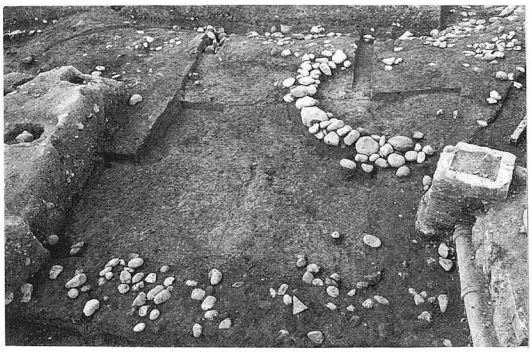
図版3　第5地点断面

Pl. 3 Cross sections of NM5

1. 右：14号溝・左：19号溝（東から）

2. 基礎１区・９号池（南から）

3. 13号溝（東から）



4. Ｊ・K23･24区・10号池（東から）

5. Ｌ・M24～26区・10号池（南から）

6. 10号池内敷石検出状況（東から）

7. ７号建物跡（西から）

図版４　第５地点Ｉａ期の遺構(1)

Pl. 4 Features of phase Ⅰa at NM5 (1)

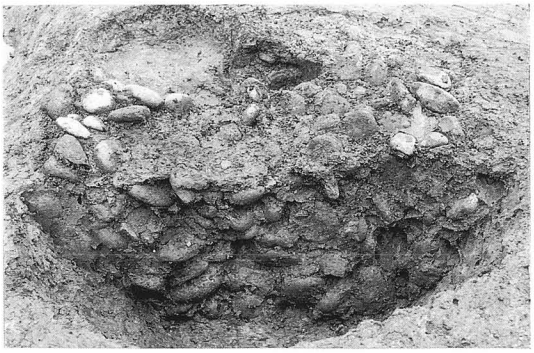
1.　6号建物跡（南から）

2.　20号溝南西屈曲部（南から）

3.　1号配石遺構（東から）

4.　ピット387内遺物出土状況（北から）

5.　6号建物跡柱穴2根石セクション（東から）



6.　6号建物跡柱穴33根石セクション（北から）

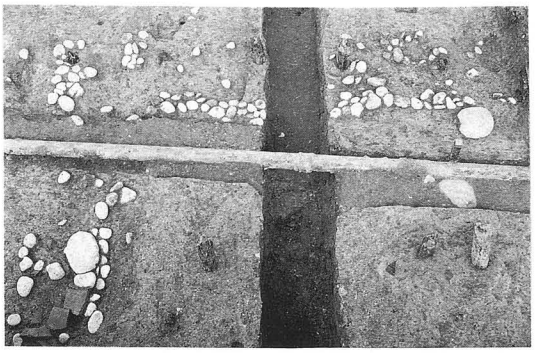
図版5　第5地点Ⅰa期の遺構(2)

Pl.5 Features of phase Ⅰa at NM5 (2)

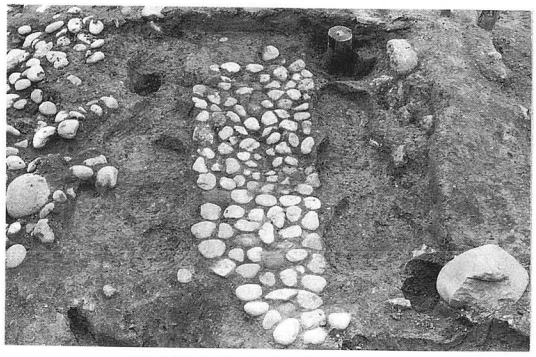
1．28号溝（南から）

2．26号溝（南から）

3．27号溝（北から）



4．24号溝（西から）



5．27号溝内敷石検出状況（南から）

図版6　第5地点Ⅰa期の遺構(3)

Pl.6 Features of phase Ⅰa at NM5 (3)

1. M20区・4号池（北から）

2. 基礎9区・4号池（東から）

3. 基礎11区・2号池（南から）

4. 12号溝検出状況（東から）

5. K20区・⑥層下面の状況（北から）

6. 基礎1区・⑧層瓦出土状況（東から）

7. K20区・⑥層下面の状況（西から）

図版7　第5地点Ⅰb期の遺構(1)

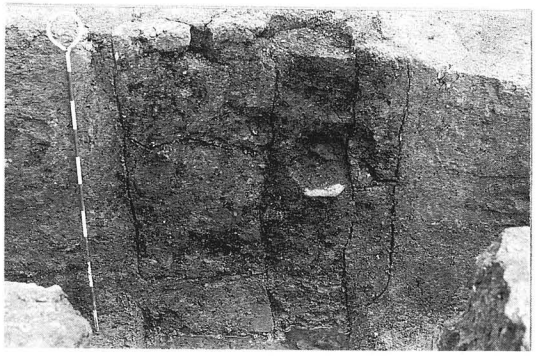
Pl.7 Features of phase Ⅰb at NM5 (1)

1.　4号建物跡柱穴3・7（西から）

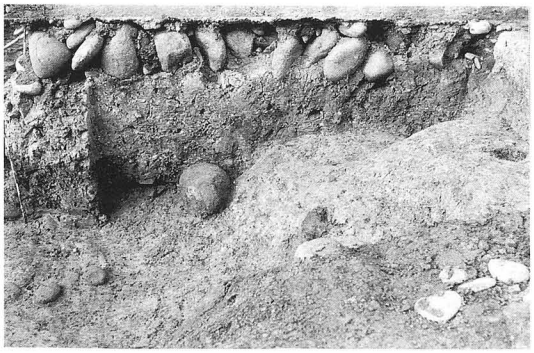
2.　4号建物跡柱穴6根石検出状況（東から）

3.　22号溝縁石列（北から）

4.　17号柱列（南から）



5.　17号柱列セクション（北から）

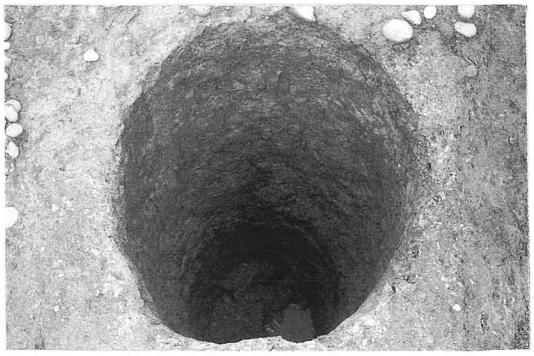


6.　I 26区・5号池（南から）

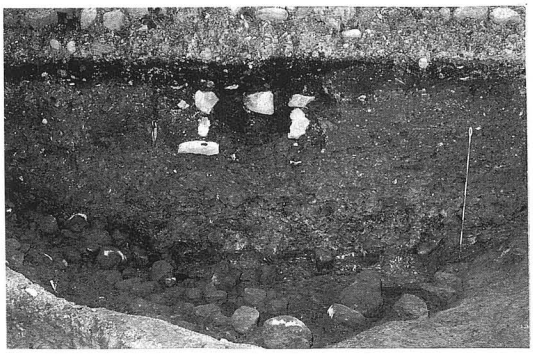
図版8　第5地点Ⅰb期の遺構(2)

Pl.8 Features of phase Ⅰb at NM5 (2)

1.　2号井戸および6号池周辺石敷面（南から）

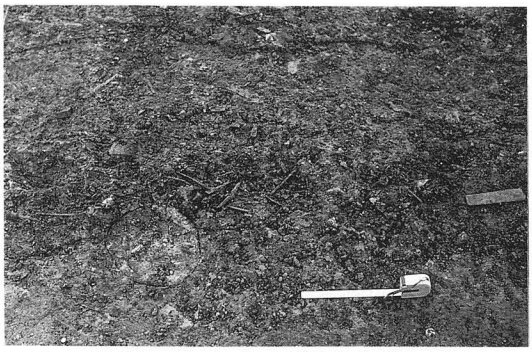


2.　2号井戸（西から）



3.　6号池セクション（北から）

4.　6号池内漆椀出土状況（北から）



5.　E24区・3b上ゴミ層遺物出土状況（南から）

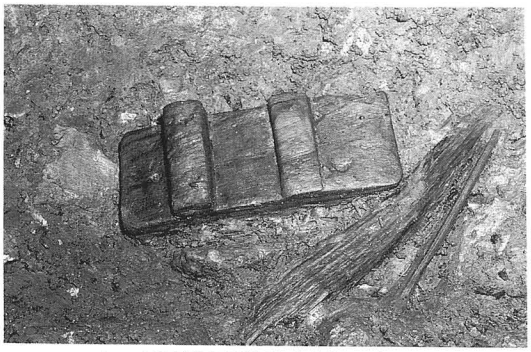
6.　E25区・3b層上面下駄出土状況（西から）

7.　庭園廃絶後の6・10号池埋没状況（南から）

8.　庭園廃絶後の6・10号池埋没状況（東から）

図版9　第5地点Ⅰb期およびⅡ期の遺構

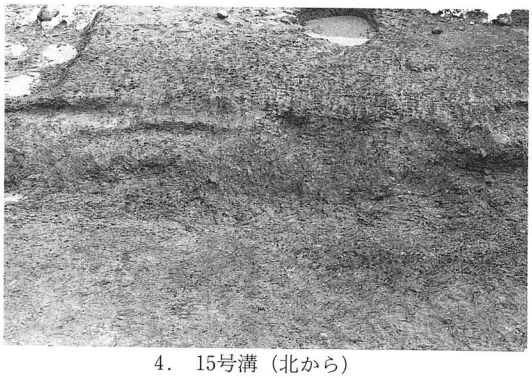
Pl.9 Features of phase Ⅰb and Ⅱ at NM5



1.　15号溝内下駄出土状況（南から）

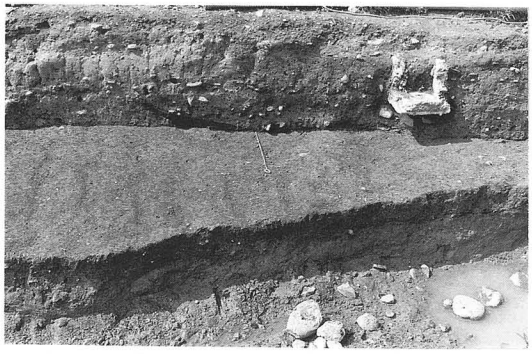
2.　基礎８区・Ⅶ―②層遺物出土状況（南から）

3.　基礎８区・Ⅶ―①′層漆椀出土状況

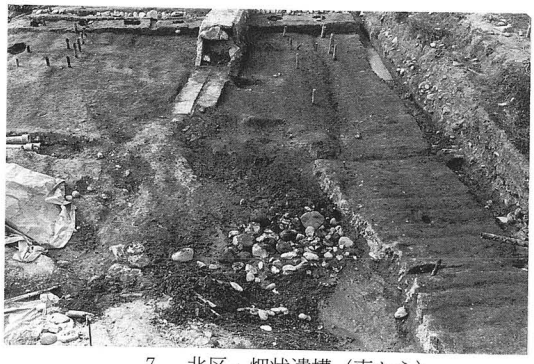


4.　15号溝（北から）

5.　４号土坑（西から）



6.　G・H18区・畑状遺構（南から）

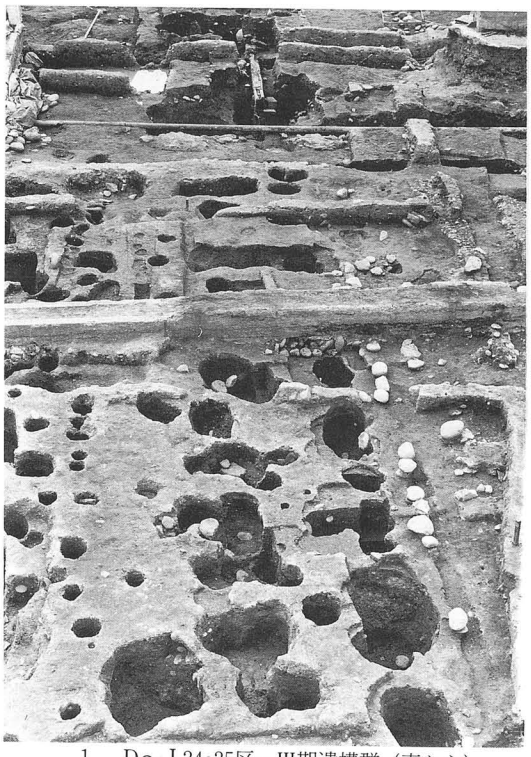


7.　北区・畑状遺構（東から）

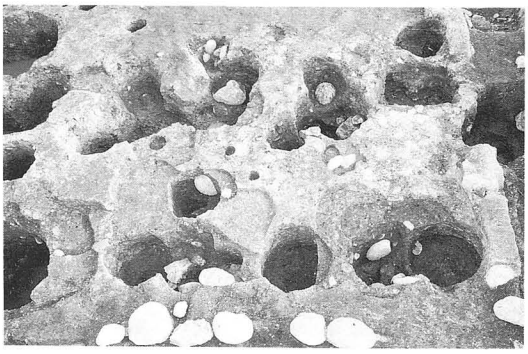
8.　D・F26～29区・畑状遺構（南から）

図版10　第５地点Ⅱａ期・Ⅱｂ期の遺構

Pl. 10 Features of phase IIa and IIb at NM5



1.　D～J 24•25区・III期遺構群（東から）



2.　D～G24•25区・III期遺構群（北から）

3.　D～G24•25区・III期遺構群（東から）

4.　9号溝掘りあげ状況（東から）

5.　9号溝東端護岸施設検出状況（南から）

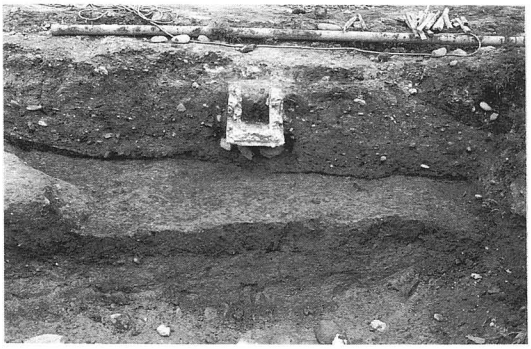
6.　左：16号溝・右：17号溝（南から）

図版11　第5地点III期・III a 期の遺構

Pl. 11 Features of phase III and IIIa at NM5

1.　G23・24区・整地層⑨道路状遺構（西から）

2.　6号溝（北から）



3.　3号土坑（南から）

4.　8号溝（東から）

5.　11号溝（北から）

6.　2号溝（南から）

7.　5号溝（南から）

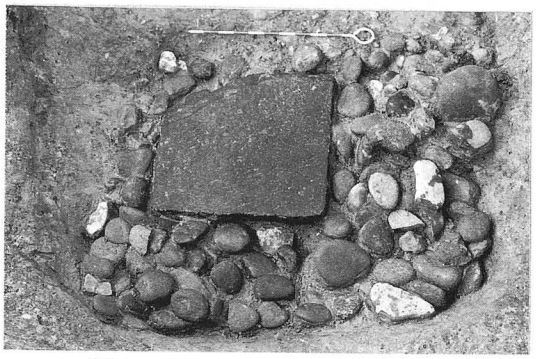
図版12　第5地点IIIa期の遺構

Pl.12 Features of phase IIIa at NM5

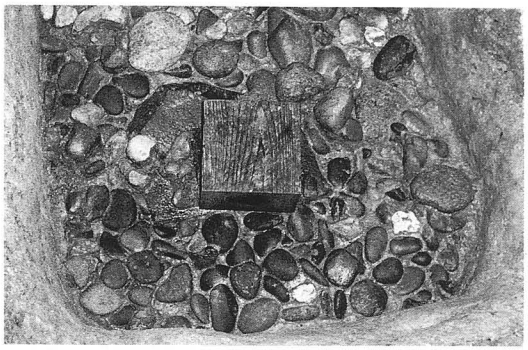
1. 門跡１・２全景（北から）

2. 門跡１地中梁および門跡２本柱２（南から）

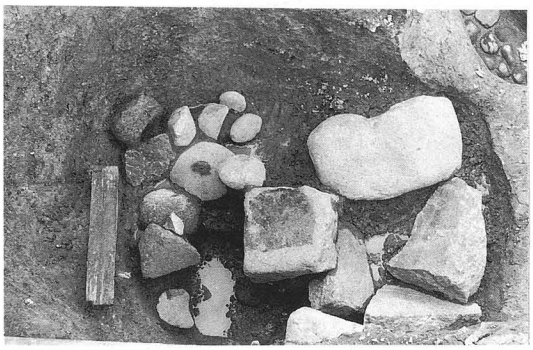
3. 門跡２本柱１の基礎検出状況１（東から）



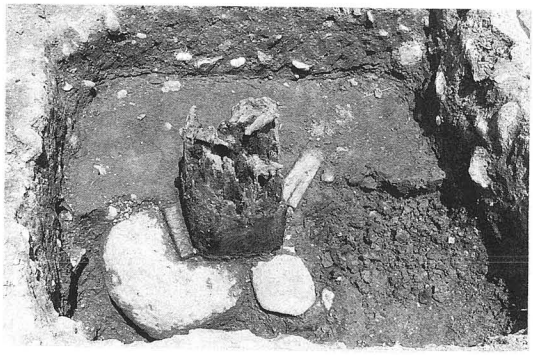
4. 門跡２本柱１の基礎検出状況２（東から）



5. 門跡２本柱２の基礎検出状況（南から）



6. 門跡２控柱２の基礎検出状況（東から）



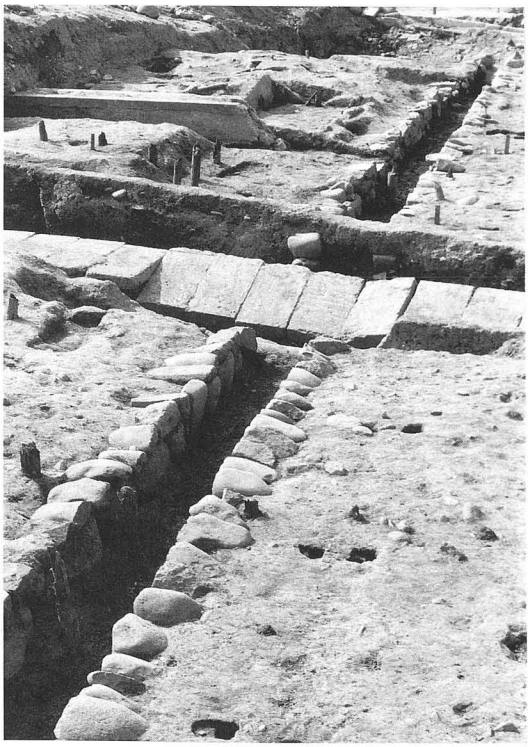
7. 門跡２支柱１の基礎検出状況（南から）

8. 門跡２支柱２の基礎検出状況（西から）

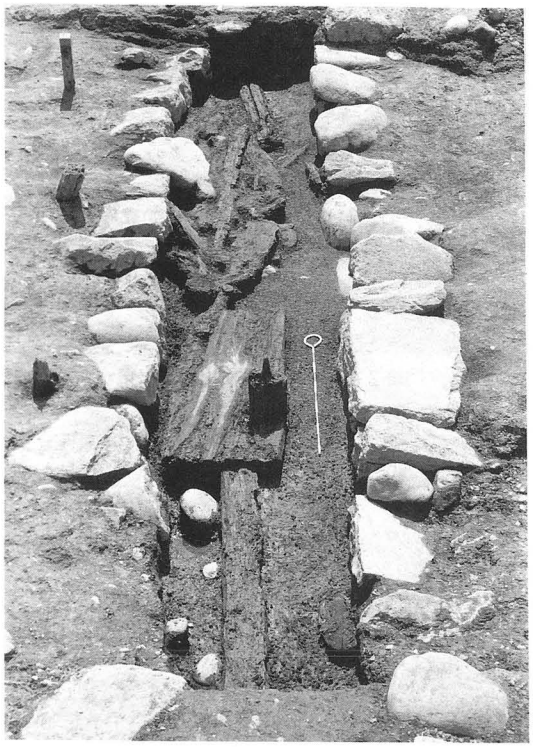
図版13　第５地点III b 期の遺構

Pl. 13 Features of phase IIIb at NM5

1.　左：７号溝・中央：１号柱列・右：３号溝（南から）



2.　７号溝（南から）



3.　L26・27区・７号溝内木材出土状況（北から）

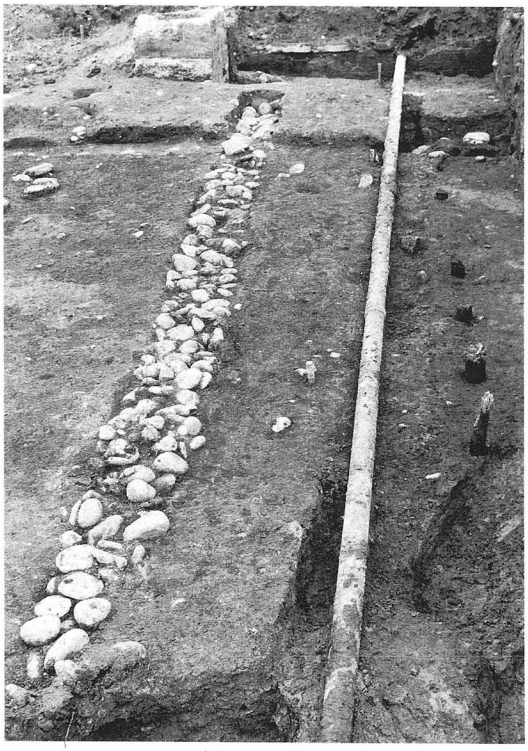
4.　３号溝（南から）

図版14　第５地点Ⅳ期の遺構 (1)

Pl.14 Features of phase IV at NM5 (1)

1.　1号溝北辺（東から）

2.　1号溝東辺（南から）



3.　2号暗渠および杭列（北から）

4.　7号暗渠（西から）

図版15　第5地点Ⅳ期の遺構 (2)

Pl.15 Features of phase Ⅳ at NM5 (2)

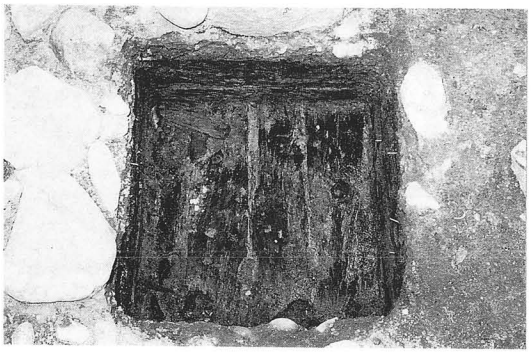
1.　2号建物跡（北から）

2.　1号建物跡（北から）

3.　1号土坑内遺物出土状況（北から）

4.　1号柱列柱穴17（南から）

5.　1号柱列柱穴18（南から）

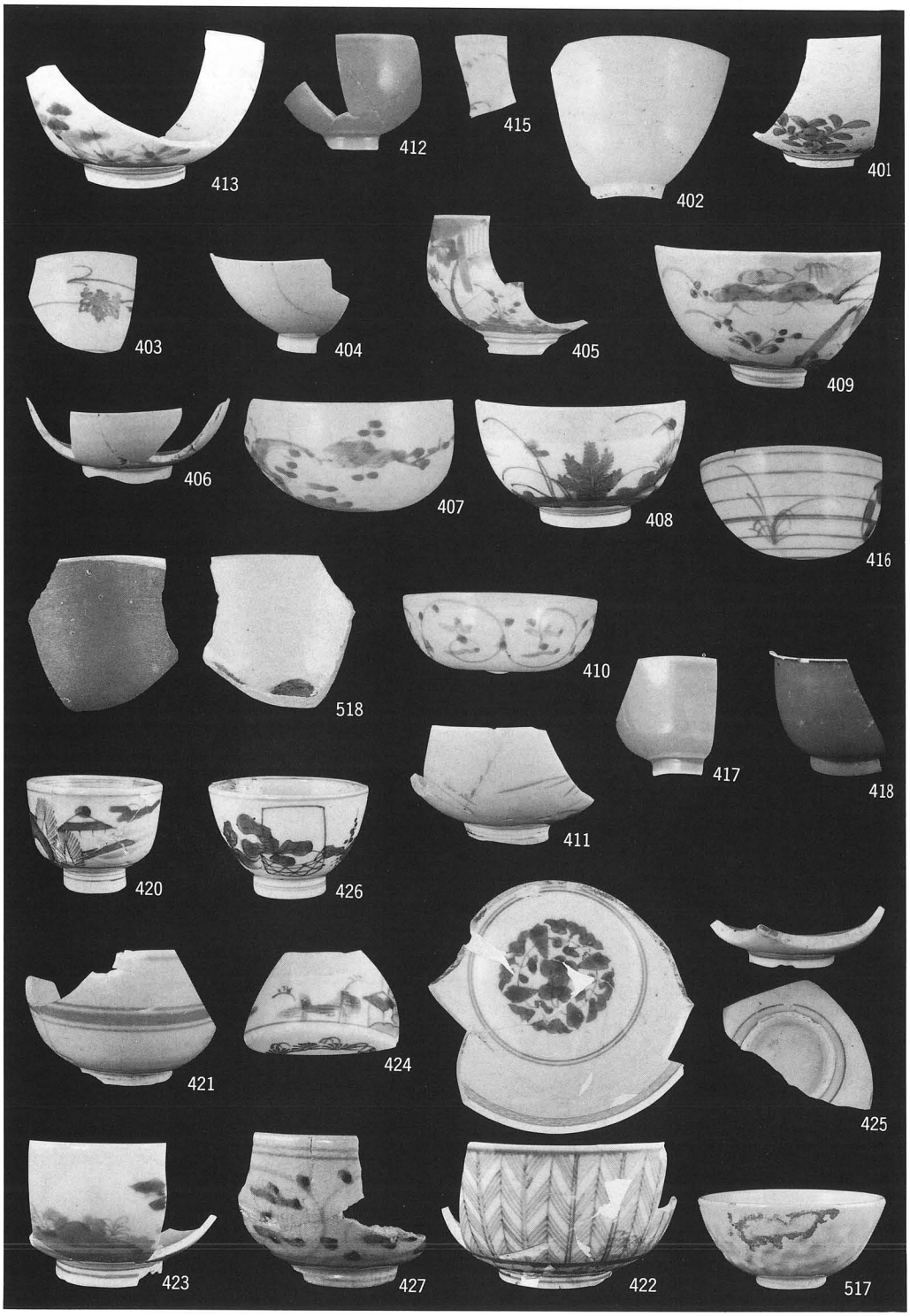


6.　3号木箱埋設遺構（西から）

7.　4号木箱埋設遺構（東から）

図版16　第5地点IV期の遺構 (3)

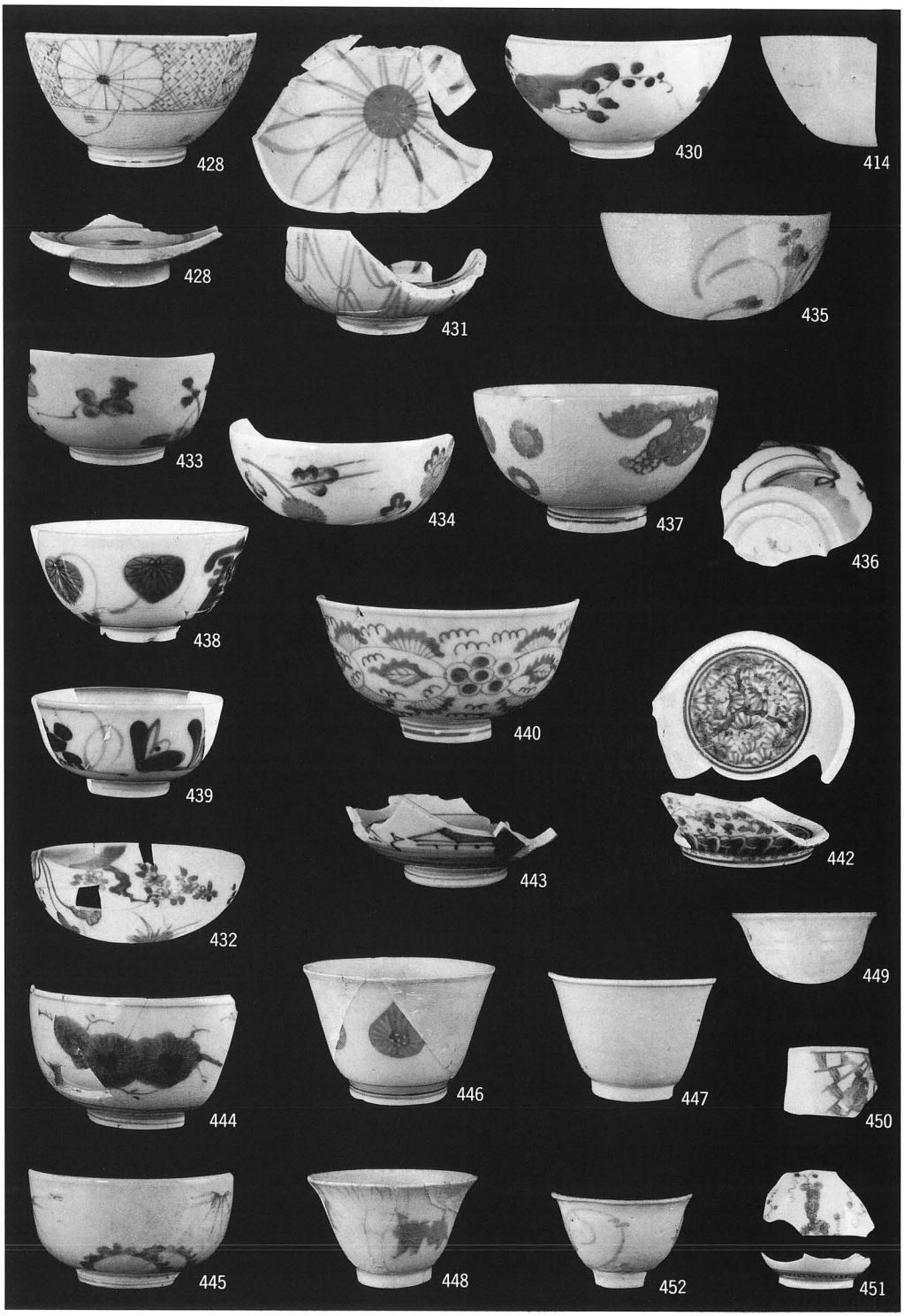
Pl.16 Features of phase IV at NM5 (3)



S＝1：3

図版17　第５地点出土磁器(1)

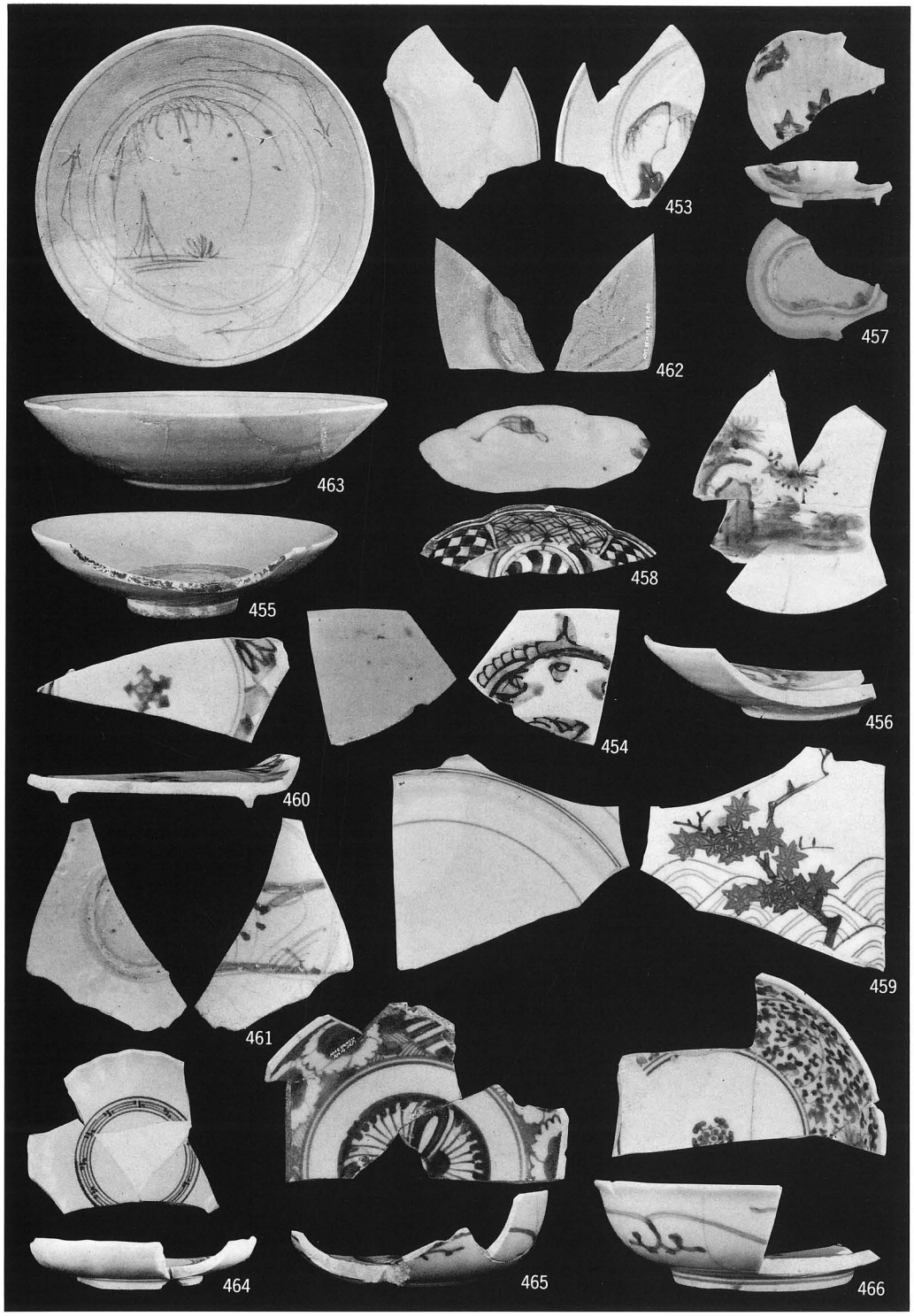
Pl. 17 Porcelains from NM5 (1)



S＝1：3

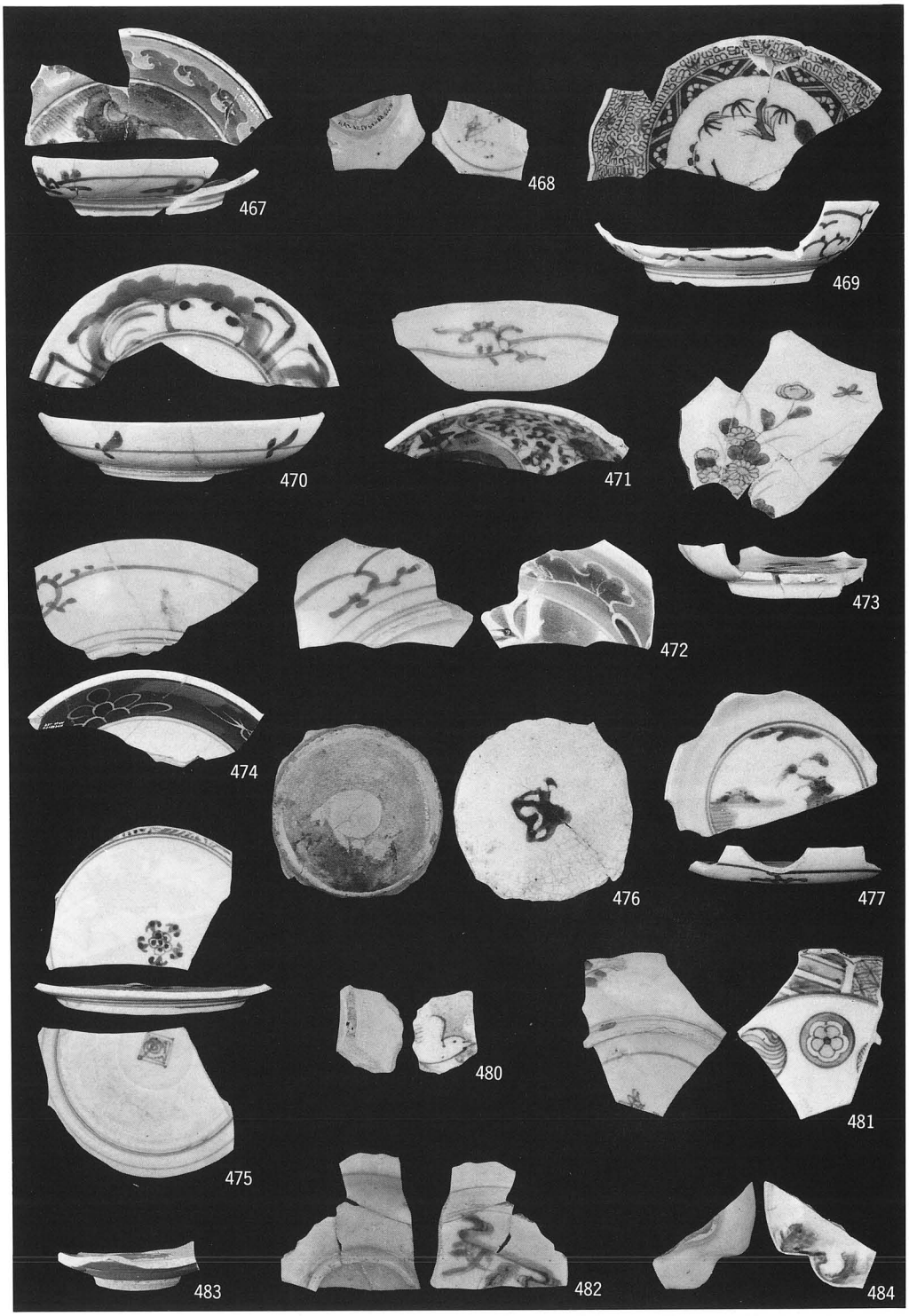
図版18　第５地点出土磁器(2)

Pl. 18 Porcelains from NM5 (2)



図版19　第５地点出土磁器(3)　　S＝1：3

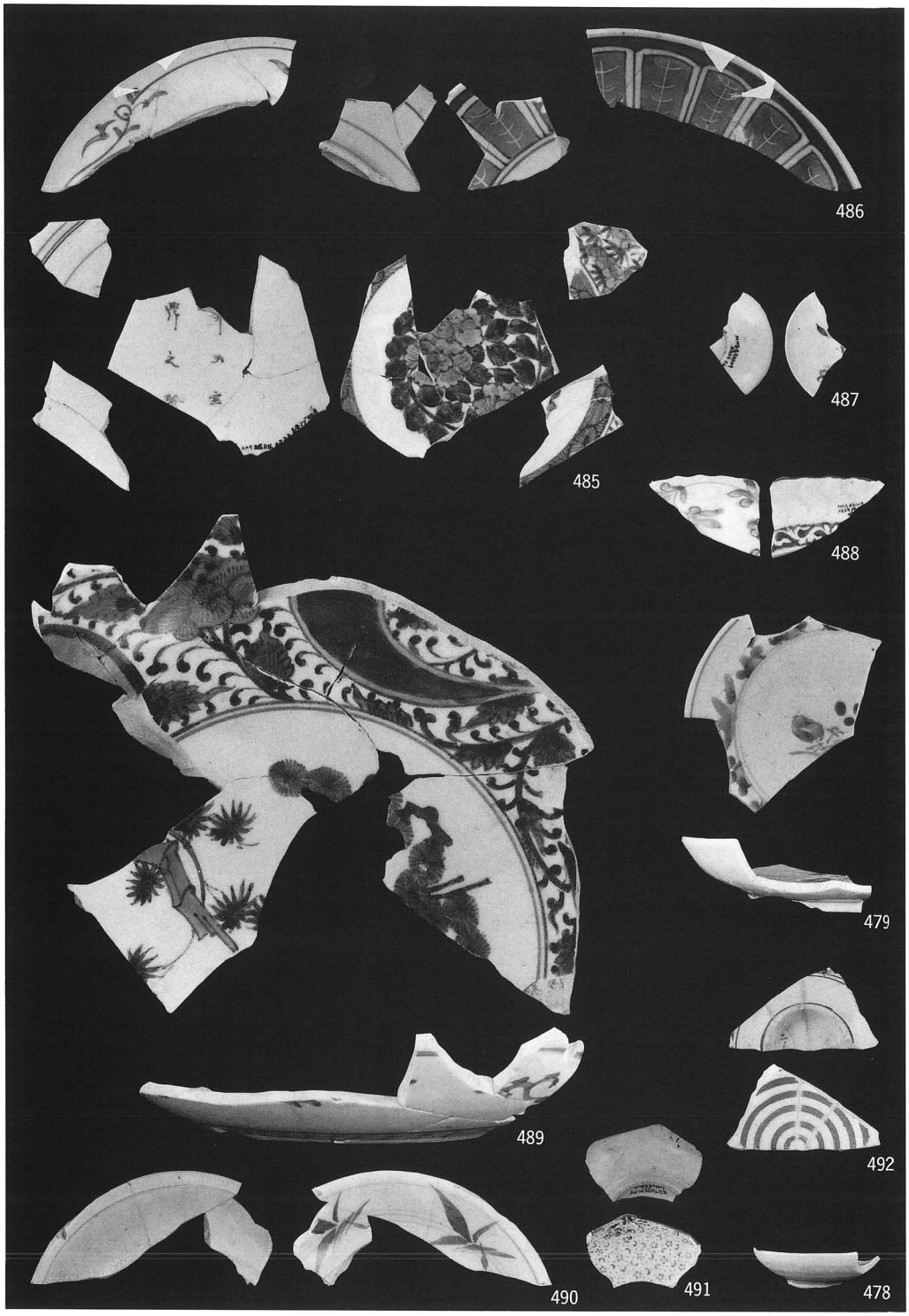
Pl. 19 Porcelains from NM5 (3)



S＝1：3

図版20　第５地点出土磁器(4)

Pl. 20 Porcelains from NM5 (4)



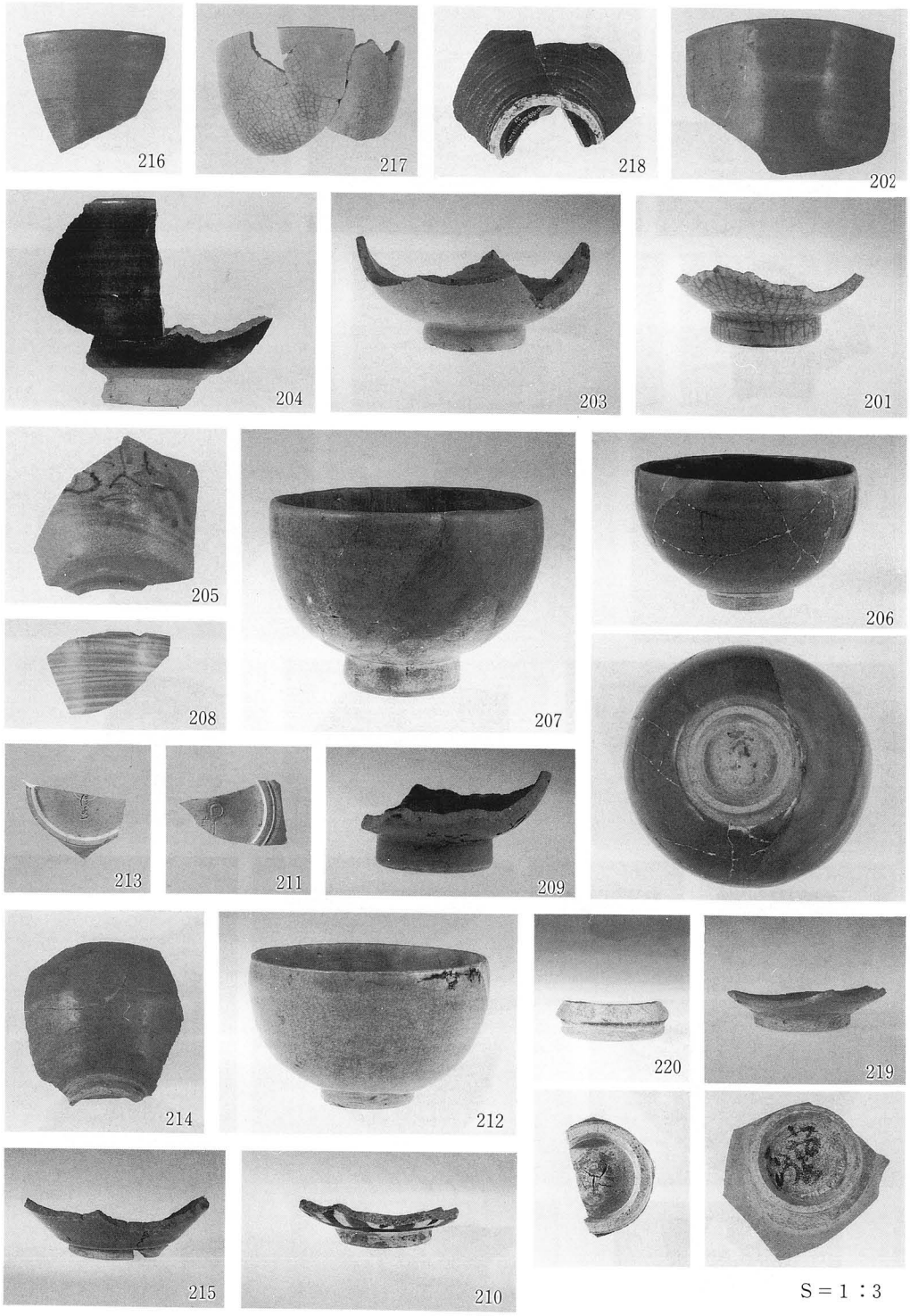
S＝1：3

図版21　第５地点出土磁器(5)

Pl. 21 Porcelains from NM5 (5)

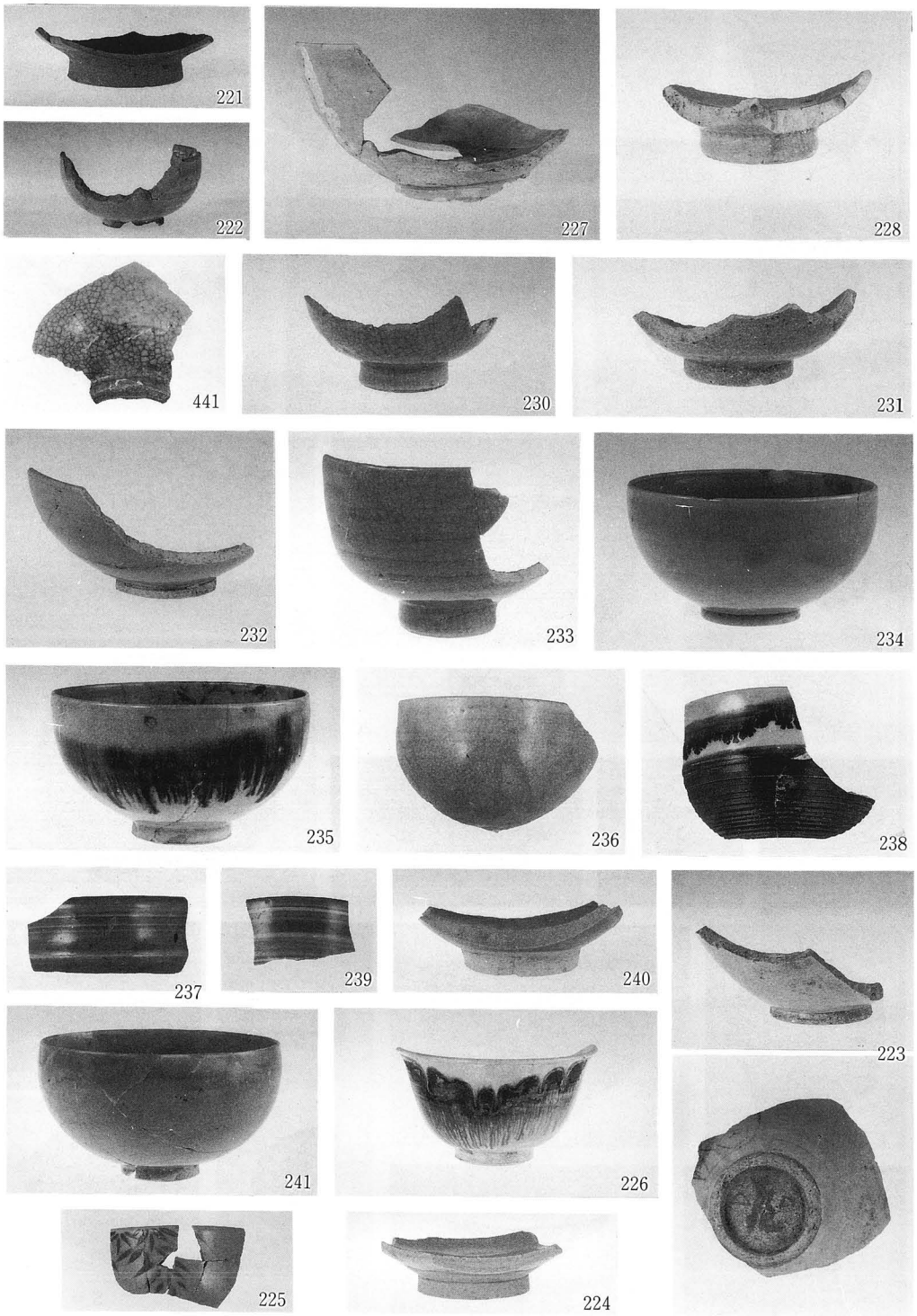
図版22　第５地点出土磁器(6)　　S＝1：3

Pl. 22 Porcelains from NM5 (6)



図版23　第５地点出土陶器(1)

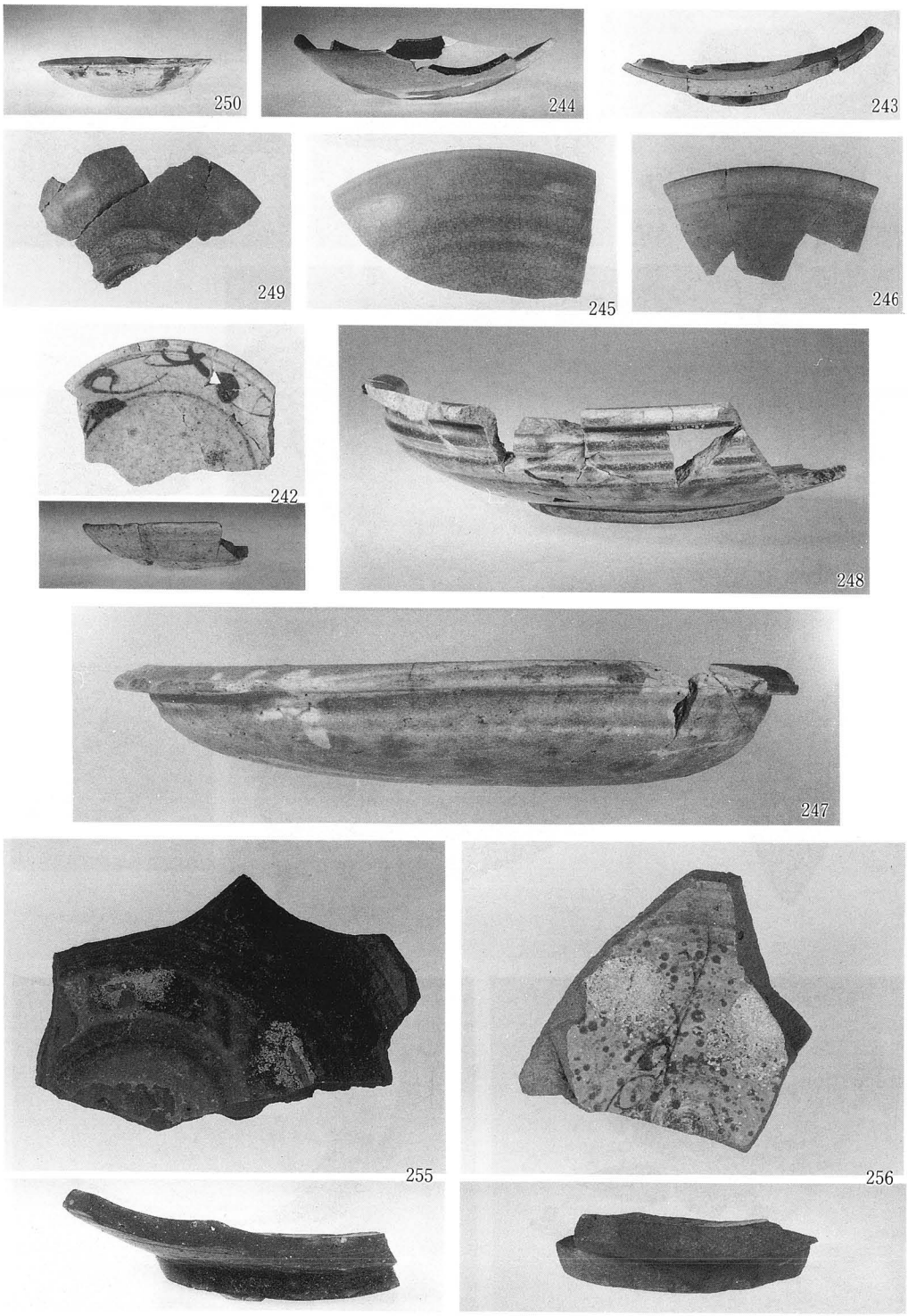
Pl. 23 Glazed ceramics from NM5 (1)



S＝1：3

図版24　第５地点出土陶器(2)

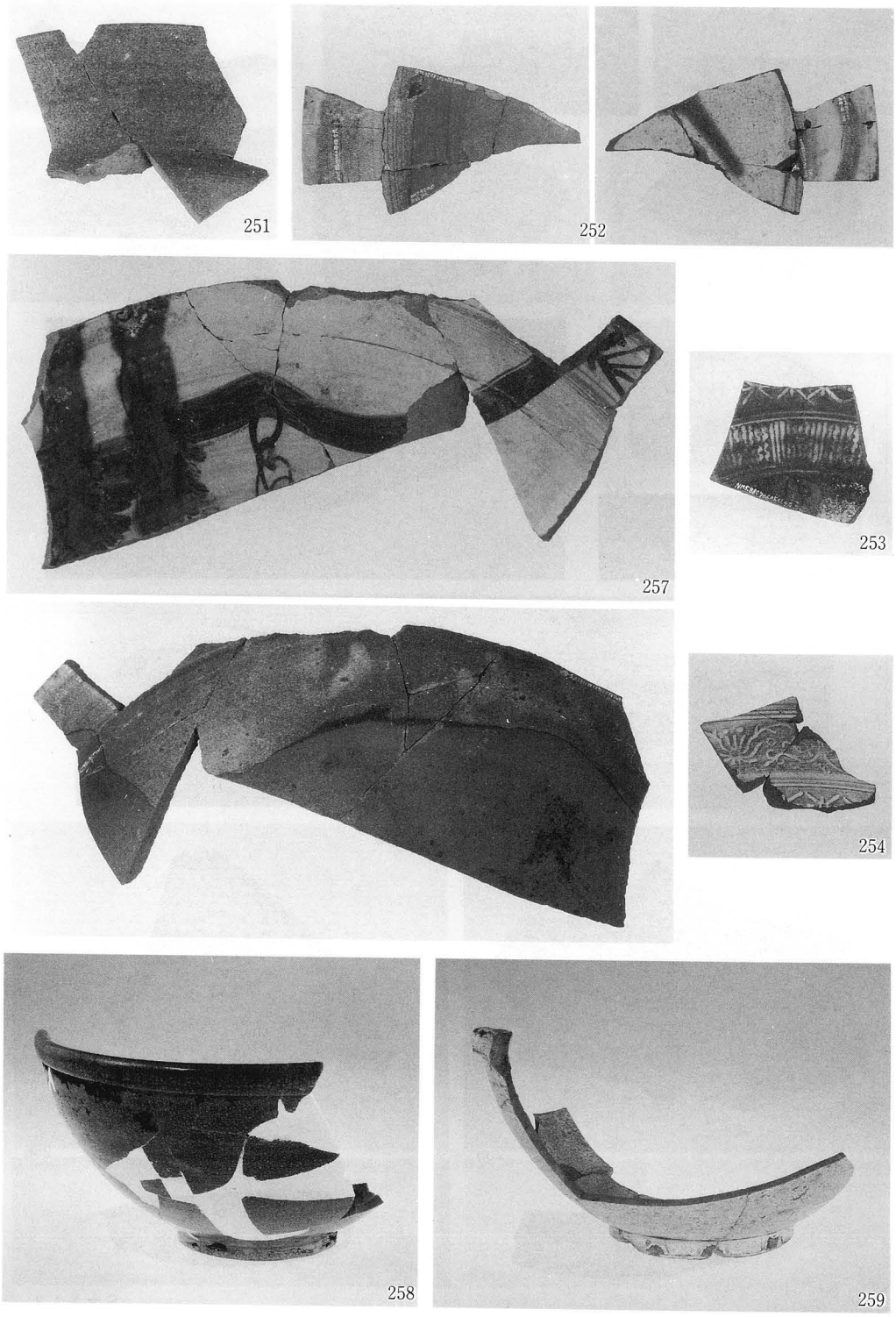
Pl. 24 Glazed ceramics from NM5 (2)



S＝1：3

図版25　第５地点出土陶器(3)

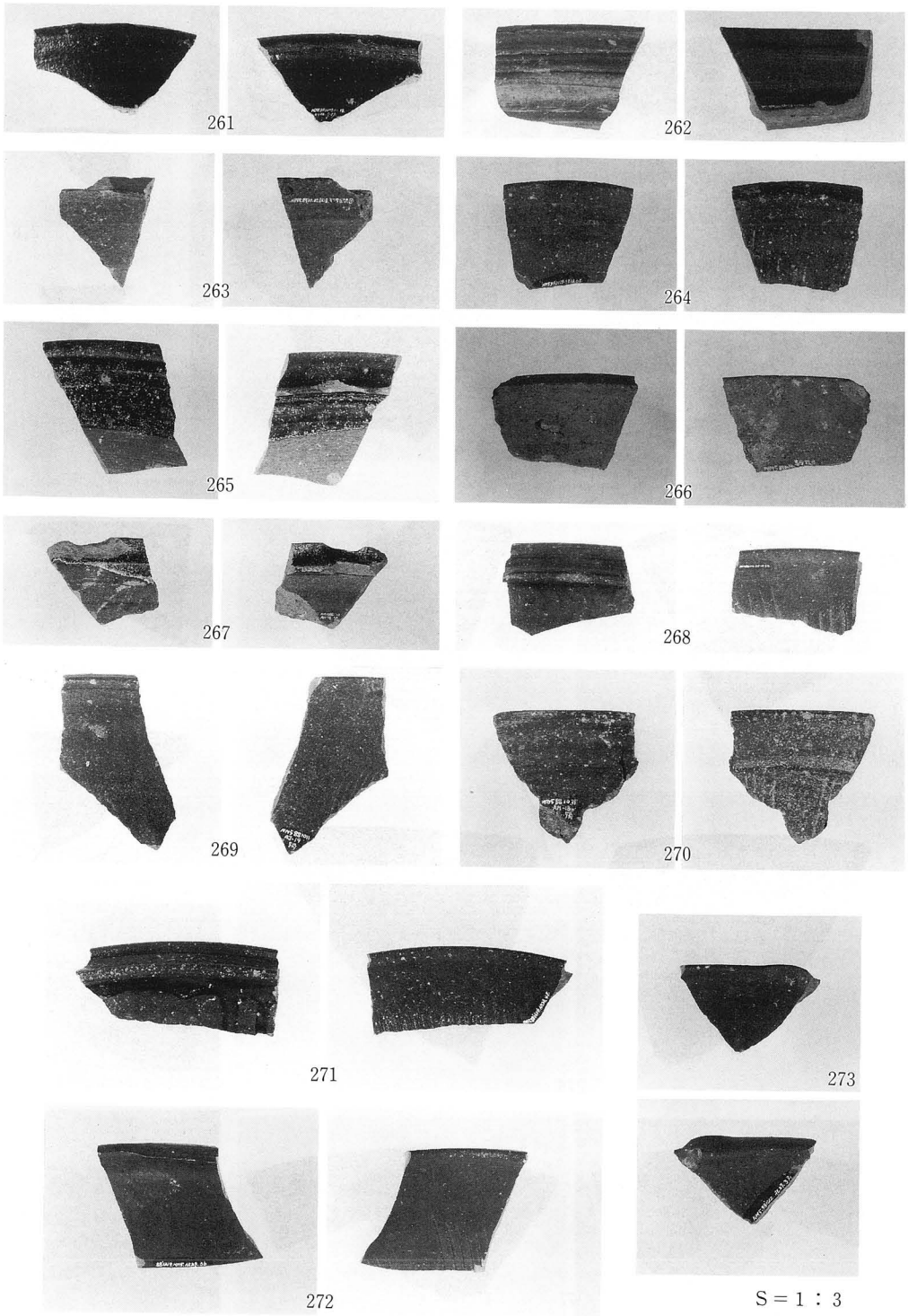
Pl. 25 Glazed ceramics from NM5 (3)



S＝1：3

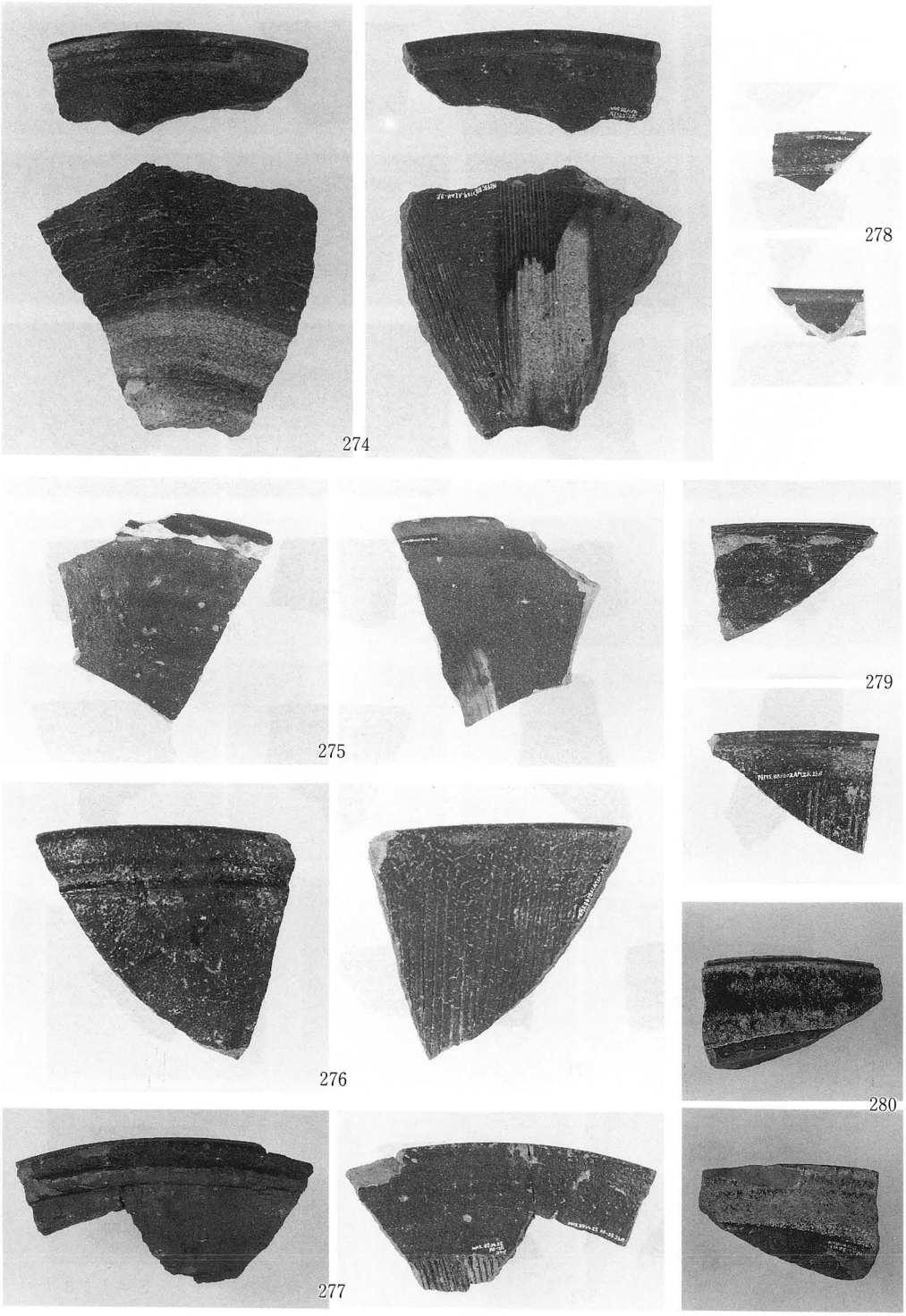
図版26　第5地点出土陶器(4)

Pl. 26 Glazed ceramics from NM5 (4)



図版27　第５地点出土陶器(5)

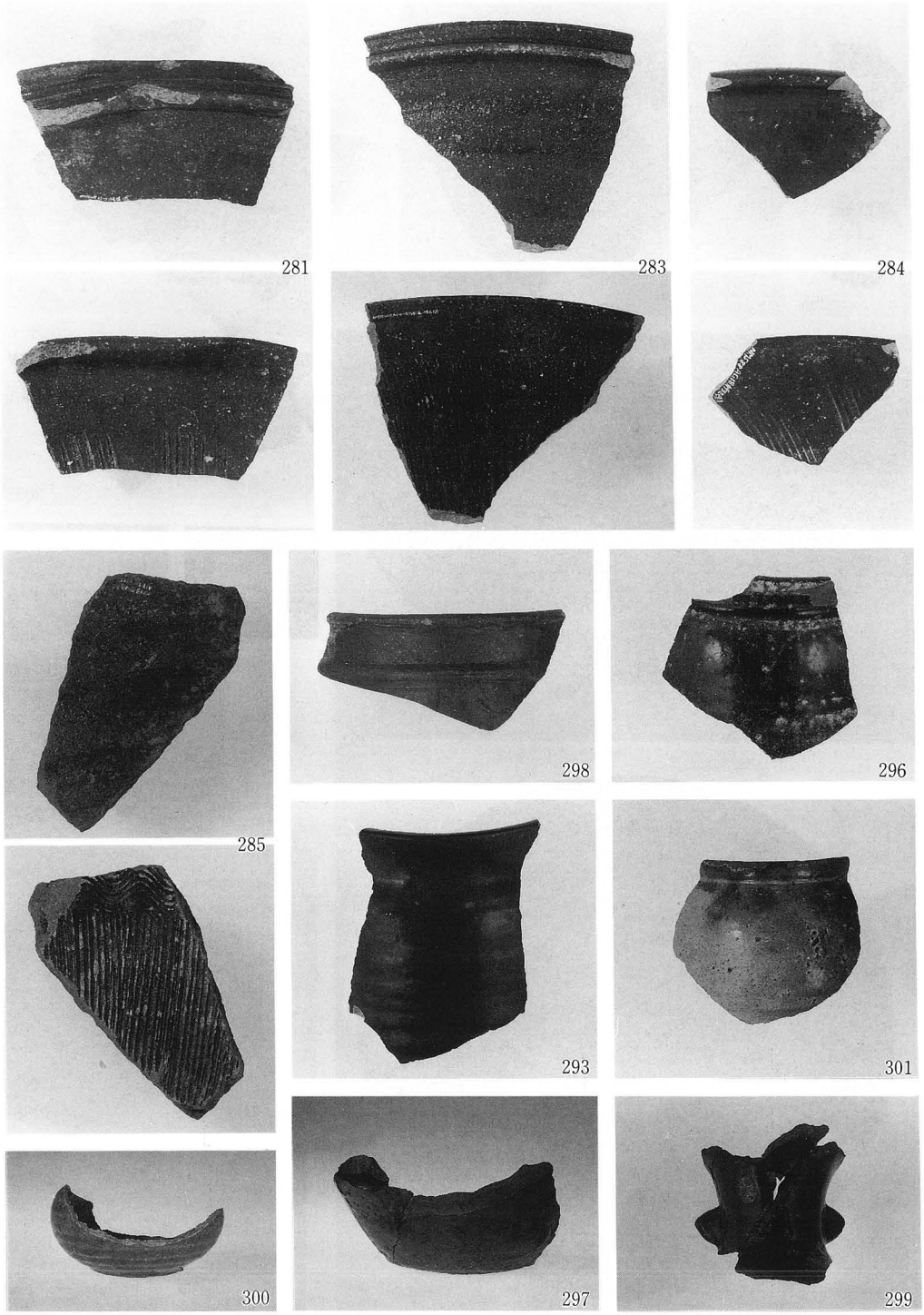
Pl. 27 Glazed ceramics from NM5 (5)



S＝1：3

図版28　第５地点出土陶器(6)

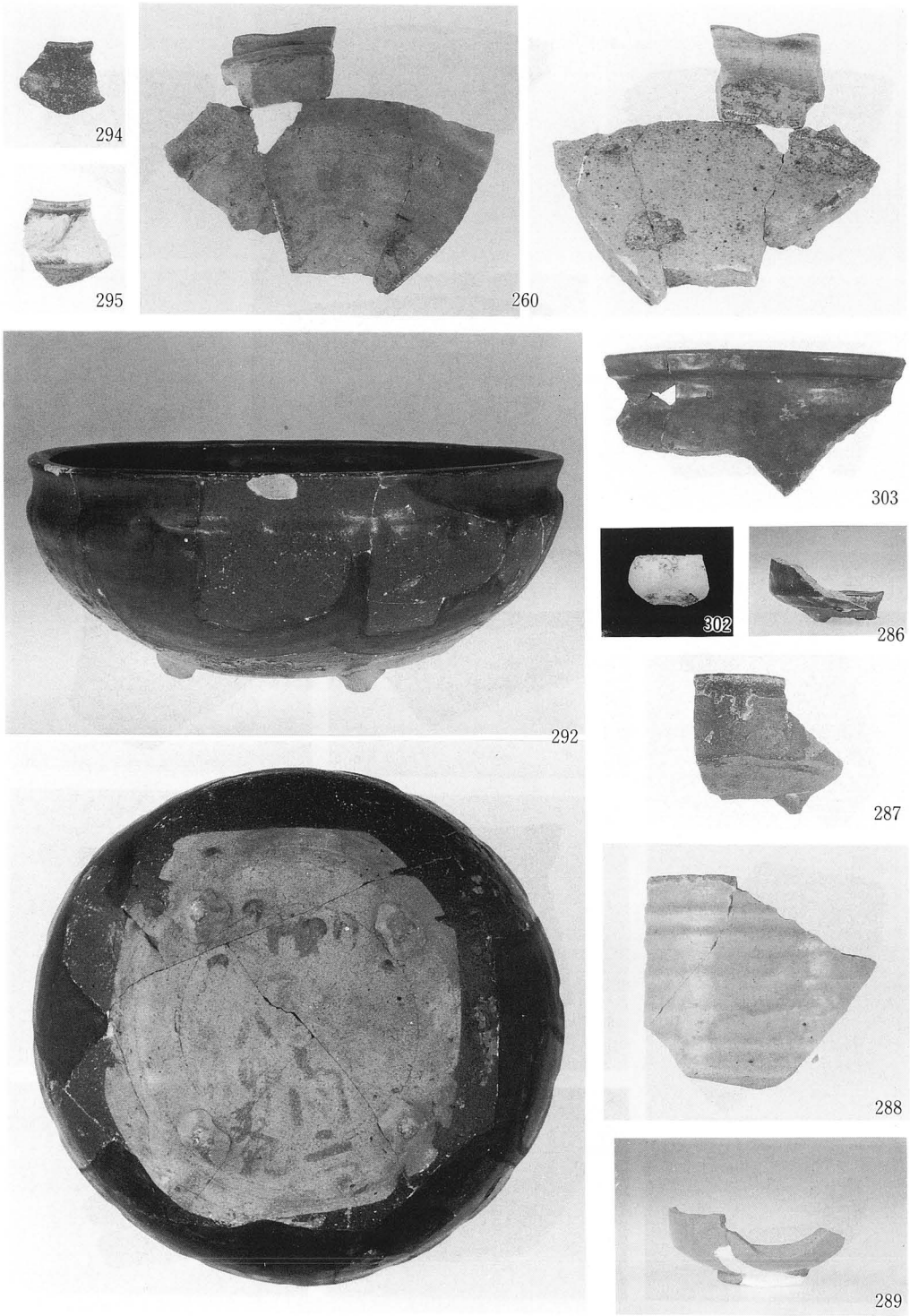
Pl. 28 Glazed ceramics from NM5 (6)



S＝1：3

図版29　第５地点出土陶器(7)

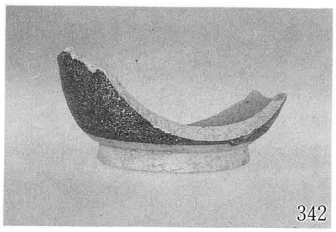
Pl. 29 Glazed ceramics from NM5 (7)

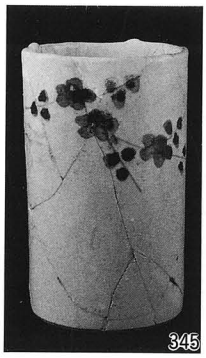


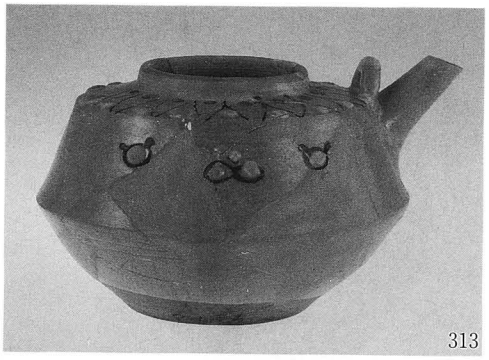
S＝1：3

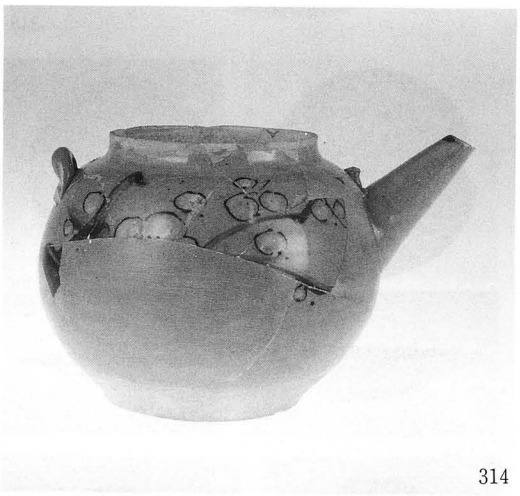
図版30　第５地点出土陶器(8)

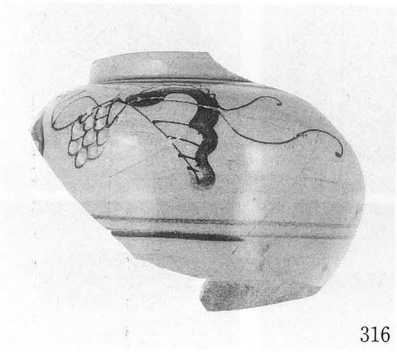
Pl. 30 Glazed ceramics from NM5 (8)

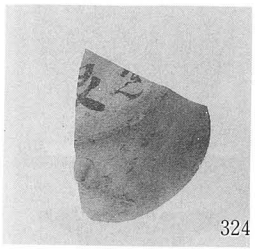








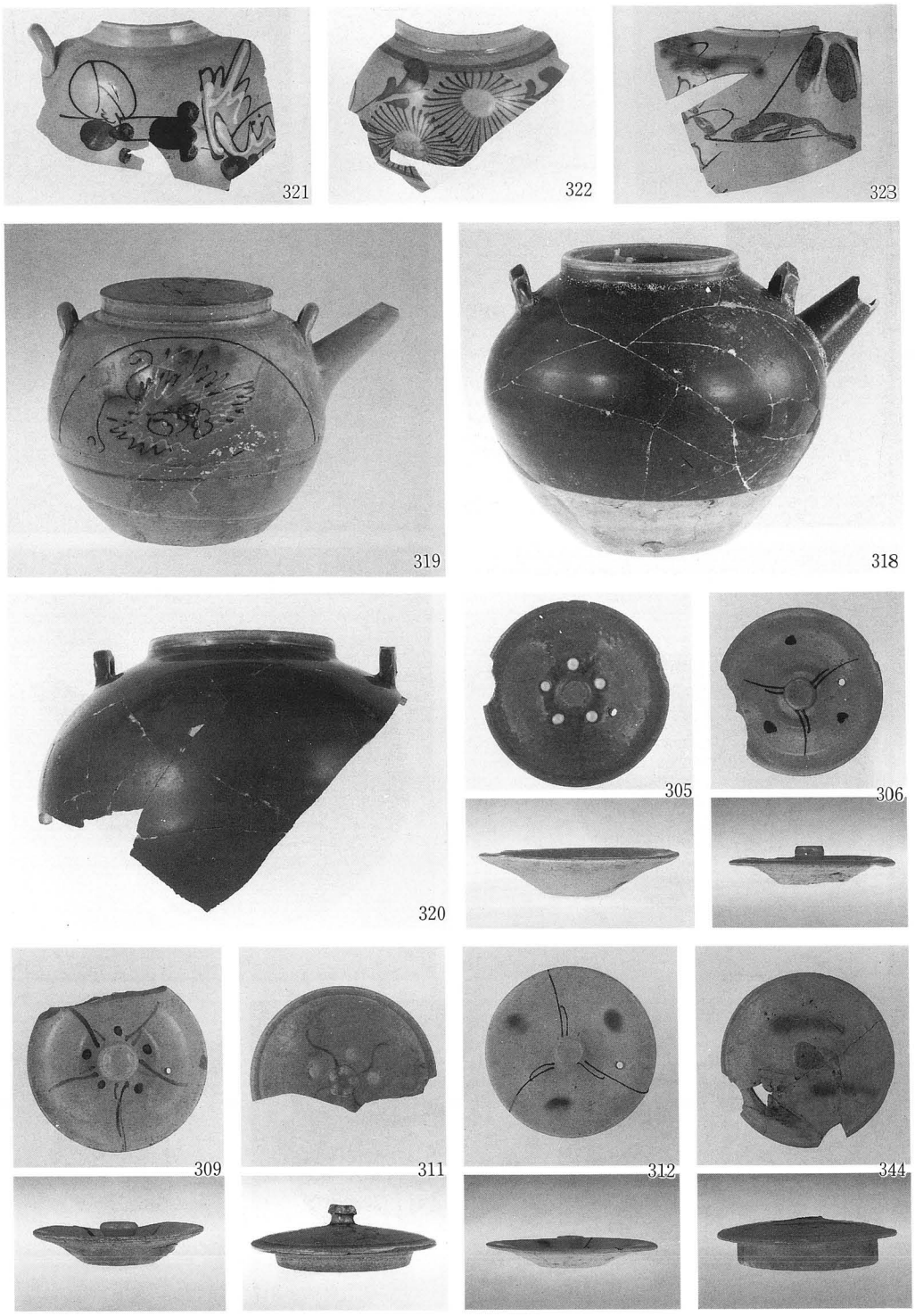




S＝1：3

図版31　第５地点出土陶器(9)

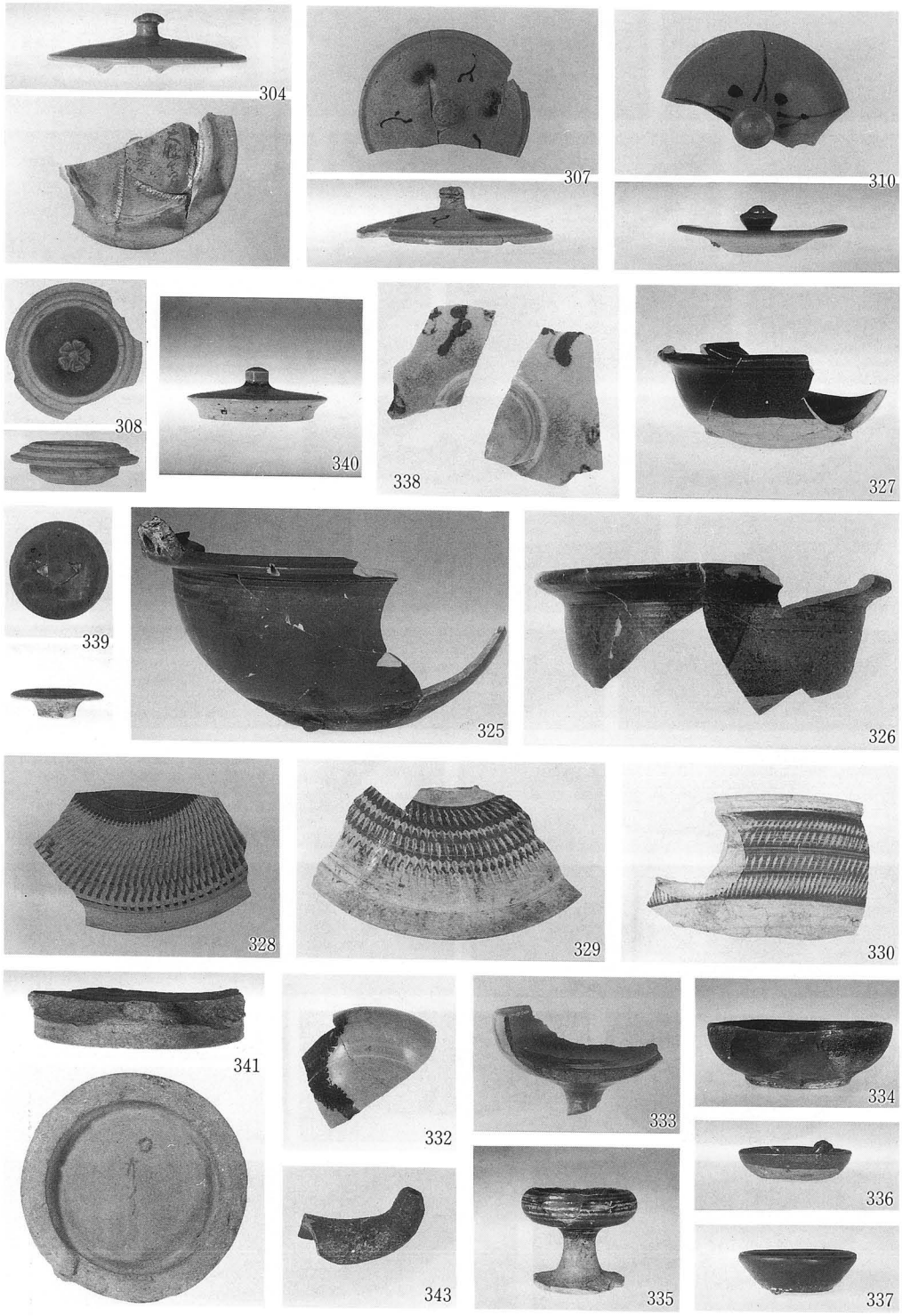
Pl. 31 Glazed ceramics from NM5 (9)



S＝1：3

図版32　第５地点出土陶器⑽

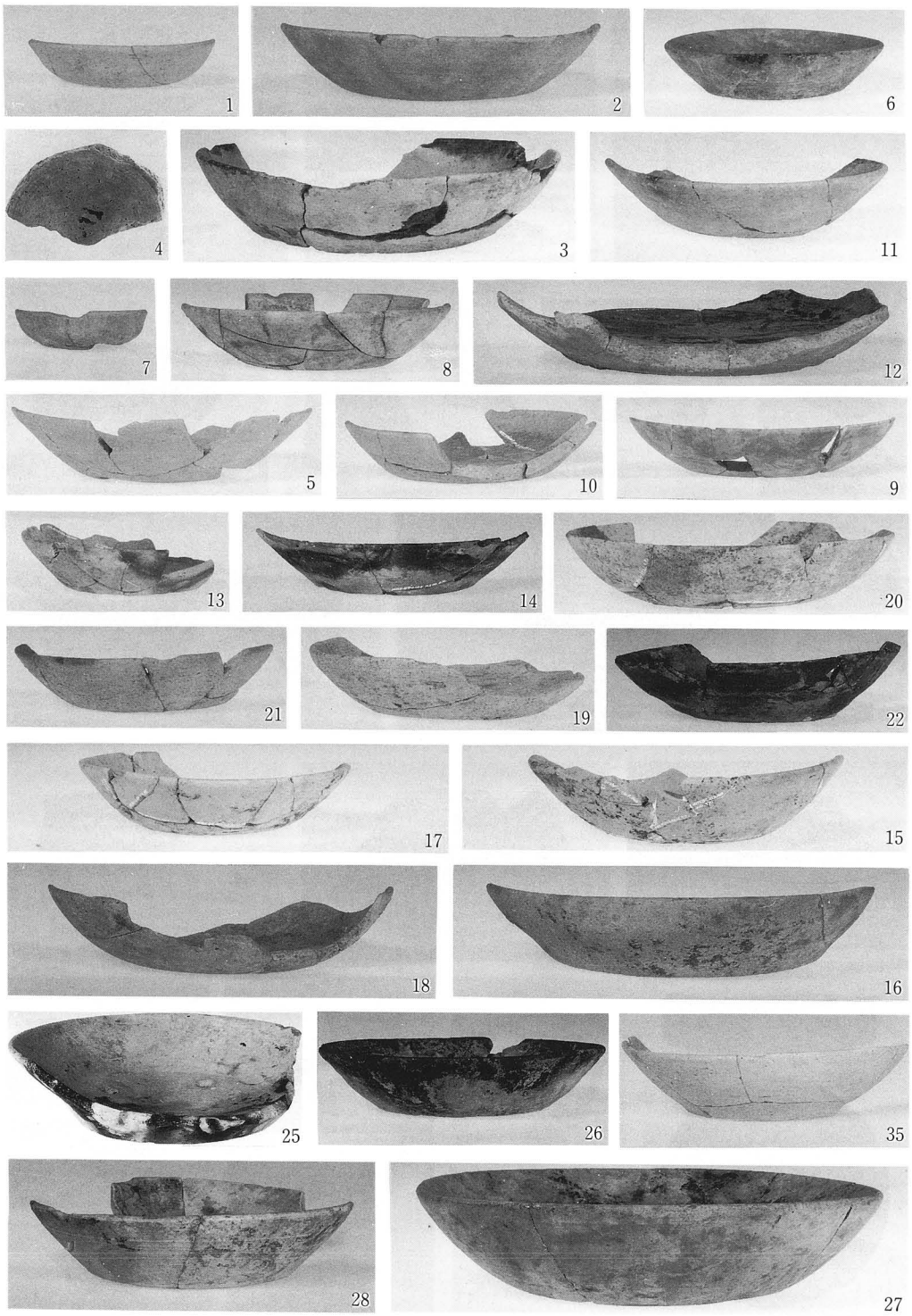
Pl. 32 Glazed ceramics from NM5 (10)



S＝1：3

図版33　第５地点出土陶器（11）

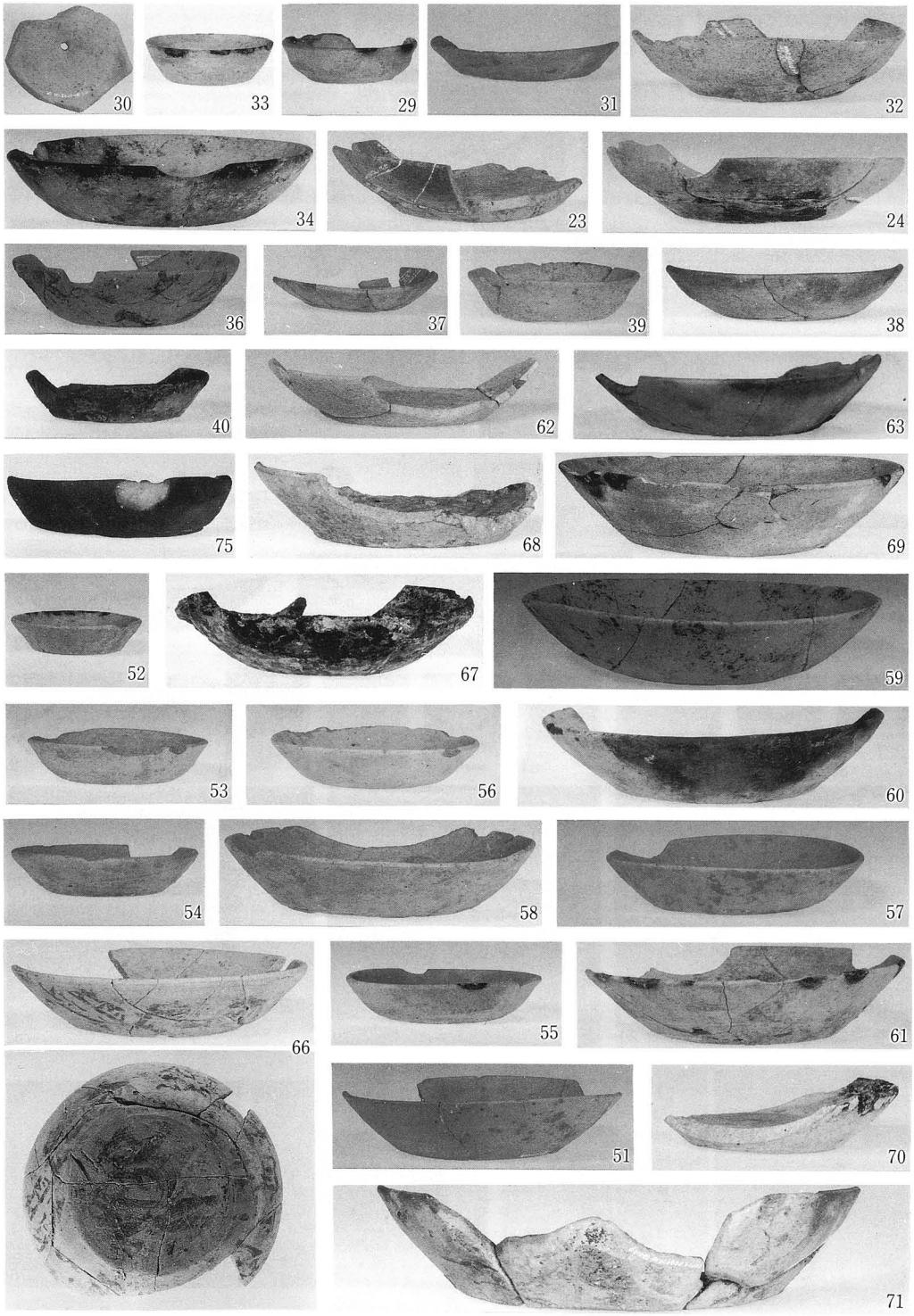
Pl. 33 Glazed ceramics from NM5 (11)



S＝1：3

図版34　第５地点出土土器(1)

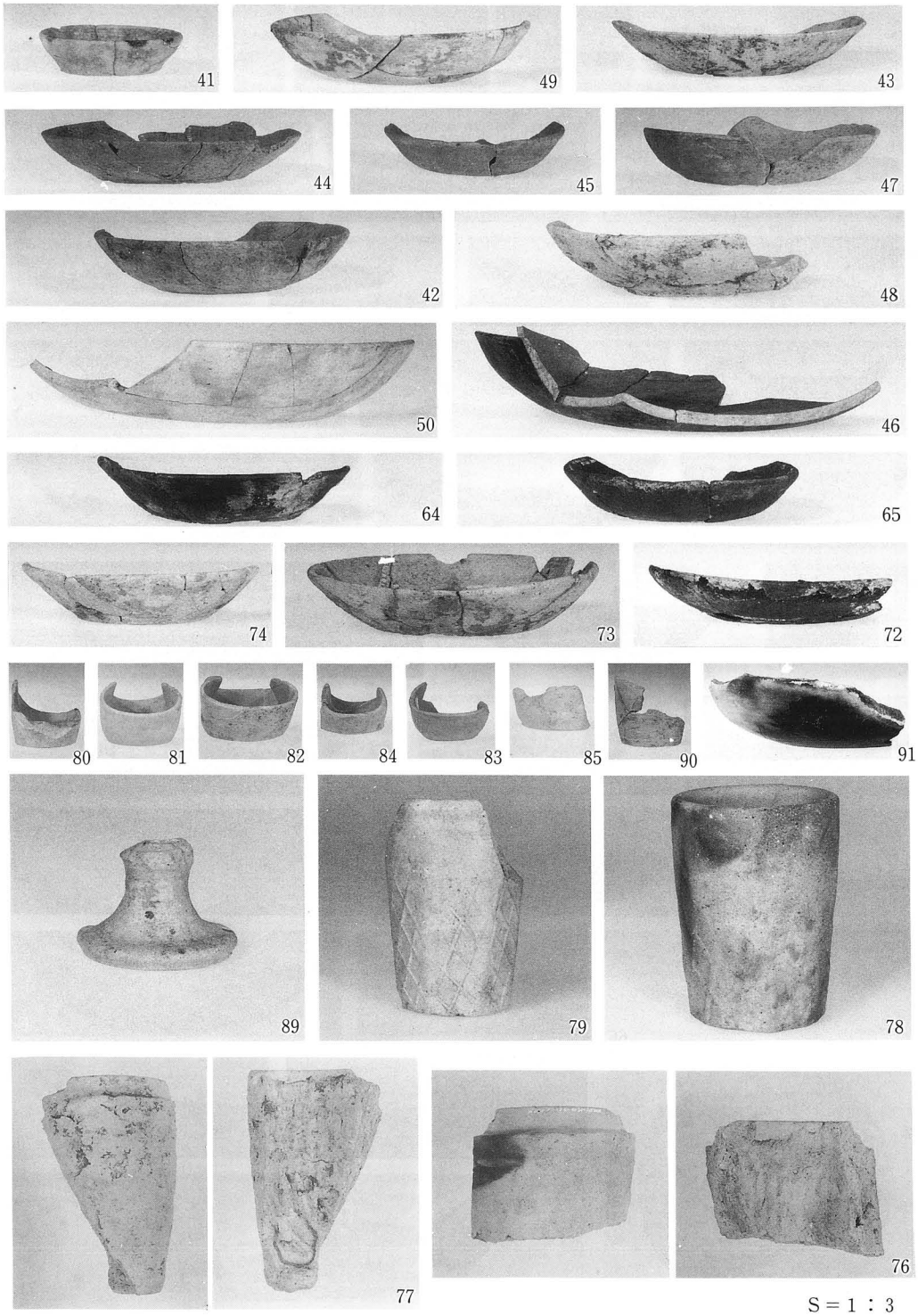
Pl. 34 Ceramics from NM5 (1)



S＝1：3

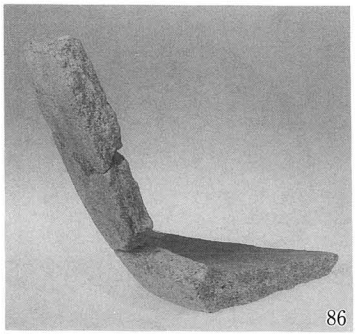
図版35　第５地点出土土器(2)

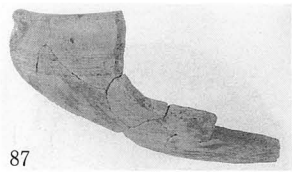
Pl. 35 Ceramics from NM5 (2)

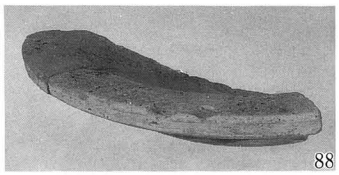


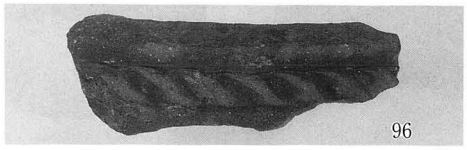
図版36　第５地点出土土器(3)

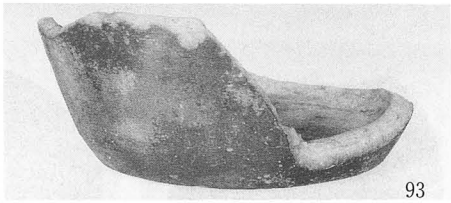
Pl. 36 Ceramics from NM5 (3)

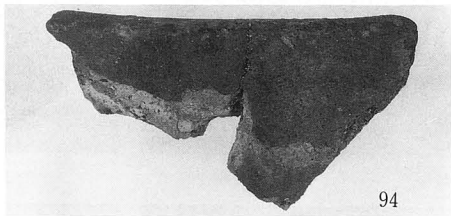


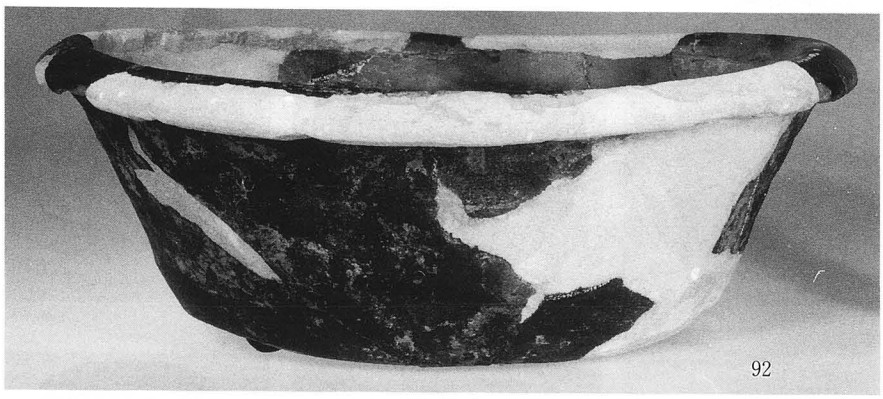


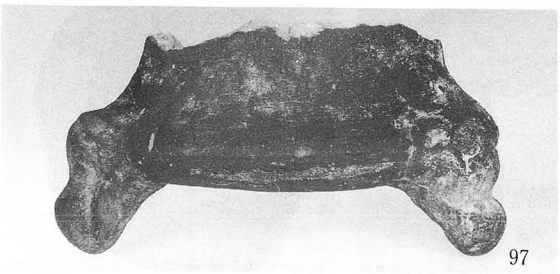


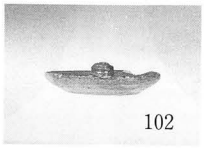


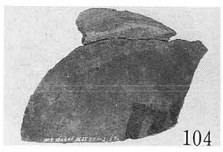








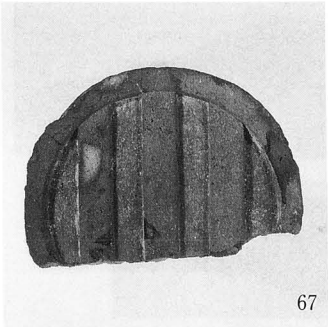


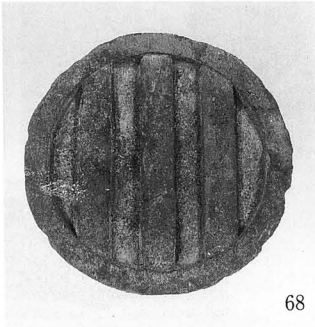


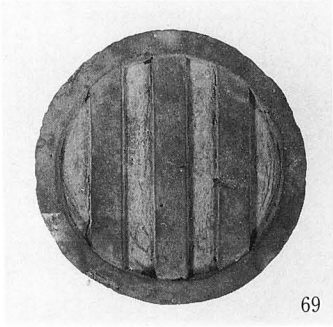
S＝1：3

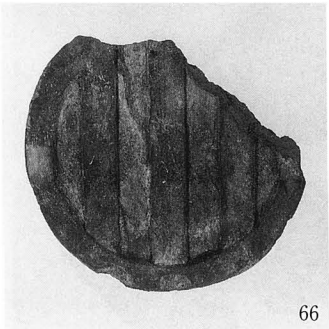
図版37　第５地点出土土器(4)

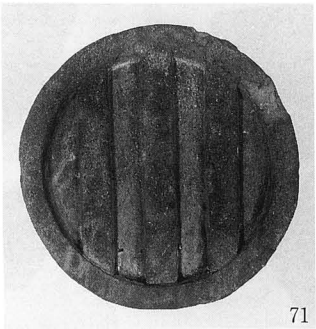
Pl. 37 Ceramics from NM5 (4)

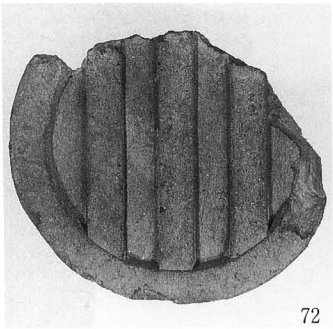


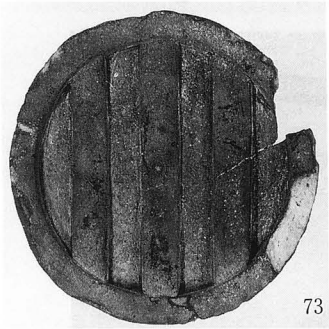


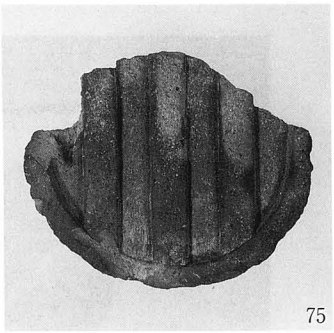


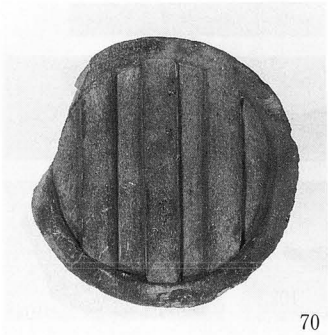


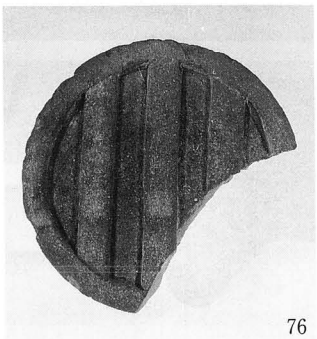


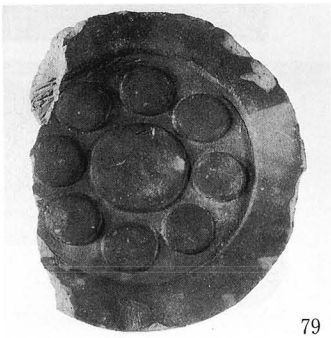








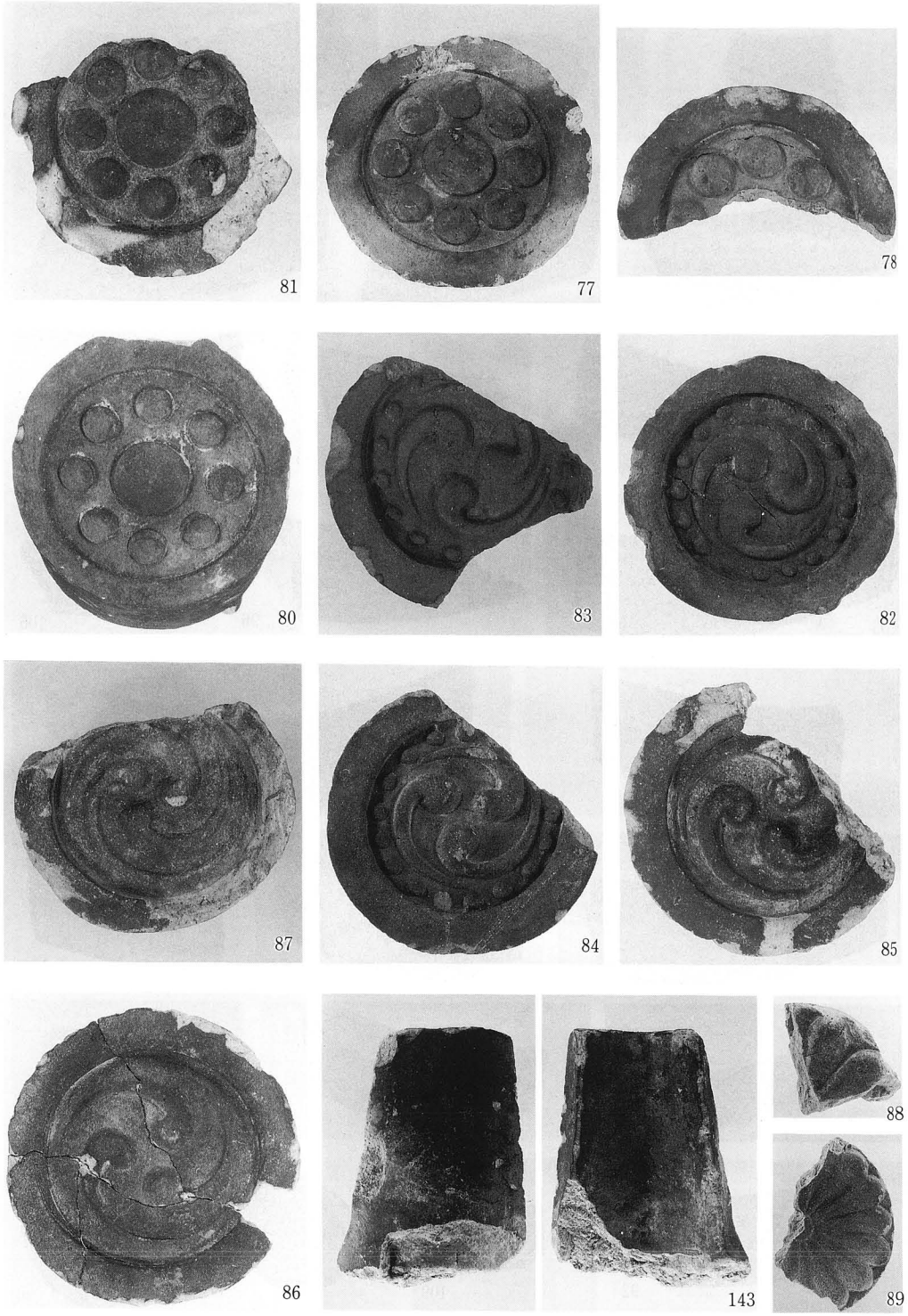




S＝1：4

図版38　第５地点出土軒丸瓦類(1)

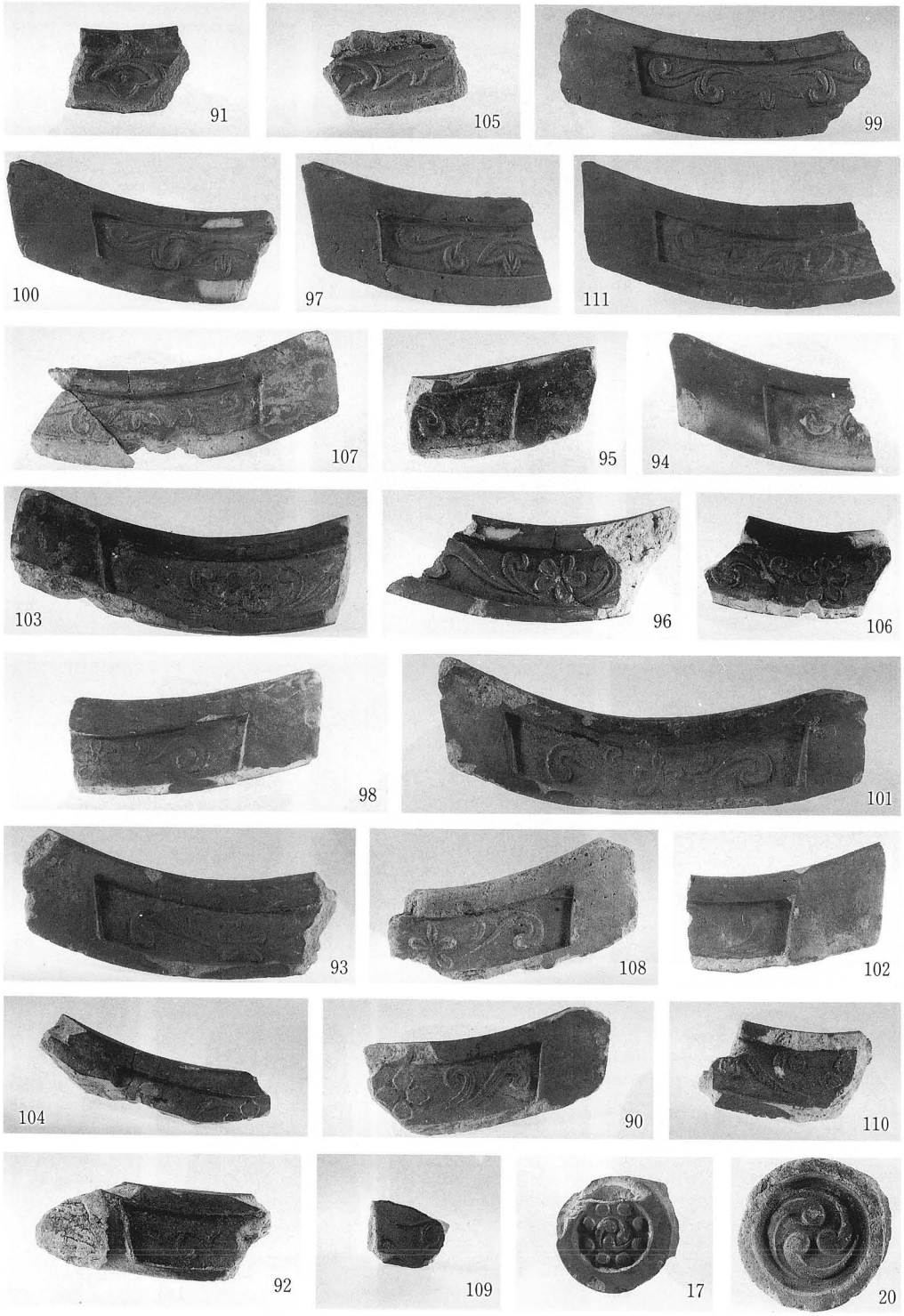
Pl. 38 Round eaves tiles from NM5 (1)



S＝1：4

図版39　第５地点出土軒丸瓦類(2)

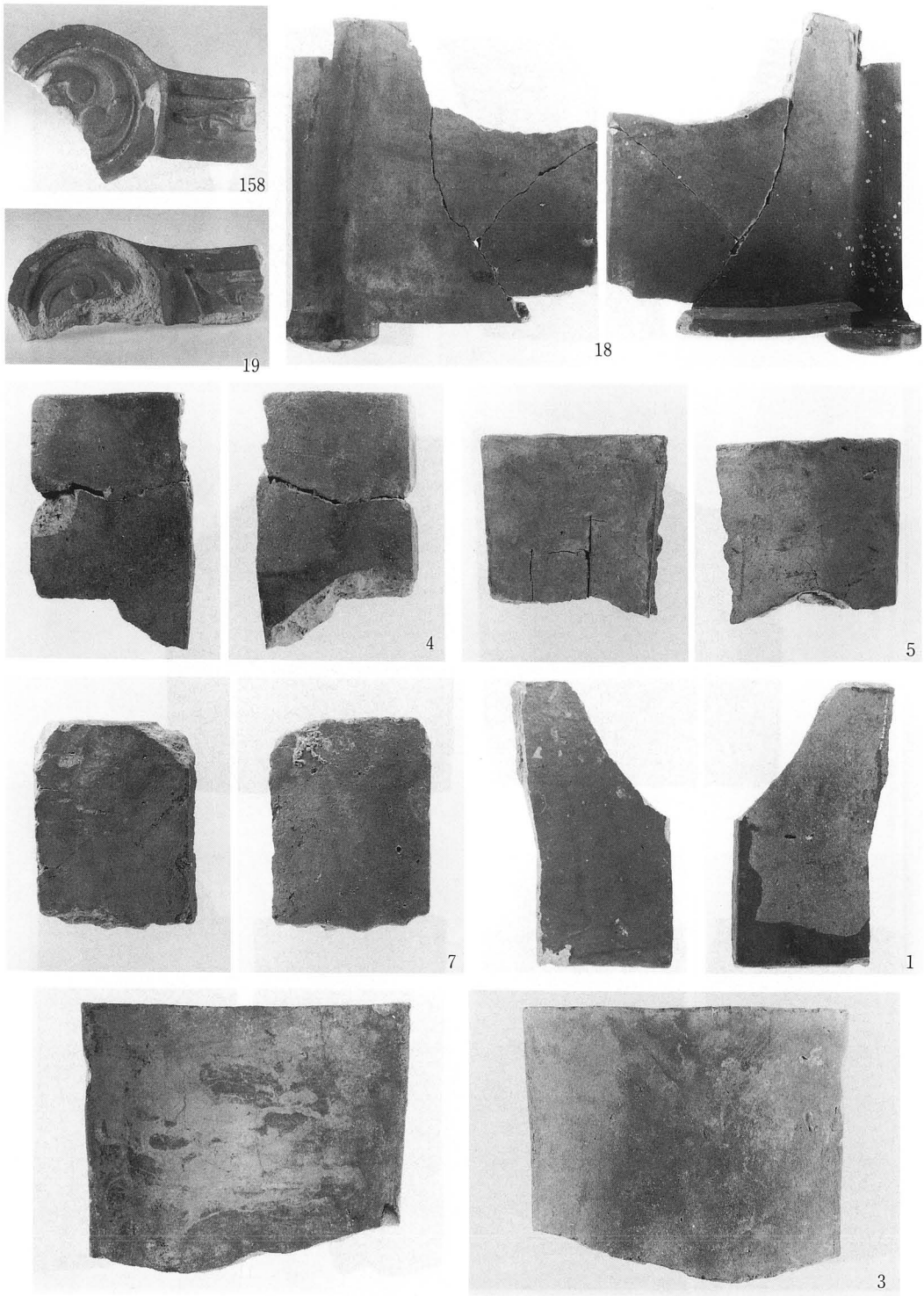
Pl. 39 Round eaves tiles from NM5 (2)



S＝1：4

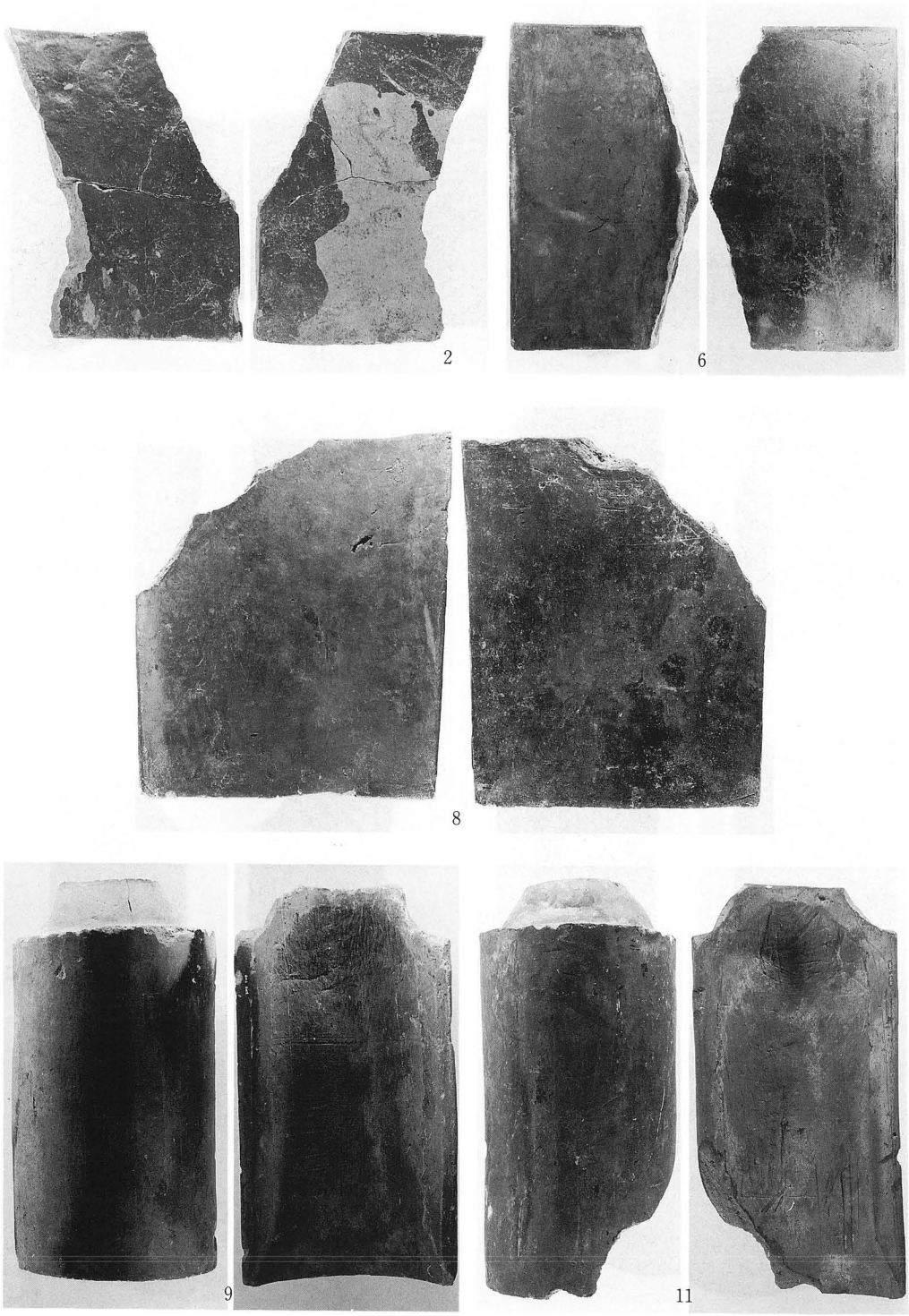
図版40 第5地点出土軒平瓦・軒桟瓦(1)

Pl. 38 Flat eaves tiles and eaves-pan tiles from NM5



19，158　S＝1：4
18　S＝1：6
他はS＝1：5

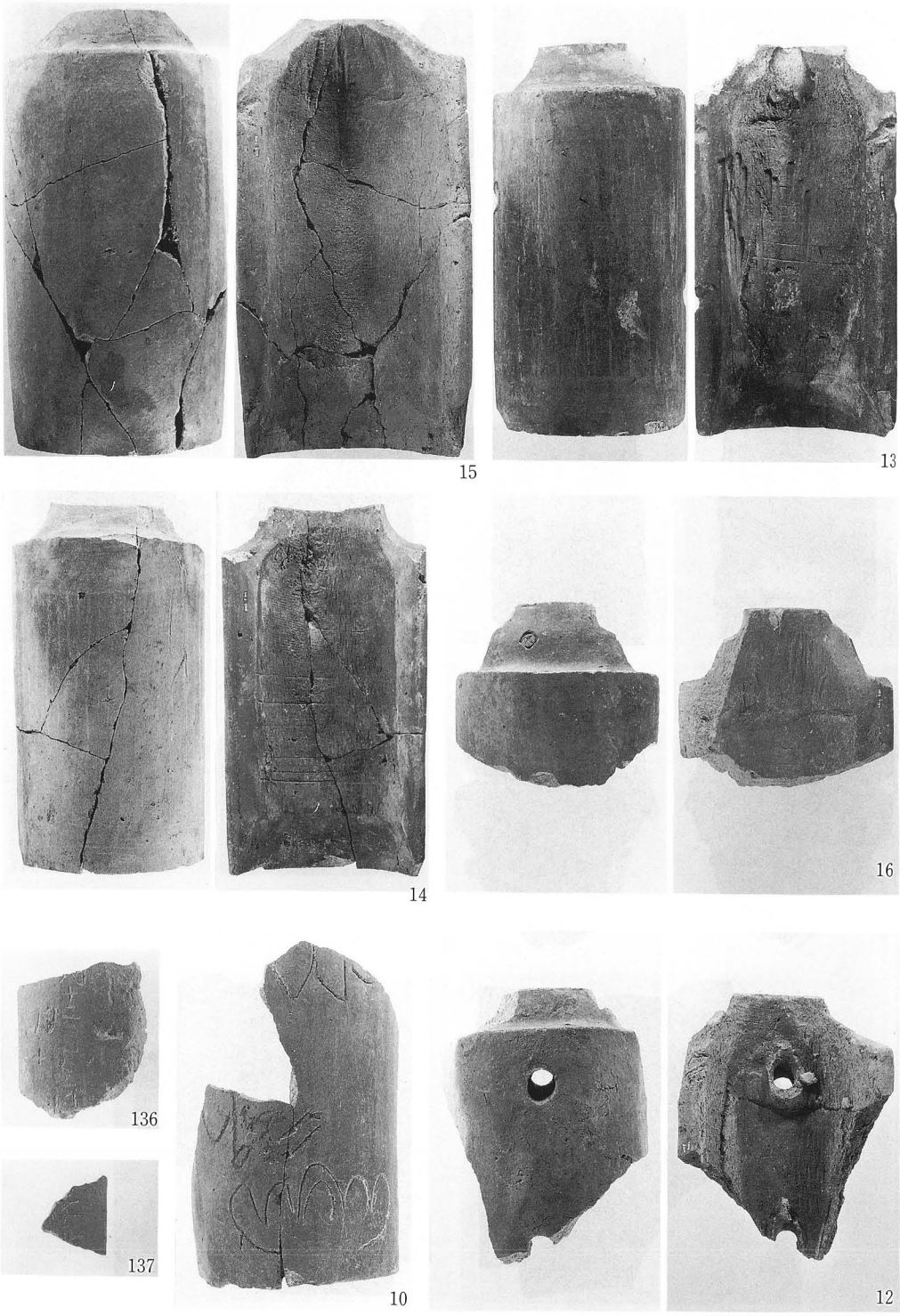
図版41　第5地点出土軒桟瓦(2)・平瓦(1)
Pl. 41 Eaves-pan tiles and flat roof tiles from NM5



S＝1：5

図版42　第5地点出土平瓦(2)・丸瓦(1)

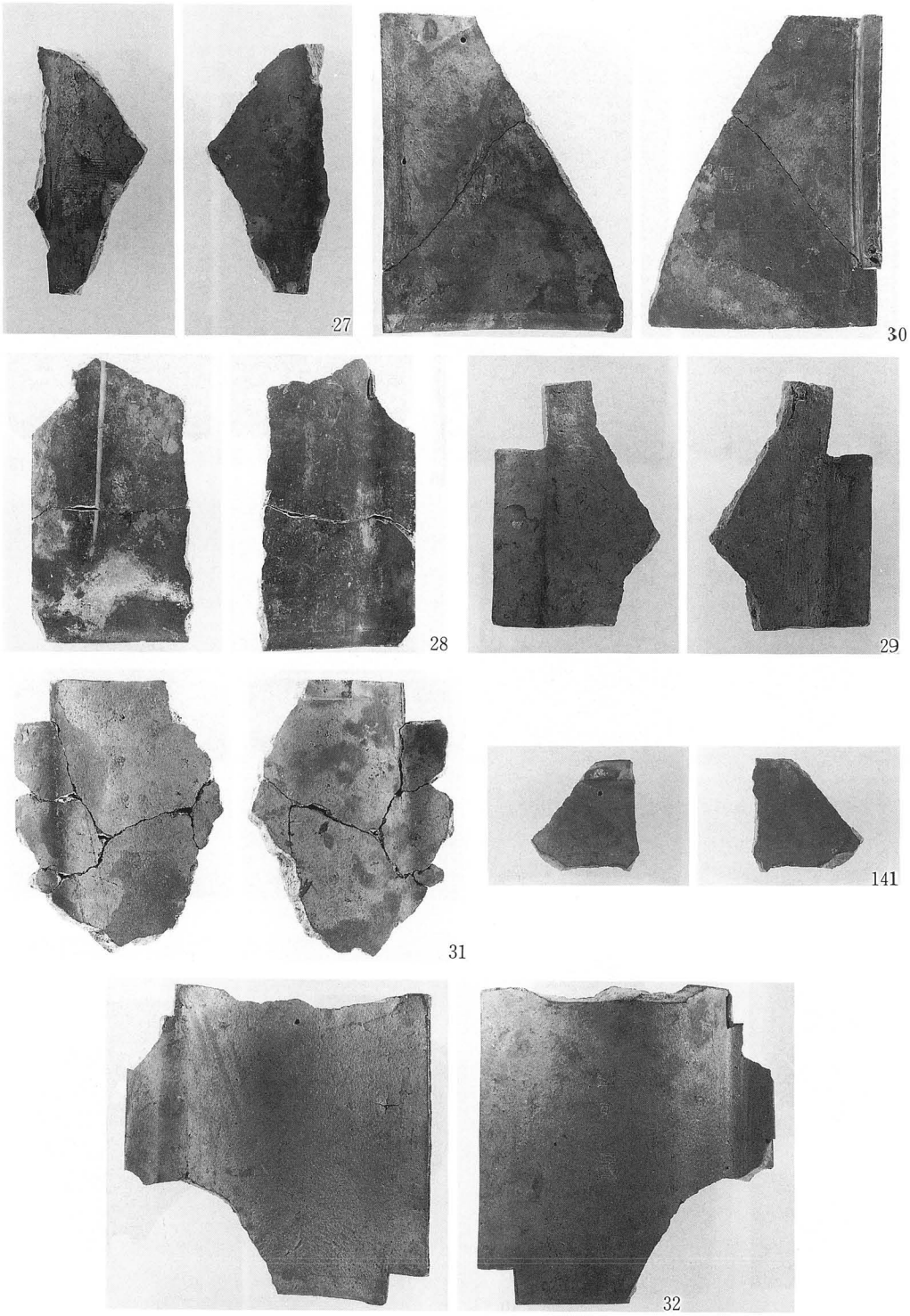
Pl. 42 Flat roof tiles and round roof tiles from NM5



S＝1：5

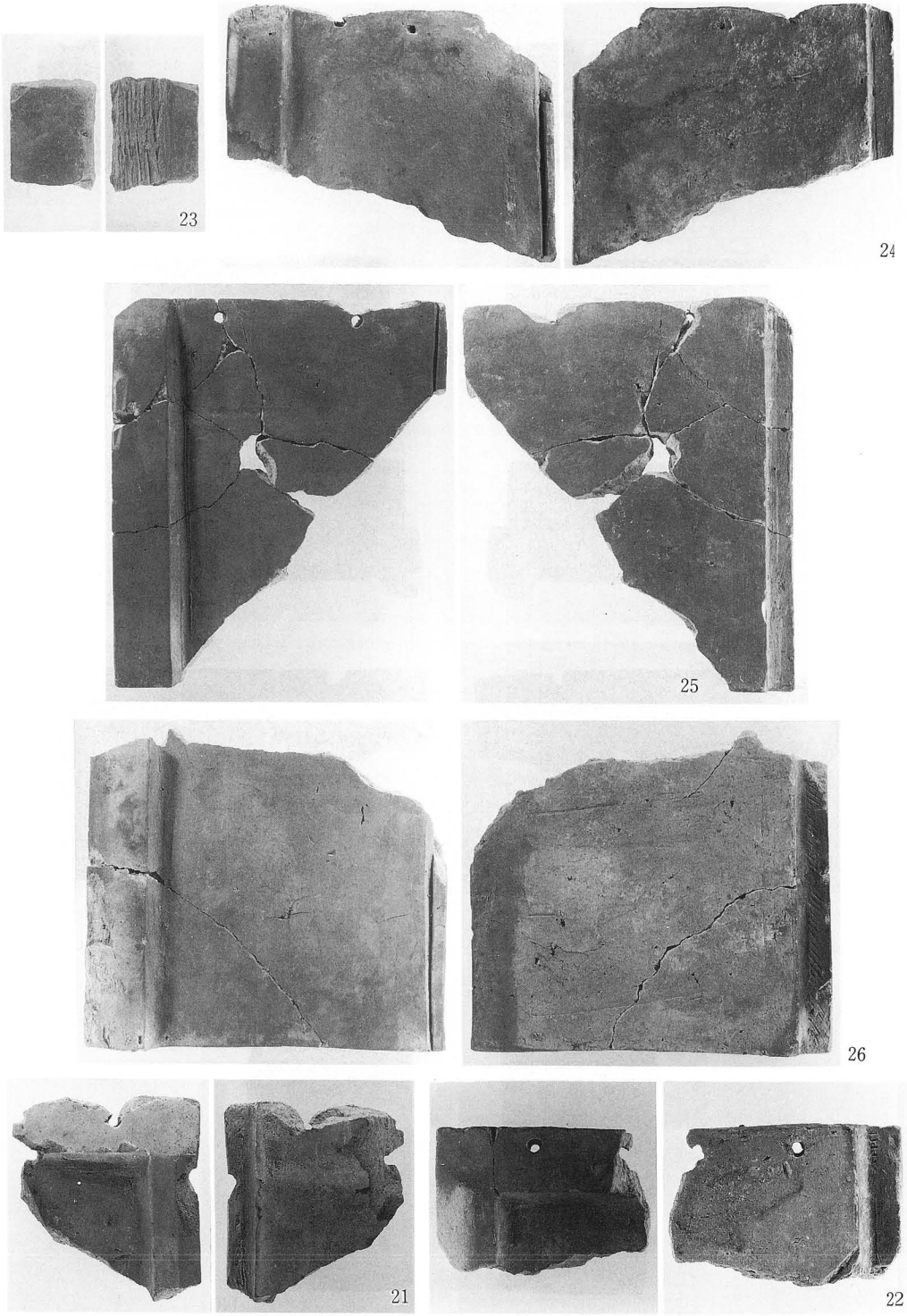
図版43　第5地点出土丸瓦(2)

Pl. 43 Round roof tiles from NM5 (2)



図版44　第５地点出土桟瓦類(1)　　S＝1：6

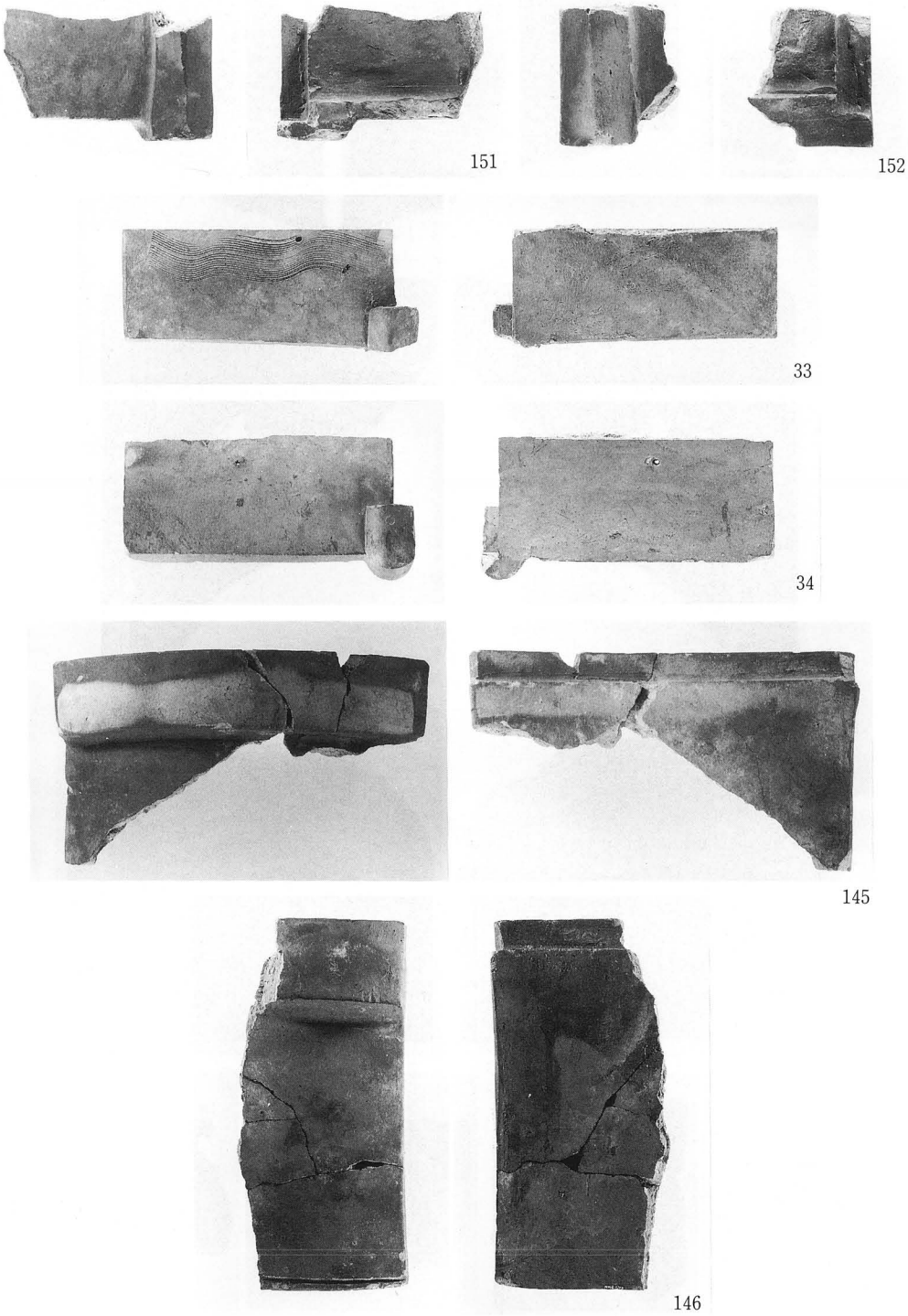
Pl. 44 Pan tiles from NM5 (1)



S＝1：6

図版45　第５地点出土板塀瓦

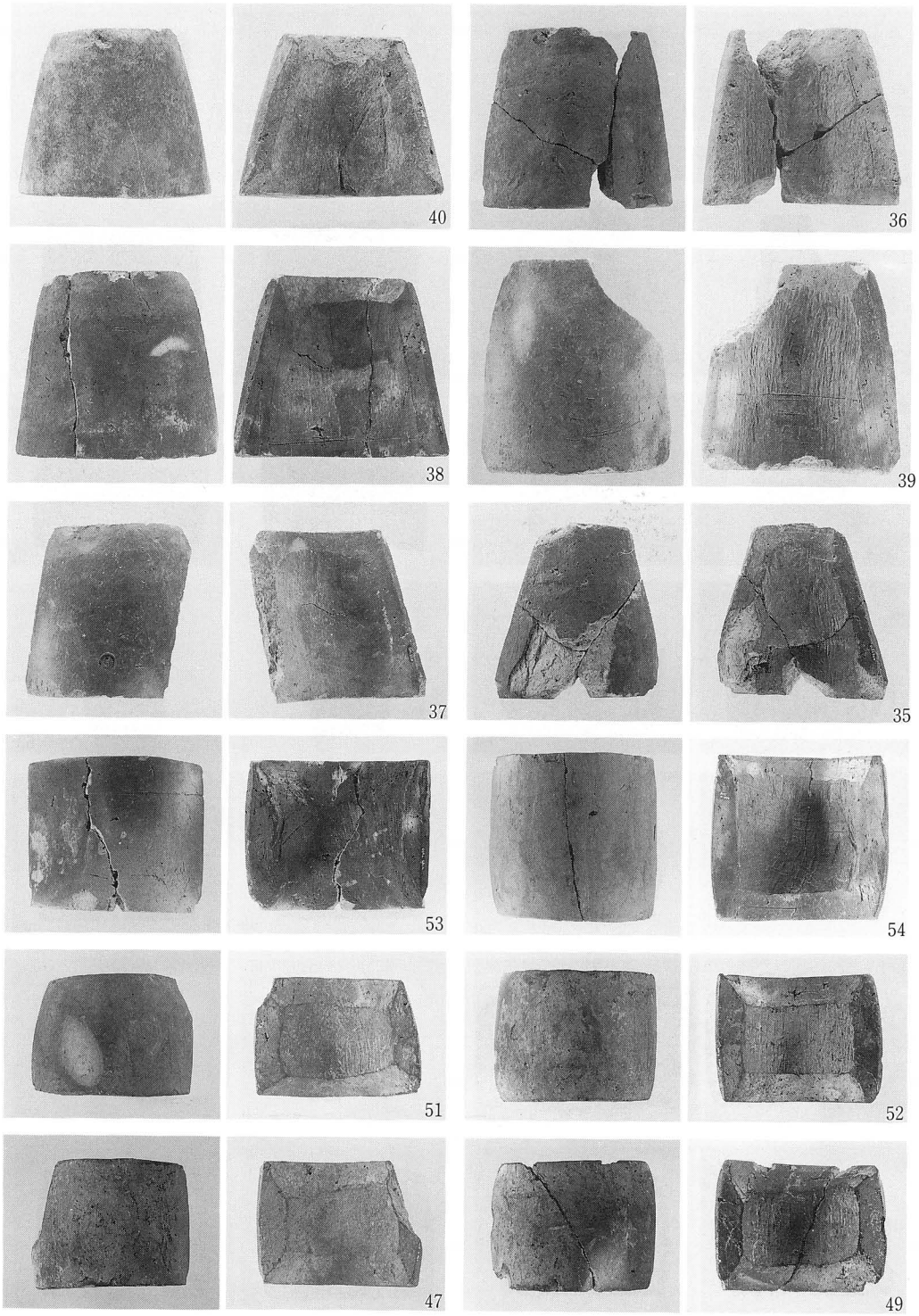
Pl. 45 Pan tiles used for fence from NM5



S＝1：6

図版46　第５地点出土桟瓦類(2)・熨斗瓦・棟瓦

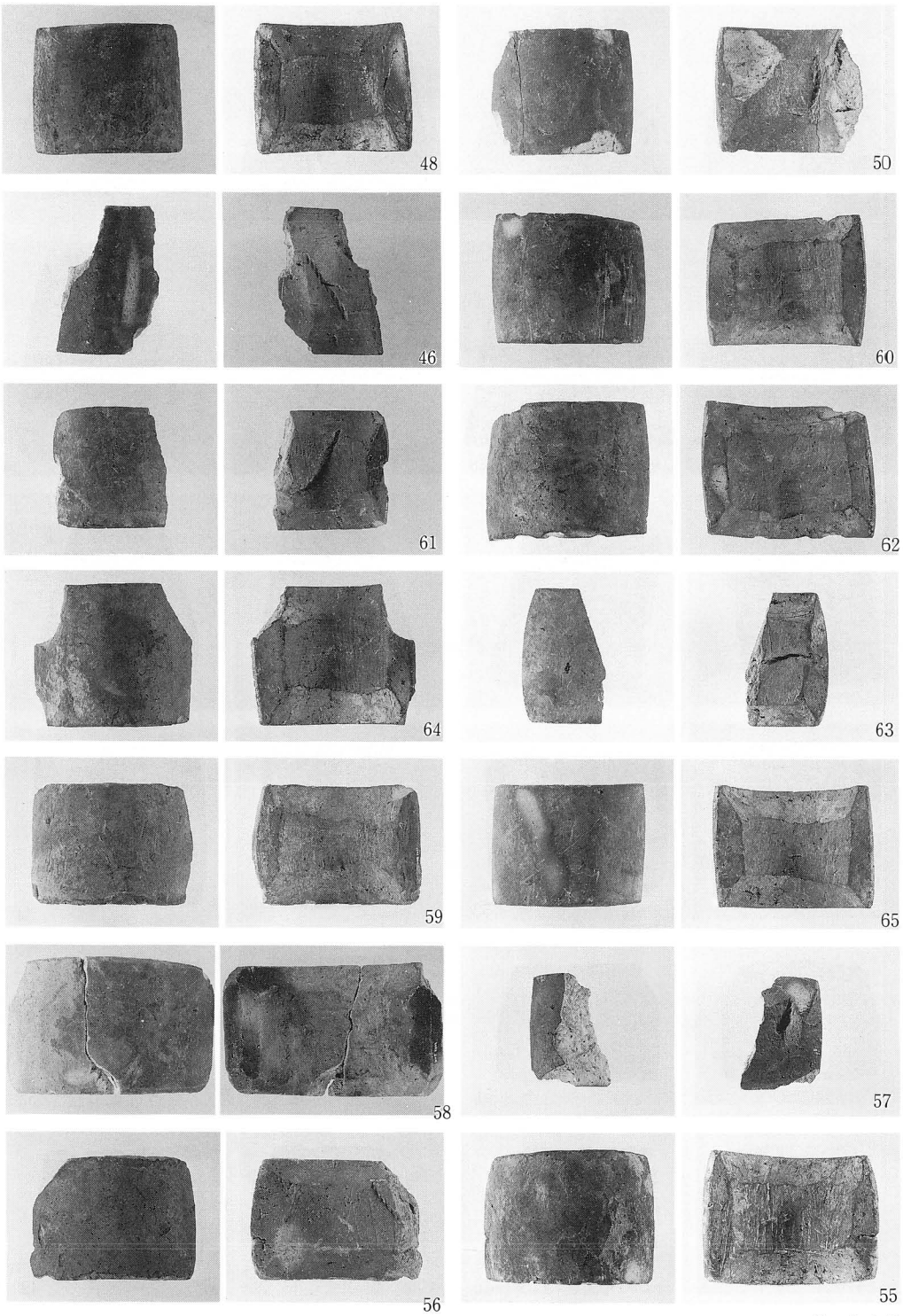
Pl. 46 Pan tiles, ridge tiles and ridge cover tiles from NM5



S＝1：5

図版47　第５地点出土輪違い・面戸瓦(1)

Pl. 47 Ridge decoration tiles and filler tiles from NM5



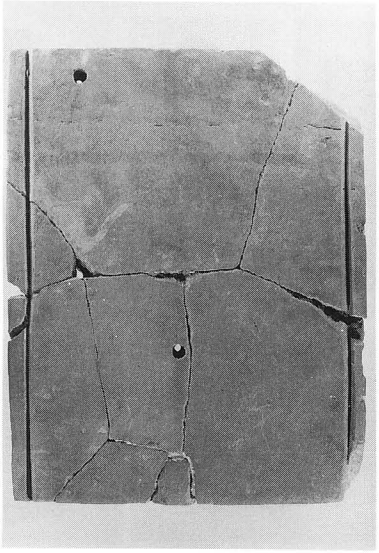
S＝1：5

図版48　第５地点出土面戸瓦(2)

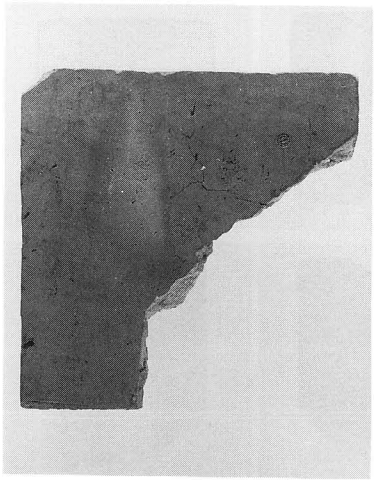
Pl. 48 Filler tiles from NM5 (2)

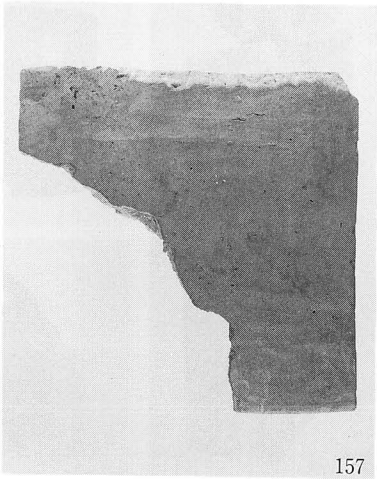
154

156

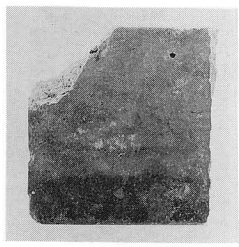


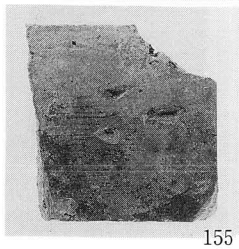
153





157



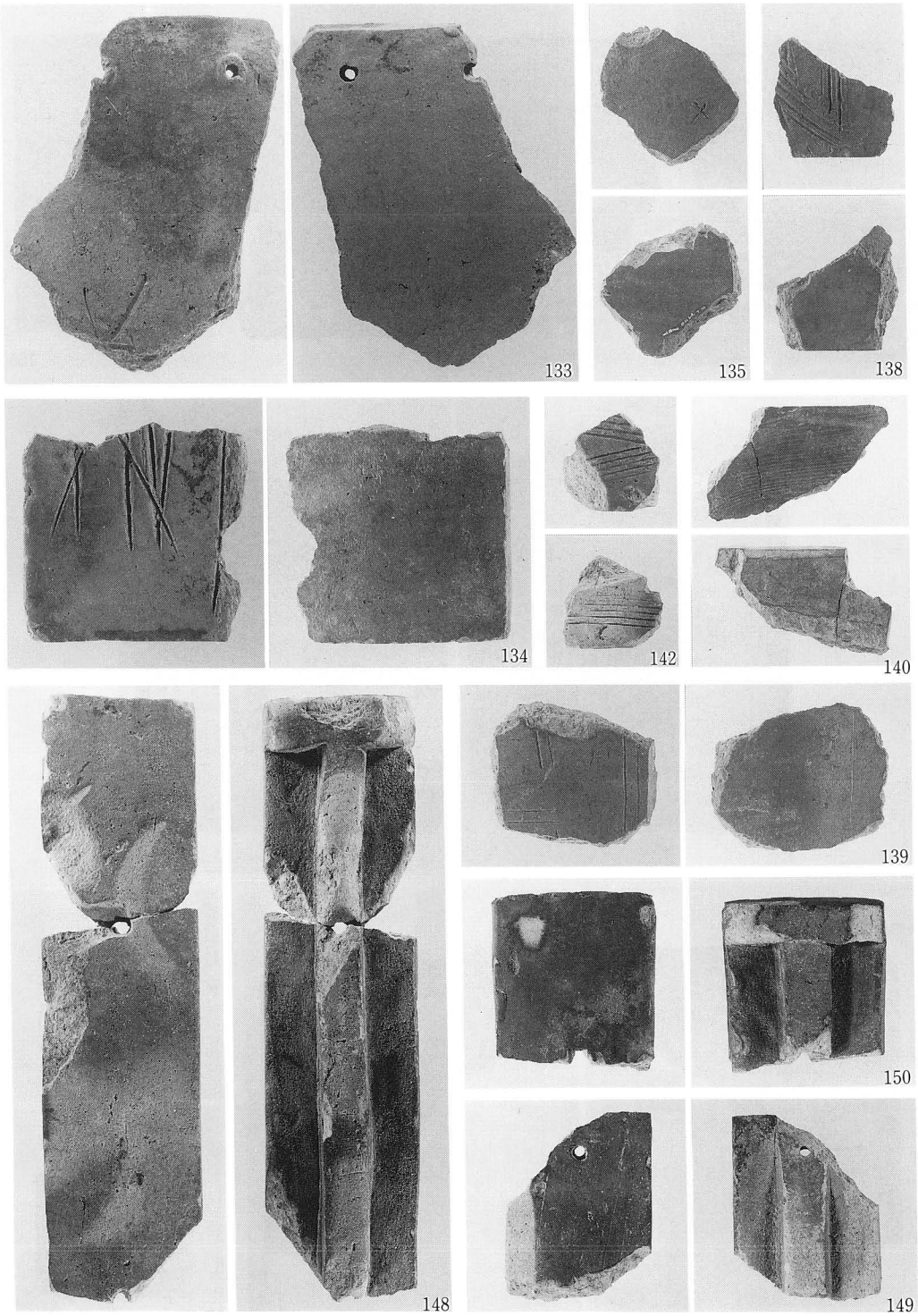


155

S＝1：6

図版49　第５地点出土その他の瓦(1)

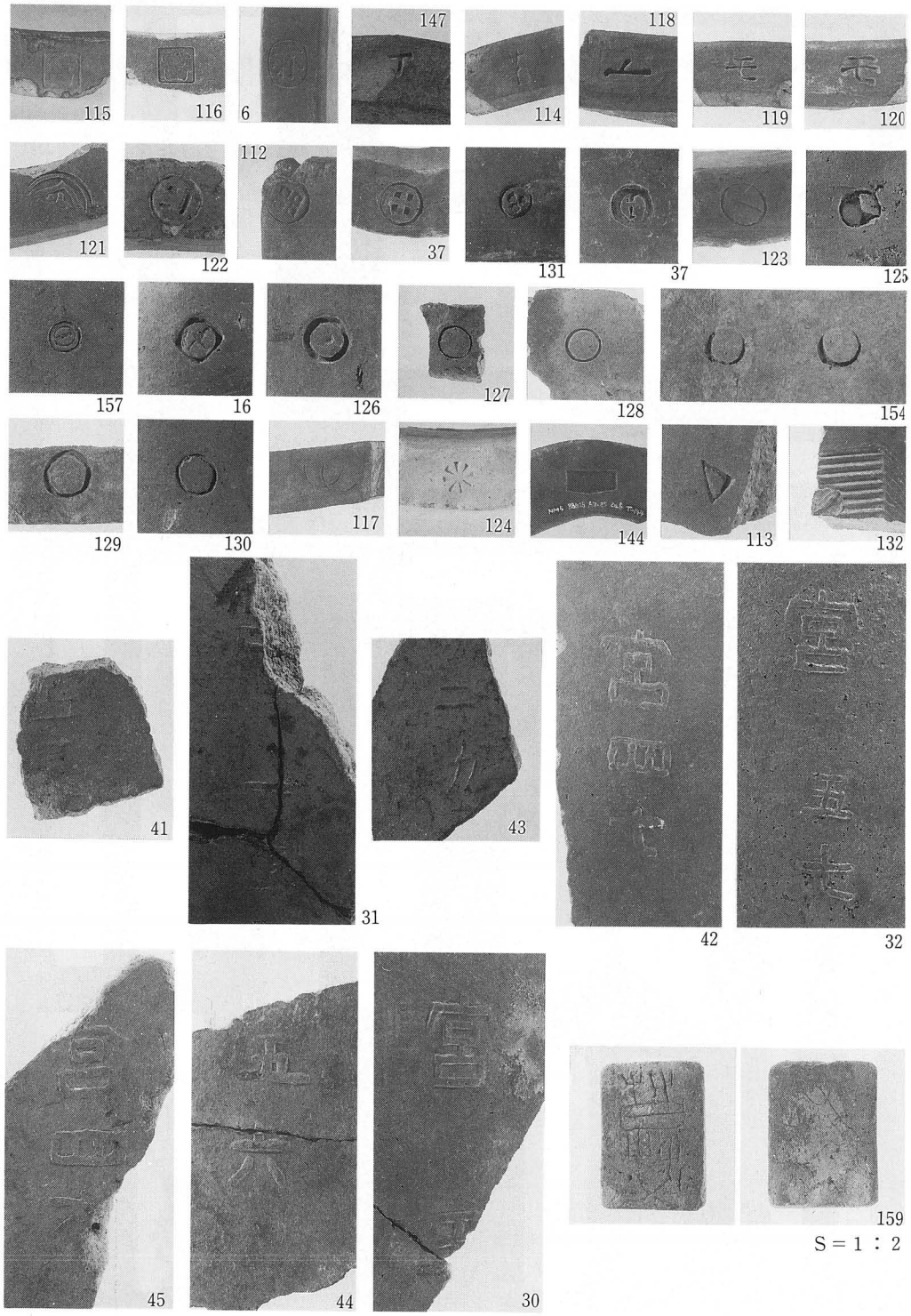
Pl. 49 Various roof tiles from NM5 (1)



S＝1：4

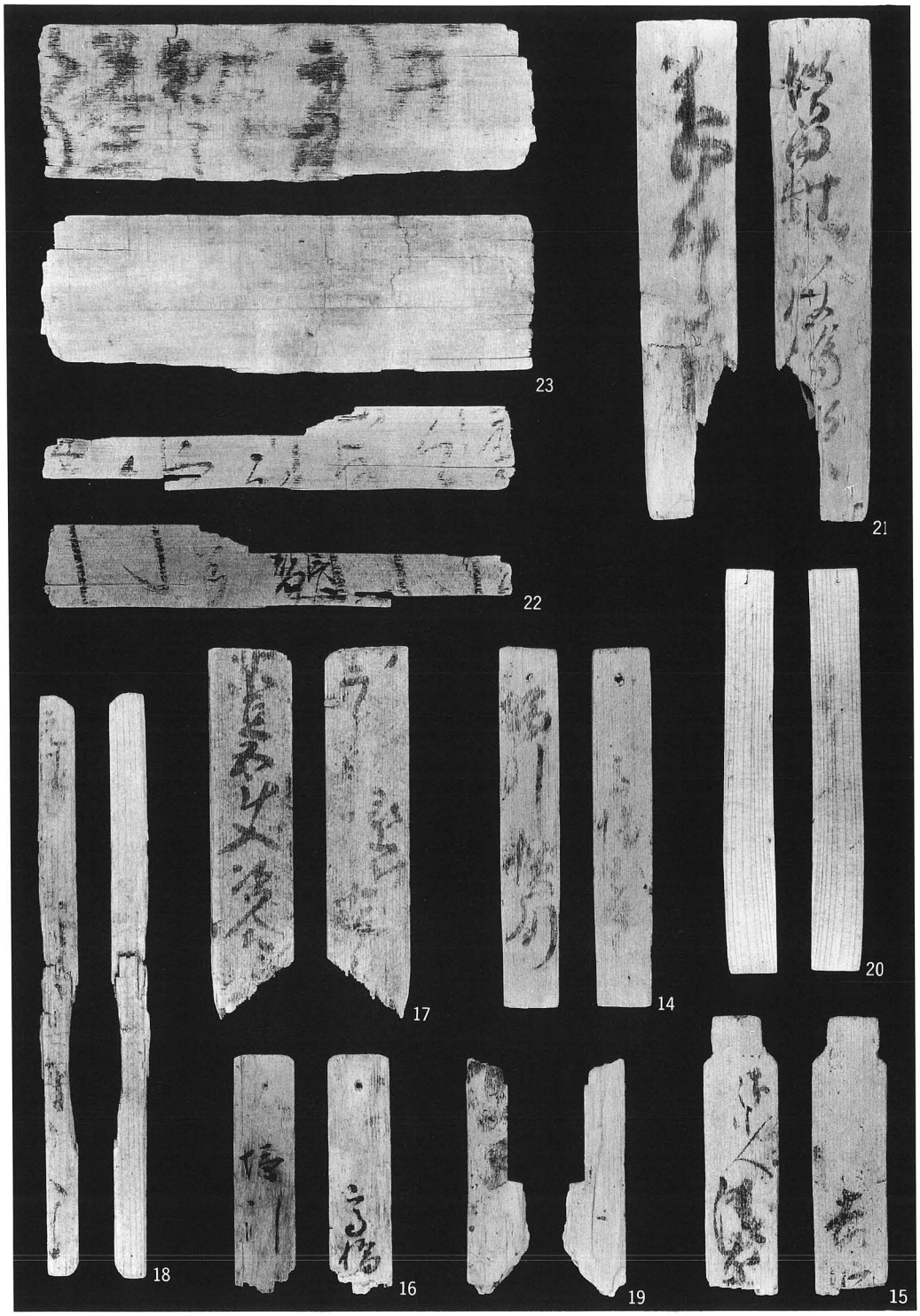
図版50　第５地点出土その他の瓦(2)

Pl. 50 Various roof tiles from NM5 (2)



図版51　第５地点出土刻印瓦・瓦加工品

Pl. 52 Roof tiles with seal impression and converted roof tile from NM5



S＝1：2

図版52　第５地点出土木簡(1)

Pl. 52 Wooden tablets from NM5 (1)

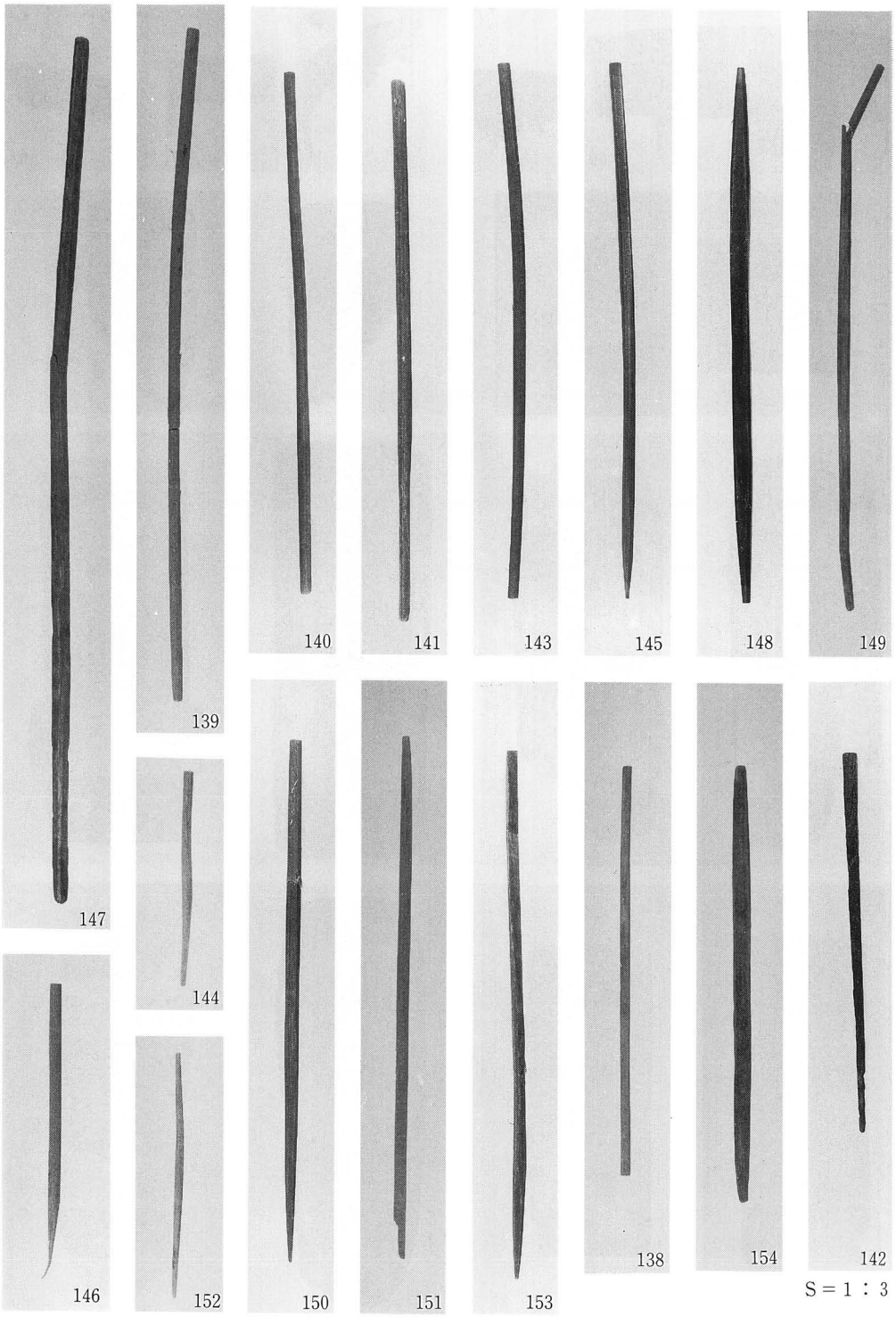
図版53　第５地点出土木簡(2)　　S＝1：2

Pl. 53 Wooden tablets from NM5 (2)

S＝1：2

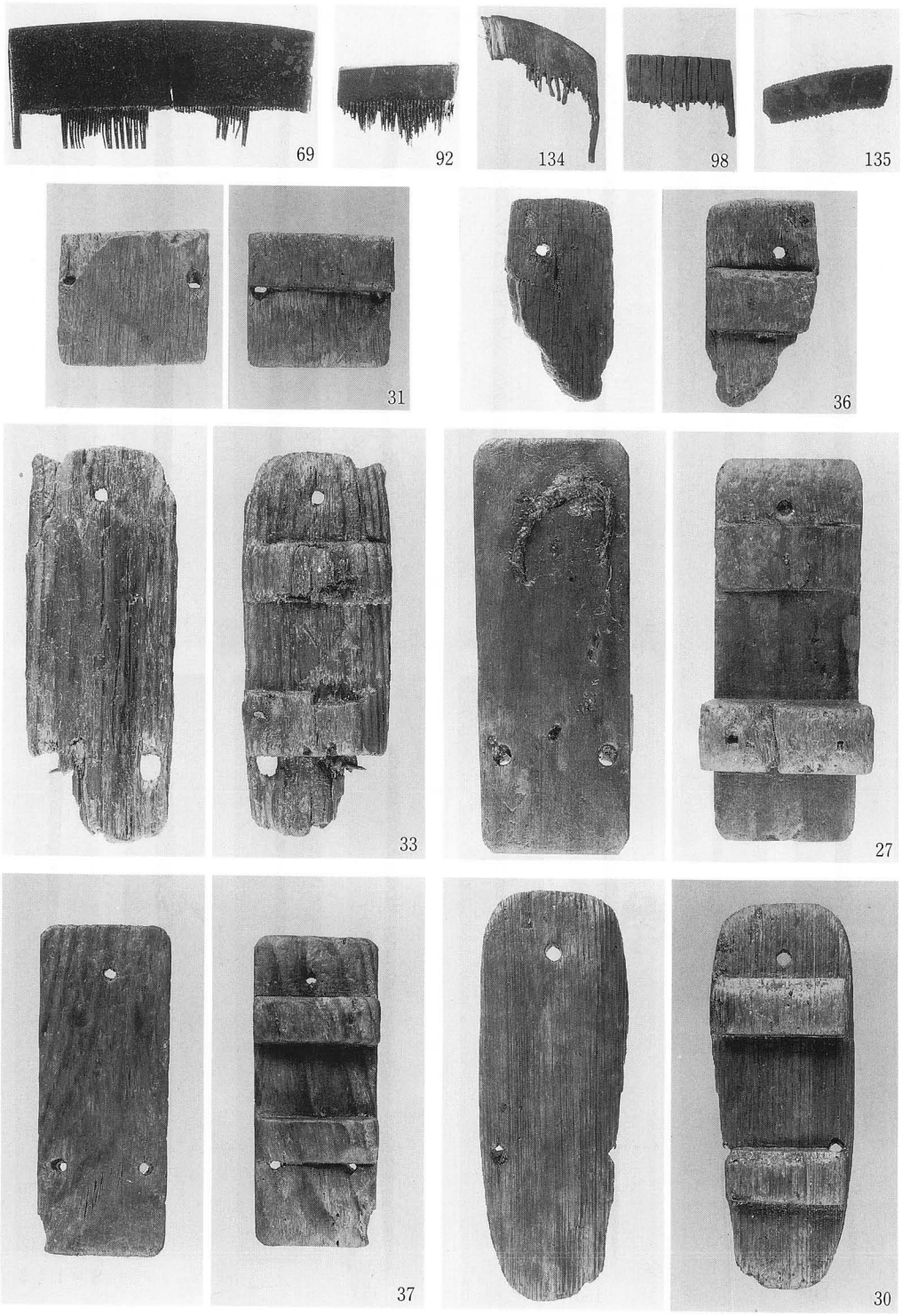
図版54　第５地点出土木簡(3)

Pl. 54 Wooden tablets from NM5 (3)



図版55　第５地点出土箸状木製品

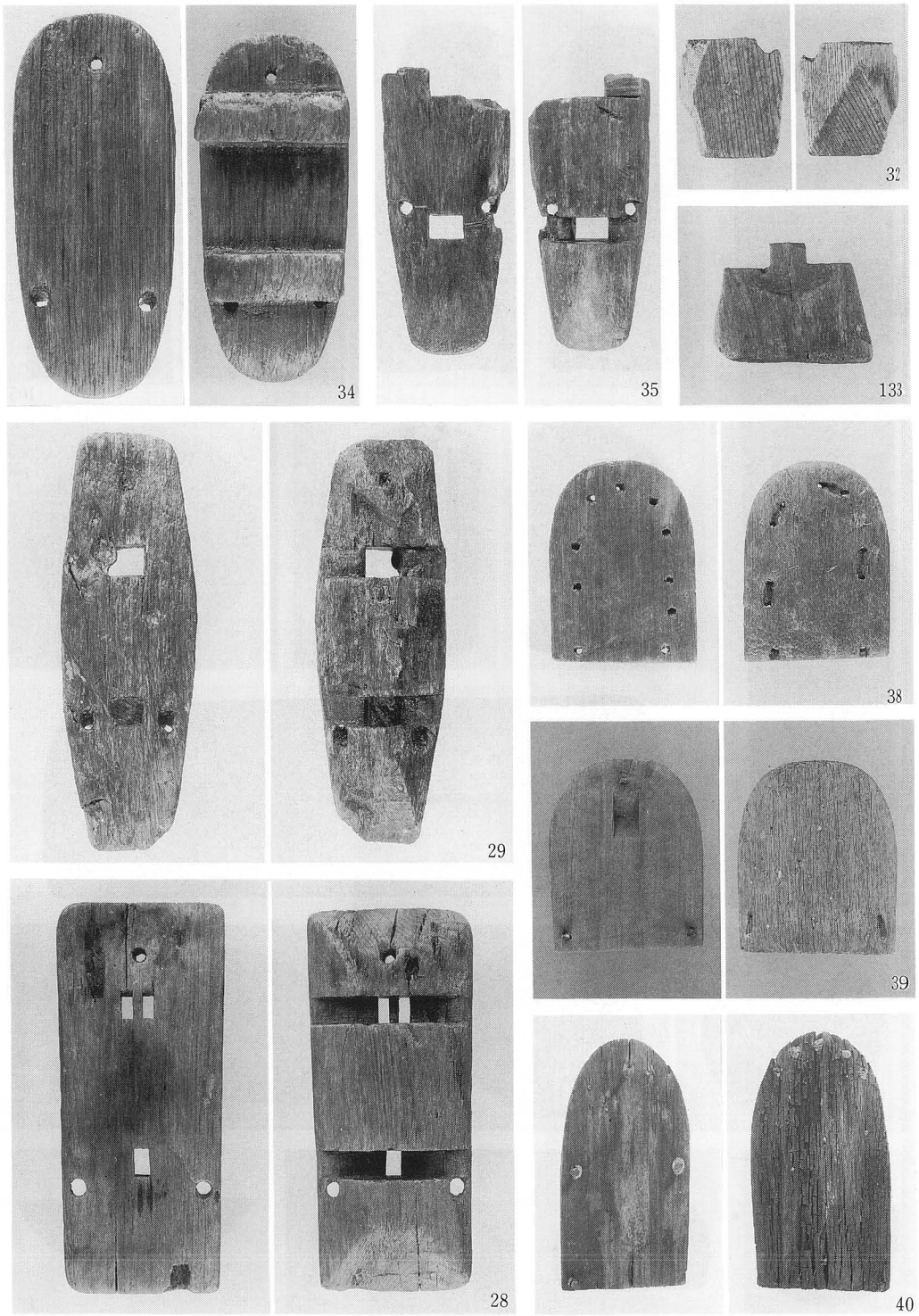
Pl. 55 Wooden chopsticks from NM5



櫛　S＝1：2
下駄　S＝1：4

図版56　第5地点出土櫛・下駄(1)

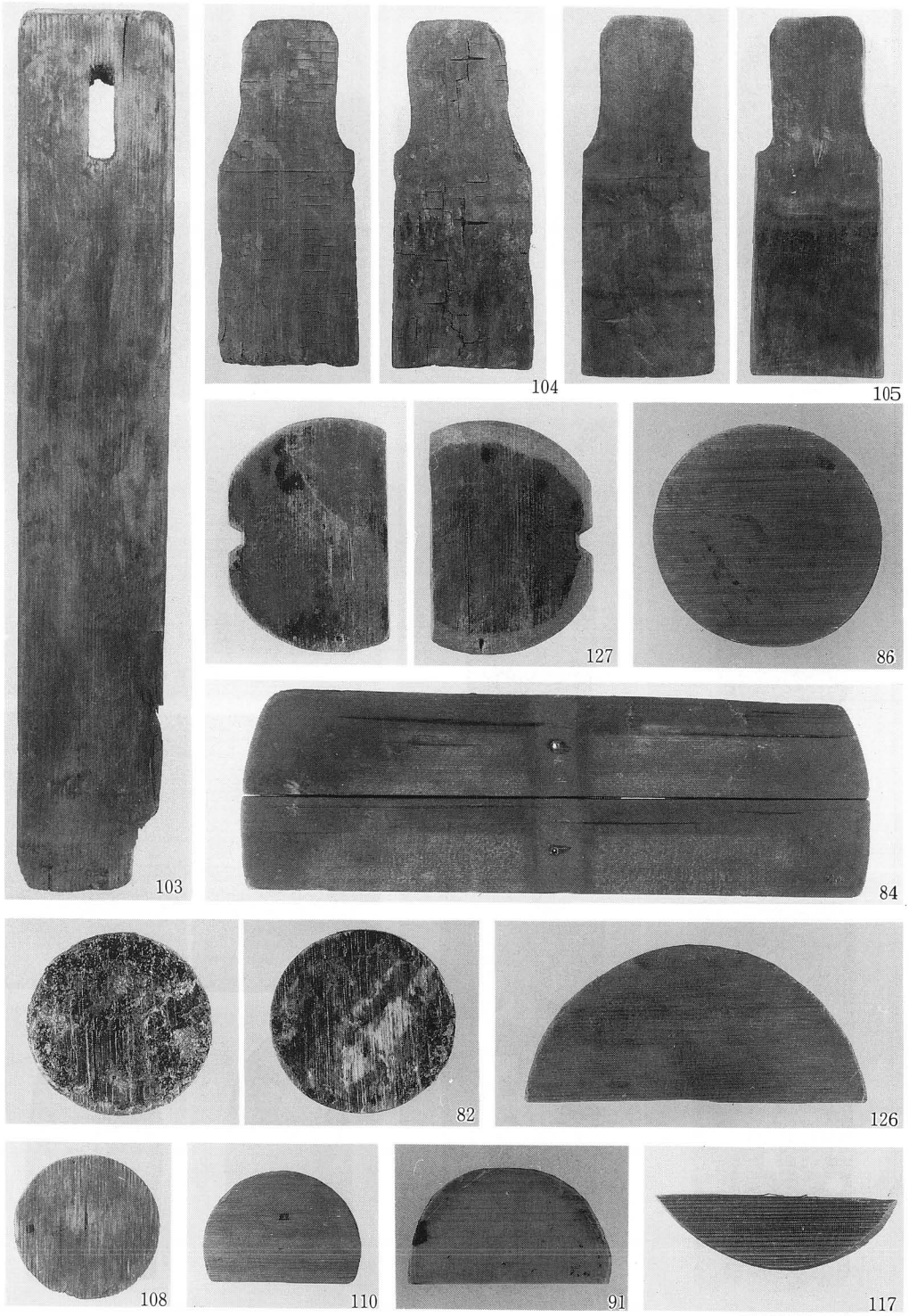
Pl. 56 Combs and clogs from NM5



S＝1：4

図版57　第５地点出土下駄(2)

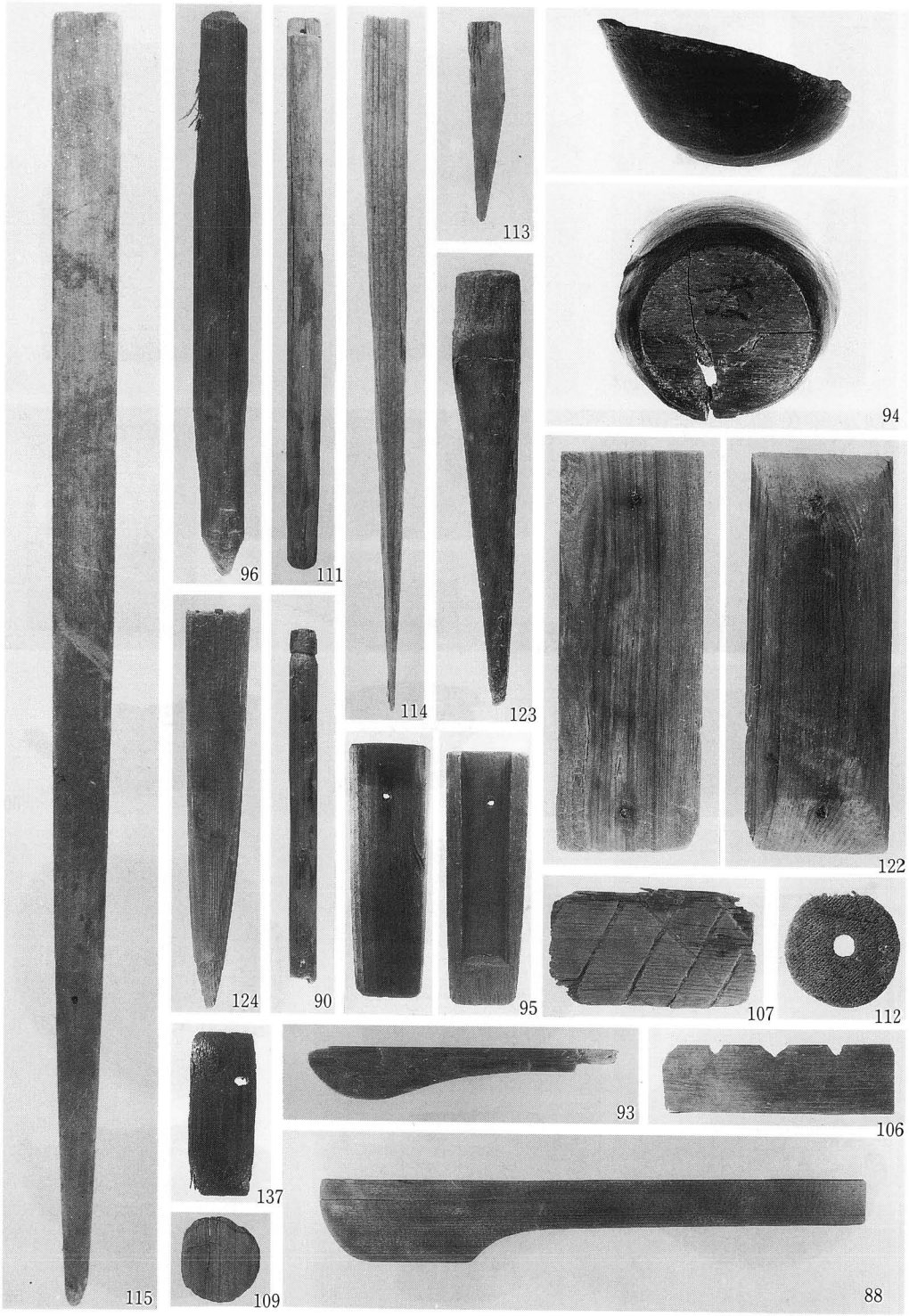
Pl. 57 Clogs from NM5 (2)



S＝1：3

図版58　第５地点出土その他の木製品(1)

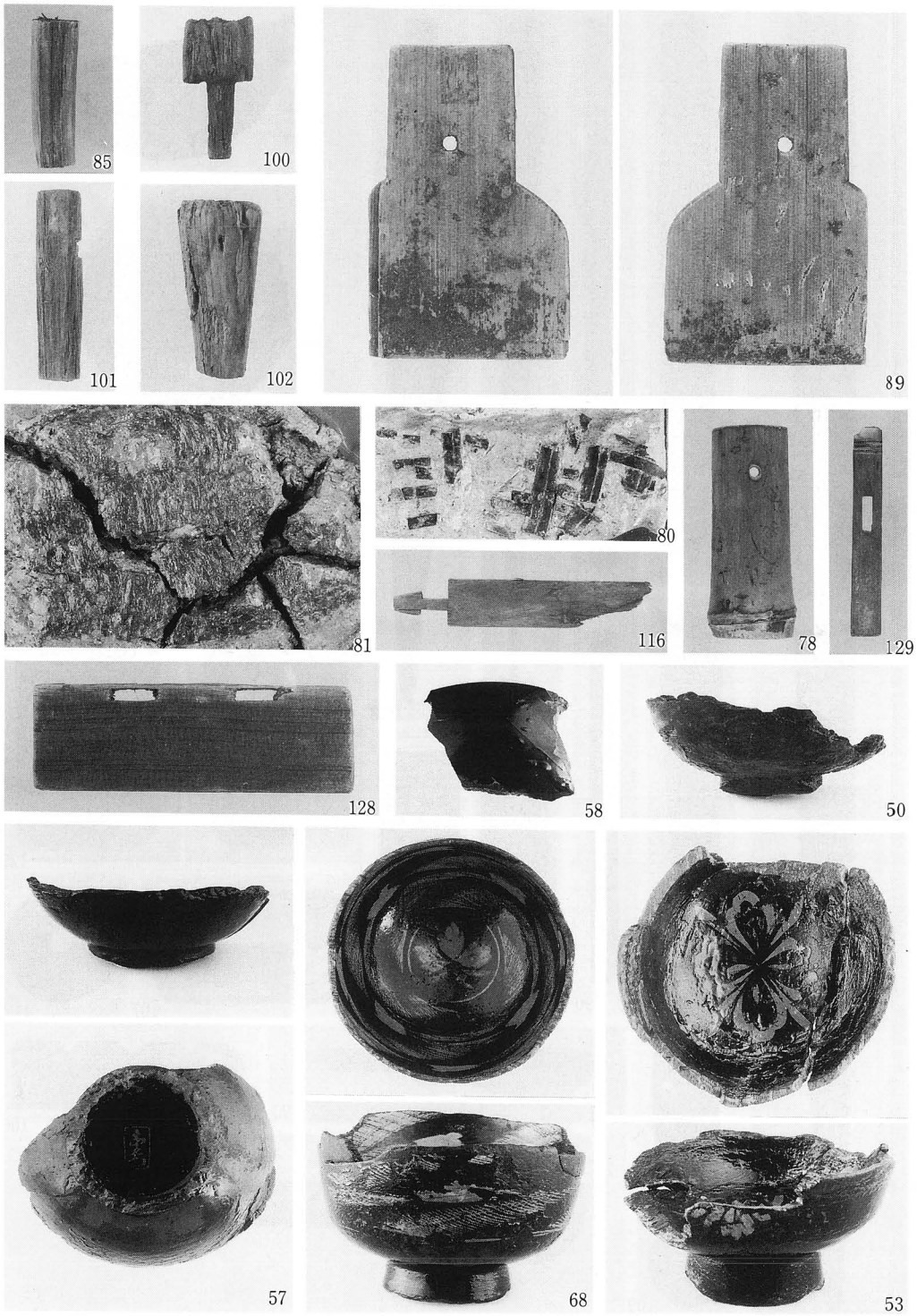
Pl. 58 Various wooden implements from NM5 (1)



S＝1：3

図版59　第５地点出土その他の木製品(2)

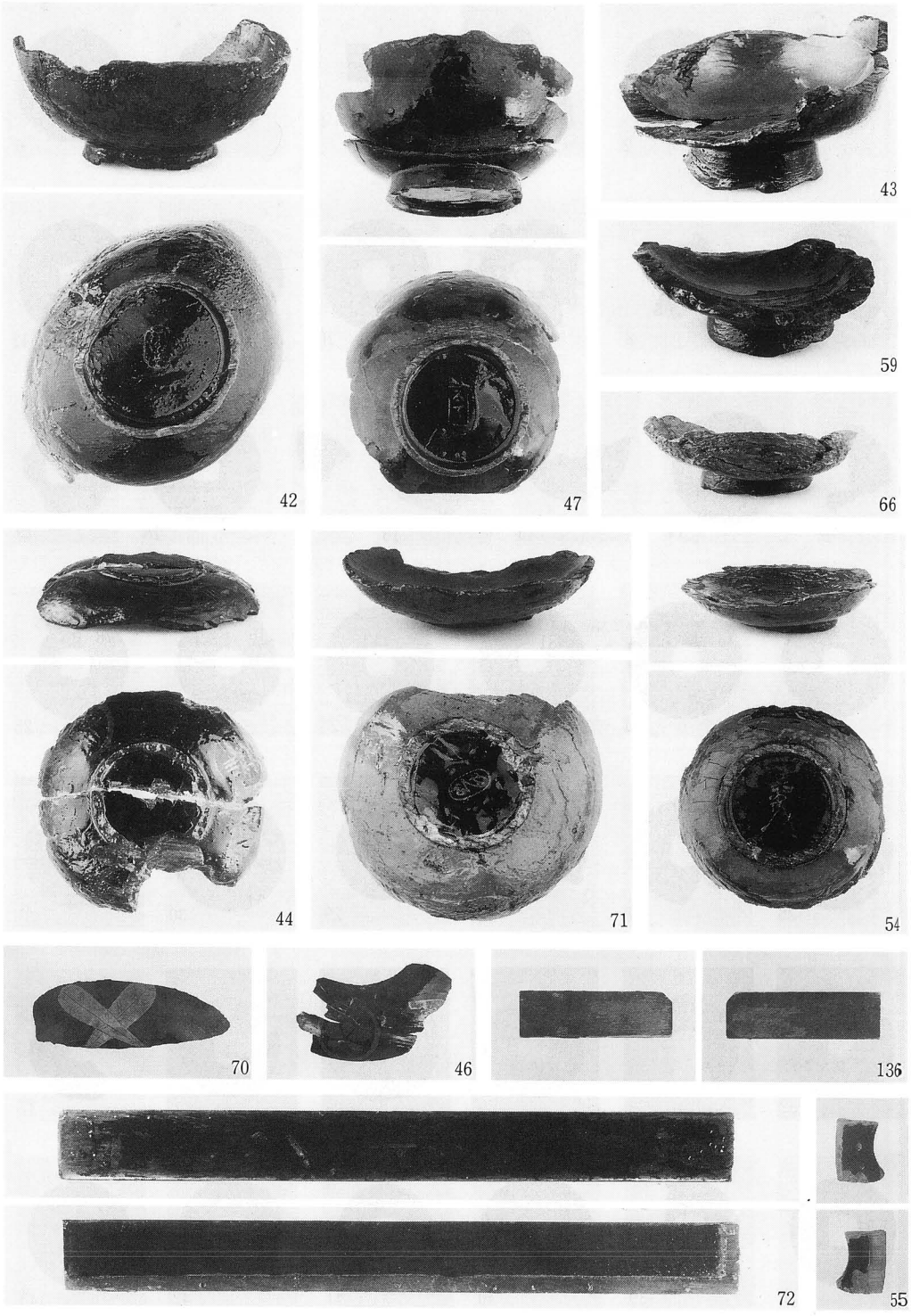
Pl. 59 Various wooden implements from NM5 (2)



S＝1：3

図版60　第５地点出土その他の木製品(3)・漆塗製品(1)

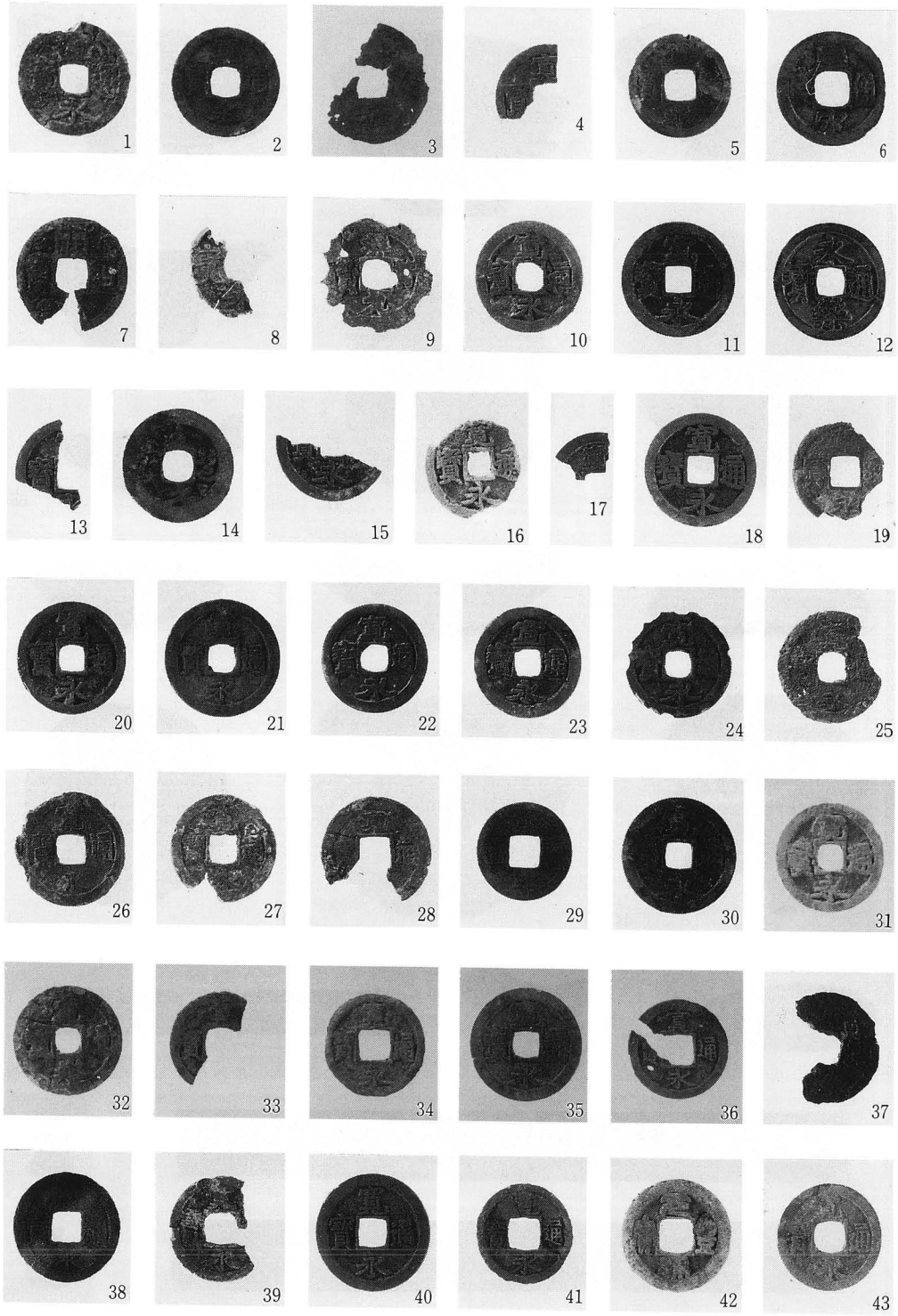
Pl. 60 Various wooden implements and lacquerwares from NM5



図版61　第５地点出土漆塗製品(2)

Pl. 61 Lacquerwares from NM5 (2)

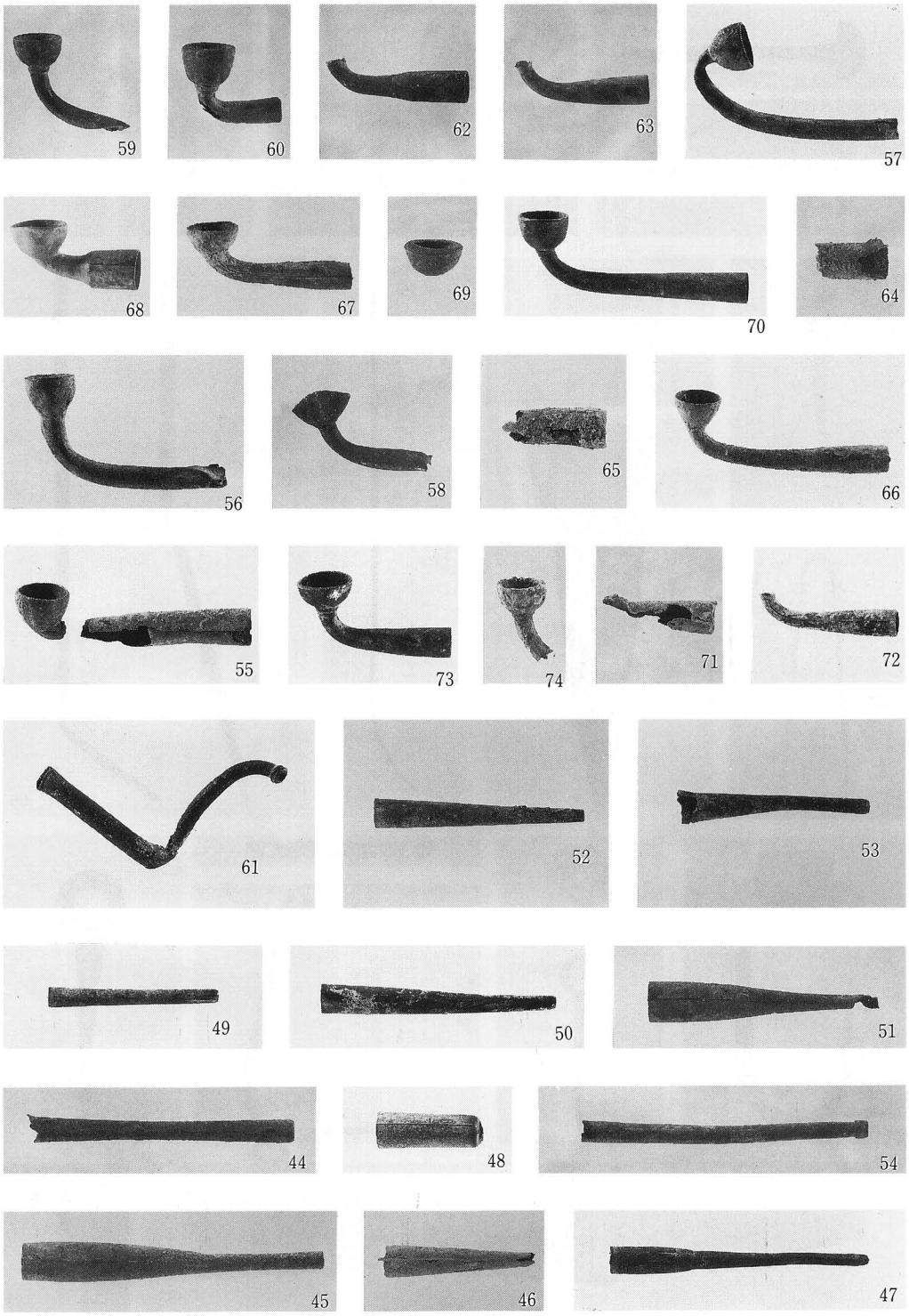
S＝1：3



S＝2：3

図版62　第５地点出土古銭

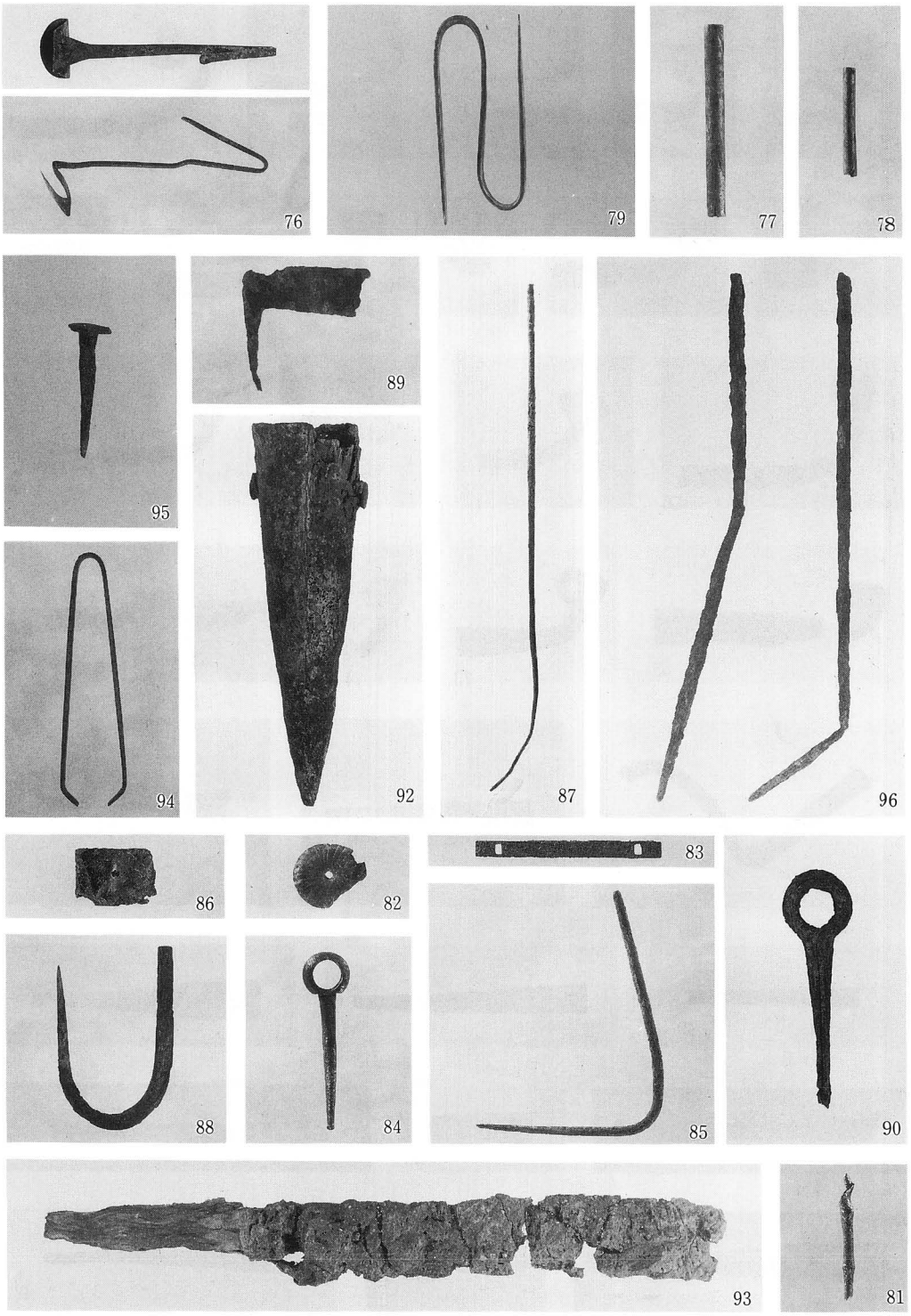
Pl. 62 Coins from NM5



S＝1：2

図版63　第５地点出土煙管

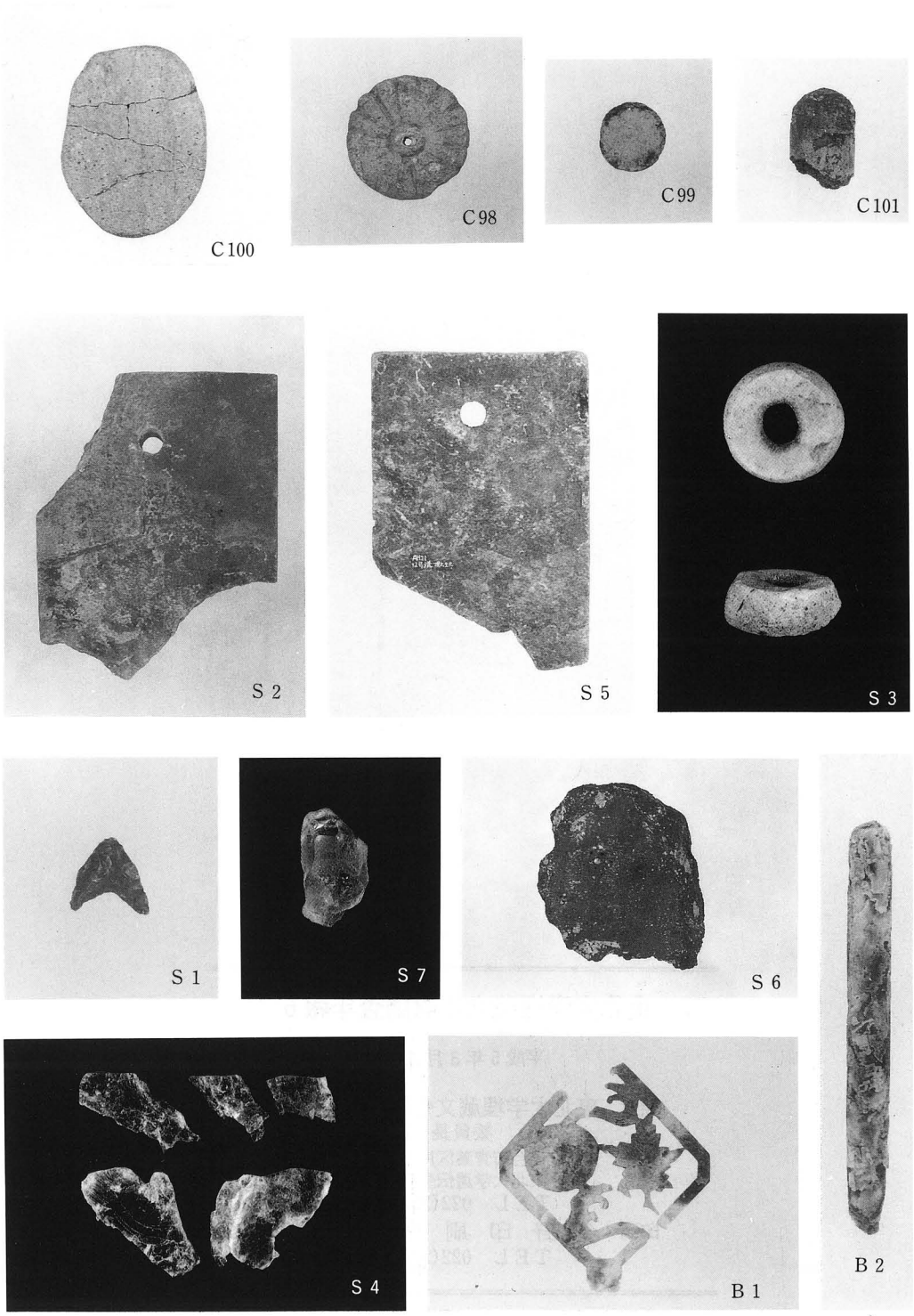
Pl. 63 Pipes from NM5



S＝1：2

図版64　第５地点出土その他の金属製品

Pl. 64 Various metal implements from NM5



S 1・B 1・B 2　S＝1：1
その他　S＝1：2

図版65　第5地点出土その他の遺物

Pl. 65 Various implements from NM5

東北大学埋蔵文化財調査年報 6

平成 5 年 3 月25日

発行　東北大学埋蔵文化財調査委員会
委員長　西　澤　潤　一
〒980 仙台市青葉区片平 2 丁目 1 － 1
東北大学遺伝生態研究センター内
ＴＥＬ　022(227)6200(内)3311
印刷　今　野　印　刷　株　式　会　社
ＴＥＬ　022(288)6123